

平成 2 6 年度

日本財団助成

発達障害支援スーパーバイザー養成研修

事業実施報告書

平成 27 年 3 月

一般社団法人 日本自閉症協会
全国自閉症者施設協議会

目次

巻頭言

全国自閉症者施設協議会 会長 五十嵐康郎	1
----------------------------	---

1. 研修スケジュール	4
-------------------	---

2. 研修内容

【前期集合研修】

研修第1日目

研修①：「親として専門家に期待すること」	6
日本自閉症協会（保護者） 理事 今井忠	
（株）秦野インクルージョン 保護者 中尾佑次	

研修②：「発達障害の特性理解」	16
日本発達障害ネットワーク 理事長 市川宏伸	

研修③：「虐待防止と権利擁護」	22
厚生労働省障害福祉課地域生活支援推進室 虐待防止専門官 曾根直樹	

研修第2日目

研修④：「発達障害福祉行政の展望」	33
厚生労働省障害福祉課障害児発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰正文	

研修⑤：対談『特別支援教育の課題と展望』	36
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中裕一	
日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山千代子	

研修⑥：「発達障害支援の現状と課題」	47
発達障がい支援センター連絡協議会 副会長 和田康宏	

研修⑦：「受容的交流療法」	53
社会福祉法人嬉泉 世田谷区発達障害相談・療育センター	
センター長 沼倉 実	

研修⑧：「構造化された指導や支援のアイデア」	61
横浜やまびこの里東やまたレジデンス 支援課長 西尾保暢	

研修第3日目

研修⑨：「自閉症支援の基礎となるもの」	66
全国自閉症者施設協議会 会長 五十嵐康郎	
研修⑩：「自閉症児への動作法」	77
愛知教育大学 教授 森崎博志	

【後期集合研修】

研修第1日目

研修①：「当事者からのメッセージ」	79
発達障害当事者会イイトコサガシ 代表 冠地情	
研修②：「発達障害における応用行動分析」	85
鳥取大学 教授 井上正彦	

研修第2日目

研修③：「高機能広汎性発達障害」	
NPO法人アスペ・エルデの会 会長 辻井正次	
研修④：「発達障害者の就労支援」	97
宇都宮大学 教授 梅永雄二	
研修⑤：「アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの	103
役割と事例検討の進め方」	
大正大学 教授 近藤直司	

研修第3日目	119
--------------	-----

研修⑥：「発達障害を巡る諸問題」	
一般社団法人日本自閉症協会 会長 山崎晃資	

3. 実務研修報告 125

- | | |
|-----------------|----------------------|
| □(社福)侑愛会 | 星が丘寮 |
| □(社福)はるにれの里 | 札幌市自閉症支援センター ゆい |
| □(社福)梅の里 | 障害者支援施設 あいの家 |
| □(社福)けやきの郷 | 初雁の家 |
| □(社福)菜の花会 | しもふさ学園 |
| □(社福)嬉泉 | 嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦 |
| □(社福)正夢の会 | 昭島生活実習所 |
| □(社福)川崎市社会福祉事業団 | 障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家 |
| □(社福)横浜やまびこの里 | 東やまた工房 |
| □(社福)檜の里 | 自閉症総合援助センターあさけ学園 |
| □(社福)めひの野園 | うかさ寮 |
| □(社福)北摂杉の子会 | 萩の杜 |
| □(社福)あかりの家 | あかりの家 |
| □(社福)三気の会 | 三気の里 |
| □(社福)萌葱の郷 | 自閉症総合援助センター めぶき園 |

4. アンケート集計結果 196

5. 修了者名簿 203

巻 頭 言



全国自閉症者施設協議会

会 長 五十嵐 康 郎

一般社団法人日本自閉症協会、全国自閉症者施設協議会が主催し、一般社団法人日本発達障害ネットワーク、日本自閉症スペクトラム学会、発達障害者支援センター全国連絡協議会の後援・協力による平成26年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修（日本財団助成事業）を完了しましたので報告いたします。

1. 事業の目的

日本では教育や福祉の現場でのスーパービジョンがなおざりにされ、理解不足や間違った支援の結果、二次障害が生じることも少なくありません。そのため、発達障害児・者への支援を行う発達障害者支援センター、自閉症関係施設職員及び発達障害児・者の医療、保健、福祉、教育、労働の各分野の実務に携わり、実務経験のある方を対象に、第一人者による講義と全国自閉症者施設協議会加盟施設での実務研修、さらには当事者の方々への支援や事例研究を通して関係機関・団体及び地域の核となるスーパーバイザーを養成することを目的に本研修を実施しました。

2. 事業実施に至る経緯

大分県では発達障害児者支援センター連絡協議会を実施主体に、平成18年度から発達障害児者支援専門員養成研修を実施しています。支援専門員養成研修の特色は座学としての講義にとどまらず、自閉症専門施設、早期療育機関、支援学校、医療機関等の視察、自閉症専門施設や早期療育機関での実務研修、保護者会への参加や当事者支援、事例検討等を初級、中級、上級と3年間かけて学びます。

毎年、30名の募集定員を大きく上回る150名前後の受講申し込みがあり、平成26年度末現在で161名の支援専門員が誕生しました。受講者は福祉、教育、保育、保健・医療、行政、労働と幅広く、高校や大学の教職員の受講もあります。

養成研修修了者で生涯研修を目的に支援専門員の会を結成し、研修会の企画や自閉症啓発デー等の諸行事の応援、スーパーバイザー派遣事業等に取り組み、NHKの取材を受けたり、厚生労働省が視察に来県するなど高い評価を得ています。

年々支援専門員が誕生し、関係諸機関に発達障害支援専門員が増え続けることで、発達障害理解と支援の質と関係機関連携が飛躍的に向上することから、国の事業として全国規模で取り組むことを提案してきましたが、実施に至らなかったことから、日本財団の助成により、スーパーバイザー養成研修を実施する運びとなりました。

3. 事業の概要

前期・後期集合研修各3日間（合計6日間）の集合研修と全国自閉症者施設協議会加盟法人の中から15法人を指定し、2法人を選択して4～5日間（合計8～10日間）の実務研修を受け、当事者団体への支援を経験し、全ての研修報告を提出した者にスーパーバイザー養成研修修了証を交付します。

1年間で20日間程度の研修に参加し、20本以上の報告書の提出を義務付けていることから、かなりハードな研修になっています。96名の研修受講者に対して、平成27年7月2日現在で44名が修了しました。

集合研修は当事者、親、行政マン、実践家、研究者、医師等幅広い立場の方からの様々な視点、理念、実践、方法論を前期・後期合わせて16コマの講義と演習を行いました。実務研修は各法人の特色を生かして、講義、視察、実務研修を行いました。

4. 事業の評価

全ての集合研修の講義と実務研修に対して、「大変参考になった」と「参考になった」を合わせて90%を超える受講者の高い評価を得ることができました。研修全体を通しての記述には「日程がハードで厳しかったが大変勉強になった」「県内・外の人とのネットワークができた」「中身の濃い集合研修と全国規模での実務研修と実りの多い研修だった」「今まで受けた研修の中で最も有意義だった」「修了者が参加できるステップアップ研修・フォローアップ研修を希望します」等、様々な意見がありました。また実務研修受入法人からも「支援を見直す良い機会となった」「職員にとって良い学びと交流の場になった」等の感想が寄せられました。本養成研修を多くの人が求めていること、発達障害理解、支援の質向上と関係機関連携の決定打となりうることを再確認しました。

5. 考察

自閉症を始めとする発達障害の二次障害や強度行動障害の予防と改善は、発達障害の支援に携わる者が発達障害の特性について知識と理解を深めるとともに、発達障害支援に関する理論や援助技術、福祉サービスのあり方等について謙虚に広く学び、ライフステージを通じた実践によって研鑽し続けることが求められます。

私が自閉症支援に携わって44年が経ちましたが、昭和46年に滝乃川学園児童部重度棟に勤務した当初の自閉症児は自傷、他害、物壊し、飛び出し等の激しい行動障害を伴う、悲惨な様相を呈していました。その原因は施錠された座敷牢のような劣悪な環境と支援者が定着しないために支援者との信頼関係が成立していないことにありました。環境を改善し、施錠を撤廃し、日中活動を提供し、毎日入浴や外出機会を設け、教育権の保障に取り組むことで行動障害が改善されるとともに生活面や情緒面で大きな成長がみられました。

44年の実践から、自閉症支援の基本は、安全で清潔な生活環境の整備、当たり前の生活を実現すること、安心感と信頼関係に基づいて支援すること、スーパービジョンを得て、事例検討を重ねて支援と支援者の質の向上を図ること、個人プレーではなく、チームとして理念を共有し、意思統一を図ることの重要性を学びました。

先駆者の実践には多くの学びがあり、特定の理論や技法に囚われることはマイナスだということをこれまでの歴史が証明しています。私自身は、セガンの「生理学的教育」「モンテッソーリ教育」糸賀一雄先生の「福祉の思想」や「発達保障理論」「行動療法」「受容的交流療法」「動作法」「TEACCPプログラム」「応用行動分析」「心理劇」等々様々な理論や技法から学ぶとともに、重度の知的障害を伴う自閉症で行動障害の激しい人への支援に取り組んできましたが、現在も不勉強と未熟さを痛感しています。

自閉症療育や行動障害への支援にとって環境調整と構造化は重要ですが、環境調整や構造化でこと足りるものではありません。親や支援者の無理解な対応からの拒否や自傷、他害、物壊し等の行動障害は自己防衛と考えられます。彼らの行動と行動の背景を読み解きながら「愛と共感」を持って対応することが重要です。支援者は様々な理論や技法を単なる知識に留めるのではなく、血肉化し、実際の生活や支援の場面で即興的に支援者としての最良の役割を演じることが自閉症療育の神髄です。これまで、様々な経験をしてまいりましたが、2事例を上げたいと思います。

事例 1

食事中に鼻糞をつける真似をして、相手が嫌な顔をしたり、叱られることを楽しんでいる利用者がいました。私が隣に座ると鼻糞をつける真似をしてきたので、ペロリと舐める真似をしたところ、鼻糞をつける行動がなくなったばかりでなく、私に親愛の情を示すようになりました。彼は自分の全てが受け入れられたと感じたのだと思います。

事例 2

対人関係が苦手で、こだわりが強く、気に入らないことがあると大暴れする利用者がいました。臨海学校のプールで手を取り合って「潜りっこ」をするという遊びを共有してから、「友情」のような関係が生まれました。彼は、どんな時にも私だけは受け入れてくれるようになり、落ち着いて暮らせるようになりました。

2 事例は心理劇やカウンセリング、ミラーニューロン等の様々な理論や技法と実践が融合して、即興的に対応したものです。○△理論や□▽技法で簡単に説明がつくものではありません。支援者として生計を立てている以上、松井秀喜や錦織圭のようなプロ意識を持たなければなりません。プロとして、先人たちの理論や技法に学び、実践の場での研鑽を重ね、人格を磨くことが求められています。

かなり厳しいことを申し上げたかもしれませんが、奥深く、困難であるからこそ、自閉症を始めとする発達障害支援の醍醐味があるのです。研鑽すればするほど、自らの未熟さを知り、無限の可能性が開けるのです。何時間かの座学やマニュアルで、自閉症療育や行動障害への対応が身につくものではありませんし、本養成研修も自閉症や発達障害のほんの一部を学ぶにすぎません。本養成研修を修了することでスーパーバイザーへのスタート地点に立ったと考えるべきだと思います。

本養成研修を重ねて、さらに充実し、洗練されたものにすることで、発達障害の理解者とスーパーバイザーを養成し、機関の壁を超えた連携を構築することで、全ての発達障害児・者が豊かな人生をおくることのできる共生社会実現を目指します。発達障害者支援センターを事務局に国の事業として全国各地で実施される日が来ることを切に希望して本報告書の巻頭言とします。

平成26年度
発達障害支援スーパーバイザー養成研修(日本財団助成)
前期集合研修

【会場】 日本財団大会議室

【日程・内容】

研修会日	研修内容	講 師
7月18日(金)	開講式 13:00～13:40	
	『親として専門家に期待すること』 13:40～14:40	日本自閉症協会（保護者） 理事 今井忠 氏 (株)秦野インクルージョン 保護者 中尾佑次 氏
	『発達障害の特性理解』 14:50～15:50	日本発達障害ネットワーク 理事長 市川宏伸 氏
	『虐待防止と権利擁護』 16:00～17:00	厚生労働省障害福祉課地域生活支援推進室 虐待防止専門官 曾根直樹 氏
	交流会 17:30～19:30	
7月19日(土)	『発達障害福祉行政の展望』 9:00～10:00	厚生労働省障害福祉課障害児発達障害者支援室 発達障害対策専門官 日詰正文 氏
	対談 『特別支援教育の課題と展望』 10:10～11:40	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 田中裕一 氏 日本自閉症スペクトラム学会 事務局長 寺山千代子 氏
	『発達障害支援の現状と課題』 12:40～13:40	発達障がい者支援センター連絡協議会 副会長 和田康宏 氏
	『受容的交流療法』 13:50～15:20	社会福祉法人 嬉泉 世田谷区発達障害相談・療育センター センター長 沼倉 実 氏
	『構造化された指導や支援のアイデア』 15:30～17:00	横浜やまびこの里 東やまたレジデンス 支援課長 西尾保暢 氏
7月20日(日)	『自閉症支援の基礎となるもの』 9:00～10:30	全国自閉症者施設協議会 会長 五十嵐康郎 氏
	『自閉症の動作法』 10:40～12:10	愛知教育大学 教授 森崎博志 氏

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修（後期集合研修）

<会場> 日本財団大会議室 (東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル)

<日時> 平成27年3月13日(金) 12:30～受付 / 13:00～開始

研修会日	研修内容	講師
3月13日(金)	開講式 13:00～13:40	
	『当事者からのメッセージ』 13:50～15:20	発達障害当事者会イトコサガシ 代表 冠地 情 氏
	『発達障害の応用行動分析』 15:30～17:00	鳥取大学大学院 教授 井上 雅彦 氏
	交流会 17:30～19:30	
3月14日(土)	『高機能広汎性発達障害』 9:30～11:00	NPO法人アスペ・エルデの会 会長 辻井 正次 氏
	『発達障害の就労支援』 11:10～12:40	宇都宮大学 教授 梅永 雄二 氏
	『アセスメントの力を高めるためのスーパーバイザーの役割と事例検討の進め方』 13:40～17:00	大正大学人間学部臨床心理学科 教授 近藤 直司 氏
3月15日(日)	『発達障害を巡る諸問題』 9:00～10:30	一般社団法人 日本自閉症協会 会長 山崎 晃資 氏
	『研修報告』 10:40～12:00	主催者
	修了式(講評・修了証交付) 12:00～12:30	

前期集合研修

親として専門家に期待すること

一般社団法人 日本自閉症協会
理事 今井 忠

1

N

前書き

- a. 私よりも妻(母親)のほうが何倍も苦勞
- b. 本人に日常的にエンドレスで接していて初めて大変さがわかる
- c. この逃げることのできない仕事をどうしたら少しでも面白いものにできるか
- d. 夫婦・家族・本人にとって良かったと思える人生にしたい
- e. 周囲の人と違う人生だが、それも面白い

2

N

1. 私の息子

- a. 1991年2月生まれ、23歳。
- b. 生後すぐにダウン症＋知的障害と告げられたが、その後、自閉症もあると診断された
- c. 医師、療育機関、養護学校、入所施設、地域資源の助けがあった
- d. その過程で思ってきたことをお話ししたい

3

N

経過まとめ

- a. ダウン症との出会い・・・障害の勉強
- b. 障害児の誕生・・・稀なことではないと知った
- c. 長い病気との戦い
- d. 母親の負担
- e. 障害児学童保育
- f. 東京に転居・・・東京の異質さ
- g. 養護学校(将来のためというしごき)
- h. 強度行動障害、自閉症との出会い
- i. 精神科薬の難しさ
- j. 入所施設利用
- k. 成人期の地域での生活に向けて

4

N

関わっていただいた方々

- a. 医師・・・小児科医、精神科医
- b. 周囲・・・親やご近所、上司
- c. 北九州市立総合療育センター
- d. 親の仲間
- e. 養護学校
- f. 児童入所施設
- g. 地域資源

5

2. 専門家について

6

議論の前提として

- a. すべてのタイプの自閉症当事者に遭遇する支援者などいないと思う
- b. その専門家の支援が合うタイプが集まる合わないタイプは去る
- c. なので、自分のやり方の有効性は信じてつも、誰にも有効だと思てはいけない

7

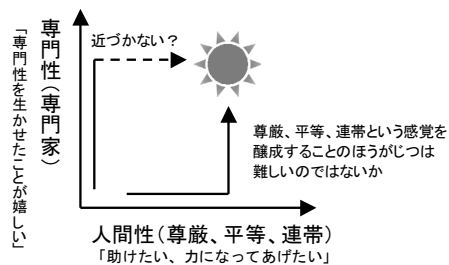
間違いやすい認識

- a. 直った、成長した
→そこに慣れただけ、その人に慣れただけ
- b. 自分のやり方に効果があった
→一要因に過ぎない。そんな単純なことではない
- c. 私のほうが専門家でわかっている
→日ごろ、生活している親がつかんでいる情報は意外に重要。ただし、よく聞き分けること。事実に関する情報を大事にすること。
- d. もっと任せてくれたらというのは危険信号
→思い上がり

8

専門性よりも大事なこと

専門性を高めたからといって障害者への連帯感が育つわけではない。むしろ、専門家は治療効果が期待できない人を嫌う傾向を持つ。



9

3. 支援論

10

支援が障害を重くするという現実

- a. 生来の障害(一次障害)
+
- b. 定型者中心社会に適応させようとする支援が二次的な障害を生む(二次障害)
+
- c. 医療: 向精神薬の多種多量服用によって精神・身体症状が生じる(薬剤性三次障害)
↓
悲惨!

11

人の幸せに関わる仕事で陥りやすいこと

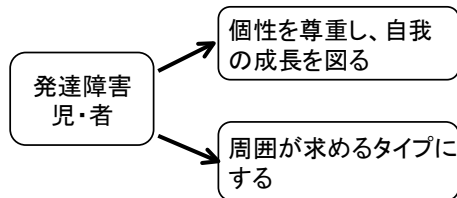
- a. パターナリズム
支援者の幸せ観を押し付けていないか
- b. いつの間にか支援者が主人公になっていないか
- c. 過去、成功したと思っている方法にこだわっていないか
- d. 親も同類

12

二つの考え方

受容 ↔ 教育・訓練・調教

本人の幸せ重視か、周囲との折り合い重視か



13

親を問題にすることについて

- 親を問題にして、何かが解決するだろうか
- 親は支援者や医者と異なり、縁が切れない
- 支援の内容がそもそも問題なのでは？
- 親は批判されると疲れる。批判を避ける。お子さんのためという親教育はウンザリ。
- 親を孤立させてはならない。親の味方になれば親は変わるし、子も変わる

14

入所施設の難しさ

マネジメントは人間工学的に考えると至難

- 職員の効率優先(根源)・・・集団行動(水場)、向精神薬etc
- 閉鎖性(抑制力が効かない)
 - ・地域的、人的、地域コミュニティと隔離
 - ・外の目、外の風を嬉しいと思っているか
 - ・行き過ぎた自己完結
- 支配性
 - ・空間の支配者は職員？、それとも利用者？
 - ・自分の空間がなくても安心か
- 職員文化の腐敗の進行
 - ・支配型、管理型職員が徐々にはびこり、障害者の側に立つ職員はやがて去る。トップも重宝がる
 - ・辞めた職員からの聞き取りこそ重要

15

ありがとうございました

16

親として専門家に期待すること

(株)秦野インクルージョン保護者
中尾佑次

1

息子について

- ・ 1991年 東京都板橋区生まれ 22歳
- ・ 知的障害・自閉症
- ・ 愛の手帳2度 障害程度区分5
- ・ 服薬 なし

2

生育歴

3

出生～幼児期

- ・ 妊娠中毒症で、母3ヶ月入院後出産。2日後横隔膜ヘルニアで手術2ヶ月後退院。心配をよそに身体は健康に育つ。
- ・ 1歳半頃から多動に気付く。2歳には一般児童との違い（多動・物損・言葉の遅れ、コミュニケーション能力の低さ、社会性欠如、河川飛び込み、脱走、放火、など）が際立ってくるが、原因がわからず親は不安。

親仲間の子育て通信に送った当時のイラスト



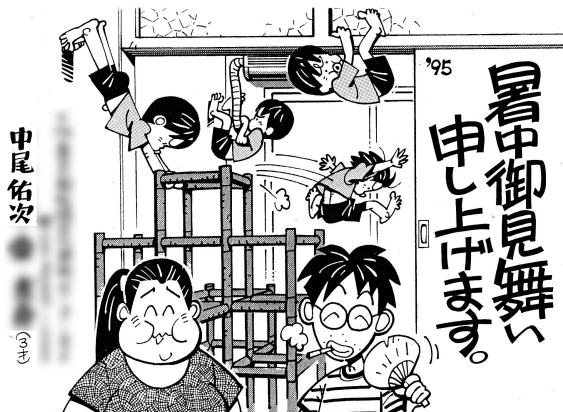
4

保育園～就学前

正直、息子の障害より、障害者の親になったことがショックだった。が、本音は言えず、それなりに親らしいことはしていた。

- ・ 4歳で保育園入所。熱心で手厚い保育も裏目に出、パニック、こだわり頻発。1年で退園。
- ・ 同じ年、小児科主治医の紹介により、心身障害児医療療育センターで自閉症、知的障害、睡眠障害と診断。言語療法、心理指導開始。
- ・ 区の教育相談所や、福祉園などにも通い、就学準備。「養護学校に行ったら終わり」と思いつつ、見学すると好印象。

6



5

養護学校

障害児の親として生きる振りしながら不安が募る一方。希望が持てず、仕事に逃げ、母親任せ。

- ・養護学校での専門教育により、社会性や学習面での能力が高まる反面、帰宅時の儀式、こだわり、わがままは徐々にエスカレート。
- ・それまで自宅事務所の父親が、都心に事務所を借り、母親の負担が増加。体格向上に伴い問題行動エスカレート→あきらめ、ゴミ屋敷化。家庭訪問拒否。肥満化。睡眠乱れ休みがち。
- ・わらにもすがる思いで一家全員改名、大金はたいて印鑑を作る。

7



8

施設入所

絶望するも、わずか半月集団生活の成果に希望を見だし、意識改革、積極的に。今あるのはこの期間のおかげ。

- ・母親の急死に伴い、梅ヶ丘病院3ヶ月入院。退院後2ヶ月在宅→知的障害児施設入所
- ・構造化された環境で独自の療育を受け、社会性、柔軟性、能力が大きく磨かれる。父親も猛勉強。
- ・父親も新しい環境で気持ちも新たに、施設とタッグを組んで「能力内自立・円満な人格形成」に取り組む。よき親仲間との出会いと活動が楽しく支えに。
- ・ADLもかなり自立。難しい思春期を乗り越え、17歳後半から自信を持ち、積極性。

9

地域移行

- ・2013年体験利用を経て、株式会社秦野インクルージョンのCH(現GH)へ入寮。日中は同社生活介護利用。個別支援の努力で本人も充実・成長。
- ・毎土曜日は八王子いちょう企画の移動支援で外出プログラム。詳しい報告書のやりとりは非常に役に立っている。若いヘルパーさん、男性のヘルパーさんが多いのもよい。
- ・2ヶ月に一度一週間帰省し、家庭生活。毎日地元の生活支援センターにりん草(ワクワドキドキがモットー)など計5名のベテランヘルパーさんと移動支援を楽しむ。

10

現在の写真・動画

11

好きなこと、もの

- ・食べること
- ・献立を考えること
- ・食事を作ること
(サラダなど簡単なメニュー)
- ・音楽鑑賞
- ・お笑い(バナナマン・ダンディ坂野)
- ・芸能人
- ・YouTube
- ・文字書き
- ・カラオケ
- ・ダンス
- ・自転車に乗る
- ・体育館でランニング
- ・プールで泳ぐ(夏期のみ)
- ・買い物(食材、本、CD)
- ・挨拶
- ・褒めてもらう
- ・喜んでもらう(褒め言葉、芸)
- ・人(特に若い女性)
- ・ミッキーマウス
- ・自慰行為(自室で、許される時間に)

12

できること

- ・スーパーで買い物
- ・買った品をしまう
- ・洗濯
- ・洗顔
- ・歯磨き
- ・入浴準備
- ・入浴
- ・木彫
- ・掃除
- ・ゴミ拾い
- ・挨拶
- ・配膳、食器洗い
- ・創作料理を考える
- ・サラダ作り

12

嫌いなこと 苦手なこと

- ・運動全般
- ・自分の特徴を真似されること
- ・音痴の歌
- ・イレギュラー
- ・季節に合わせて服を変える
- ・大きな音、甲高い音
- ・納豆、チーズ、卵白
- ・お金を払う

14

息子への支援のポイント

- ・見通しを持たせること
- ・意思の疎通
- ・自信・誇りが持てること
- ・楽しみが持てること

15

視覚支援

見通しを持たせ、混乱を防ぐ

- ・ 予定や伝達事項は、言葉だけでなく、文字、写真、イラストなど視覚で伝える。
- ・ ケアホームでは毎日決まった時間決まった場所で次の日のスケジュールを視覚伝達。
- ・ 移動支援など外出用も。
- ・ イレギュラーの場合は特に念入りに。

16

移動支援の視覚支援
いちよう企画(毎土曜日)

ヘルパーさんが決まったら次月の
ニュー表と月間予定表をホームに
メール送付

2014 年

5 月の予定

中尾秀真

				1	2	3
				昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00
4	5	6	7	8	9	10
昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00
11	12	13	14	15	16	17
昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00
18	19	20	21	22	23	24
昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00
25	26	27	28	29	30	31
昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00	昼 10:00~12:00 夜 10:00~12:00

17

メニューから選んで、月間予定表に書き込む。

[illegible]

18

それをもとに予定表を作って送付、いつもホームの冷蔵庫前に貼ってもらう。



担当ヘルパーさんから写真と報告書が送られてくる。
その詳しい内容とやりとりで今後のメニューや方針を決める。

[illegible]

イレギュラーの外出

帰省時に初めてイベントGet in touchに参加することに。
混乱要素が多いので、「東京タワーで食事」と月間予定表に記入して送り、
本人OKしたので、参加経験者に情報をもらい、食事処の下見に行った。

[illegible]

移動支援予定表

帰省日自分から「水曜日、東京タワーで中華バイキング」と行ったので、見通しが持っており、大きく乱れることはないと思った。予定表を渡すとニコニコ。予想通り終始笑顔で、1時間延長。沢山のイレギュラーをたっぷり楽しめた。



言葉

意思の疎通や、混乱防止、自信向上にも

- 言葉はあるものの、不完全かつ自閉症者独特の特徴があるため理解しにくく、誤解されることも少なくありません。彼の言葉は次の3つに大別できます。これらを正しく判断して適切な対応をすることが、意思疎通の要と心がけています。

- 1.コミュニケーションのための言葉
- 2.思わず出てしまう言葉
- 3.褒めを要求する言葉
- 4.確認や儀式のための言葉

1.コミュニケーションのための言葉

〇〇さん辞めちやったら
寂しいから、また来るねー

ウン！
きっと来るよね

(大好きな〇〇さんが退職して寂しいよ。
でも約束したから、きっとまた遊びに
来てくれると信じてるよ。)

毎日ゴミ拾いして
えらいねー

環境にも
優しいよ

文字書きを
してください

はい、
やりましょう

普通にやりとりする

25

2.思わず出てしまう言葉

(好きなビデオやCMのお気に入りのセリフを裏声
で)など・・・独り言、しゃっくり、鼻歌のたぐい？

何やってんだよこのヤロー！
あ～あもうやってらんねえよお～

中小企業の社長さん
信頼できるパートナーを
お持ちですか？

あきやー！
ひよひよひ！

家では昼間絶叫調も含めOKと言うことで、外では我慢できている。
が、混乱気味の時はでがちなので注意しすぎない。

26

3.褒めを要求する言葉

●イレギュラーな場面、不安な状態のときに「ほめ」を要求する事がある。自らを鼓舞する事で緊張を和らげ自信を高め、崩れにくくなる効果があるので、可能な範囲でつきあう。例えば、唐突に看板やテレビ、DVDの画面を示し文字を読んだり、知識を披露するときにはほぼ間違いなくそうなので「よく知ってるねー」「物知りくん」などと応えると満足。何かを示さずに、いきなりキャッチフレーズのようなことを言う場合も。

27

3.褒めを要求する言葉

●誉め要求だと思って「よく知ってるねー」と応えたのに「知りません」と返されるときがあるが、これは「誉め要求ではない」という意味。確認のために言ってる場合が多いので、「OK」と応える。自分で何かを言った後「OK」「知りません」と言うときは復唱するとよい。

●そういった要求が長引きそうなときは、「今～中、～しましょう」という言い方が一番わかりやすい。
例：今散歩中。歩きましょう。
言葉による復唱だけでなく、その内容を紙に書いて渡すと何度もくり返し確認を求める事は少なくなる。
スマホに自分で打ち込ませると、さらに納得度が高い。

28

4.確認や儀式のための言葉

移動中や、場面の切り替わる時、特に多い
自分の立ち位置をはっきりさせ、混乱やフラッシュバックを押さえる効果

合体はしません

山田さんは
ケースデキ
行かないよ

そうだね～

肯定するだけ

●混乱しそうなときは過去の自傷行為などを形式化・簡略化した儀式を行う事がある。かつて家庭では昼食後からおやつの際にはほぼ毎日見られ、いずれも行う前に同意を求めてきた。たとえば「ゴンゴンの頭突きどうぞ」「指ボキボキどうぞ」「手グリグリどうぞ」などと言ったら、復唱してやらせると落ち着く。

29

4.確認や儀式のための言葉

混乱がすこし大きめのときに「包丁食べたい」「包丁で殺したい」「包丁でたたきたい」という事がある。絶叫調や家庭では実物を出してくる事も。
その場合は否定せず「包丁食べたいの」などと受け止める。その後すぐに自分で「包丁食べません」「包丁で殺しません」などと修正して収まる。衝動的にわき上がる不穏な感情を他者にわかってもらう事で、それを鎮めやすくなるからだと思像。

30

それでもパニックになったら

- 本人と周りの方の安全確保に努め、収まるのを待つ。だいたい40分。長いと半日。
- 本人も内心「やっちゃった～」と落ち込んでいるので、収まってから絶対できる簡単なことを頼んで、できたら褒める。

31

人間関係

信頼、愛着、思いやり、自己肯定感

- 発達障害者=人間。自分の世界が尊重される限り、人に認められ、好かれたい。それが原動力。
- 施設入所時は、人に甘える力をはぐくむところから始まった。
- 現在は挨拶、お世辞？、サービス、喜んでもらいたい。大勢の人との関わり方の積み重ねで大きく成長中。

32

カラオケを利用して他者と楽しめるように

- 10歳から帰省時土曜は父とカラオケが固定。あまり歌わず、歌わず好きな曲を入れて聞きながらおやつを食べるだけ。
- 移動支援を機に板橋と秦野両方でヘルパーさんと交互に歌う取り組み開始。ヘルパーさんの曲目をあらかじめ紙に書いて渡すと、自分の曲と交互に入力できるようになった。
- やがてデュエットもできたり、ヘルパーさんの十八番を自分で歌ったりと一緒に楽しめるように。
- 春休み帰省後の土曜(4/12)からいきなり立ち上がって踊り始める。毎回違う曲で必ず踊るように。
- 6月休み板橋のヘルパーさんにも披露。大ウケ。2回とも同じ曲だったことから、おそらく秦野で一番ウケた曲を選んだと思われる。
- 他者と楽しむことから、他者を楽しませることへの進歩？

33

• カラオケのビデオ

34

息子の支援を通して感じたこと

- 幼少期は、わかりやすい環境と方法による訓練は必要。成功体験を積ませることは、親のやる気や希望にもつながる。
- 思春期には新しい混乱や問題がでるが、プライドを利用して成功体験を積ませることが可能。
- 自信と成功体験、社会的報酬、趣味が青年期の安定につながる。

35

息子の支援を通して感じたこと

- 理解しづらいこだわりや儀式は自閉症者の特性ではないこと。一般人でも合理的根拠に乏しいジンクス、ゲン担ぎ、占いなど

●勝ちが続くようにパンツを変えないプロ野球監督●球場までの道を変えない投手●手に人という字を書いて飲む●カツ丼を食べる●自分が見るといつも負けるからワールドカップは見ない●晴れ男、晴れ女●姓名判断...

見通し、確信が持てないから、不安解消行動。

わかりやすい環境作りが大切

36

息子の支援を通して感じたこと

能力の不足している劣った人
↓
下ろすに下ろせぬ荷物をしょいながら
毎日頑張っている立派な人

イラスト

- 行動や言葉が幼く見えても、実際は年相応の意識。子ども扱いはプライドが傷つく。

37

息子の支援を通して感じたこと

発達障害者は混乱の海を穴の開いた船で進む船頭
支援者が、水を常にかき出してあげないと沈没してしまう。(パニック)

支援者のかき出すひしゃくが、予定表やクスリやイヤーマフなど
自分のひしゃくが褒め要求や、誇り、楽しみなど

穴はふさがらないが、順調な成長すれば船体が大きくなって沈みにくくなる。
不適切な支援は逆。

イラスト

38

支援者の方々に期待すること

- 分析や説明、同情だけでなく、日々の困難を少しでも減らせる具体的な支援。
(支援機関の紹介、レスパイト、ショートステイ、同じタイプの子を持つ親仲間や、サークル紹介)
- 複数の専門家(機関)の連携
- 視覚支援
- コミュニケーションの工夫
- 知覚過敏への配慮
- 障害者の前に、一人の人間としてとらえてほしい。

39

本日はどうもありがとうございました

40

発達障害の特性理解 —ASDを中心に—

2014. 7. 18.
発達障害支援スーパーバイザー養成研修
日本財団
日本発達障害ネットワーク
市川宏伸

うまく行かない対応

- ・何とかこちらの論理に合わせようとする
注意する、叱る、説教する、反省させる
- ・相手の論理を考えさせる
世の中の常識を教える、社会的ルールを押し付ける
- ・本人の論理を無視する
頭ごなしに否定する、プライドを傷つける

うまく行く対応

- ・本人の論理を尊重する対応
理解し易い説明をする、一般論を言わない
- ・注意・叱責にならない対応
言い方を変えてみる、耳を傾けるような説明
- ・本人の立場が有利になる対応
本人を1人称にした説明

重要なことは

- ・人間は一人一人異なっていることに気付く
どちらが正しいかの論議は無意味
- ・ASDは特性であって、否定されるべきものではない
特性は生かすべきである
- ・ASDは異なるソフトを積んでおり、こちらのソフトで動かそうとするのは無意味
どれだけ互換性あるソフトを作れるかが重要

アスペルガーとの付き合い方(1)

彼らなりの考え方を持っている
彼らなりの行動様式を持っている
彼らなりの合理性を持っている
驚くほど純粋であり、例外は許されない
考え方ははっきりしており、曖昧さは許されない
相手の考え方は理解できない
納得いくように伝えているか

アスペルガーとの付き合い方(2)

質問する際に、条件を限定して尋ねているか？
言葉の意味をきちんと伝えているか？
あいまいな表現を使っていないか？
彼らの論理を理解できているか？
無理にこちらの論理を押し付けていないか？
結果をはっきりと伝えているか？

アスペルガーとの付き合い方(3)

嘘はつけない純粋さがある
本音と建前を使い分けられない
考えていることと、話していることは同じである
だまされやすい存在である
本人の論理で納得してくれることがある
納得してくれれば、徹底して信じてくれる

自閉症スペクトラム障害(ASD) は発達障害の一つ

- ・ASDは「広い意味の自閉症」と考えられる
- ・ASDは、社会的に話題になっている発達障害の一つである。
- ・ASDは広汎性発達障害(PDD)とされていた
- ・児童青年精神科では、診断される数が著しく増加している

ADHD児のかかえる問題とは？

- 1 社会からの孤立:
社会的ルールの理解不足、他者からは特異な存在
- 2 思い通りにならないことへの不満:
我慢の難しさ、衝動性の亢進、(不登校)
- 3 他児との関係の難しさ:
他児の考えが分からない、無意識に他児の気持ちを傷つける可能性
- 4 簡単に諦めてしまう:
自己評価の低下、自棄的行動、反社会的集団との結びつき

心がける対応とはなんだろうか？

- 1 自信がつくような対応を考える:
 - ・失敗、叱責の積み重ねから生じる自己評価の低さを軽減する
 - ・誉めることの工夫を忘れない
 - ・自棄的行動、反社会的行動に至らないよう注意する
 - ・無理に矯正するよりは、良い点を伸ばしていく
- 2 対人関係で孤立しないように心掛ける:
 - ・周囲が感心するようなことを考える
 - ・社会性を積極的に教える必要がある

- 3 表現も理解も苦手なことを忘れない:
 - ・”からかい”や軽蔑ととられることは避ける
 - ・分かりやすく、はっきりとした言い方を心掛ける
 - ・意味の解釈が異なっていることがあるので注意する
 - ・誤解を招くような皮肉や冗談は控える
 - ・社会的な常識が欠如していることを考慮する
- 4 状況に依存しやすい事を忘れない
 - ・周囲の刺激が少ない時は安定できる
 - ・本人の状態を考慮して働きかける

発達障害とは？

- × 発達上に問題があるのが発達障害
- 支援法の中に定義されている
発達障害者支援法(平成17年施行)
- × 発達障害は子育てが原因で生じる
- 発達障害は何らかの脳機能障害が前提
脳機能障害の本質については研究途上

発達障害という言葉

- 1 米国における発達障害(1960年代以降)
(Developmental Disability)
重度の知的障害、脳性麻痺、てんかんなど
- 2 DSM-III-Rの発達障害(1987年)
(Developmental Disorder)
精神遅滞、広汎性発達障害、特異的発達障害
- 3 発達障害者支援法の発達障害(2005年)
(Developmental Disorder)
自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他

DSM-5における発達障害

- 神経発達症群/障害群
- ・知的能力障害群
 - ・コミュニケーション症群/障害群
 - ・自閉スペクトラム症/障害
 - ・注意欠如・多動症/性障害
 - ・限局性学習症/障害
 - ・運動症群/障害群
 - チック症群/障害群
 - ・他の神経発達症群/障害群

発達障害と社会適応(1)

- ・相手の気持ちが分からない
自分の気持ちをうまく伝えられない
→“仲良し”が作れない
- ・暗黙の了解がない
杓子定規である
融通が利かない
→考え方に柔軟性がない

発達障害と社会適応(2)

- ・言葉の意味を取り違える
情報が錯綜すると混乱する
→コミュニケーションが苦手
- ・特定のことにのみ興味を持つ
自分が興味のあることは他人もあると思う
→独特の思考・行動様式

発達障害と社会適応(3)

- ・特定の科目を深く探求する
科目の中でもバラツキがある
→学習上の困難を抱える
- ・過敏な場合と鈍感な場合がある
自分で調節できない
→感覚の感受性が特別である

発達障害と社会適応(4)

- ・特定なものにだけ注意が向かう
目的性も持続性もない
→注意が続かない
- ・衝動性が高い
自己評価が低下しやすい
→自己抑制が苦手である

発達障害の特徴(1)

1 その数の多さ

平成21年5月の特別支援学校在籍者:

視聴覚障害14259名、肢体不自由31086名、発達障害を含む知的障害は102084名、10年に約2倍)

平成21年5月の特別支援学級在籍者:

135166名(90%は知的障害学級、自閉症・情緒障害学級)4年間に約40%増加しています。

2 外見上分らない場合がある

知的障害の軽い場合は、一見通常とみなされる
「怠けている」、「困ったものだ」、「反抗的である」

3 境界が分かりにくい

どこまでが通常でどこからが障害なのか?
どこまで支援するべきか?

4 外見上症状が変化する可能性がある

経過により、外見上変化がする場合がある
環境により、対応により変わってくる

5 家族全体として考えるべき場合もある

何らかの遺伝的背景が指摘されている
家族も含めた支援が必要な場合がある

6 発達障害は重なることが珍しくない

発達障害単独で存在するのは珍しい
経過により様態が変わることがある

発達障害の特徴

- 連続性のある障害(スペクトラム、グラジュエント、ブロードバンド)



成人期の気づき
高学歴?
一般就労
職場で困難

早期の気づき
学歴は高くない?
特別不就労中心
職場での配慮
(特例子会社など)

* 本人または周囲が困難を感じた際の支援

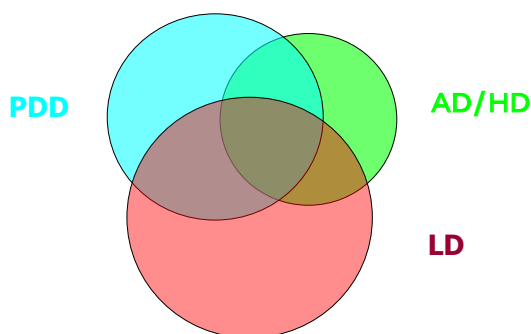
教育上の配慮を必要とする通常級の生徒

	2002年	2012年
学習障害的な著しい困難	4. 5%	4. 5%
行動面で著しい困難	2. 5%	3. 1%
対人面で著しい困難	0. 8%	1. 1%
全体として著しい困難	6. 3%	6. 5%

LDI: 学習障害質問紙
ADHDRS: 注意欠陥多動性障害評価尺度
ASSQ: 社会性を調べる質問紙

* この時点で特別支援教育に在籍する生徒 1. 2% 1. 4%

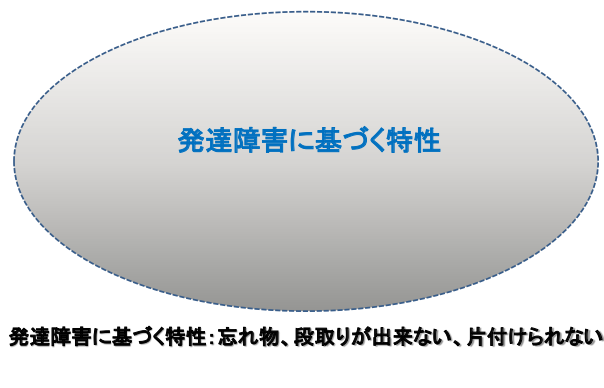
LDとPDD、AD/HD(模式図)



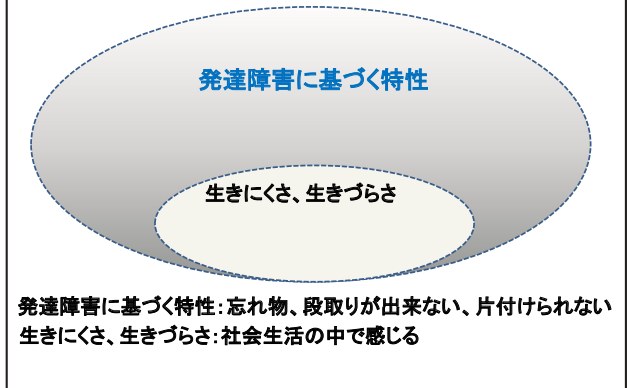
発達障害は一生の特性

- 濃い場合から薄い場合まである
- 濃い場合は早期に気付くが薄ければ遅い
- 多くの症状は就学前に存在している
- 学業成績が良い場合は大人になって気付く
- 置かれる環境や、対応によって変わる
- 複数の発達障害が重複していることもある
- .

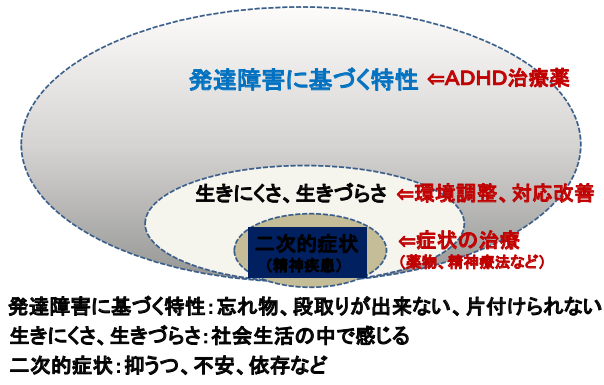
発達障害と治療(1)



発達障害と治療(2)



発達障害と治療(3)



発達障害は存在してはいけないのか？

- ・置かれる環境や、対応により大きく異なる
- ・発達障害児者は他者にはない特別な才能を持つ
- ・発達障害をもとに生じることが問題になる
- ・発達障害を背景に生じる社会不適応が問題
- ・素晴らしい芸術家や研究者が存在する
- ・薬物だけで治療するのは難しい

QOLがその後を支配する？

- ・社会的満足度をどれ程満たすかが重要
 - ・自己肯定感(自己有能感)が強まると、社会適応もよくなる
 - ・疎外感、孤立感が強いと、被害感が強まり、反社会的傾向が強まる
 - ・思春期をうまく乗り越え、成人になって立派な業績を残す人もいる
- * QCD: Questionnaire of Child Difficulty
* QAD: Questionnaire of Adult Difficulty

発達障害への現在の考え方

- ・何らかの脳機能障害の存在が前提
- ・原因については現在は仮説しかない
- ・育て方だけでは説明できない
- ・最近は発達障害を何とかなくそうとは考えない
- ・発達障害児・者の持つ社会不適応を減らす

発達障害への対応の基本(1)

- ・発達障害そのものをなくす、治す
→無理である
→特性をなくしてしまう
- ・発達障害の社会不適応を減らす
→現実的である
→特性を大切に出来る

発達障害とのお付き合い

- 1 援助者は腹立たしく思っていないだろうか
- 2 非援助者の気持ちを推察できるだろうか
- 3 プライドを傷つけていないだろうか
- 4 信頼を勝ち得ることができるか
- 5 援助者の論理で対応していないだろうか
- 6 その人らしく生きているだろうか
- 7 その子どもの特徴をなくしていないだろうか

発達障害は社会的に無用なのか？

そんなことはない！

特定の分野で素晴らしい業績を残した人には、
発達障害と思われる人がいる
社会で精力的に仕事をしている人には、発達障
害と思われるのがいる
社会に出る前に社会的に逸脱する人もいる
子どもの頃の対応こそ重要である！

発達障害へのスタンス

- ・ 発達障害は特性である
多くは環境調整や対応で改善される
薬物治療は二次的課題が中心
- ・ 発達障害者は異なるソフトを積んでいる
互換性ソフトを作るには相手のソフトを知る
* 誰も他人のことは分からない
- ・ 成人になって不適応を感じる人がいる
一部の企業などでのみ対応
給料分の仕事をしてもらうには？

発達障害への対応

- ・ 無理に社会的規範に合わせようとしても難しい
× 注意してはいけない
○ 納得できる注意を工夫する
- ・ 考え方は融通が利かない
all or noneの発想である
本人の立場に置き換えて説明する
- ・ 特性を生かす方法を考える
本人のよいところはどこか？
存在感の確保は重要である

虐待防止と権利擁護

平成26年7月18日

厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 障害福祉課
地域生活支援推進室
虐待防止専門官
障害福祉専門官 曾根 直樹

講演の内容

1. 法施行で何が変わったのか
2. 平成24年度の障害者虐待対応状況調査結果
3. 通報から始まるプロセスの確認
4. 虐待事例の報道から考える
5. これからの課題

1. 法施行で何が変わったのか

1. これまでの経緯

平成12年
児童虐待の防止等に関する法律成立

平成13年
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)成立

平成17年
厚生労働省「障害者虐待防止についての勉強会」

平成17年11月
高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律成立
附則2項
「高齢者(65歳以下の者)以外の者であって精神上又は身体上の理由により養護を必要とするもの(障害者等)に対する虐待の防止等のための制度については、速やかに検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるものとする旨が定められた。」

平成23年6月
障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律成立

平成24年10月 法律施行
* 10月までには全都道府県が「障害者権利擁護センター」の業務を開始。また、合わせて全市町村が単独又は複数の市町村で共同して「市町村虐待防止センター」の業務を開始。

4

2. 障害者虐待防止法の概要

(平成23年6月17日成立、同6月24日公布、平成24年10月1日施行)

目 的

障害者に対する虐待が障害者の尊厳を害するものであり、障害者の自立及び社会参加によって障害者に対する虐待を防止することが極めて重要であること等に鑑み、障害者に対する虐待の禁止、国等の責務、障害者虐待を受けた障害者に対する保護及び自立の支援のための措置、養護者に対する支援のための措置等を定めることにより、障害者虐待の防止、養護者に対する支援等に関する施策を促進し、もって障害者の権利利益の擁護に資することを目的とする。

定 義

1 「障害者」とは、身体・知的・精神障害その他の心身の機能の障害がある者であって、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活・社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう。
2 「障害者虐待」とは、次の3つをいう。

- ①養護者による障害者虐待
- ②障害者福祉施設従事者等による障害者虐待
- ③使用者による障害者虐待

3 障害者虐待の類型は、次の5つ。(具体的要件は、虐待を行う主体ごとに微妙に異なる。)

- ①身体的虐待 (障害者の身体に外傷が生じ、若しくは生じるおそれのある暴行を加え、又は正当な理由なく障害者の身体を拘束すること)
- ②放棄・放置 (障害者を衰弱させるような著しい遺棄又は長時間の放置等による①③④の行為と同様の行為の放置等)
- ③心理的虐待 (障害者に対する著しい暴言又は著しい恒続的な対応その他の障害者に著しい心理的外傷を与える意図を行うこと)
- ④性的虐待 (障害者において不審な行為をすること又は障害者をして不審な行為をさせること)
- ⑤経済的虐待 (障害者から不当に財産上の利益を得ること)

5

「養護者」とは

・「障害者を現に養護する者であって障害者福祉施設従事者等及び使用者以外のもの」と定義。
・身辺の世話や身体介助、金銭の管理などを行っている障害者の家族、親族、同居人等が「該当」。
・同居していなくても、現に身辺の世話をしている親族・知人などが養護者に該当する場合あり。

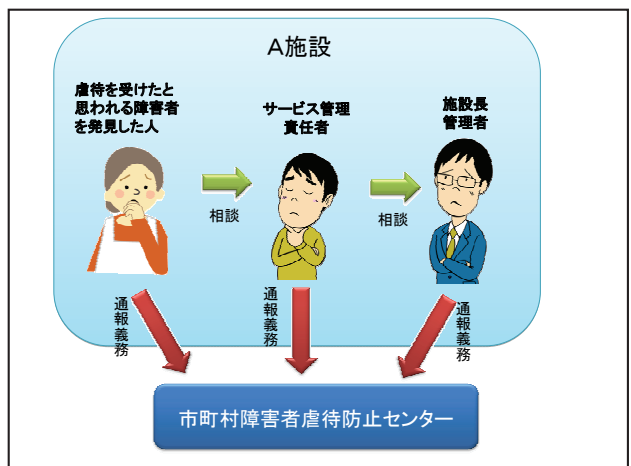
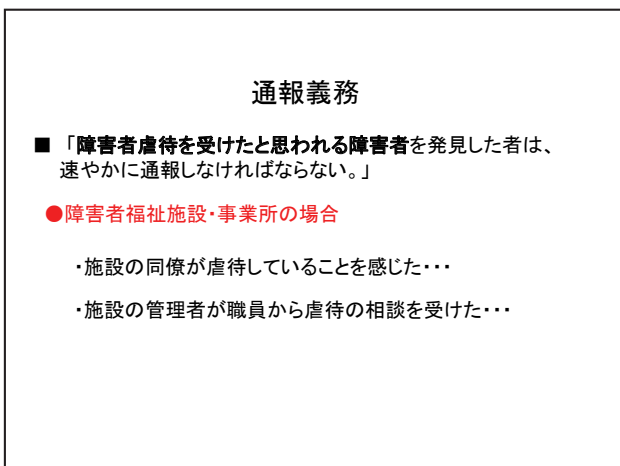
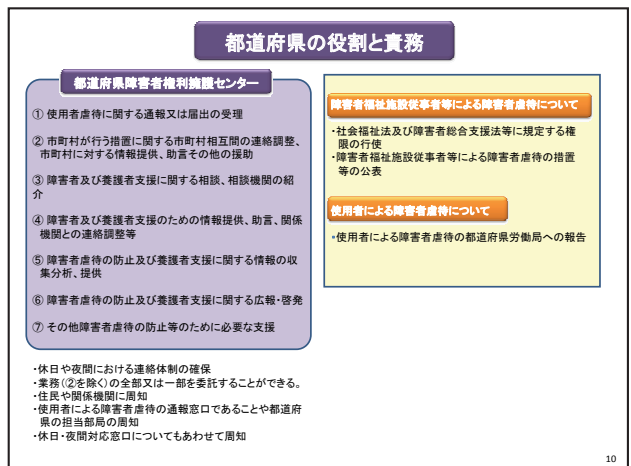
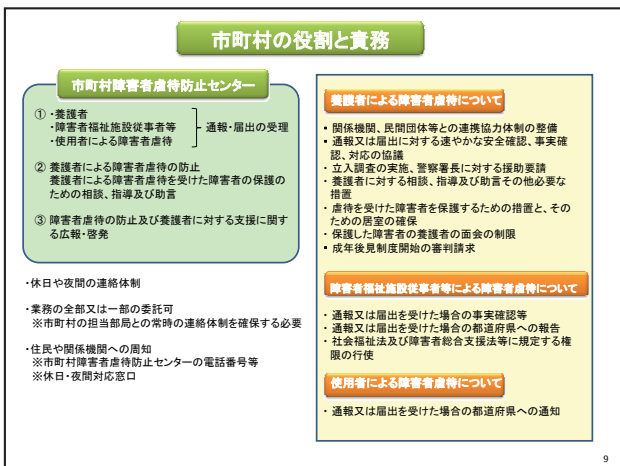
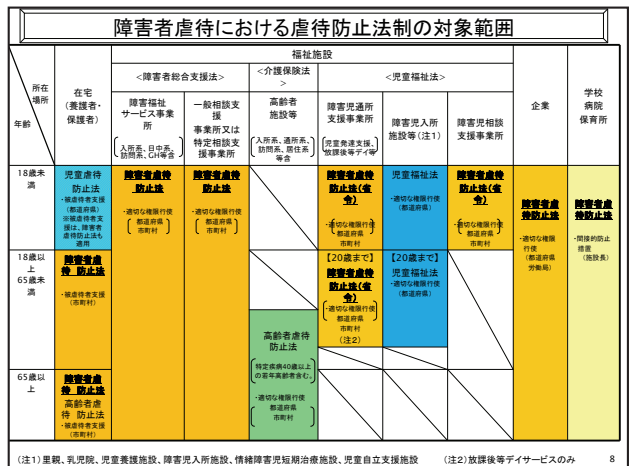
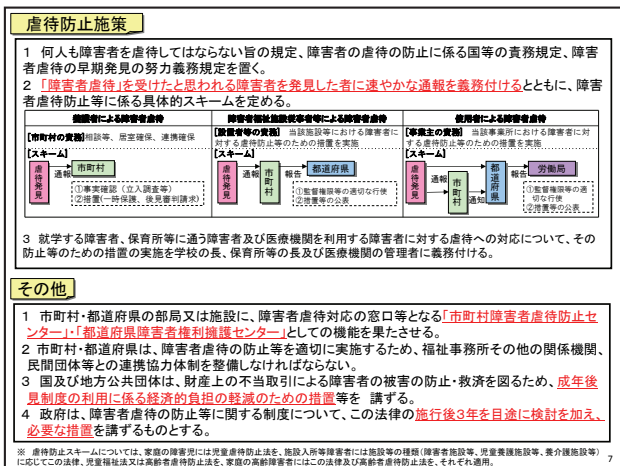
「障害福祉施設従事者等」とは

法律上の規定	事業名	具体的内容
障害者福祉施設	・障害者支援施設 ・のぞみの園	
障害福祉サービス事業等	・障害福祉サービス事業 ・一般相談支援事業及び特定相談支援事業 ・移動支援事業 ・地域活動支援センターを運営する事業 ・福祉ホームを運営する事業 (厚生労働省令で定める事業) ・障害児通所支援事業 ・障害児相談支援事業	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、療養介護、生活介護、短期入所、重度障害者等包括支援、共同生活介護、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援及び共同生活援助 * 障害児入所施設については、通報義務も含め児童福祉法で規定。

「使用者」とは

・障害者を雇用する事業主又は事業の経営担当者その他その事業の労働者に関する事項について事業主のために行為をする者。

6



2. 平成24年度 障害者虐待対応状況調査の結果

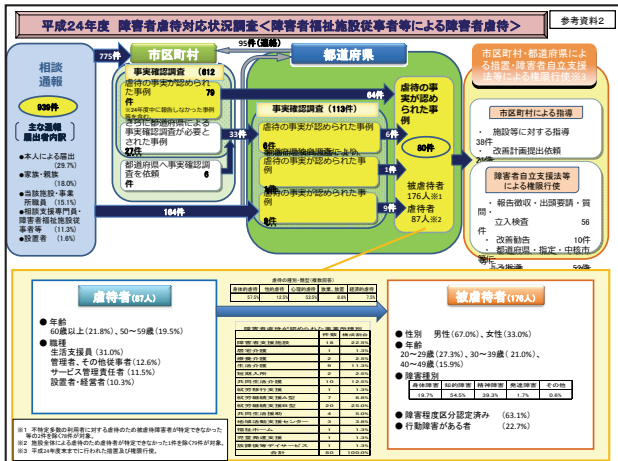
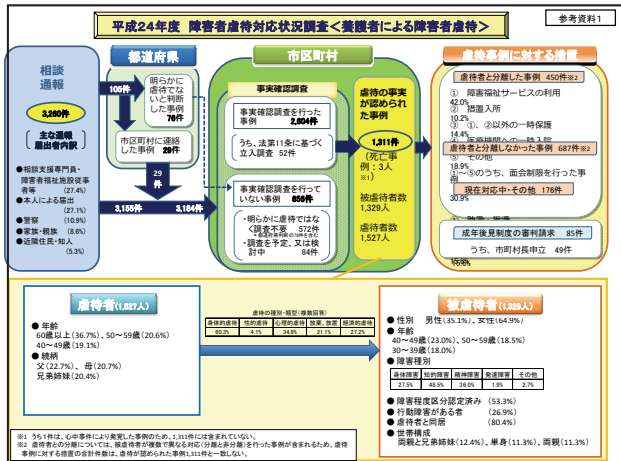
平成24年度 都道府県・市区町村における障害者虐待事例への対応状況等(調査結果)

○平成24年10月1日に障害者虐待防止法施行(養護者、施設等職員、使用者による虐待)
→平成25年3月末までの半年間における養護者、施設職員等による虐待の状況について、
都道府県経由で調査を実施。
(※使用者による虐待については、6月に公表済み(大官庁官地方課労働紛争処理業務室))

	養護者による 障害者虐待	障害者福祉施設従事者等 による障害者虐待	使用者による障害者虐待	(参考)都道府県労働局の対応	
				虐待判断 件数 (事業所数)	133件
市区町村等への 相談・通報件数	3,260件	939件	303件		
市区町村等による 虐待判断件数	1,311件	80件			
被虐待者数	1,329人	176人		被虐待者数	194人

【調査結果（全体健）】

- ・ 上記は、障害者虐待防止法の施行（平成24年10月1日）から平成25年3月31日までに虐待と判断された事例を集計したもの。
- ・ 都道府県労働局の対応については、平成25年6月28日大臣官房地方課労働紛争処理業務室のデータを引用。



「使用者による障害者虐待の状況等」について
厚生労働省大臣官房地方課労働紛争処理業務室

【ポイント】

- 使用者による障害者虐待が認められた事業所は、133事業所。
虐待を行った使用者は13名。直接の虐待者と、被虐待者と、の関係をみると、事業主113名、所属の上司19名、その他4名。
- 被虐待者は194名。その障害種別は、身体障害25名、知的障害149名、精神障害23名、発達障害4名。（※1）
- 使用者による障害者虐待が認められた場合に採った措置は、全体で183件。

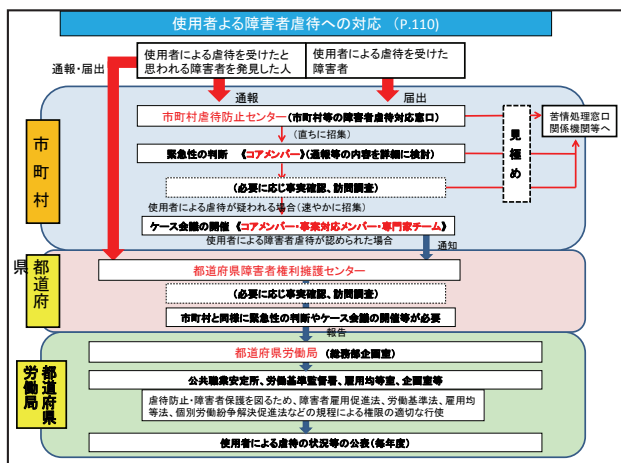
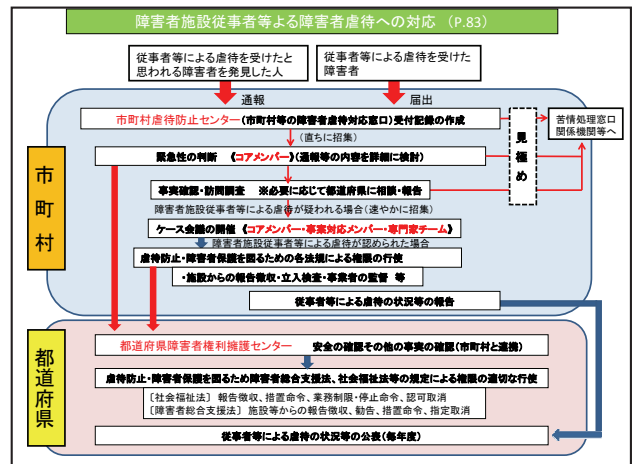
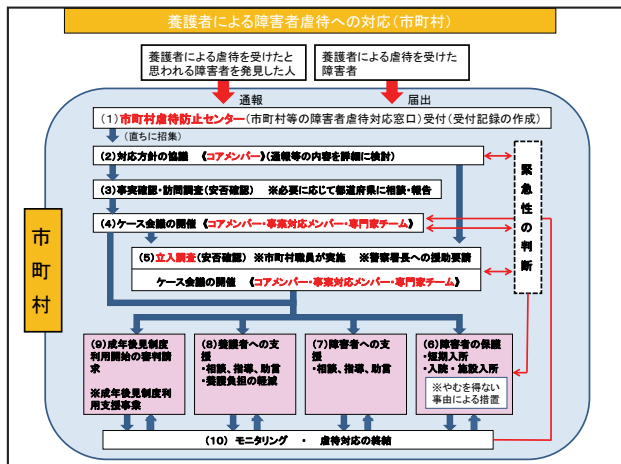
【内訳】

- ① 労働基準法等労働基準関係法令に基づく指導等 159 件 (86.9%)
(うち最低賃金法関係 145 件)
- ② 障害者雇用促進法に基づく助言・指導 20 件 (10.9%)
- ③ 男女雇用機会均等法に基づく助言・指導 1 件 (0.5%)
- ④ 個別労働紛争解決促進法に基づく助言・指導 3 件 (1.6%) (※2)

※1 被虐待者の障害種別については、重複しているものがある。

※2 1つの事業所で使用者による障害者虐待が複数認められたものは、複数計上している。

3. 通報から始まるプロセスの確認



障害者虐待の判断に当たってのポイント

◎虐待でないことが確認できるまでは虐待事案として対応。

ア 虐待をしているという「自覚」は問わない
→障害児のお父さんからの話し

イ 障害者本人の「自覚」は問わない
→施設入所していた当事者の話し

ウ 親や家族の意向が障害者本人のニーズと異なる場合がある
→過去の施設における虐待報道では…

エ 虐待の判断はチームで行う

経済的虐待への対応に関して特に留意すること

財産上の不当取引による被害の防止

被害相談、消費生活関係部署・機関の紹介

市町村は、養護者や障害者の親族、障害者福祉施設従事者等以外の第三者によって引き起こされた財産上の不当取引による被害について、相談に応じ、若しくは消費生活業務の担当部署や関連機関を紹介することを規定（第43条第1項）。
（※市町村障害者虐待対応協力者に委託することが可能）

【相談窓口】

消費生活センター、国民生活センター、弁護士会、日本司法支援センター（法テラス）、成年後見センター・リーガルサポート

成年後見制度の活用

財産上の不当取引のように、経済的虐待と同様の行為が認められる場合には、日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用も含めた対応が必要。市町村長申立も活用しながら、障害者の財産が守られるよう、支援を行うことが必要（第43条第2項）。

各法に盛り込まれている成年後見制度に関する規定

「地域社会における共生の実現に向けて新たな障害福祉施策を講ずるための関係法律の整備に関する法律（平成25年4月施行）」や「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の一部を改正する法律（平成26年4月施行）」において、事業者が障害者の立場に立つてサービスを提供する努力義務を課するとともに、成年後見に係る市町村の体制整備等に関する規定を盛り込んでいる。

障害者総合支援法（第77条） 【平成25年4月施行】

（市町村の地域生活支援事業）

市町村は、厚生労働省令で定めるところにより、地域生活支援事業として、次に掲げる事業を行うものとする。

- ・ 障害者の福祉（明治二十九年法律第八十九号）に規定する後見、保佐及び補助の業務を適正に行うことができる人材の育成及び活用を図るための研修を行う事業

知的障害者福祉法（第28条の2）

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（第51条の11の3） 【平成25年4月施行】

（審判の請求）

市町村は、前条の規定する審判の請求の円滑な実施に資するよう、同法に規定する後見、保佐及び補助（以下、この条において「後見等」という。）の職務を適正に行うことができる人材の活用を図るため、後見等の業務を適正に行うことができる者の選定、選定後の研修その他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（後見等を行う者の選定等）市町村は、前条の規定する審判の請求の円滑な実施に資するよう、同法に規定する後見、保佐及び補助（以下、この条において「後見等」という。）の職務を適正に行うことができる人材の活用を図るため、後見等の業務を適正に行うことができる者の選定、選定後の研修その他の必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

・ 都道府県は、市町村と協力して後見等の業務を適正に行うことができる人材の活用を図るため、前項に規定する措置の実施に申し勧告その他の協力を行うよう努めなければならない。

成年後見制度利用支援事業

（障害者関係）

1. 目的

障害福祉サービスの利用の観点から成年後見制度を利用することが有用であると認められる知的障害者又は精神障害者に対し、成年後見制度の利用を支援することにより、これらの障害者の権利擁護を図ることを目的とする。

2. 事業内容

成年後見制度の利用に要する費用のうち、成年後見制度の申し立てに要する経費（登記手数料、鑑定費用等）及び後見人等の報酬等の全部又は一部を補助する。
※平成24年度から市町村地域生活支援事業の必須事業化

3. 事業創設年度

平成18年度

4. 平成25年度予算（障害者関係）

地域生活支援事業460億円の内数

※〔市町村事業 補助率〕国1／2以内、都道府県1／4以内で補助

5. 事業実施状況（障害者関係）

平成24年4月1日現在 1240市町村

13

成年後見制度 法人後見支援事業

（障害者関係）

1. 目的

成年後見制度における後見等の業務を適切に行うことができる法人を確保できる体制を整備するとともに、市民後見人の活用も含めた法人後見の活動を支援することで、障害者の権利擁護を図ることを目的とする。

2. 事業内容

(1) 法人後見実施のための研修

ア 研修対象者 法人後見実施団体、法人後見の実施を予定している団体等

イ 研修内容等 市町村は、それぞれの地域の実情に応じて、法人後見に要する運営体制、財源確保、障害者等の権利擁護、後見監督人との連携手法等、市民後見人の活動も含めた法人後見の業務を適正に行うために必要な知識・技能・倫理が修得できる内容の研修カリキュラムを作成するものとする。

(2) 法人後見の活動を安定的に実施するための組織体制の構築

ア 法人後見の活動等のための地域の要態把握

イ 法人後見推進のための検討会等の実施

(3) 法人後見の適正な活動のための支援

ア 弁護士、司法書士、社会福祉士等の専門職により、法人後見団体が困難事例等に円滑に対応できるための支援体制の構築

(4) その他、法人後見を行う事業所の立ち上げ支援など、法人後見の活動の推進に関する事業

3. 事業創設年度

平成25年度

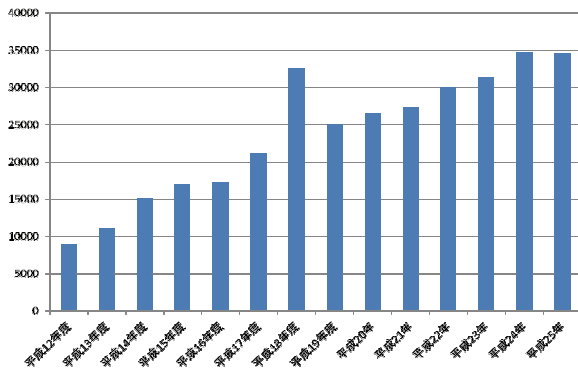
※市町村地域生活支援事業の必須事業（都道府県地域生活支援の任意事業）

4. 平成25年度予算（障害者関係）

地域生活支援事業460億円の内数

13

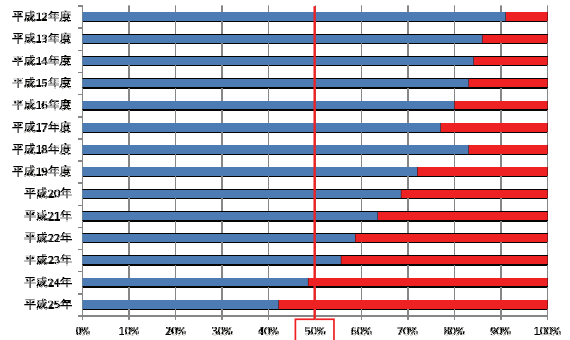
成年後見制度申立件数



「成年後見関係事件の概況」（最高裁判所事務総局家庭局）に基づき作成

申立て者と本人の関係

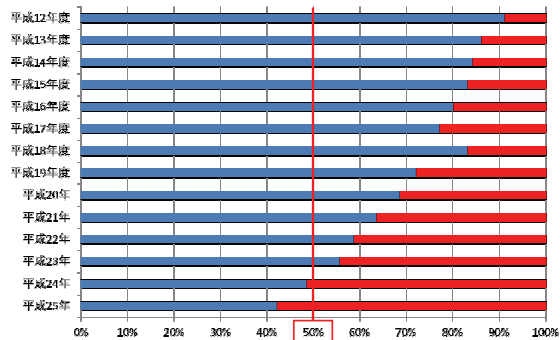
■ 配偶者・親・子・兄弟姉妹及びその他の親族
■ 親族以外の第三者



「成年後見関係事件の概況」（最高裁判所事務総局家庭局）に基づき作成

申立て者と本人の関係

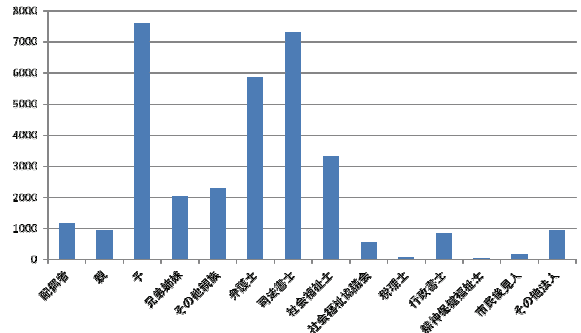
■ 配偶者・親・子・兄弟姉妹及びその他の親族
■ 親族以外の第三者



「成年後見関係事件の概況」（最高裁判所事務総局家庭局）に基づき作成

成年後見人等と本人との関係別件数

平成25年



「成年後見関係事件の概況」（最高裁判所事務総局家庭局）を元に作成

4. 虐待事例の報道から考える

[illegible]

33

山口県障害者虐待防止マニュアル：山口県障害者支援課、2007年 一部改変

- ・虐待などが生じた場合の早期対応について、マニュアルに沿って検証と総括を行う

項目	チェック欄
1.倫理綱領、行動規範等を定めている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2.倫理綱領、行動規範等について職員への周知徹底ができている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
3.虐待防止マニュアルやチェックリスト等を作成している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
4.虐待防止マニュアルやチェックリスト等について、職員に周知徹底するとともに、活用している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
5.緊急やむを得ない場合の身体拘束等の手続き、方法を明確に定め、職員に徹底している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
6.身体拘束について検討する場を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
7.緊急やむを得ない場合の身体拘束等について、利用者(家族)に説明を行い、事前に同意を得ている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
8.個別支援計画を作成し、これに基づき適切な支援を実施している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
9.個別支援計画作成会議は、利用者の参加を得て実施している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない

【職員への意識啓発、研修】

10.職員に対して、虐待の防止に関する研修や学習を実施している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
11.日々の支援の質を高めるための知識や技術の向上を目的とした研修を実施している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
12.職員の虐待防止に関する意識・関心を高めるための提示物等を提示している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
13.「職員チェックリスト」の活用を図り、職員の虐待に対する意識や日々のサービス提供等の状況把握に努めている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
14.「早期発見チェックリスト」の利用の徹底を図るとともに、発見時の報告、対応等について明確にしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない

【外部からのチェック】

15.「福祉サービス第三者評価事業」を活用し、サービスの質の向上等に努めている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
16.「福祉サービス第三者評価事業」を一定の期間ごとに、継続的に受審している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
17.虐待の防止や権利擁護について継続的に外部の専門家や法人内の他の施設の職員等による評価、チェックを受けている。(第三者評価事業の受審を除く)	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
18.施設・事業所の事業・監査において虐待防止に関わるチェック等を実施している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
19.ボランティアの受入を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
20.実習生の受入を積極的に行っている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
21.家族、利用希望者の訪問・見学は随時受けている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない

【苦情、虐待事案への対応等の体制の整備】

22.虐待防止に関する責任者を定めている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
23.虐待防止や権利擁護に関する委員会を施設内に設置している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
24.苦情相談窓口を設置し、利用者等に分かりやすく案内するとともに、苦情解決責任者を規定等に定め、利用者からの苦情の解決に努めている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
25.苦情相談への対応について、第三者委員を定め、利用者に案内をしている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
26.職員が支援等に関する悩みを相談することのできる相談体制を整えている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
27.施設内での虐待事案の発生時の対応方法等を具体的に文章化している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
28.施設内での虐待事案が発生した場合の再発防止策等を具体的に文章化している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

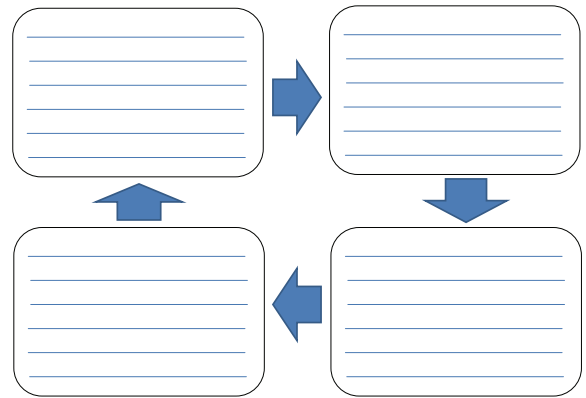
【その他】

29.施設において利用者の金銭及び、貴重品を預かっている場合、その管理は複数の職員によるチェック体制のもとにされている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
30.施設は、利用者またはその家族の意見や要望を聴く場を設けている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
31.施設経営者・管理者は、職員の意見や要望を聴く場を設けている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
32.施設経営者・管理者は、施設職員同士がコミュニケーションを行う職員の確保に配慮や工夫を行っている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
33.利用者の希望や必要に応じて成年後見制度の利用支援を行っている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
34.希望や必要に応じて成年後見制度の活用等について利用者・家族に説明を行っている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
35.利用者・家族、一般市民やオンブズマン等からの情報開示にいつでも応じられる準備をしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
36.虐待の防止や権利擁護について利用者、家族、関係機関との意見交換の場を設けている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

【地域における虐待の防止、早期発見・対応】

1.障害者（児）やその家族、地域住民等に対し虐待の防止に関する普及・啓発を実施している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
2.家族、地域関係者との連携と情報交換を積極的に行い、虐待の可能性のある事案の観察や早期発見に努めている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
3.地域における虐待防止において、障害福祉サービス事業者（施設）などの事業者間の連携を図っている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
4.地域における虐待防止について、相談支援事業者、地域自立支援協議会や行政機関等との連携・協力（意見交換等も含む）をしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
5.虐待事案のみならず、福祉サービスの利用を含め、相談窓口を設置・広報し、地域住民の相談を受けている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
6.地域の障害者が虐待を受けた場合の積極的な受け入れ（市町村からの依頼があった場合等）を行っている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
7.虐待を受けた障害者・児の受け入れとその支援に関するマニュアル等を一般のマニュアル等とは別に作成している。（虐待を受けた障害者・児への支援）	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
8.虐待事案の疑いがある場合、もしくは、発見した場合の相談支援事業者や行政機関等への連絡（通報）について手順等が具体的に文章化している。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
9.虐待事案の疑いがある場合、もしくは、発見した場合に直接訪問する等の対応を努力をしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
10.虐待事案の疑いがある場合、もしくは、発見した場合に、施設・事業所として迅速かつ一元的な対応が可能となる体制を事前に定めている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

B:虐待防止に関する取り組みの推進・改善シート



C:職員セルフチェックリスト

＜チェック項目＞	チェック欄
1.利用者への対応、受答え、挨拶等は丁寧に言うよう日々、心がけている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
2.利用者の人格を尊重し、接し方や呼称に配慮している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
3.利用者への説明はわかりやすい言葉で丁寧に言い、威圧的な態度、命令口調にならないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
4.職務上知りえた利用者への個人情報については、慎重な取扱いに留意している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
5.利用者の同意を事前に得ることなく、郵便物の開封、所持品の確認、見学者等の居室への立ち入りなどを行わないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
6.利用者の意見、訴えに対し、無視や否定的な態度をとらないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
7.利用者を長時間待たせたりしないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
8.利用者の嫌がることを強要すること、また、嫌悪感を抱かせるような支援、訓練等を行わないようにしている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
9.危険回避のための行動上の制限が予想される事項については、事前に本人、家族に説明し同意を得るとともに方法を検討し実施にあたっては複数の職員によるチームアプローチをとっている。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
10.利用者に対するサービス提供に関わる記録書類（ケース記録等）について、対応に困難が生じた事柄や不適切と思われる対応をやむを得ず行った場合等の状況も適切に記入している。	<input type="checkbox"/> できている <input type="checkbox"/> できていない
11.ある特定の利用者に対して、ぞんざいな態度・受答えをしてしまうことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
12.ある特定の職員に対して、ぞんざいな態度・受答えをしてしまうことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
13.他の職員のサービス提供や利用者への対応について問題があると感じることがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

14.上司と日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
15.職員と日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
16.他の職員が、利用者に対してあなたが虐待と思われる行為を行っている場面にでくわしたことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
17.他の職員が、利用者に対してあなたが虐待と思われる行為を行っている場面を確認したこと(注意できなかったこと)がある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
18.最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みを持ち続けている。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
19.最近、特に仕事にやる気を感じないことがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
20.最近、特に体調がすぐれないと感じることがある。	<input type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

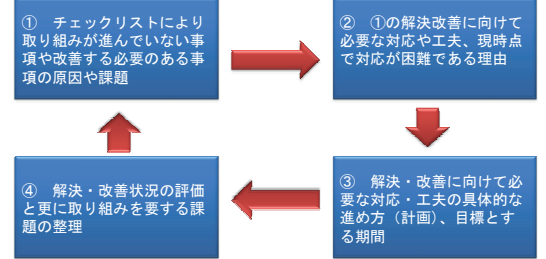
□：早期発見チェックリスト

- 虐待の予兆や発生に対する気づきを高めるため、日々のサービス提供において以下の点に留意してください。
- 多くの項目に当てはまること、虐待の可能性が高いものと考えられますが、これらは、主な着眼点ですので、日々の利用者の変化には十分に配慮した実践に取り組み虐待の早期発見に努めてください。
- なお、これらの着眼点は、単に虐待防止の観点のみならず、利用者の意向や状況の把握にも役立つサービスの質の向上にもつながります。

★「着眼点」に該当する場合にチェックしてください。┐	
①「身体的虐待」発見の着眼点	
着眼点	チェック欄
1. 身体に不自然なキズ、あざ、火傷(跡)が見られることはありませんか？	□
* 衣服の着脱時等にも留意してください。	
2. 11について原因や理由が明らかにない場合が多くありませんか？	□
3. 以前に比べて家族や他の利用者、また、職員等への応対や態度が変わったように感じられることはありませんか？	□
* 急におびえる、少しの動きにも身を守るような素振りをとる 等	
4. 特に体調不良でもないような場合に、職員とのコミュニケーションが、急に少なくなる等の変化はありませんか？	□
5. 急に周りの人に対して攻撃的になることはありませんか？	□
②「心理的虐待」発見の着眼点	
着眼点	チェック欄
1. 自傷、かきむしりなど自らを傷つけるような行為が増えていませんか？	□
2. 生活リズムが急に不規則になったようなことはありませんか？	□
* 睡眠、食の嗜好、日課等の変化	
3. 身体を委縮させるようなことがありますか？	□
4. 突然わめいたり、泣いたりすることが多くなったと感じられることはありませんか？	□

自己チェック表とPDCAサイクルの活用

チェック後は、次のような「点検シート」に書き込んで結果を振り返りましょう。これ以外の方法でも構いません。課題を見つけて解決・改善につなげることが、点検の最大の目的です。



「障がいのある人の尊厳を守る虐待防止マニュアル」一般社団法人 大阪府知的障害者福祉協会、2010年

チェックリストの例:「障害者虐待防止の手引き(チェックリスト)Ver.3」
全国社会福祉協議会 <http://www.shakyo.or.jp/research/12check.html>

5. これからの課題

市町村・都道府県

- 虐待通報・届出を受けた後の対応のための体制強化等
- 施設、事業所の実地指導等の機会に実態を把握する方法の検討

施設・事業所等

虐待を防止するための体制強化

(1) 運営規程への定めと職員への周知

- 虐待防止のための措置に関する事項
- 利用者の人権の擁護、虐待の防止等の責任者を設置する
- 従事者に対し研修を実施する等の措置を講ずる
- 内部組織(虐待防止のための委員会)を設置
- 防止ツール(マニュアル、チェックリスト等)の整備

(2) 虐待防止の責任者を設置する等の体制整備

- 虐待防止の責任者は、通常管理者
- 虐待防止のための委員会が役割を果たすため、定期的な委員会の開催
- 現場の職員、利用者の家族、第三者等の外部委員によるチェック機能
- 形骸化しないように実効的な組織形態にする必要

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業所等の人員、設備及び運営に関する基準(抜粋)
(平成18年9月29日厚生労働省令第171号)

(指定障害福祉サービス事業所の一般原則)

- 第三条** 指定障害福祉サービス事業所(第三章から第五章まで及び第八章から第十四章までに掲げる事業を行うものに限る。)は、利用者の意向、適性、障害の特性その他の事情を踏まえた計画(以下「個別支援計画」という。)を作成し、これに基づき利用者に対して指定障害福祉サービスを提供するとともに、その効果について継続的な評価を実施することその他の措置を講ずることにより利用者に対して適切な指定障害福祉サービスを提供しなければならない。
- 2 指定障害福祉サービス事業所は、利用者又は障害者の保護者の意思及び人格を尊重して、常に当該利用者又は障害者の保護者の立場に立った指定障害福祉サービスの提供に努めなければならない。
- 3 指定障害福祉サービス事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の防止等のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、その従事者に対し、研修を実施する等の措置を講ずるよう努めなければならない。**

(運営規程)

- 第三十一条** 指定障害福祉サービス事業所は、指定障害福祉サービス所ごとに、次の各号に掲げる事業の運営についての重要事項に関する運営規程(第三十五条において「運営規程」という。)を定めておかなければならない。
- 事業の目的及び運営の方針
 - 従事者の確保、員数及び職務の内容
 - 営業日及び営業時間
 - 指定障害福祉サービスの内容並びに支給決定障害者等から受ける費用の種類及びその額
 - 運営の実施地域
 - 緊急時における対応方法
 - 事業の立ち上げ及び事業の継続の確保が定めた場合には当該障害者の種類
- 八 虐待の防止のための措置に関する事項**
- 九 その他運営に関する重要事項

1

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく指定障害福祉サービスの事業所等の人員、設備及び運営に関する基準(抜粋)
(平成18年12月6日障害第1206001号厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長通知)

(20) 運営規程(基準第1条)

指定障害福祉サービスの運営及び利用者に対する適切な指定障害福祉サービスの提供を確保するため、基準第31条第1号から第9号までに掲げる事項を内容とする規程を定めると指定障害福祉サービス事業所ごとに義務付けられたものであるが、特に以下の点に留意するものとする。なお、同一事業者が同一敷地内にある事業所において、複数のサービス種別について事業者指定を受け、それらの事業を一体的に行う場合においては、運営規程を一体的に作成することも差し支えない(この点については他のサービス種別についても同様とする)。

①～④ 略

⑤ 虐待の防止のための措置に関する事項(第8号)

虐待防止における「虐待の防止のための措置」については、「障害者(児)施設における虐待の防止について」(平成17年10月20日障害第1020002号当閣通知)に準じて取組むこととし、指定障害福祉サービス事業所は、利用者に対する虐待を早期に発見して迅速かつ適切な対応が図られるための必要な措置について、あらかじめ運営規程に定めることとしたものである。具体的には、

ア 虐待の防止に関する責任者の選定

イ 成年後見制度の利用支援

ウ 苦情解決体制の整備

エ 従事者に対する虐待の防止を啓発・普及するための研修の実施(研修方法や研修計画など)等を指すものであること

(以下、他のサービス種別についても同様とする)

2

身体拘束の廃止に向けて

障害者虐待防止法では、「正当な理由なく障害者の身体を拘束すること」は身体的虐待に該当する行為とされています。身体拘束の廃止は、虐待防止において欠くことのできない取り組みといえます。

やむを得ず身体拘束を行うときの留意点

「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」に基づく指定障害者支援施設等の人員、設備及び運営に関する基準」等には、**緊急やむを得ない場合を除き身体拘束等を行ってはならない**とされています。さらに、やむを得ず身体拘束等を行う場合には、その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由その他必要な事項を記録しなければなりませんとされています。

緊急やむを得ない場合とは・・・

- ① **切迫性**
利用者本人又は他の利用者等の生命、身体、権利が危険にさらされる可能性が著しく高いことが要件となります。
- ② **非代替性**
身体拘束その他の行動制限を行う以外に代替する方法がないことが要件となります。
- ③ **一時性**
身体拘束その他の行動制限が一時的であることが要件となります。

やむを得ず身体拘束を行うときの手続き

① 組織による決定と個別支援計画への記載

やむを得ず身体拘束を行うときには、**個別支援会議などにおいて組織として慎重に検討・決定する**必要があります。この場合、管理者、サービス管理責任者、運営規程に基づいて選定されている虐待の防止に関する責任者など、支援方針について権限を持つ職員が出席していることが大切です。

身体拘束を行う場合には、**個別支援計画に身体拘束の様態及び時間、緊急やむを得ない理由を記載**します。これは、会議によって身体拘束の原因となる状況の分析を徹底的に行い、身体拘束の解消に向けた取組方針や目標とする解消の時期などを統一した方針の下で決定していくために行うものです。ここでも、利用者個々人のニーズに応じた個別の支援を検討することが重要です。

② 本人・家族への十分な説明

身体拘束を行う場合には、これらの手続きの中で、適宜利用者本人や家族に十分に説明をし、了解を得ることが必要です。

③ 必要な事項の記録

また身体拘束を行った場合には、その様態及び時間、その際の利用者の心身の状況並びに緊急やむを得ない理由など必要な事項を記録します。

2. 身体拘束としての行動制限について

障害者支援施設等において、特に行動障害のある利用者が興奮して他の利用者を叩く、噛みつくなどの行為や自分自身の顔を強く叩き続けるなどの行為があるときには、やむを得ず利用者を居室に隔離したり、身体を拘束したりするなどの行動制限を行わざるを得ない場面があると思います。そのような場合に、やむを得ず行動制限をする必要があったとしても、その必要性を慎重に判断するとともに、その範囲は最小限にしなければなりません。また、判断に当たっては適切な手続きを踏む必要があります。

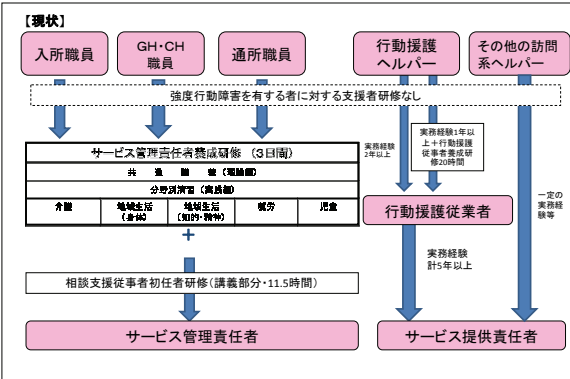
しかし、**職員の行動障害に対する知識や支援技術が十分でない場合、対応方法が分からず行動制限をすることに頼ってしまう**ことも起こります。**行動制限をすることが日常化してしまう**「切迫性」「非代替性」「一時性」のいずれも該当しなくなり、いつの間にか身体的虐待が続いている状態に陥っていたということもありません。職員の行動障害に対する知識や支援技術を高め、行動制限や身体拘束の解消に向けての道筋を明確にして、職員全体で支援の質の向上に取り組む必要があります。

障害保健福祉関係主管課長会議資料 平成25年2月25日 強度行動障害を有する者等に対する支援者の人材育成について

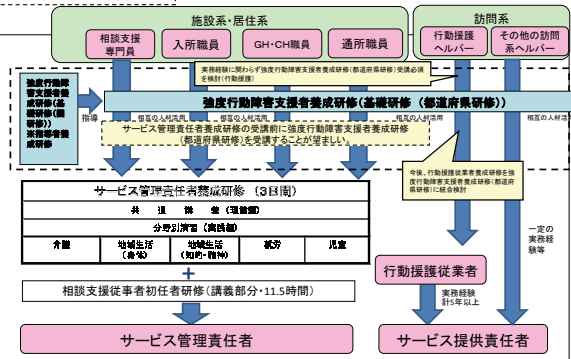
強度行動障害を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどを特徴としており、このため、現状では**事業所の受け入れが困難**であったり、受け入れ後の**不適切な支援により、利用者に対する虐待につながる可能性**も懸念されている。

一方で、施設等において**適切な支援を行うことにより、他害行為などの危険を伴う行動の回数が減少するなどの支援の有効性**も報告されており、**強度行動障害に関する体系的な研修が必要**とされている。このため、平成25年度に、研修の普及を通じて、適切な支援を行う職員の人材育成を進めることを目的として、指導者を養成するための研修を独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園において実施することとした。また、平成25年度予算案において、都道府県が実施する強度行動障害を有する者等を支援する職員を養成するための**研修事業を都道府県地域生活支援事業のメニュー項目として盛り込んだ**ところであるので、積極的な取り組みに努められたい。

【参考(平成24年度)】



【参考(平成25年度)】



【見直しに当たっての趣旨】

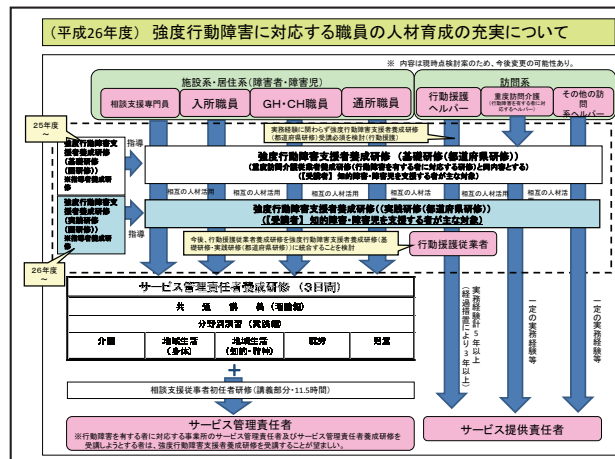
- 専門的な人材の育成 (強度行動障害の特性から虐待につながる一連の防止の観点)
- 知的障害者等の支援者のキャリアパスの形成
- 施設、通所等の拠点型サービスの人材育成機能の地域展開
- 訪問系サービスの普及拡大、質の向上 (行動援護、重度訪問介護)

障害保健福祉関係主管課長会議資料 平成26年3月7日
強度行動障害支援者養成研修について

強度行動障害を有する者に対する支援については、**平成25年度**に、支援者に対する研修として、**強度行動障害支援者養成研修事業**(以下、「**基礎研修**という。))を都道府県地域生活支援事業の「メニュー項目に盛り込んだところである。この基礎研修の指導者を養成するための研修を独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園(以下「**のぞみの園**という。))において実施しているところであるので、活用を図られたい。

また、各事業所での適切な支援のために、適切な支援計画を作成することが可能な職員の育成を目的とし、**サービス管理責任者等に対するさらに上位の研修**(以下「**実践研修**という。))を実施するため、平成26年度予算案において、各都道府県の支援者に対する実践研修を都道府県地域生活支援事業のメニュー項目に盛り込んだところである。実践研修についても、平成26年度より、指導者を養成するための研修をのぞみの園で実施する予定であるので、積極的な取り組みに努められたい。

55

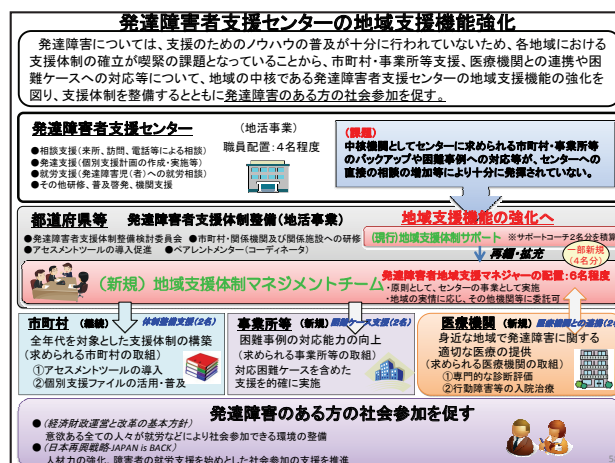


56

障害保健福祉関係主管課長会議資料 平成26年3月7日
地域における強度行動障害を有する者に対する体制の強化について

平成26年4月から、重度訪問介護の対象拡大により、在宅の行動障害を有する者が利用できる障害福祉サービスに重度訪問介護が加わることとなる。これにより、在宅の行動障害を有する者の支援に携わる相談支援、行動援護、重度訪問介護等の事業所間の連携や発達障害者支援センターによるこれらの事業者に対するコンサルテーション等も重要となることから、都道府県及び指定都市におかれては、**発達障害者支援体制整備における発達障害者地域支援マネジャーを活用**するなど、地域支援体制の強化にご留意いただきたい。

57



58

平成26年7月9日提出資料
「障害児支援の在り方に関する検討会」報告書(案)

……また、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどを特徴とした行動障害は、障害特性を理解した適切な支援を行うことにより減少することが報告されている。施設等においては、行動障害に対応した加算が算定されているが、虐待事案において行動障害を有する者が被虐待者となる事案も少なくない。平成25年度から、障害特性を理解して適切な支援を行う職員の人材育成を行うため、強度行動障害支援者養成研修が開始されたため、**虐待防止と支援の質の向上の観点から、施設、事業所の職員が研修を受講し適切な支援ができる体制の整備を報酬上評価するなど、研修の受講を進めるための具体的な方策を検討すべきである。**

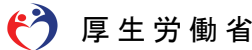
→ 厚生労働省としては、今後とも引き続き、強度行動障害支援者養成のための体制づくりの施策を継続的に実施。

59

**障害者虐待の防止
身体拘束・行動制限の廃止**

支援の質の向上

平成26年度 発達障害者支援施策関連資料



発達障害者支援法のねらいと概要

(経過)
昭和55年 知的障害児施設の種類として病型型自閉症児施設、福祉型自閉症児施設を制度化
平成5年 強度行動障害者特別処遇事業の創設
平成14年 自閉症・発達障害者支援センター運営事業開始し広汎性発達障害者を対象とした地域支援の拠点を整備
平成16年12月 経学測による療育立派により発達障害者支援法が成立 平成17年 4月 施行
平成22年12月 発達障害者が障害者に含まれるものであることを障害者自立支援法、児童福祉法において明確化

I ねらい

- 発達障害の定義と発達障害への理解の促進
- 発達障害者に対する生活全般にわたる支援の促進
- 発達障害者支援を担当する部局相互の緊密な連携の確保

II 概要

定義：発達障害＝自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、
注意欠陥多動性障害などの脳機能の障害で、通常低年齢で発現する障害

就学前（乳幼児期）	就学中（学童期等）	就学後（若壮年期）
<ul style="list-style-type: none"> ○早期の発達支援 ○乳幼児健診等による早期発見 	<ul style="list-style-type: none"> ○就学時健康診断における発見 ○適切な教育的支援・支援体制の整備 ○放課後児童健全育成事業の利用 ○専門的発達支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達障害者の特性に応じた適切な就労の機会の確保 ○地域での生活支援 ○発達障害者の権利擁護
【都道府県】発達障害者支援センター（相談支援・情報提供等）、専門的な医療機関の確保 等		
【国】専門的知識を有する人材確保（研修等）、調査研究 等		

【発達障害の定義】

広汎性発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）、学習障害、注意欠陥・多動性障害等、通常低年齢で発現する脳機能の障害（発達障害者支援法第2条）

※ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類）におけるF80-98に含まれる障害
（平成17年4月1日付文部科学事務次官、厚生労働事務次官連名通知）

（参考）ICD-10（疾病及び関連保健問題の国際統計分類）
第5章 精神及び行動の障害（F00-F99）

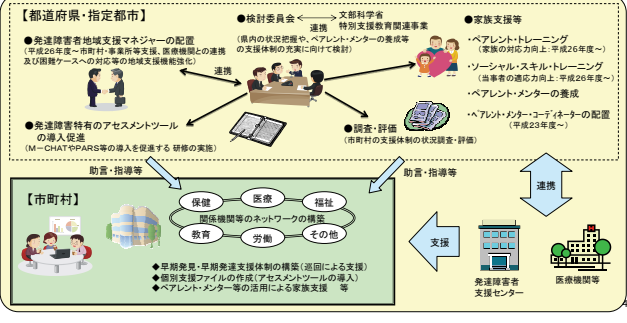
	<法律>	<手帳>
F00-F69 統合失調症や気分（感情）障害など	精神保健福祉法 発達障害者支援法	福祉手帳
F70-F79 知的障害・精神遅滞		手帳
F80-F89 心理的発達の障害 （自閉症・アスペルガー症候群、 その他の広汎性発達障害、学習障害など）		精神保健福祉手帳
F90-F98 小児（児童）期及び青年期に通常発症する 行動及び情緒の障害 （注意欠陥多動性障害、トゥレット症候群など）		精神保健福祉手帳

発達障害者支援体制整備

地域生活支援事業において実施

乳幼児期から成人期における各ライフステージに対応する一貫した支援を行うため、関係機関等によるネットワークを構築し、支援体制を整備するとともに、ペアレント・メンターの養成等により、発達障害児（者）及びその家族に対する支援の強化を図る。

さらに、平成26年度から、家族支援及び当事者支援としてペアレント・トレーニングとソーシャル・スキル・トレーニングを新たにメニューに追加するとともに、センター等に「発達障害者地域支援マネジャー」を配置するなど、地域支援機能の強化を図る。



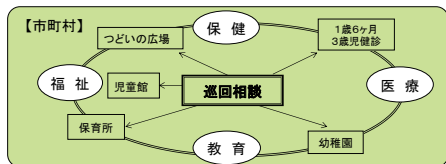
巡回支援専門員整備事業

発達障害等に関する知識を有する専門員（※）が、保育所等の子どもやその親が集まる施設・場を巡回し、施設のスタッフや親に対し、障害の早期発見・早期対応のための助言等の支援を行う。

※「発達障害等に関する知識を有する専門員」
・医師、児童指導員、保育士、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士等で発達障害に関する知識を有する者
・障害児施設等において発達障害児の支援に携わっている者
・学校教育法に基づく大学において、児童福祉、社会福祉、児童学、心理学、教育学、社会学を専修する学科又はこれに相当する課程を修めて卒業した者であって、発達障害に関する知識・経験を有する者

○専門員は、国立障害者リハビリテーションセンター学院で実施している発達障害に関する研修や地域の発達障害者支援センター等が実施する研修等を受講し、適切な専門性の確保を図る。

【予算力所数：平成24年度 113か所→平成25年度 地域生活支援事業に統合】

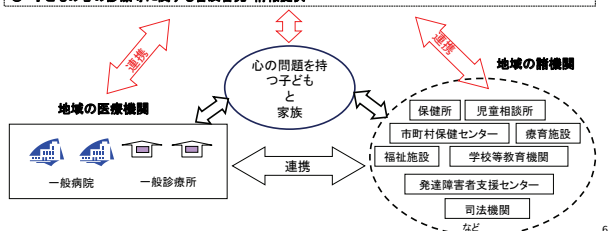


子どもの心の診療ネットワーク事業

都道府県拠点病院



- 様々な子どもの心の問題、児童虐待や発達障害の症例に対する医学的支援（関係機関への専門家の派遣）
- 医師、関係専門職の実地研修等、子どもの心の診療に専門的に携わる医師及び関係専門職の育成
- 医療機関職員、保健福祉機関職員に対する講習会
- 子どもの心の診療等に関する普及啓発・情報提供



(参考) 重度訪問介護の見直し

○対象者

(現行)

- 重度の肢体不自由者であって、常時介護を要する障害者
- 一 障害程度区分4以上であって、下記のいずれにも該当する者
 - ① 二肢以上に麻痺等があること。
 - ② 障害程度区分の認定調査項目のうち、「歩行」「移乗」「排尿」「排便」のいずれも「できる」以外と認定されていること。

(見直し後)

- 重度の肢体不自由者その他の障害者であって、常時介護を要するものとして厚生労働省令で定めるもの
- 一 障害程度区分4以上であって、下記の①又は②の条件を満たす者
 - ① 二肢以上に麻痺等があり、障害程度区分の認定調査項目のうち、「歩行」「移乗」「排尿」「排便」のいずれも「できる」以外と認定されていること。
 - ② 知的障害または精神障害により行動上著しい困難を有する者であること。(基準については、障害支援区分への見直しをふまえて判断)

○サービス内容

- 居宅における
 - ・入浴、排せつ及び食事等の介護
 - ・調理、洗濯及び掃除等の家事
 - ・その他生活全般にわたる援助
 - ・外出時における移動中の介護
- ※ 日常生活に生じる様々な介護の事象に対応するための見守り等の支援を含む。
- 「行動障害を有する者」については、行動障害に専門性を有する行動支援事業等に関与するアセスメントや環境調整などを行った上で、本サービスの利用を開始する。

○事業所数 6,215(国保連平成25年12月末)

○利用児童数 9,675(国保連平成25年12月末)

(参考) 強度行動障害を有する者等に対する支援者の人材育成について

強度行動障害を有する者は、自傷、他害行為など、危険を伴う行動を頻回に示すことなどを特徴としており、このため、現状では事業所の受入が困難であったり、受入れ後の不適切な支援により、利用者に対する虐待につながる可能性も懸念されている。

一方で、施設等において適切な支援を行うことにより、他害行為などの危険を伴う行動の回数が減少するなどの支援の有効性も報告されており、強度行動障害に関する体系的な研修が必要とされている。

実施体制

指導者養成研修(国立のぞみの園) → 支援者養成研修(都道府県)

施設系・居住系(障害者・障害児) 入所職員 GH職員 通所職員 訪問系 行動支援ヘルパー 重度訪問介護 その他の訪問系ヘルパー

支援現場の職員

平成25年度～ 強度行動障害支援者養成研修(基礎研修) 講義+演習(12時間)

サービス管理責任者クラスの職員

平成26年度～ 強度行動障害支援者養成研修(実践研修) 講義+演習(12時間)

「ひきこもり」について

「ひきこもり」とは

ひきこもりとは、様々な要因の結果として、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交友など)を回避し、原則的には6か月以上わたって概ね家庭にとどまり続けている状態。(他者と関わり合いの形での外出をしている場合も含む)

・ひきこもりは、確定診断がなされる前の精神障害が含まれている可能性がある。

＜思春期・青年期ひきこもりケースの背景にある精神障害の実態把握＞

実施方法：H19～H21年度に、全国5か所の精神保健福祉センターにひきこもりの相談に訪れた16歳～35歳の方(本人の来談)184人

・結果・診断の確定率は約8割に当たる149人、情報不足等のための診断保留が35人

第一群(統合失調症、気分障害等の実体療法が中心となるもの)49人 (32.3%)

第二群(広汎性発達障害や精神定常等の生活・教育支援が中心となるもの)48人 (32.2%)

第三群(パーソナリティ障害や適応障害等の心理療法的アプローチが中心となるもの)51人 (34.2%)

分類不能未定(0.7%)

・背景にある精神障害の診断や治療だけではなく、ひきこもりがもたらす「自立過程の挫折」に対する支援も必要である。

出典：H19～H21年度「思春期のひきこもりをもちろす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」

わが国の「ひきこもり」の推計数

＜把握の方法＞

全国11地域の住民から無作為に選択した4,134名を対象に、訓練を受けた調査員の戸別訪問による直接面接を実施。(平成14年度～平成17年度に、世界精神保健日本調査と合同で実施)

＜調査の結果＞

・対象者のうち、20～49歳の者(1,660名)の中で、過去にひきこもりを経験したことのある者：1.14%

・面接を受けた対象者全員(4,134名)の中で、現在ひきこもり状態にある子どものいる世帯：0.56%

(全国推計では約26万世帯)

出典：H18年度「こころの健康についての疫学調査に関する研究」(厚生労働科学研究(主任研究者 川上 進人 研究協力者 小山 明日香))

ひきこもり地域支援センターの概要

問題

- ①ひきこもり本人や家族が十分に相談できていないのではないか。
- ②関係機関のネットワークが十分に形成されていないのではないか。
- ③本人や家族にひきこもり施設等の情報が届いていないのではないか。

各都道府県・指定都市に、ひきこもり本人や家族等からの相談等を行う「ひきこもり地域支援センター」を設置。

○ひきこもり支援コーディネーター(社会福祉士、精神保健福祉士等)を置き、次の事業を行う。

- ①第1次相談窓口と家庭訪問を中心とする支援
- ②他の関係機関との連携
- ③情報発信

ひきこもり地域支援センターの概念図

保健所 児童相談所 学校 医療機関 福祉事務所 福祉施設

精神保健福祉センター 各関係機関との連携

家族の会 地域若者サポートステーション

ひきこもり地域支援センター

ひきこもり支援コーディネーター配置

○相談窓口 ○関係機関の連携 ○情報発信

家庭訪問を中心とする支援

国 普及啓発等

(注)実施主体：都道府県・指定都市(運営委託)

精神・障害保健分野における「ひきこもり」に関する施策

相談

精神保健福祉センター及び保健所、市町村における精神保健に関する相談窓口での対応

精神保健福祉センター特定相談等事業費

○精神保健福祉センターにおける「ひきこもり」の相談

のべ 24,880件 (H23年度)

(※)精神保健福祉センターは、精神保健福祉法第9条に基づき、精神保健の向上及び精神障害者の福祉の増進を図るために都道府県に設置され、相談指導、普及・啓発等を担い、平成22年以降、全国で77箇所。

○保健所における「ひきこもり」の相談

のべ 16,007件 (H22年度)

(※)保健所は、地域保健法第9条に基づき、都道府県、指定都市、中核市、その他の政令指定都市又は特別区に設置。平成22年の現在、全国で4947箇所。

○市町村における「ひきこもり」の相談

のべ 19,312件 (H22年度)

(※)平成22年3月末現在、1,727市町村。

(参考) 1 「ひきこもりをめぐる地域精神保健活動のガイドライン」

平成12～14年度厚生労働科学研究(主任研究者 伊藤隆一郎)で作成

厚生労働省のホームページにて公開中。

http://www.mhlw.go.jp/topics/2003/07/t0728-1.html

(参考) 2 「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」

平成19～21年度厚生労働科学研究(主任研究者 斎藤南光)で作成

厚生労働省のホームページにて公開中。

http://www.ncgm.khodaig.jp/pdf/jidouishin/22nsgm_hkikomori.pdf

研修

思春期精神保健対策研修会(PTSD・思春期精神保健対策事業費)

○目的

「ひきこもり」を含む思春期精神保健の専門家の養成。

○対象と内容

(1)ひきこもり支援にあたる従事者(H22年度より)

(内容)

「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」について全般的な研修

(2)思春期精神医療に従事する医療従事者(主に医師)

(内容)

児童思春期精神医学、精神保健の系統的な講義

(3)思春期精神医療に従事する医療従事者(医師以外)

(内容)

児童思春期精神医学の実践的な研修

○実績

平成13～24年度までに、医師、看護師等のコメディカル4,621名のべが受講。

発達障害者支援センターの地域支援機能強化

平成26年度 地域生活支援事業補助金462億円の内訳

発達障害者支援センターについては、支援のためのノウハウの普及が十分に行われていないため、各地域における支援体制の確立が喫緊の課題となっていることから、市町村・事業所等支援、医療機関との連携や困難ケースへの対応等について、地域の中核である発達障害者支援センターの地域支援機能の強化を図り、支援体制を整備する。

発達障害者支援センター(地活事業)職員配置:4名程度

- 発達障害者支援体制整備検討委員会
- 相談支援(来所、訪問、電話等による相談)
- 発達支援(個別支援計画の作成・実施等)
- 就労支援(発達障害児(者)への就労相談)
- その他研修、普及啓発、機関支援

地域支援機能の強化へ

(新規) 地域支援体制マネジメントチーム

中核機関としてセンターに求められる市町村・事業所等のバックアップや困難事例への対応等が、センターへの直接の相談の増加等により十分に発揮されている。

再掲・拡充

発達障害者支援センターマネジメントチームの配置:6名程度

原則として、センターの事業として実施

・地域の実情に応じ、その他機関等に委託可

市町村(組織) 事業所等(組織) 医療機関(組織)

全年代を対象とした支援体制の構築(求められる市町村の取組)

①アセスメントツールの導入

②個別支援ファイルの活用・普及

困難事例の対応能力の向上(求められる事業所等の取組)

対応困難ケースを含めた支援を的確に実施

身近な地域で発達障害に関する適切な医療の提供(求められる医療機関の取組)

①専門的な診断評価

②行動障害等の入院治療

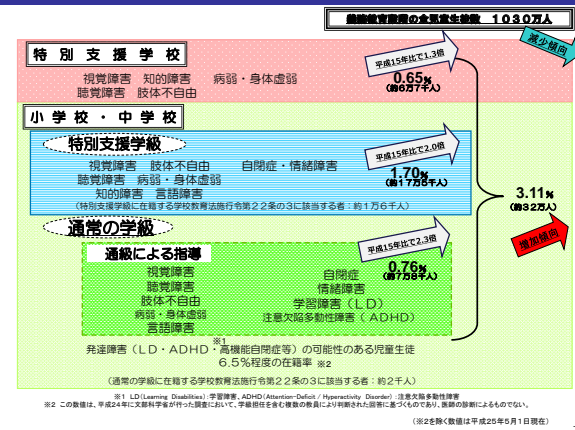
特別支援教育の課題と展望

I 特別支援教育の現状と課題 II 平成26年度の取組 III 学校と連携するために

文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課
特別支援教育調査官 田中 裕一

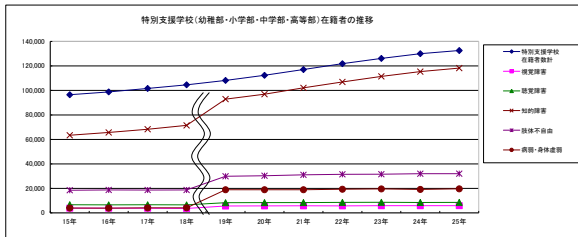


1. 特別支援教育の現状～特別支援教育の対象の概念図(義務教育段階)～



1. 特別支援教育の現状 ～特別支援学校の現状(平成25年5月1日現在)～

※平成18年度までの表記は盲学校、聾学校及び養護学校とする。以下同じ。



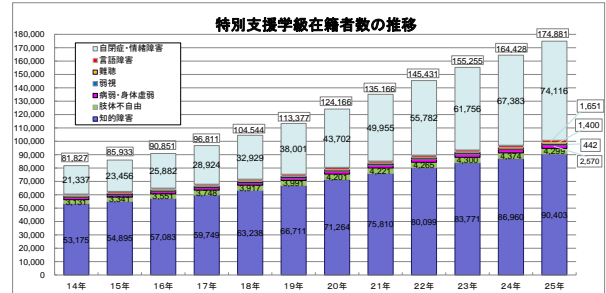
学校数	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
85	5,940	120	706	334	143	1,080
在籍者数	5,940	8,624	118,225	32,050	19,653	132,570

※在籍者数は、平成18年度までは在籍する学校の障害種別により集計していたため、複数の障害を有する者については、在籍する学校の障害種別以外の障害について集計していない。平成19年度より、複数の障害種別に該当する特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害を有する者については、障害種別のそれぞれに集計している。このため、障害種別の在籍者数の数値の合計は対と一致しない。
※注 学校数は、平成19年度より、複数の障害種別に対応できる特別支援学校制度へ転換したため、複数の障害に対応する学校については、それぞれの障害種別に集計している。このため、障害種別の学校数の数値の合計は対と一致しない。

2

1. 特別支援教育の現状 ～特別支援学級の現状(平成25年5月1日現在)～

特別支援学級は、障害のある子どものために小・中学校に障害の種別ごとに置かれる少数者の学級(8人を上限)であり、知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、自閉症・情緒障害の学級がある。

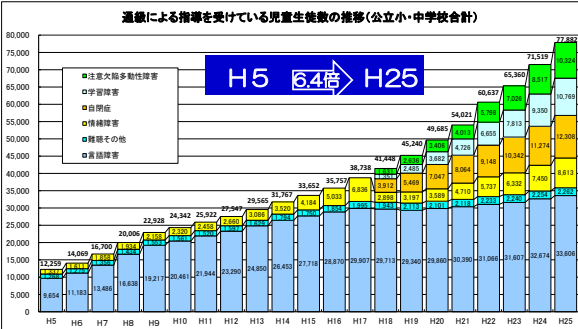


	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学級数	23,912	2,706	1,488	365	888	562	19,822	49,743
在籍者数	90,403	4,299	2,570	442	1,400	1,651	74,116	174,881

3

1. 特別支援教育の現状 ～通級による指導の現状(平成25年5月1日現在)～

通級による指導は、小・中学校の通常の学級に在籍している障害のある子供が、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、障害の状態等に応じた特別の指導を特別な場(通級指導教室)で受ける指導形態である。通級の対象は、言語障害、自閉症、情緒障害、学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、弱視、難聴などである。



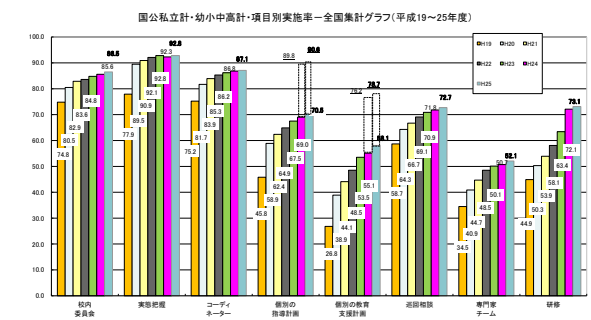
※各年度5月1日現在
※「難聴その他」は難聴、弱視、肢体不自由及び病弱・身体虚弱の合計
※「注意欠陥多動性障害」及び「学習障害」は、平成18年度から新たに通級指導の対象として学校教育法施行規則に規定(併せて「自閉症」は平成18年度から対象と)となり、平成17年度以前は主に「情緒障害」(の通級指導教室)に該当する。

4

1. 特別支援教育の現状 ～学校における支援体制の整備状況～

幼稚園、小・中学校、高等学校の状況

●全体として体制整備が進んでいる状況がうかがえる。



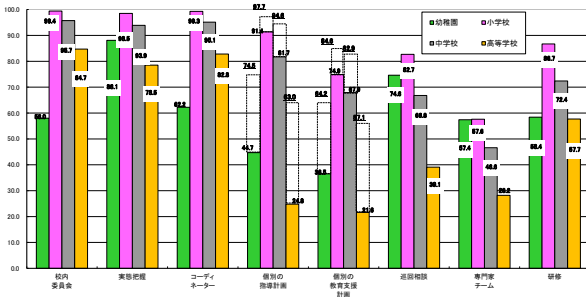
※点線箇所は、作成する必要のある該当者がいない学校数を調査対象数から引き、その数値によって「作成済」と回答した学校数を割り戻した場合の値を示す。

5

1. 特別支援教育の現状 ～学校における支援体制の整備状況・課題～

- 小・中学校に比べ、幼稚園・高等学校の体制整備は依然として課題である。

国公立立計・幼小中高計・項目別実施率－全国集計グラフ(平成25年度)



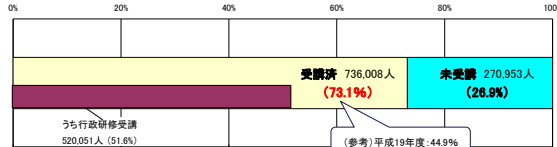
※点線箇所は、作成する必要がある該当者がいない学校数を調査対象校数から引いた場合の作成率を示す。

6

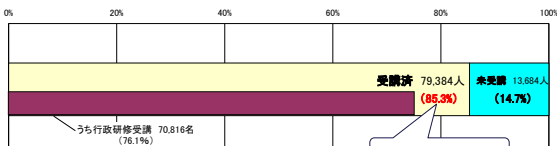
1. 特別支援教育の現状

～特別支援教育に関する教員研修の受講状況(平成25年9月1日現在)～

①国公立立計・幼小中高計・教員研修受講率－全国集計グラフ(平成25年度)



②国公立立計・幼小中高計・管理職研修受講率－全国集計グラフ(平成25年度)



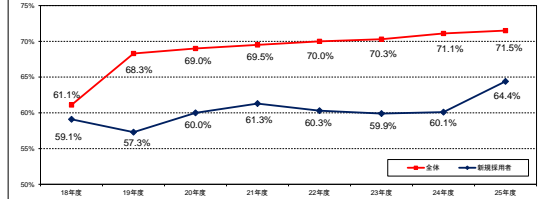
7

1. 特別支援教育の現状 ～特別支援学校教諭等免許状の保有状況～

特別支援学校教諭等免許状の保有状況 (特別支援学校における在籍校種の免許状保有率の経年比較)

- ・特別支援学校全体の免許状保有率及び新規採用者の保有率ともやや上昇(平成25年度)
- ・免許状保有者の採用・配置、非保有者への認定講習の受講促進など、計画的な取組が必要

免許状保有率の経年比較(平成18年度～25年度)



※平成18年度の全体及び新規採用者の数値は、在籍校種の免許状保有者の割合を示す。
平成19年度～25年度は、いずれの数値も「当該障害種の免許状保有者」と「自立教科等の免許状保有者(当該障害種)」を合わせた割合を示す。

8

1. 特別支援教育の現状 ～特別支援学級担当教員の免許状保有率～

- ・特別支援学級(小・中学校)担当教員で、小・中学校教諭免許状に加え、特別支援学校教諭免許状を保有している割合: 30.5%(前年比0.4ポイント減少)
- ・地域間の格差も大

(公立小・中における免許状保有率 最高: 65.9%、最低: 16.1%)

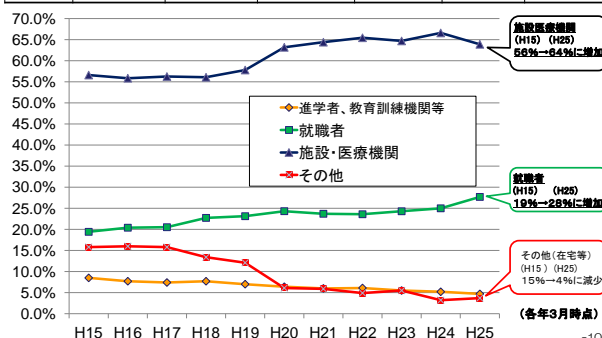
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
小学校	32.7%	34.2%	33.8%	33.3%	33.0%	32.8%	32.8%	32.4%
中学校	26.4%	28.6%	28.0%	27.9%	27.4%	27.0%	26.8%	26.5%
合計	30.8%	32.4%	32.0%	31.6%	31.3%	31.0%	30.9%	30.5%

9

1. 特別支援教育の現状 ～特別支援学校高等部(本科)卒業後の状況～

平成25年3月卒業生

区分	卒業生	進学者	教育訓練機関等	就職者	施設・医療機関	その他
計	19,439人	482人 (2.5%)	436人 (2.2%)	5,387人 (27.7%)	12,422人 (63.9%)	712人 (3.7%)



10

2. 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果(概要)

1. 調査の目的

特別支援教育が本格的に開始されてから5年が経過し、その実施状況について把握することが重要である。また、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムを今後構築していくに当たり、障害のある子どもの現在の状況を把握することが重要である。そのため、本調査により、通常の学級に在籍する知的発達に遅れはないものの発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態を明らかにし、今後の施策の在り方や教育の在り方の検討の基礎資料とする。

2. 調査の方法

- (1)実施主体
文部科学省が協力者会議を設け実施方法等について検討し、実施。
- (2)調査時期
平成24年2月から3月にかけて実施。
- (3)調査対象
全国(岩手、宮城、福島を除く)の公立の小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒を母集団とする。
- (4)標本児童生徒数
53,882人(小学校:35,892人、中学校:17,990人)
- (5)回収数及び回収率
標本児童生徒数のうち、52,272人について回答が得られ、回収率は97.0%。標本学校数のうち、1,164校について回答が得られ、回収率は97.0%。

※留意事項

・本調査における「1.児童生徒の困難の状況」については、担任教員が記入し、特別支援教育コーディネーターまたは教頭(副校長)による確認を経て提出した回答に基づき、発達障害の専門家チームによる診断や、医師による診断によるものではない。従って、本調査の結果は、発達障害のある児童生徒の割合を示すものではなく、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の割合を示すことに留意する必要がある。

・「行動面(不注意・多動性・衝動性)」の質問項目については、株式会社明石書店の著作物である「ADHD評価スケール」を使用。よって、同社に無断で転載、複製、翻案、頒布、公衆送信を行うことはできない。

11

3. 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」の補足調査（概要）

1. 調査の目的
本調査は、文部科学省が平成24年12月5日に公表した「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（以下「発達障害教育関連調査」という）の結果を受けて、文部科学省協力者会議において、考察、指摘された内容について、補足調査を実施したものである。

発達障害教育関連調査では、通常の学級に在籍する児童生徒のうち、学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合が推定値で5.5%であるという結果と学年が上がるにつれ、学習面、各行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合が小さくなるという結果が報告された。

この結果を受けて、文部科学省協力者会議において、特に4点について今後の調査研究に委ねる必要性があることが指摘されたところであるが、本補足調査では、同指摘等を受け、その状況について把握し、今後の教育的支援の在り方を検討する基礎資料とすることを目的とした。

2. 調査の方法
(1) 質問紙調査
①調査時期 平成25年6月
②調査対象 道級指導教室が設置された小中学校（都道府県から各1校）とインタビュー対象校である小中学校を合わせた96校、校長等、特別支援教育コーディネーター、道級による指導担当者、学級担任の計4名に回答を求めた。

(2) インタビュー調査
①調査期間 平成25年7月～9月
②調査対象 首都圏を中心とし、発達障害を対象とする道級指導教室を設置する小学校5校、中学校6校の計11校、各校とも質問紙調査の回答者に回答を求めた。

(3) 回収率
有効回答数91校、回収率94.8%

詳細は国立特別支援教育総合研究所HP
<http://inclusive.nise.go.jp/>

-12-

2. 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（概要）①

調査結果 < I. 児童生徒の困難の状況 >

質問項目に対して担任教員が回答した内容から、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の困難の状況のうち、主要なものは以下のとおり。

表① 知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合

	推定値（9.5%信頼区間）
学習面又は行動面で著しい困難を示す	6.5%（6.2%～6.8%）
学習面で著しい困難を示す A：学習面で著しい困難を示す	4.5%（4.2%～4.7%）
行動面で著しい困難を示す B：「不注意」又は「多動性－衝動性」の問題を著しく示す C：「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す	3.6%（3.4%～3.9%） 3.1%（2.9%～3.3%） 1.1%（1.0%～1.3%）
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	1.6%（1.5%～1.7%）
A かつ B	1.5%（1.3%～1.6%）
B かつ C	0.7%（0.6%～0.8%）
C かつ A	0.5%（0.5%～0.6%）
A かつ B かつ C	0.4%（0.3%～0.5%）

図1 学習面
図2 行動面（不注意、多動性、衝動性）
図3 行動面（対人関係やこだわり等）

-13-

2. 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（概要）②

表② 知的発達に遅れはないものの学習面、各行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の男女別集計

	推定値（9.5%信頼区間）		
	A	B	C
男子	9.3% (8.9%～9.7%)	5.9% (5.6%～6.2%)	5.2% (4.8%～5.5%)
女子	3.6% (3.2%～3.9%)	2.9% (2.7%～3.1%)	1.0% (0.9%～1.1%)

表③ 知的発達に遅れはないものの学習面、各行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の学校種、学年別集計

< 小学校 >

	推定値（9.5%信頼区間）			
	A	B	C	
小学校	7.7% (7.3%～8.1%)	5.7% (5.3%～6.0%)	3.5% (3.2%～3.7%)	1.3% (1.1%～1.4%)
第1学年	7.8% (7.4%～8.2%)	7.3% (6.9%～7.7%)	4.5% (4.2%～4.8%)	1.5% (1.3%～1.6%)
第2学年	8.2% (7.8%～8.6%)	6.3% (5.9%～6.7%)	3.8% (3.5%～4.1%)	1.5% (1.3%～1.6%)
第3学年	7.5% (7.1%～7.9%)	5.5% (5.1%～5.9%)	3.3% (3.0%～3.6%)	1.0% (0.9%～1.1%)
第4学年	7.6% (7.2%～8.0%)	5.8% (5.4%～6.2%)	3.5% (3.2%～3.8%)	1.2% (1.0%～1.3%)
第5学年	6.7% (6.3%～7.1%)	4.9% (4.5%～5.3%)	3.1% (2.8%～3.4%)	1.1% (0.9%～1.2%)
第6学年	6.3% (5.9%～6.7%)	4.4% (4.0%～4.8%)	2.7% (2.4%～3.0%)	1.3% (1.0%～1.5%)

< 中学校 >

	推定値（9.5%信頼区間）			
	A	B	C	
中学校	4.0% (3.7%～4.3%)	2.0% (1.7%～2.3%)	2.5% (2.2%～2.8%)	0.9% (0.7%～1.1%)
第1学年	4.8% (4.4%～5.2%)	2.7% (2.4%～3.0%)	2.9% (2.6%～3.2%)	0.8% (0.6%～1.0%)
第2学年	4.1% (3.7%～4.5%)	1.9% (1.6%～2.2%)	2.7% (2.4%～3.0%)	1.0% (0.7%～1.3%)
第3学年	3.2% (2.9%～3.5%)	1.4% (1.1%～1.7%)	1.8% (1.6%～2.0%)	0.9% (0.6%～1.2%)

-14-

2. 通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（概要）①

調査結果 < I. 児童生徒の困難の状況 >

質問項目に対して担任教員が回答した内容から、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の困難の状況のうち、主要なものは以下のとおり。

表① 知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒の割合

	推定値（9.5%信頼区間）
学習面又は行動面で著しい困難を示す	6.5%（6.2%～6.8%）
学習面で著しい困難を示す A：学習面で著しい困難を示す	4.5%（4.2%～4.7%）
行動面で著しい困難を示す B：「不注意」又は「多動性－衝動性」の問題を著しく示す C：「対人関係やこだわり等」の問題を著しく示す	3.6%（3.4%～3.9%） 3.1%（2.9%～3.3%） 1.1%（1.0%～1.3%）
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	1.6%（1.5%～1.7%）
A かつ B	1.5%（1.3%～1.6%）
B かつ C	0.7%（0.6%～0.8%）
C かつ A	0.5%（0.5%～0.6%）
A かつ B かつ C	0.4%（0.3%～0.5%）

図1 学習面
図2 行動面（不注意、多動性、衝動性）
図3 行動面（対人関係やこだわり等）

-13-

通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（概要）④

調査結果 < II. 児童生徒の受けている支援の状況 >

(2) 質問項目に対して担任教員が回答した内容から、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた児童生徒（推定値6.5%）のうち、校内委員会において、現行、特別な教育的支援が必要と判断された児童生徒（推定値18.4%）の受けている支援の状況は、以下の表のとおり。

表④-1 校内委員会において、現行、特別な教育的支援が必要と判断された児童生徒の受けている支援の状況

	推定値（9.5%信頼区間）
現在、いずれかの支援がなされている	9.2%（8.9%～9.5%）
過去、いずれかの支援がなされていた	1.8%（1.6%～2.0%）
いずれかの支援もなされていない	6.0%（5.7%～6.3%）
不明	—

※「現在、いずれかの支援がなされている」、「過去、いずれかの支援がなされていた」とは、表2に準じて集計した。

表④-2 現在の支援による効果の状況

	推定値（9.5%信頼区間）
効果達成	1.0%（0.7%～1.3%）
効果達成	8.3%（8.0%～8.6%）
不明	—

表④-3 過去の支援による効果の状況

	推定値（9.5%信頼区間）
効果達成	2.0%（1.7%～2.3%）
効果達成	1.7%（1.4%～2.0%）
効果達成	0.3%（0.2%～0.4%）
不明	—

表④-4 「個別の指導計画」の作成状況

	推定値（9.5%信頼区間）
作成している	4.3%（4.0%～4.6%）
作成していないが計画に作成していた	2.8%（2.5%～3.1%）
作成していない	6.9%（6.6%～7.2%）
不明	—

表④-5 特別な教育的支援の実施状況

	推定値（9.5%信頼区間）
実施している	3.2%（2.9%～3.5%）
実施していないが計画に作成していた	4.3%（4.0%～4.6%）
実施していない	6.2%（5.9%～6.5%）
不明	—

表④-6 関係機関との連携、支援の状況

	推定値（9.5%信頼区間）
行っている	4.8%（4.5%～5.1%）
実施していないが計画に作成していた	0.4%（0.3%～0.5%）
実施していない	4.7%（4.4%～5.0%）
不明	—

表④-7 関係機関との連携による効果の状況

	推定値（9.5%信頼区間）
効果達成	7.3%（7.0%～7.6%）
効果達成	2.7%（2.4%～3.0%）
効果達成	0.0%（0.0%～0.0%）
不明	—

-16-

4. 発達障害等困難のある生徒の中学校卒業後における進路に関する分析結果 概要（平成21年3月時点）

【調査対象】

平成14年度の文部科学省全国調査※1に準じた方法で、実態調査を実施した中学校における平成20年度卒業の生徒の一部について実施（対象生徒数約1万7千人）。

【実施方法】

平成14年度の文部科学省全国調査に準じた方法で、平成18年度以降に実態調査を実施した中学校の3年生の一部を対象として、各中学校において発達障害等困難のある生徒の卒業後の進路を分析・推計※2。

※ 学級担任を含む複数の教員により判断したものであり、医師の判断による発達障害のある生徒の割合を示したものではありません。

【集計結果】

調査対象の中学校3年生のうち、発達障害等困難のある生徒の割合は約2.9%であり、そのうち約75.7%が高等学校に進学することとしている。

これらの高等学校に進学する発達障害等困難のある生徒の、高等学校進学者全体に対する割合は約2.2%。

一課程別、学科別における高等学校進学者中の発達障害等困難のある生徒の割合

課程別	割合	学科別	割合
全日制	1.8%	普通科	2.0%
定時制	14.1%	専門学科※1	2.6%
通信制	15.7%	総合学科※2	3.6%

※1：専門教育を主とする学科
※2：普通教育及び専門教育を選択履修を旨として総合的に施す学科

17

5. 障害者の権利に関する条約(総論)

1. 条約の趣旨

○目的：障害者の人権・基本的自由の共有の確保、障害者の固有の尊厳の尊重の促進

⇒ 障害者の権利の実現のための措置等を規定

- ・障害に基づくあらゆる差別(合理的配慮の否定を含む)の禁止
- ・障害者の社会への参加・包容の促進
- ・条約の実施を監視する枠組みの設置、等

2 経緯

- ・平成18年12月 国連総会において採択
- ・平成19年 9月 日本国署名
- ・平成20年 5月 条約発効(※平成25年9月現在、136カ国・1地域機関が批准)
- ・平成25年12月 国会承認
- ・平成26年 1月20日 日本国批准(発効は2月19日)

○条約批准に向けた検討の経緯

- ・平成21年12月 内閣府「障がい者制度改革推進本部」及び「障がい者制度改革推進会議」設置
- ・平成22年 7月 中教審初中分科会のもとに「特別支援教育の在り方に関する特別委員会」設置
- ・平成23年 8月 障害者基本法改正
- ・平成24年 5月 内閣府「障害者制度改革推進会議」を廃止、「障害者政策委員会」を設置
- ・平成24年 7月 中教審初中分科会報告(共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進)
- ・平成25年 6月 障害者差別解消法成立(一部を除き平成28年4月1日より施行)
- ・平成25年 8月 学校教育法施行令改正(9月1日より施行)

-18-

5. 障害者の権利に関する条約(教育関係)

3 教育部分(和文)

第24条 教育

- 締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、**障害者を包摂するあらゆる段階の教育制度(inclusive education system at all levels)**及び生涯学習を確保する。当該教育制度及び生涯学習は、次のことを目的とする。
 - 人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の多様性の尊重を強化すること。
 - 障害者が、その人格、才能及び創造力並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限まで発達させること。
 - 障害者が自由な社会に効果的に参加することを可能とすること。
- 締約国は、1の権利の実現に当たり、次のことを確保する。
 - 障害者が障害に基づいて一般的な教育制度(general education system)から排除されないこと**及び障害のある児童が障害に基づいて無償のかつ義務的な初等教育から又は中等教育から排除されないこと。
 - 障害者が、他の者との平等を基礎として、自己の生活する地域社会において、障害者を包摂し、質が高く、かつ、無償の初等教育を享受することができると及び中等教育を享受することができること。
 - 個人に必要とされる合理的配慮(reasonable accommodation)が提供されること。**
 - 障害者が、その効果的な教育を容易にするために必要な支援を一般的な教育制度の下で受けること。
 - 学問的及び社会的な発達を最大にする環境において、完全な包容という目標に合致する効果的で個別化された支援措置がとられること。

-19-

6. 中央教育審議会初等中等教育分科会報告(平成24年7月)

～共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進～

内 容

1. 共生社会の形成に向けて

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進、共生社会の形成に向けた今後の進め方

2. 就学相談・就学先決定の在り方について

早期からの教育相談・支援、就学先決定の仕組み、一貫した支援の仕組み、就学相談・就学先決定に係る国・都道府県教育委員会の役割

3. 障害のある子どもが十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備

「合理的配慮」について、「基礎的環境整備」について、学校における「合理的配慮」の観点、「合理的配慮」の充実

4. 多様な学びの場の整備と学校間連携等の推進

多様な学びの場の整備と教職員の確保、学校間連携の推進、交流及び共同学習の推進、関係機関等の連携

5. 特別支援教育を充実させるための教職員の専門性向上等

教職員の専門性の確保、各教職員の専門性・養成・研修制度等の在り方、教職員への障害のある者の採用・人事配置

-20-

6. 中教審初中分科会報告 概要(合理的配慮について①)

3. 障害のある子供が十分に教育を受けられるための合理的配慮及びその基礎となる環境整備

(1)「合理的配慮」について

- 条約の定義に照らし、本報告における「合理的配慮」とは、「**障害のある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、障害のある子供に対し、その状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの**」であり、「**学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの**」、と定義した。なお、障害者の権利に関する条約において、「合理的配慮」の否定は、障害を理由とする差別に含まれるとされていることに留意する必要がある。
- 障害のある子供に対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なるところではあるが、これらを基に、設置者及び学校が、各学校において、障害のある子供に対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。
- 「合理的配慮」の決定に当たっては、障害者の権利に関する条約第24条第1項にある、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとした目的に合致するかどうかの観点から検討が行われることが重要である。

-21-

6. 中教審初中分科会報告 概要(合理的配慮について②)

- 「合理的配慮」は、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されるものであり、設置者・学校と本人・保護者により、発達の段階を考慮しつつ、「合理的配慮」の観点を踏まえ、「合理的配慮」について可能な限り合意形成を図った上で決定し、提供されることが望ましく、その内容を個別的教育支援計画に明記することが望ましい。なお、設置者・学校と本人・保護者の意見が一致しない場合には、「教育支援委員会」(仮称)の助言等により、その解決を図ることが望ましい。また、学校・家庭・地域社会における教育が十分に連携し、相互に補充しつつ、一体となって営まれることが重要であることを共通理解とすることが重要である。さらに、「合理的配慮」の決定後も、幼児児童生徒一人一人の発達の程度、適応の状況等を勘案しながら柔軟に見直しができることを共通理解とすることが重要である。
- 移行時における情報の引継ぎを行い、途切れることのない支援を提供することが必要である。

(2)「基礎的環境整備」について

- 「合理的配慮」の充実を図るため、必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、「基礎的環境整備」の充実を図っていくことが必要である。
- 共生社会の形成に向けた国民の共通理解を一層進め、インクルーシブ教育システム構築のための施策の優先順位を上げていくことが必要である。

-22-

6. 中教審初中分科会報告 概要(合理的配慮について③)

(3)学校における「合理的配慮」の観点

- 「合理的配慮」の観点について整理するとともに、障害種別の「合理的配慮」は、その代表的なものと考えられるものを例示している。示されているもの以外は提供する必要がないということではなく、一人一人の障害の状態や教育的ニーズ等に応じて決定されることが望ましい。
- 現在必要とされている「合理的配慮」は何か、何を優先して提供するかなどについて、関係者間で共通理解を図る必要がある。
- 複数の種類の障害を併せ有する場合には、各障害種別の「合理的配慮」を柔軟に組み合わせることが適当である。

(4)「合理的配慮」の充実

- これまで学校においては、障害のある児童生徒等への配慮は行われてきたものの、「合理的配慮」は新しい概念であり、現在、その確保についての理解は不十分であり、設置者・学校、本人・保護者の双方で情報が不足していると考えられる。そのため、早急に「合理的配慮」の充実に向けた調査研究事業を行い、それに基づく国としての「合理的配慮」のデータベースを整備し、設置者・学校、本人・保護者の参考に供することが必要である。また、中長期的には、それらを踏まえて、「合理的配慮」、「基礎的環境整備」を充実させていくことが重要であり、必要に応じて、学校における「合理的配慮」の観点や代表的なものと考えられる例を見直ししていくことが考えられる。

-23-

合理的配慮の観点毎の障害種別の例示配慮（※算定初期中分科金報告あり）	
(例)①—2—1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮	
障害の状態等に応じた情報伝達やコミュニケーションの方法について配慮するとともに、教材（ICT及び補助用具を含む）の活用について配慮する。	
視覚障害	見えにくい状態に応じた教材及び情報の提供を行う。（黒地に白文字の背景で文字を印刷する場合や資料、拡大文字、拡大文字を用いた資料、触れこめが可能なもの（点字）や触れやすいもの、図表で表せるもの等）また、視覚障害を補う視覚補助用具（点字）等の活用について、（画面拡大や色の調整、読み上げソフト等）を
聴覚障害	見えにくい状態に応じた情報の提供を行う。（分りやすい図表、教科書の音読箇所や位置の明示、要点を視覚的な情報で示す、音声訳、聞き取りやすい内容等）また、見えにくい状態に応じた聴覚的情報・視覚的提供を受ける。（従来の教材、録音の音響、字幕、字幕付きのビデオ映像等）（使用可能なフォーマットの音声）、音読指導の指導、必要に応じて点字補助器具等）また、
知的障害	知覚・理解の能力に応じたやりかたを用いて教材及び情報・教養を提供する。（文字の拡大や読字速度の付加、読み方の文字、文長の短縮、具体的内容の提示や説明、動作化や視覚的な情報、数量等の数や順序を提示するための数字や文字や点字、数読み、パソコンの活用等）等）
読字不能自由	文字や計算が困難な自由による上での機能に合わせた教材や資料の提供を受ける。（書字の能力に合わせたパソコン、計算ソフトの学習に利用、読字不能の支援、読字不能の自由によるコミュニケーションと支援する機能（文字書きや音声出力などの機能等）の活用等）
病弱	病気のたまりかたや病状の悪化が限られる場合に、ICT等を活用、簡便的な連絡や他の人とのコミュニケーションの機会を提供する。（友達の手紙やメールの交換、テレビ番組システム等を活用したリアルタイムのコミュニケーション、インターネット等を活用した遠隔授業）
言語障害	発音が不明確な場合には、代用手段によるコミュニケーションを行う。（筆談、ICT機器の活用等）
自閉・情緒・精神障害	自閉の特性や状態に合わせ、授業を受ける情報を提供する。（写真や図画、模型、実物等の活用）また、様々な制約等に手当てが立つ場合があることから、扱いやすい道具を用意したり、補助用具を効果的に利用したりする
学習障害	読み書きに困難がある場合、本人の能力に合わせた情報を提供する。（文字を読み取りやすいように体系を責める、拡大文字を用いた資料、読み出しやすい、音聲やコンピュータの読み上げ、読解指導や指導して伝える等）
注意欠陥多動性障害	授業の受け流し、書物の読み飛ばしなど場合に合わせた情報を整理して提供する。（提示物の整理整頓・精選、目を含めでの提示、メモ等の視覚的補助用具、静かで集中できる環境づくり等）
重複障害	（読覚障害と聴覚障害）読覚の障害の特性や状態に応じた適切なコミュニケーション手段を授けるときに、必要に応じて状況説明を含めた情報提供を行う。（筆談、図表、読み上げ、拡大文字、簡単な手話の効果的な活用等）
<p>※障害種別に応じた合理的配慮は、すべての障害を網羅するとはならず、その代数的なものと考えられるものを例示して示す。これら以外に提供されるべきものではない。合理的配慮は、一人一人の障害の状態や生活の状況に応じて決定されるべきである。</p>	

7. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)の概要

障害者基本法 第4条

基本原則 差別の禁止

第1項：障害を理由とする差別等を行うことその他の権利利益を侵害する行為をしない。

何人も、障害者として、障害を理由として、差別等を行うことその他の権利利益を侵害する行為をしない。

社会的障壁の除去を怠る

第2項：社会における権利利益の防止

社会的障壁の除去は、われわれがもっている障害者意識に起因し、かつ、その意識に伴う偏見が重大な原因となれば、それらを克服することによって障壁の除去に進展することとならないう。その実施については適切かつ合理的な配慮がなされなければならない。

国による啓発・知識の普及を図るための取組

第3項：国による啓発・知識の普及を図るための取組

国は、第一に前項に違反する行為の防止に資する啓発及び知識の普及を図るため、当該行為の防止を促すために必要となる情報の収集、整理及び提供を行うものとする。

具体化

I. 差別を解消するための措置

差別の取扱いの禁止

国・地方公共団体等
民間事業者

→

法的義務

↓

具体的な対応

↓

政府全体の方針として、差別の解消の推進に関する基本方針を策定（閣議決定）

- 国・地方公共団体等 ⇒ 当該機関における取組に関する要綱を策定
- 事業者 ⇒ (主務大臣が) 事業分野別の指針（ガイドライン）を策定

(地方の施策に関する義務)

合理的配慮の不提供の禁止

国・地方公共団体等
民間事業者

→

法的義務

努力義務

実効性の確保

● 主務大臣による民間事業者に対する報告徴収、助言・指導、勧告

II. 差別を解消するための措置措置

紛争解決・相談 ● 相談・紛争解決の体制整備 ⇒

地域における連携 ● 障害者差別解消支援地域協議会における関係機関間の連携

啓発活動 ● 普及・啓発活動の実施

情報収集等 ● 国内外におけるおよび差別の解消に向けた取組に関わる情報の収集、整理及び提供

既存の制度、紛争解決の制度の活用・充実

施行日：平成28年4月1日（施行後3年を目途に必要な見直し検討）

○7. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律における合理的配慮

○障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年6月公布、平成28年4月施行（一部を除く））

（行政機関等における障害を理由とする差別の禁止）

第7条 行政機関等は、その事務又は事業を行うに当たり、障害を理由として障害者でない者と不当な差別の取扱いをすることにより、障害者の権利利益を侵害してはならない。

2 行政機関等は、その事務又は事業を行うに当たり、障害者から現に社会的障壁の除去を必要とする旨の意見の表明があった場合において、その実施に伴う負担が過重でないときは、障害者の権利利益を侵害することとならないよう、当該障害者の性別、年齢及び障害の状態に応じて、社会的障壁の除去の実施について必要かつ合理的な配慮をしなければならない。

（事業者における障害を理由とする差別の禁止）（抜粋）

第8条 事業者は、その事業を行うに当たり、（・・・第7条第1項に同じ・・・）

2 事業者は、その事業を行うに当たり、（・・・第7条第2項に同じ・・・）必要かつ合理的な配慮をするように努めなければならない。

○国公立学校など	⇒ 行政機関等	⇒ 法的義務
○学校法人など	⇒ 事業者	⇒ 努力義務


（参考）

第5条 行政機関等及び事業者は、社会的障壁の除去の実施にわたる必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、自ら設置する施設の構造の改善及び設備の整備、関係職員に対する研修その他の必要な環境の整備に努めなければならない。

-26-

7. 特別支援教育に関わる最近の動向

改正障害者雇用促進法に基づく差別禁止・合理的配慮の提供の 指針の在り方に関する研究会(報告書) (平成26年6月6日 厚生労働省)



厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

平成26年6月6日
【報告先】
職業安定局雇用開発部
障害者雇用対策課
課長官 松本 久 (内線5649)
課長補佐 境 伸典 (内線5859)
(代表電話) 03(5253)1111
(直通電話) 03(5956)1173

「改正障害者雇用促進法に基づく差別禁止・合理的配慮の提供の指針の在り方に関する研究会」の報告書を取りまとめました

厚生労働省は、このたび、「改正障害者雇用促進法に基づく差別禁止・合理的配慮の提供の指針の在り方に関する研究会」(座長 山川 隆一 東京大学大学院法政学総合研究科教授)の報告書を取りまとめましたので、公表します。

8. 学校教育法施行規則の一部を改正する政令(平成25年8月)の概要

- 1. 趣旨**

中教審初中分科会報告(平成24年7月)において「就学基準に該当する障害のある子どもは特別支援学校に原則就学する」といふ従来の就学決定の仕組みを改め、障害の程度、本人の教育的ニーズ、本人・保護者の意見、教育者、医学、心理学等専門的見地からの意見、学校や地域の状況等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組みとすることが適当である。」との提言がなされたことを踏まえ、学校教育法施行令について、所要の改正を行う。
- 2. 改正の概要**
 - (1) 就学先を決定する仕組みの改正**

視覚障害者等、**聴覚障害者**、**聴覚障害者**、**知的障害者**、**肢体不自由者又は病弱者**(身体虚弱者を含む。)で、その障害が、同令第22条の3の表に規定する程度のものをいう。)について、**特別支援学校への就学を原則とし、例外的に認定就学者として小中学校へ就学すること**を可能とせしめる**規定を改め、個々の児童生徒等について、市町村の教育委員会が、その障害の状態等を踏まえた総合的な観点から就学先を決定する仕組み**とする。
 - (2) 障害の状態等の変化を踏まえた転学**

特別支援学校へ小中学校に転学することについて、その者の障害の状態の変化のみならず、**その者の教育上必要な支援の内容や環境における教育の体制の整備の状況その他の事情の変化によっても転学の検討を開始できるよう、規定の整備を行う。**
- 3. 視覚障害者等による区域外就学等**

視覚障害者等が、その住所の存する市町村の設置する小中学校以外の小学校、中学校又は中等教育学校に就学することについては、規定の整備を行う。
- 4. 保護者及び専門家からの意見照会後の決定**

市町村教育委員会による保護者及び専門家からの意見聴取について、現行令は、視覚障害者等が小学校又は特別支援学校で中学校へ新入する場合等に行うこととされているところ、これを小学校から特別支援学校で中学校への進学時にも行うこととするよう、規定の整備を行う。
- 3. 施行目** 平成25年9月1日

-28-

障害のある児童生徒の就学先決定について（手続きの流れ）

【改正後】

10/31 11/30
まで まで

市町村教委

1/31まで

4/1

※就学先決定後も柔軟な就学先を
見出し、**総合的判断**

早期からの**本人・保護者の十分な情報提供**
個別の教育支援計画の作成・活用により支援

学齢簿の作成

就学時健康診断

放課
令第22条の3

申請書

総合的判断
・申請書の状況（年齢、性別）
・教育上必要な支援の体制
・地域における教育の特色
・児童の発達状況
・専門家の意見
・その他の事情
（小・高第22条の3注）
特別支援学校就学のため
の必要条件である
とともに、特別支援
学校の教育内容に
適合する

本人・保護者の意思を教員・関係者**可能な限り**
よく考慮し、**総合的に**決定すること原則して、**市町村**
教委が最終決定

通知（一斉発行）

県教委
特別支援学校の通知
（上級学年）

特別支援学校

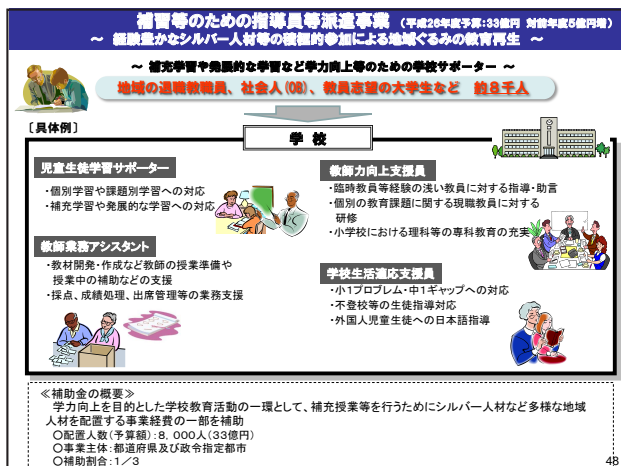
通知（保護者へ）
小学校へ（入学期日等の通知）

小中学校
特別支援学級・通級指導

個別の教育支援計画の作成・活用

青字：学校教育法施行令（一部）学校保健安全法施行令、赤字：障害者基本法、下線（黒字）：H24年教育審議会報告

-29-



9. 平成26年度特別支援教育関係予算案等
～ 特別支援教育支援員の地方財政措置 ～

【26年度措置額：約530億円（25年度措置額：約514億円）】

「特別支援教育支援員」は、公立幼稚園、小・中学校、高等学校において、校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、担任教師等と連携のうえ、日常生活上の介助（食事、排泄、教室の移動補助等）、発達障害等の幼児児童生徒に対する学習支援、幼児児童生徒の健康・安全確保、周囲の幼児児童生徒の障害理解促進等を行う。

特別支援教育支援員の配置に係る経費（拡充）

□ 公立幼稚園、小・中学校及び高等学校において、障害のある幼児児童生徒に対し、学習活動上のサポート等を行う「特別支援教育支援員」を配置するため、都道府県・市町村に対して、必要な経費を措置するもの。

学校種	平成26年度	平成25年度
幼稚園【拡充】	5,300人	4,800人
小・中学校【拡充】	40,500人	39,400人
高等学校	500人	500人
合計	46,300人 (事業費：約530億円)	44,700人 (事業費：約514億円)

平成19年度～：公立小・中学校について地方財政措置を開始
平成21年度～：公立幼稚園について地方財政措置を開始
平成23年度～：公立高等学校について地方財政措置を開始

平成24年度からの教材整備関係の地方財政措置について

背景
学習指導要領は、これまで概ね10年ごとに改訂されており、その改訂に併せて整備基準を改定してきたところである。今回の新学習指導要領に併せて、文部科学省では、各教育委員会、各学校で教材を整備する際の「参考資料」として、**平成23年4月、「教材整備指針」**を示したところである。

「教材整備指針」の策定方針

- 新学習指導要領（H20改訂）を踏まえて改訂
 - ・外国語活動（小学校）、武道（中学校保健体育）などに関する教材を新規に例示
- 特別支援教育への対応
 - ・小・中学校に在る教材に「特別支援教育に必要な教材」を新たに例示
 - ・学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）の児童生徒に対する教材を例示
- 理科教材の追加
 - ・今次改訂の「理科教育等設備基準」に基づき、理科教材を新たに例示
- 教材整備の目安を例示
 - ・各市町村、学校が、具体的な整備数量を定める際の参考として、学校あたり、学年あたり、学級あたり、グループあたりの整備の目安を教材別に例示

＜過去の整備基準＞

整備基準名	策定年度	学習指導要領改訂年度
教材基準	昭和42年度	昭和43・44年度
新教材基準	昭和53年度	昭和52年度
標準教材品目	平成3年度	平成元年度
教材機能別分類表	平成13年度	平成10年度

新たな整備計画 「発達障害学校における新たな教材整備計画」＜平成24年度から33年度までの10年間＞
単年度措置額（普通交付税）約800億円（10年総額 約8,000億円）
（小学校：約500億円、中学校：約260億円、特別支援学校：約40億円）

積算内容 ○「教材整備指針」（平成23年4月通知）に基づき例示教材等の整備に必要な経費を積算。
（1）既に学校が保有している教材について、更新に必要な経費
（2）新学習指導要領に対応するため、外国語活動（小学校）、武道の必修化（中学校）及び美術設備等（中学校）の整備に必要な経費
（3）特別支援教育の指導に必要な経費
（4）少額理科教材（小学校1万円未満、中学校2万円未満の理科教育等設備整備費補助金の対象とならないもの）
（5）技術革新に伴う電子黒板、地上デジタルテレビ 等

発達障害教育情報センター（独）国立特別支援教育総合研究所

指導・支援 研修・調査 教材・支援機関 研究紹介 施策法令 教育相談 イベント情報

発達障害教育情報センター

センターの紹介

- ◎ はじめの方へ
 - ・文部科学省の発達障害に関する施策を掲載しました。
 - ・文部科学省の発達障害に関する施策結果を掲載しました。
 - ・発達障害に関する「発達障害」に関する施策結果を掲載しました。
 - ・発達障害に関する「発達障害」に関する施策結果を掲載しました。
 - ・発達障害に関する「発達障害」に関する施策結果を掲載しました。
- ◎ 発達障害に関するお問い合わせ
 - ・発達障害に関するお問い合わせ先を掲載しました。
 - ・発達障害に関するお問い合わせ先を掲載しました。
 - ・発達障害に関するお問い合わせ先を掲載しました。
 - ・発達障害に関するお問い合わせ先を掲載しました。
 - ・発達障害に関するお問い合わせ先を掲載しました。
- ◎ アンケートのお願い
 - ・発達障害に関するアンケートのお願いを掲載しました。
 - ・発達障害に関するアンケートのお願いを掲載しました。
 - ・発達障害に関するアンケートのお願いを掲載しました。
 - ・発達障害に関するアンケートのお願いを掲載しました。
 - ・発達障害に関するアンケートのお願いを掲載しました。
- ◎ 関連リンク集
 - ・発達障害に関する関連リンク集を掲載しました。
 - ・発達障害に関する関連リンク集を掲載しました。
 - ・発達障害に関する関連リンク集を掲載しました。
 - ・発達障害に関する関連リンク集を掲載しました。
 - ・発達障害に関する関連リンク集を掲載しました。

URL: <http://icedd.nise.go.jp>

学校と連携するためのヒント集

- 1) Research
- 2) Target
- 3) Outreach

- 1) Research
- まずは、情報収集

1. 「児童福祉法等の改正による教育と福祉の連携の一層の推進について」 (平成24年4月18日 厚生労働省社会・援護局障害保険福祉部障害福祉課 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 事務連絡)

＜経緯＞「障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて障害保健福祉施策を見直すまでの間において障害者等の地域生活を支援するための関係法律の整備に関する法律」により、児童福祉法及び障害者自立支援法の一部改正され、相談支援の充実及び障害児支援の強化が図られたことを受けて、相談支援の充実及び障害児支援の強化の具体的な内容及び教育と福祉の連携に係る留意事項等を整理し、事務連絡を発出した。

＜相談支援の充実＞

■「障害児支援計画書等」の作成
児童福祉法に基づき「障害児通所支援又は障害者自立支援法に基づく居宅サービスを利用するすべての障害児に対し、原則として、「障害児支援計画書」(併設支援計画)を作成することとなった。
学齢期においては、障害児支援計画書及び個別支援計画と個別の教育支援計画及び個別の指導計画の内容との連携が必要であり、相談支援事業所と学校等が連携調整を行い、就学期の福祉サービス利用から就学への移行、学齢期に利用する福祉サービスとの連携、さらには中学校卒業に当たって地域生活に向けた福祉サービスへの移行が円滑に進むよう、保護者の了解を得つつ、特段の配慮を要する。

＜障害児支援の強化＞

■児童福祉法における障害児に関する定義規定の見直し
児童福祉法に規定する障害児の定義規定が見直しされ、従前の「身体に障害のある児童及び知的障害のある児童」に加え、「精神に障害のある(発達障害含む)」児童を追加した。
■障害児施設の一元化
知的障害児施設、知的障害児通所施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設等の障害児施設で分かれていた従前の障害児施設を、通所による支援を「障害児通所支援」、入所による支援を「障害児入所支援」に一元化した。
■放課後等デイサービスの創設
障害児通所支援の一つとして、「放課後等デイサービス」が創設され、授業の終了後又は休業日に生活能力の向上のための必要な訓練、社会との交流の促進等を行うこととなった。放課後等デイサービスの利用は、学校教育との時間的な連続性があることから、特別支援学校等における教育課程と放課後等デイサービス事業所における支援内容との一貫性を確保するとともに役割分担が重要である。また、特別支援学校等と放課後等デイサービス事業所間の連携が一定の条件のもと、事業所の加算対象となった。
■保育所等訪問支援の創設
障害児通所支援の一つとして、「保育所等訪問支援」が創設され、訪問支援員(障害児の支援に相当の知識・技術及び経験のある児童指導員・保育士、機能訓練担当職員等)が保育所等を定期的に訪問し、集団生活への適応のための専門的な支援を実施することとなった。
■個別支援計画の作成
障害児通所支援事業所等に児童発達支援管理責任者が職務が果たされたことにより、すべての障害児に対し、利用者及びその家族のニーズ等を反映させた個別支援計画を作成し、効果的かつ適切な障害児支援を実施することとなった。

-54-

2. 障害者の雇用を支える連携体制の構築・強化について (平成25年3月29日 初等中等教育局局長発)

※平成26年3月31日一部改正

障害者の雇用に関する労働関係機関と教育、福祉、医療等関係機関の連携について、今般、都道府県労働局や公共職業安定所等において特別支援学校等との連携を一層強化するよう、厚生労働省職業安定局長より通達を発出。文部科学省では、教育委員会等に対し、本件通達の周知と、労働関係機関との一層の連携の下に、障害のある生徒の就労に向けた職業教育、進路指導等の充実を図られるよう通知。

厚生労働省職業安定局長通達(25.3.29)概要
「福祉」「教育」「医療」への流れをより一層促進するため、障害者就業・生活支援センターや就労移行支援事業所等の地域で障害者の就労支援を行う機関、特別支援学校、企業や医療機関等、地域全体で障害者の雇用を支えるため、都道府県労働局や安定所が中心となって、地域センターと連携を図りつつ、次の取組に重点を置いて実施。
※本通達については平成26年3月31日に一部改正が行われ、企業就労理解促進事業の実施について、発達障害者(発達障害の疑いのある者を含む。)等への就職支援に課題を抱えている企業支援学校、大学(大学院及び短期大学を含む。)、高等専門学校及び専修学校の教職員等も対象となった。

1. 就労支援セミナーの実施等による企業理解の促進や職場実習の推進
① 就労支援セミナー、事業所見学会、障害者就労アドバイザーによる助言等による障害者やその保護者、就労支援機関、相談支援事業所等、特別支援学校、医療機関等の教職員に対する企業理解の促進(企業就労理解促進事業)
② 障害者やその保護者、就労支援機関、特別支援学校、医療機関等と企業の不安を解消し、相互理解を促進するため、障害者が企業において就労体験を行う職場実習の推進
2. 企業が障害者を継続して雇用するための支援の実施
① 雇入れから定着過程の段階においては、安定所が中心となって関係機関と連携し、就職の準備段階から職場定着までの一連の支援
② 職定着後の段階においては、障害者就業・生活支援センターが中心となって、安定所や関係機関等との適切な役割分担の下、継続した職場定着の支援
3. ネットワークの構築・強化
① 自立支援協議会等へ積極的に参画するとともに、地方自治体と連携して、障害者就業・生活支援センターや地域の特約子会社及び重度障害者多数雇用事業所、事業主団体の参画も勧奨
② 地域センター、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所、医療機関等、関係機関等との連携の強化

-55-

3. 「キャリア教育・就労支援等の充実事業」への参加・協力について (平成26年4月2日 厚生労働省職業安定局雇用開発部 障害者雇用対策部障害者雇用専門官 事務連絡)

平成26年度より、文部科学省において高等学校段階における障害のある生徒へのキャリア教育・職業教育を推進し、労働や福祉等の関係機関と連携しながら就労支援を充実する実践的な研究「キャリア教育・就労支援等の充実事業」を実施。
当該事業に關して、厚生労働省より都道府県労働局又は公共職業安定所に対し、積極的に参加・協力するよう事務連絡を発出。具体的に参加・協力した内容等については下記のとおり。

1 就労支援ネットワーク会議への参加・協力

委託団体は、障害のある生徒の就職支援のためのネットワークを構築するため、モデル校となる特別支援学校高等部及び高等学校の教員、教育委員会等のモデル校の設置者のほか、労働・福祉等の関係機関からなる就労支援ネットワーク会議を設置し、モデル校への助言・評価、教員研修プログラムや技能検定の開発などを実施する予定である。労働局等は委託団体の求めに応じて当該会議に参加すること。

2 教員や保護者を対象とした講義への講師派遣

就職支援ネットワーク会議においては、教員研修プログラムを開発し、教員や保護者を対象とした障害者雇用率制度等の理解を深める講義を実施する予定である。
このため、労働局等は、講義の実施に当たって委託団体の求めに応じて労働局等の職員を講師として派遣するとともに、障害者雇用率制度や労働局等が実施する支援について紹介すること。

3 就職支援コーディネーターと連携した支援

委託団体は、モデル校に就職支援コーディネーターを配置し、モデル校となる特別支援学校高等部及び高等学校において、障害のある生徒の就労先・就業体験先の開拓、就業体験時の巡回指導、卒業後のアフターフォロー等を行う予定である。
このため、就職支援コーディネーターの求めに応じて開拓等に同行することや、公共職業安定所に求人を出している事業所や連携通達に基づき作成する職場実習受入候補事業所リストにある事業所のうち、就労先・就業体験先として開拓することが可能と思われる事業所を選定し、情報提供すること。

-56-

4. 就労系障害福祉サービスにおける教育と福祉の連携の一層の推進について (平成25年4月26日 文部科学省特別支援教育課、厚生労働省障害福祉課 事務連絡)

就労系障害福祉サービスのうち、就労継続B型事業については、その利用に当たり原則として就労移行支援事業者によるアセスメントを行うことが必要となっている。厚生労働省においては、就労継続支援B型事業に係るアセスメントの取扱い及び経過措置について見直しを行い、各都道府県等障害保健福祉主管部局宛に通知。このうち特別支援学校等に主に関連する事項は次のとおり。

1. 障害者就業・生活支援センターを活用したアセスメントの検討
就労移行支援事業所がない等により適切にアセスメントが行えない地域については、障害者就業・生活支援センターを活用したアセスメントについて検討すること
2. 経過措置の見直し
(1) 平成25年度以降の経過措置の取扱い
① 就労移行支援事業者によるアセスメントを経ることなく就労継続支援B型事業の利用が可能となる経過措置について、平成26年度末(平成27年3月末)まで延長(従来は平成24年度末)
② 平成25年度からの経過措置の新たな取扱いとして、市町村が就労継続支援B型事業の利用の適否を判断するに当たり、協議会等からの意見を徴すること等により判断すること
③ 上記の市町村が意見を徴する協議会等においては、例えば以下のような資料を用いて個別の事業について検討すること
・就労支援機関や相談機関などが行った既存のアセスメント結果
・特別支援学校における進路指導や職場実習結果等の情報
(2) 平成25年3月以前に支給決定した特別支援学校等卒業者に係る取扱い
① 平成25年3月に特別支援学校等を卒業する者であっても、平成25年3月末までに支給決定が行われた場合には、当該支給決定の有効期間内については従前の経過措置の対象であること
② 就労継続支援B型を既に利用している者については、支給決定の有効期間内であれば、平成25年4月以降も引き続き利用することが可能であること

-57-

2) Target 学校の誰と話をするのか

特別支援教育の推進について① ー平成19年文科省通知よりー

1. 特別支援教育の理念

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うものである。
また、特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が特別な支援を必要とする学校において実施されるものである。

2. 校長の責務

校長(園長を含む。)は、特別支援教育実施の責任者として、自らが特別支援教育や障害に関する認識を深めるとともに、リーダーシップを発揮しつつ、次に述べる体制の整備等を行い、組織として十分に機能するよう教職員を指導することが重要である。
また、校長は、特別支援教育に関する学校経営が特別な支援を必要とする幼児児童生徒の将来に大きな影響を及ぼすことを深く自覚し、常に認識を新たにして取り組んでいくことが重要である。

3. 特別支援教育を行うための体制の整備及び必要な取組

特別支援教育を実施するため、各学校において次の体制の整備及び取組(※)を行う必要がある。

- ※(1)特別支援教育に関する校内委員会の設置、(2)実態把握、(3)特別支援教育コーディネーターの指名、(4)関係機関との連携を図った「個別的教育支援計画」の策定と活用、(5)「個別の指導計画」の作成、(6)教員の専門性の向上

-59-

特別支援教育の推進について② ―平成19年文科省通知より―

4. 特別支援学校における取組

(1) 特別支援教育のさらなる推進

(中略)

(2) 地域における特別支援教育のセンター的機能

特別支援学校においては、これまで蓄積してきた専門的な知識や技能を生かし、地域における特別支援教育のセンターとしての機能の充実に努めること。

特に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び中等教育学校の要請に応じて、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒のための個別の指導計画の作成や個別の教育支援計画の策定などへの援助を含め、その支援に努めること。

また、これらの機関のみならず、保育所をはじめとする保育施設などの他の機関等に対しても、同様に助言又は援助に努めることとされたいこと。

特別支援学校において指名された特別支援教育コーディネーターは、関係機関や保護者、地域の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び他の特別支援学校並びに保育所等との連絡調整を行うこと。

(3) 特別支援学校教員の専門性の向上

(中略)

8. 厚生労働省関係機関等との連携

各学校及び各教育委員会等は、必要に応じ、発達障害者支援センター、児童相談所、保健センター、ハローワーク等、福祉、医療、保健、労働関係機関との連携を図ること。

-60-

3) Outreach

お互いに半歩踏み出す勇気を

発達障害支援の現状と課題 -発達障害者支援センター 調査等より見えるもの-

発達障害者支援センター 全国連絡協議会
和田康宏
〔 社会福祉法人 あかりの家
ひょうご発達障害者支援センター 〕

発達障害者支援センター

自閉症等の特有な発達障害を有する障害児(者)(以下「発達障害児(者)」という。)に対する支援を総合的に行う県内の拠点として、発達障害に関する各般の問題について発達障害児(者)及びその家族からの相談に応じ、適切な指導又は助言を行うとともに、関係施設等の連携強化等により、発達障害児(者)に対する県内の総合的な支援体制の整備を推進し、もって、これらの発達障害児(者)及びその家族の福祉の向上を図ることを目的とする

【発達障害者支援センター 実施要綱より】

各都道府県等の整備状況をふまえながら、専門的なアセスメントやモニタリングを行う機関としての位置付けを明確にするとともに、発達障害について専門的な支援を行う者と協力しつつ直接処遇職員に対してバックアップを行う体制整備を行う。

【発達障害者支援の推進に関わる検討会 報告書より】

主な発達障害者支援施策の歴史

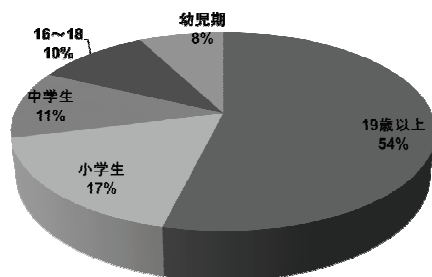
年	施策	障害者施策
平成3年	強度行動障害特別処遇事業	
平成10年	強度行動障害特別処遇加算費事業	
平成14年	自閉症・発達障害支援センター事業開始(8ヶ所)	
平成15年		支援費制度開始
平成17年	・発達障害者支援法成立 ・発達障害者支援センターに名称変更(LD、ADHDも支援対象に)	
平成18年	発達障害者就労支援者育成事業	障害者自立支援法施行
平成19年	若年コミュニケーション要支援者就職プログラム	特別支援教育本格実施

【支援の現状】障害種別 発達障害者支援センター 相談状況より (H25 ひょうご発達障害者支援センター実績データ)

不明(未診断も含む)	725	48%
広汎性発達障害(知的障害を伴わない者)	187	12%
アスペルガー症候群	186	12%
自閉症(知的障害を伴う者)	98	6%
AD/HD	69	5%
広汎性発達障害(知的障害を伴う者)	61	4%
自閉症(知的障害を伴わない者)	52	3%
広汎性発達障害(知的障害の有無不明)	52	3%
その他(発達性言語障害・協調運動性障害)	49	3%
自閉症(知的障害の有無不明)	21	1%
LD	18	1%
計	1518	100%

自閉症スペクトラムの診断を受けている人が41%、未診断が48%である。知的な遅れを伴わない人が多い。(未診断の方のうち大半が知的障害を伴わない発達障害の疑い)

相談支援の状況 (H25年度 センター ブランチ実績より) 年齢



前年度比では19歳以上、16~18歳、幼児期は横ばい、中学生が微増、小学生が微減

【支援の現状】

発達障害者支援センター 相談状況 障害種別より

○「未診断」の相談者が多く、診断を求める事例の増加 ➡ 幼児期、成人期相談の未診断の割合が大きい

健診では見えない事例
企業からの相談

○「発達障害」の普及

「発達障害」が社会での生きづらさを感じる人のキーワードになっている可能性がある。

○診断がある場合、自閉症スペクトラム障害が占める割合が高い

【ライフステージにおける支援の現状】

連携機関 乳幼児期 (H25年度 発達障害者支援センター調査より)

乳幼児期	
	件
A 障害児入所施設(知的障害)	4
B 障害児入所施設(肢体不自由)	1
C 障害児入所施設(精神(発達)障害)	2
D 障害児入所施設(混合)	1
E 障害児通所施設(知的障害)	13
F 障害児通所施設(肢体不自由)	2
G 障害児通所施設(精神(発達)障害)	10
H 障害児通所施設(混合)	15
I 障害者支援施設・障害福祉サービス事業所	10
J 保健所	18
K 医療機関	31
L 福祉事務所	9
M 児童相談所	14
N 知的障害者更生相談所	1
O 保育所・幼稚園	48
P 学校	7
Q 障害者相談支援事業所	8
R 障害者就業・生活支援センター	0
S 公共職業安定所	0
T 地域障害者職業センター	0
U 若者サポートステーション	1
V 企業	0
W 市町村障がい者就労支援センター	0
X 市町村保健センター	34
Y その他	7

【ライフステージにおける支援の現状】

連携機関 乳幼児期

- ・連携する機会の多い機関は、多い順に保育所・幼稚園48件、市町村保健センター34件、医療機関31件となっており、「健診」「受診」「家庭以外の療育現場」がキーワードとなって、センターが各機関と調整を取ったり、コンサルテーションに入っている。
- ・複数回答で連携機関上位3機関をあげてもらったが、他の機関との連携についても件数に伸びが見られることから、都道府県・政令都市において、各地の取り組みや体制に合った機関の連携や機能の特色があることがわかった。

【ライフステージにおける支援の現状】

乳幼児期 相談の状況より

- 健診以降市町の保健センターで継続的に支援を受けているケースもあるが、健診で要支援の対象にならないケースが、幼稚園、保育園といった集団場面を経て相談に来られることが増えている。
 - 診断の必要性
 - ・5歳児発達相談を実施しているところでは、相談機会の提供につながっている場合もある
 - ・個別支援を通して能力評価
- 家族支援の必要性

幼児期の支援

○子どもの見立て

- ・子どもの全体像を見る
 - 子どもの得意・不得意を通して見ていく
- ・生育歴
- ・どうしてそのような行動を取るのか
 - 未学習、誤学習、分かりづらさ

○個に応じた支援

- ・所属園での支援
- ・家族の関わり

【生育歴より】

- ・人見知りがなかった
- ・人見知りがきつかった
- ・母親の後追いがなかった
- ・母親の後追いがきつかった
- ・ちょうどと言っても物をくれない
- ・手をつなぐのを嫌がる
- ・抱っこされるのを嫌がる
- ・人の動作を見ない(無関心)
- ・ひとり遊びが多い
- ・知らない場所でも平気で入っていく
- ・知らない場所でひどく泣く

→ **社会性**

外界に関心がない(PDD)、状況理解が弱い(LD)、自己コントロールの力が弱い(AD/HD)など

検査等の記録

- ・知能検査や発達検査では
- ・精神年齢(MA)、知能指数(IQ)、発達年齢(DA)、発達指数(DQ) として示される。

留意点として

- ・①どの検査が用いられたのか
- ・②**子どもの中での能力の違いを把握**
- ・③検査での様子や態度を理解する
- ・④普段の生活をふまえた解釈を行う

→保育・教育・子育てに活かす

あそび 観察するポイント

- ・玩具や物の使い方は
 - ・ミニカー、ブロックなどを一列に並べる、少しでも動かすと怒る。車やコンビカーなどをひっくり返してタイヤをクルクル回す、など一定の子ども自身が決めた扱い方自分の周囲にある物の意味を理解できずに、物の部分や一要素にとらわれてしまっている
 - ・感覚刺激の遊びか
 - ・光るもの、くるくる回るものにこだわる、振る、叩くといった行為を繰り返すのが感覚刺激を入れる遊びで、遊びとしては幼い
 - ・ひとり遊びが多いか
 - ・人との遊び方、介入の方法が分からないために、人の中に入れてにひとり遊びが多い。大人がうまく関われば集団に入ること
 - ・見立て遊びやふりが少ない
 - ・見立て遊びは「ことばの働き」に似た構造を持っている
- 実際に目の前にない物を別の物でイメージして遊ぶのが「見立て」であり、実物ではない音や文字に実物のイメージをもたせてその音や文字の意味を理解するのが言葉。従って言葉が遅れがちな発達障害の子ども達は見立て遊びやふりが少なくなる

【ライフステージにおける支援の現状】

連携機関 学齢期 (H25年度 発達障害者支援センター調査より)

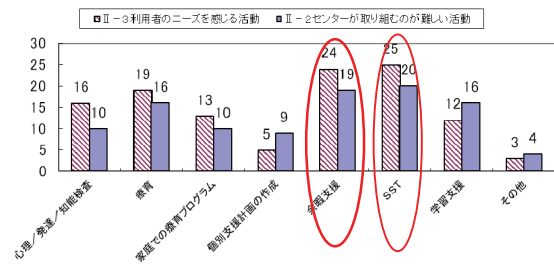
学童期	件
A 障害児入所施設(知的障害)	5
B 障害児入所施設(肢体不自由)	1
C 障害児入所施設(精神(発達)障害)	2
D 障害児入所施設(混合)	2
E 障害児通所施設(知的障害)	6
F 障害児通所施設(肢体不自由)	1
G 障害児通所施設(精神(発達)障害)	4
H 障害児通所施設(混合)	5
I 障害者支援施設・障害福祉サービス事業所	11
J 保健所	5
K 医療機関	39
L 福祉事務所	11
M 児童相談所	34
N 知的障害者更生相談所	1
O 保育所・幼稚園	4
P 学校	58
Q 障害者相談支援事業所	18
R 障害者就業・生活支援センター	1
S 公共職業安定所	1
T 地域障害者職業センター	1
U 若者サポートステーション	1
V 企業	0
W 市町村障がい者就労支援センター	0
X 市町村保健センター	0
Y その他	16

【ライフステージにおける支援の現状】

連携機関 学齢期 (H23,H25年度 発達障害者支援センター調査より)

- 連携する機会の多い機関は、多い順に学校58件、医療機関39件、児童相談所34件であった。
- 個々の相談もあるが、支援の中心である学校からのケース会議、コンサルテーション、講師派遣の依頼が多い。
- 「SSTや余暇支援」といった専門的な支援を求められることも多い。
- 個々の相談は、小学生は家族の関わり方、中・高校生は不登校、ひきこもり状態の関わり方についてという内容が多い。
- 中、高校生は進路の相談も多い
- 高校の校内研修や特別支援教育についての事業協力

発達支援



発達支援における利用者ニーズとセンターの取り組みの困難(発達支援)
(H23 発達障害支援センター全国連絡協議会 調査より)

不登校にいたる経過と支援

- からかいの対象になりやすい
 - 脅かした時リアクションが大きい
- 不快にさせる振る舞い、言動
- 教員や同級生に言われた言葉への不満
 - 積み重なりというより、言われた一言に納得がいけないということが多い。
- 自身の思いと違う結果に対してしんどくなる経験が積み重なる

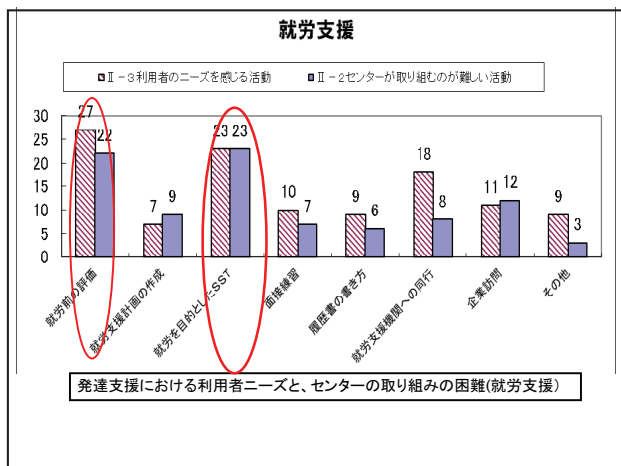
【ライフステージにおける支援の現状】

連携機関 青年、成人期 (H25年度 発達障害者支援センター調査より)

青壮年期	件
A 障害児入所施設(知的障害)	3
B 障害児入所施設(肢体不自由)	0
C 障害児入所施設(精神(発達)障害)	0
D 障害児入所施設(混合)	0
E 障害児通所施設(知的障害)	1
F 障害児通所施設(肢体不自由)	0
G 障害児通所施設(精神(発達)障害)	2
H 障害児通所施設(混合)	2
I 障害者支援施設・障害福祉サービス事業所	18
J 保健所	6
K 医療機関	30
L 福祉事務所	14
M 児童相談所	2
N 知的障害者更生相談所	5
O 保育所・幼稚園	1
P 学校	7
Q 障害者相談支援事業所	34
R 障害者就業・生活支援センター	41
S 公共職業安定所	26
T 地域障害者職業センター	40
U 若者サポートステーション	19
V 企業	8
W 市町村障がい者就労支援センター	10
X 市町村保健センター	12
Y その他	2

<p>【ライフステージにおける支援の現状】</p> <p>連携機関 青年、成人期 (H25年度 発達障害者支援センター調査より)</p> <p>○連携する機会の多い機関は、多い順に障害者就業・生活支援センター41件、地域障害者職業センター40件、障害者相談支援事業所34件となっており、これまで家庭（家族）が支えてきた生活支援の部分を福祉的な支援機関が入って支えている実態が見られる。</p> <p>○公共職業安定所から発達障害者支援センターに紹介を受け、センターから病院受診や職業センター等につなぎ、障害受容などの課題があればセンターに再紹介されてくる</p> <p>○障害特性に向けた支援への手がかりとしての心理判定の実施、二次障害への対応先としての医療機関との連携がある</p>

<p>【ライフステージにおける支援の現状】</p> <p>相談状況 青年、成人期 (H25年度 発達障害者支援センター調査より)</p> <p>○就労の中で、上司の指示がわからない、周囲の社員との人間関係がうまくいかないなどで就労継続が難しいとの理由で相談が見られる</p> <p>○企業からの相談も増えてきている</p> <p>○家庭生活についての相談（家族への暴力行為ひきこもり状態など）</p> <p>○障害理解、自分理解（得意、不得意など）について</p>



<p style="text-align: center;">生活面での困難さの背景には</p> <p>○幼いときからの家族との言葉の解釈の違いや思い込みが暴力に発展する場合がある。 →幼い時に親から言われたことを覚えていて、字義通りに捉えてしまっている。</p> <p>○状況判断の困難さ →・この行動がどのように繋がっていくか分からない</p> <p>○他者の感情理解の困難さ →・相手の言っている言葉の裏の意味が分からない ・表情理解が難しい</p> <p>○感情のコントロールの困難さ →・ストレスの度合いが分からない。我慢できるレベルと出来ないレベル。 ・どうすれば発散できるか分からない</p> <p>○未経験なことへの不安と理解の困難さ</p>

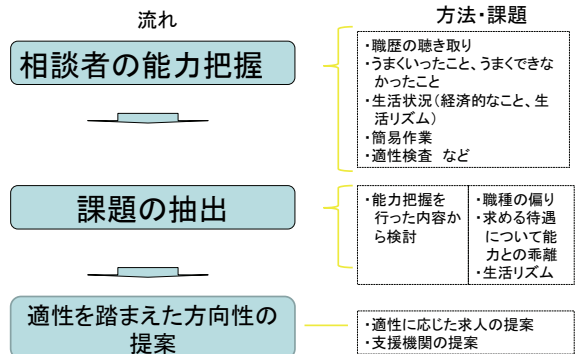
<p style="text-align: center;">クローバーにおけるひきこもりの件数 (H20年度 成人期相談の状況クローバー実態調査より)</p> <p>ひきこもりの経験「有」の53名のうち、37名(69%)が発達障害の診断を受けていた。診断名で多いのはアスペルガー症候群が19名(51%)、広汎性発達障害(知的障害有無不明)9名(24%)であった。</p> <p>ここでのひきこもりは、「さまざまな要因によって社会的な参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)」を指す。</p>	<p>期間(発達障害の診断のある人)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>6ヶ月以上1年未満</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>1年以上3年未満</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>3年以上5年未満</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>5年以上10年未満</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>10年以上</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table>	6ヶ月以上1年未満	11	1年以上3年未満	16	3年以上5年未満	4	5年以上10年未満	4	10年以上	2	計	37
6ヶ月以上1年未満	11												
1年以上3年未満	16												
3年以上5年未満	4												
5年以上10年未満	4												
10年以上	2												
計	37												

<p style="text-align: center;">広汎性発達障害のあるひきこもり状態の人への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本人の特性の把握(家族からの聞き取りより) ・来所に向けた方法の検討 →興味、関心のあることの問いかけ (例)「クイズをやりたいという人がいる」) 健康診断 ・現状の生活パターンへの固執を緩める →何らかの形での接点を持つ (例)メール、訪問、電話など ・家族とは将来の方向性について考えられる方向性を検討する

発達障害のあるひきこもり状態の人への支援

- ・来所時の工夫
 - ・来所出来たことへの評価
 - ・視覚的手がかりを使った面談
 - ・うまくいかなかった場面などの文脈理解の支援
 - 出来事の捉え方、他者感情の理解
 - ・興味のあることを入れていき、来所が継続できるようにする
- ・次回の予定を伝える(何をするか)

就労相談の流れ



対応例(振舞い方を知る)

【経過】

○Aさん(PDDの診断あり)は大学で一人のことが多い。ゼミで一緒になった女子学生(Bさん)が話しかけてくれようになった。

AさんはBさんのことを、「話を聞いてくれる人」と思って、会うと自分の話したいことを一方的に話していた。

Bさんは、話しかけられると都合の悪い時(他の友達と話しているときなど)まで話しかけてくるため、Aさんに話しかけることをやめるようになる。

Aさんは「嫌われたと思い」とも落ち込んでしまい、「大学に行きたくない」と言い出す。

対応例(対人面でのトラブル)

Bさん(相手の女性)に対して話していることについて
-相手がどう思っているか考えてみよう-

Aさん(本人)がBさんに対して話していること
・「今日の授業では、△△という内容で、僕にはよくわかった。でも、先週は何を言っているかわからなかった。…」

BさんがAさんに対して感じる事
・「私の話は何も聞いてくれないなあ」
・「他の人と話しているときに割り込まないでほしいなあ」

Bさんはよく話を聞いてくれるなあ

Aさんとはあまり話したくないなあ

どのように話しかければよかったか考えよう

- Bさんが他の人と話している時:
- 一方的に話さない

発達障害のある人への支援における課題

発達障害の疑いで要フォローとなった児童を持つ家族が困っていることや支援として求めていることはなにか(対象、市町行政機関)

回答
相談機関、医療機関が分からない(ライフステージに応じた相談機関)
進路(幼稚園の選択、普通学級、特別支援学級の選択)
対応の困難さ
利用できるサービスの不足(預かってくれる機関、集団活動、療育機関、相談機関)
障害が個性かの見極めの困難さ
所属園や学校にどのように障害について伝えればよいか
様々な専門機関へ通っているケースは様々な助言を受け、混乱する。問題を共有できる仲間がほしい
家族の理解が難しい(祖父母の理解)

ひょうご発達障害者支援センター 平成21年度 早期支援体制調査より

地域の保育園、幼稚園の支援を行う上で、課題と感じることは何か。(対象、市町行政機関)

※自由記述を範疇化した。複数回答有。回答の多い順

回答
保育園や幼稚園において発達障害の理解に格差がある
保育士、教員の質の向上
保育園や幼稚園において、加配等の十分な職員配置できない
保育園や幼稚園への支援スタッフの不足で十分な支援が出来ない

ひょうご発達障害者支援センター 平成21年度 早期支援体制調査より

発達障害児(者)の相談支援について、他の障害児(者)の支援と比べて難しさを感じる事(対象:市町相談支援事業所)

※回答数の多い順

回答
家族の理解が得られにくい(家族にも発達障害の疑いがある)
適切な(福祉)サービスがない
本人とコミュニケーションを取ることが難しい
本人、家族に困り感がない
本人も困っているが何に困っているかわかっていない
医療機関の不足
就労について
関係者間の問題意識に差がある
ひきこもり
複数の相談機関を利用する

ひょうご発達障害者支援センター H22年度 相談支援事業所調査 より

発達障害のある人への支援における課題

○早期発見、療育について

- ・ 健診
- ・ 児童発達支援事業所の増加と質

○学習支援

○家族支援(ペアレントトレーニングの普及)

○高等教育機関での支援

○ひきこもり支援(日中の活動場所が不足)

○企業への支援(高度な職務内容に対する支援が困難)

○夫婦生活の支援

○診断、診察のできる医療機関

地域生活を行う上で、様々な機関での理解が、発達障害のある人たちの
住みよいまちづくりに繋がる

平成26年度
発達障害支援スーパーバイザー
養成研修 前期集合研修

『受容的交流療法』

社会福祉法人 嬉泉
世田谷区発達障害相談・療育センター
センター長 沼倉 実

1. 自閉症のとらえ方

「自閉症をどう考えるか」

まず、自閉症の人を同じ人間として対応する人間は社会と関係をもって生きているので同じ社会の中で生きるということを考えるそれは、人間同士としての関係を持つことであるしかし、ここに、容易に社会との関係をうまく持てない人がある。自閉症の人もその中にいるそれを「**本人の障害**」のためと見るだけでなく、「**社会の障壁**」とも見る。
(石井、2012)

医学モデル

社会モデル

一般的には・・・

- 社会の人たちは外側から見えることにとらわれやすい
- 一見して社会のフレームに馴染まない人を否定したり、嫌って排除したくなりがちの社会にいる
あるいは、社会のフレームに一方向的に合わせようとしがちである。
- 本人のみを対象にとらえてその対応を考えやすい。

支援者として大きな視野が必要
社会モデルへの発想の転換

受容的交流の原理

ART (Acceptable Relationship Theory)

内的世界へ注目して安心できる主体的生活への支援

心理的特性をとらえ、本人に分かるように伝える
(心の奥にある衝動・感覚・情緒・快感・不安・抵抗・トラウマ・こだわり・自己認知などを見取って)

自分を理解してくれる人への信頼

安心できる状況

適切な理解

共通の心理的世界を作り、社会につなぐ努力をすること

自閉症の人がたどりやすい人生
の困難な道筋

(石井、2008)

- ①脳機能によって生じる人間関係の困難性
- ②母子の愛着（相互）関係の遅れ
- ③環境からの過剰な圧力とその防衛
- ④非社会的な生活形成
- ⑤困難な社会生活

自閉症の人の 社会参加のしにくさ

これまでの生活歴において、本人と周囲との関係の歪みから生じてくる不利な状態（生きにくさ）が長年にわたり続いている人が多い

- 多数派の人たちの常識や価値観との違い
- 無理解や誤解
- 絶ない注意や叱責
- 頼れる存在のなさ、孤立、強い不安状態

➡ 本人にとってのさらなる困難な状況へ

- ・ 対人被害感や他者への攻撃的な言動
- ・ 空想世界への没頭、こだわり、頑固
- ・ さまざまに困難な精神症状…

人との 関わりから感じる事

- 人に気を遣い、緊張することが多い。そのため心身ともに疲れやすい
- 不安が強い。他人は想像もしないところに不安や脅威を感じやすく、容易に解消できない
(今までの経験から、失敗すること、できないことへの過度の不安がある。安心して居られるまでに時間がかかる)
- わかることや納得できることには、誠実に真摯に取り組む
- 本人が安心、安定できると、振る舞いや人への関わり方が変わってくる
(認識の中に人や周囲の状況が入ってくる、見えてくる。できることが増える。)

2. 療育支援のあり方

～療育を改めて考える～

自閉症療育の基本原則

「自分と外の境界が作りにくい人の世界」

自閉症・アスペルガー症候群の人が他人と関わりにくい理由は、その内的世界が見えにくく、他人から関わりにくいことと、本人が刺激の整理が出来にくいゆえに、やりとりする機会がきわめて少ないため

早期からやりとりする人間関係の経験を増やす

知能、年齢に関わらず自閉症療育の基本原則

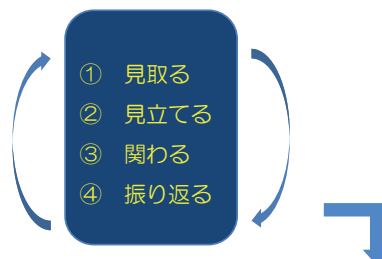
人間関係のやりとり

- 知的障害のある自閉症の人...
うまく言葉が使えないため自己の表現が身につかない
- 高機能広汎性発達障害の人...
言葉は使えるが人との関係において適切に使えない

人との関係がうまく築けない（関係発達の遅れ）

感覚・情緒・認知・思考といった各種レベルでの心理的働きを相手に合わせて調整し合える
意志決定支援などの人間関係支援が必要

受容的交流を進める過程

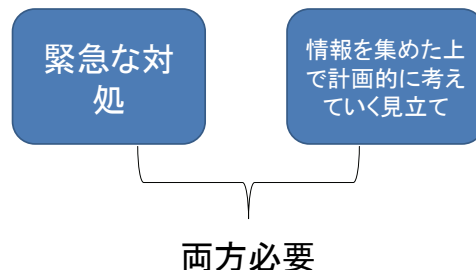


自他不分離の心境から、相手と自分とともに自己認知・自己統制が進むように関わる（石井2012）

見取る:こちらから見て相手の何を捉えるか

- ・感覚的な面への注目
 - * 過敏さと鈍感さ、注意の集中と拡散
 - それらは環境によって違うのか
- ・情緒の読み取りと対応
 - * 静かな不安、迷い、葛藤
 - 外から見えにくい情緒を前後の文脈から考える
- ・危険さを伴う情緒
 - どのように対応するかも含めた読み取り
- ・認知、行動の仕方から捉える
 - * 課題と自分の関係をどう見ているか？
 - * シングルフォーカス、視野が狭い
 - * 動かない・変わらない/環境によって変わりやすい

見立てる:何をどうすることが今のぞましいか



関わる:相手にどう対していくか、話していくか

- ・相手を中心としたストーリーで考える
- ↓
- ・こちらからどう関わり、共通世界を作っていくか
- ↓
- * 同化=共通の体験をしていく
- * こちらが想像していたことと事実(現実)がどう合っているか、合っていないかという、不一致から一致への過程を体験していく

見取り(感覚、情緒、認知)との相互作用

＝ 映し返す

振り返る:自分の振る舞いが相手にとってどうであったか

- ・スーパービジョンなどを活用しながら、自分について振り返る
- ・自らの支援者としての成長、変容に視点を置いた検討

3. 相談・療育支援の心得

(1) 本人への支援のあり方

①本人を知ること<基本的姿勢>

- ・気持ちを受け止めること、本人の立場から考えること
- ・話をきくこと(言葉尻にとらわれない、こだわらない、言葉の奥にある気持ちをくみ取る)
- ・言わずにはいられない、やらずにはいられない「言動」をどう捉えて理解するか

②本人を追い詰めない (本人が安心して居られるために)

- ・実はできないことを要求していないか？
教えていることが伝わっているか？
- ・言って聞かせることが、時には対立になることもある
- 問い詰められることの苦手さがある、失敗や批判に対する耐性の弱さがある
- パニック、空想、防衛、攻撃へ

③理解者になる、理解者をつくる

- ・過去のつらい体験（いじめやからかいなど）があること、理解されないことが多くあったことを前提として、今までの生活での苦労を想像しながら、いたわりの気持ちで好意的に対応していく

→こちら側の気持ちの持ちようにより
関係性も変わってくる

- ・本人の物事や人、状況の見方（認識の仕方）と関わり方、興味や関心、くつろぎ方、自分の気持ちを表現する仕方、などを知る

④話の聴き方、伝え方のポイント

- ・安定した態度（パニックと一緒に巻き込まれない、相手が興奮していてもこちらが落ち着くように心がける）
- ・急かさない、何を話そうとしているのか焦らずよく聞く
- ・できるだけこちらの姿勢を低くし、緊張を解き、話しやすい雰囲気をつくる（穏やかに、短く、ゆっくり、丁寧に…）
- ・代弁する、（場面の展開、変更などを）予告する、丁寧に解説をする（物事や状況の流れが分からないことが多い）、根気よく言い聞かせなだめる、納得をとりつける
- ・できていることを言葉にする（自分では自覚できていない、実感できないでいる場合がある）
- ・相手が話す内容をこちらが理解しているか、確認する機会を多くする。

⑤環境調整

★自己コントロールが難しい

→本人のみに変容を求めない

→人的な配慮（対応の工夫）の他に物理的環境の調整、制限をする

本人が苦手とする刺激（音や匂い・光など感覚的なもの）を制限、調整をする
環境調整を積極的に取り入れる

本人による相談の多くは…

★本人の気持ち

「大変さを分かってもらいたい」

- 何が大変か、どんな苦労をしているのか、どこに困難があるのか聞きとる
- 人に分かってもらえたことで気持の整理ができる、何をすべきか考えることができる
- ①自分で考え整理でき、気づいていける人
→確認、支持する（言葉で伝える）

②自分では思いつかない、気づきにくい人

本人にとって分かりやすい説明や提示を試みる

→“言わないでも分かる”“察してほしい”という要求は難しい

→具体的にすべきこと、できることを提案する
（言葉のみでなく目に見える形にする、具体的にやってみせる、手順を提示するなど、本人にとって分かりやすい説明や提示を試みる）

→できることを選ぶ

→体験する

(2) 家族支援

知的障害の有無にかかわらず、
自閉症スペクトラム障害の人の家族支援

家族支援のあり方その1

- 親の主訴のみで相談をすすめない。
- 親自身の気持ちの安定が大事
- 親の不安や期待への理解に努めながらも、親の我が子への対し方を整理する。我が子に対する親の「好意」をみとる
- 親が主体的・自律的に生活を進めていくことができるよう、また本人の代弁者、社会への仲介者に親自身がなれるように。→**それぞれの家族機能を尊重する**

家族支援のあり方その2

- 障害名のみに着目せず、本人の生活状況を具体的にとらえるようにする。本人の生活実態から、本人の苦労の内容を親と一緒にとらえていく。
- 本人や家族が安心して関わるができる場や人の開拓を行う。→**人間関係網の形成。親の孤立化を防ぐ**

4. 行動障害の支援

(1) 行動障害の見取り

- 本人の内的な心身の状態、環境、人間関係、時空間等の様々な条件の絡み合い。
 - ・人によって原因や誘因が異なる。
 - ・その時々で条件で原因や誘因が変化する。
- コミュニケーションが苦手な表現の仕方のバリエーションが少ない自閉症の人たちには慎重な洞察が必要。
 - ・たとえば、同じように見える自傷行為でも…先の見通しがつかずに不安な精神状態である / お腹が痛くてつらい状態である

①行動障害の原因・誘因についての仮説の見立て

- 行動障害の状態の人は特に不安定で過敏な状態におかれているため、ポイントを外した関わりはさらなる行動障害の誘因となることもある。
- 自閉症の人たちのものの見方や考え方、感覚が一般的なものと違っていることが多い。



支援者は自分の持っていない感覚にも留意して、幅広い見地や可能性から適切な観察と洞察をもとに仮説を立てなければならない。

②二次的障害に関して

～かかわる際の注意～

- ・対人関係のあり方により、行動障害などの出現、やり方が変わることが多い
- ・迷惑度もさることながら、周囲の人の気持ちを苛つかせる意味合いの強さ
- ・本人の意図が伝わりにくい表現方法
- ・独特な記憶の仕方との関連

* 本来の行動の意味(例)

- ・訴えとして
- ・表現力の弱さ、伝わらないもどかしさ
- ・手持ちぶさた
- ・頼るものがない不安定さ
- ・自暴自棄の状態
- ・自律困難
- ・身体的症状

* 推測される本人の状態(例)

基本的には
困っている
どうにかしたい

表現したいけれど、出来ない
伝わらない
どうにもならない
方法がわからない
理解できなくて不安
納得できない
支えてほしい・助けてほしい
自信がない
嫌なことを思い出した……
etc.

* 推測される本人の状態(例)

非常に過敏になっている

・気持ちを動かされることに対する
防衛や不安
・気になって仕方がない
・焦る

本人にも自分の気持ちの
動きがわからない

・漠然とした不安や不満の処理(イ
ライラ)
・頼りたいー頼れない
・近づきたいー近づけない
・興奮……

* 対応する支援者の状態(例)

同様の心理状態に陥ることがよく観察される

↓
実際の表現

怒る、強制する、動かす、隔離する
見張る(過敏)、やる気をなくす・あきらめる
不安定な精神状態、もどかしさ
胃潰瘍、うつ状態……etc

* 両者間に起こりやすい状態(例)

・互いに安心感がない、対していて緊張する
・互いに脅かされる
・プライドのぶつかり合い
・本当はやりたくないことを、思わずやってしまう
・互いに自分を見失う
・興奮・焦り……発想が狭くなる、奇異な行動
・互いに見張りあう、互いに離れてしまう
・力の押し合いになる

⇒さらにこじれた行動障害を生み出す可能性大

③行動障害の見取りのポイント

1. 自分で行動障害をコントロールしているのか、意思とは関係なく行うようになってしまっているのか。
2. 行動障害とならざるを得ない精神状態(パニック)なのか、意図をもって行っているのか。
3. 行動障害の意図があるとすれば、それが内に向かっているのか、外の状況や人に向かっているのか。

4. 行動障害の目的があるとすれば、内的な感覚の解消なのか、外界へのアピールなのか。

- ①内的な感覚の解消だとすれば、発散なのか、打消しや紛らわせるためのものなのか。
- ②外界へのアピールだとすれば、意図が明確になっているのか、混沌としているのか。
- ③意図が明確になっているとすれば、援助を求めているのか、理解や意思の伝達を求めているのか、周りの変化を求めているのか。

5. 行動障害の他にストレス解消の手段がないのか、行動障害のもたらす効果を知って行っていると考えられるのか。

6. 行動障害が、その時の状況と繋がっているものなのか、それ以前の状況と繋がっているものなのか、以後の状況と繋がっていくものなのか。

- 6-①. その時の状況と繋がっているとすれば、そのこと自体が原因なのか、状況からフラッシュバックされることや習慣化されたことが原因なのか。

- 6-②. それ以前の状況と繋がっているとすれば、解消されずにため込んでしまったものなのか、フラッシュバックなのか。

- 6-③. 以後の状況と繋がっているとすれば、情報の質・量のことなのか、不安・不満のことなのか。

(2)行動障害への対応(関わり)

①安心して過ごせる生活の保障の支援をする (生活の場における刺激の制限)

- ・刺激への過敏さ、状況理解できないことからの混乱、こだわりなどから不安定になりがち。
- ➡ 環境的に工夫し、相互に混乱することが少なく分かりやすい状況を作る。

②安心感の持てる人間関係の形成

- ・刺激や不安を受け止めきれず、不安定になりがち。
- ➡ ストレスの自己処理以外の解消の手立てにつなげる。

③自発的に行える活動の保障の支援 (健康的な精神の形成)

- ・生活に見通しが無い、能力に見合った活動ができないなど過去の生きにくい経験から、人からの働きかけや置かれる状態への自己防衛が強い。

- ➡ 心身共に充実するような活動を提供することで健康性を引き出す。

④行動障害が起きた時の支援

- ・やむを得ず制止しなくてはならない行動には、対立的な姿勢にならずに、本人の気持ちの流れを受け止め、よく説明や代弁をしながら納得や自制ができるように粘り強く関わる。

- ➡ 自分でコントロールできたという経験になるような関わりを工夫する。

援助行為の理解と方向（振り返り）

1. 行動障害そのもの（行っている好ましくない行為）に目を向けるのではなく、その行為に伴って表出されている感情に優先して目を向け、その心境を見取っていく。
2. 援助者は、努めて平静心を保つこと。
3. 行動障害の激しさや内容に惑わされず、発している感情を冷静に感じ取ること。
4. 行動障害を起こす前の状況に存在する刺激と要求をつぶさに感じ取ること。

5. 行動障害を起こしているときの感情、また、周りの刺激などの情報から、全体の生き方（人間性）を想像し、仮説を立てる。その仮説に従って、状況や関わりを工夫していく。
6. まず相手の状況を自分の身に置き換えて共感するように努め“そうだったのか”と受け入れることが必要。
7. 行動障害を起こさずにはいられなくなってしまった本人の気持ちを思い、対応していく。

8. 発語のある人に対して、言語理解の程度を見誤りやすい。発している言語と理解出来ることが一致していると思ひ込んでしまいやすい。

逆に、発語の無い人に対して、言語理解ができないという誤解、言語理解の程度と自己規制の程度が一致しているという誤解をしやすい。

9. 自閉症者は年齢や行動と内面の発達のずれが激しいことが極めて多い。
特に自我の発達が遅れていることと（遅れているために）、感情・情緒・情操等の分化がされていず混然としている傾向が強いことを知る。

10. 視覚支援、わかりやすい言葉を現実結びつのように示して分かってもらう努力をする。

11. 相手が、自分の内面や示してきた言動へのふり返りを、なるべく早く、落ち着いてきた時に行う。

12. 本人の立場、視点、考え方から見た援助者自身を顧みて、自覚すること。

構造化された指導や 支援のアイデア

構造化とは

「いま何をする時間なのか」
「次はどんな活動をおこなうのか」
「この活動はどのようにするのか」
「どこまでやるのか」

という活動や世の中のことや仕組みなどを、
その人に合わせてわかりやすく示し整える
方法

自閉症の学習スタイルに着目

- 視覚的に情報を記録し考える
- 中枢性統合の弱さ（組織化の弱さ）
- 独特な注意の向け方
- 実行機能の困難さ（行動する段取りがうまくとれない）
- 感覚刺激の偏り
- 心の理論の弱さ（相手の感じ方を理解できない）

なぜ構造化が大事なのか①

- 自閉症の人の理解を助けるため
- 不安や混乱を防止するため
- 自分で判断して自立した行動するのを助けるため
 - 自立は生活に重要なだけでなく、自尊心も育てる
 - 自立は自発性を高めて行動できるようになる
 - 自分で行動ができると物事の見通しがとれて、気持ちもコントロールできるようになる

なぜ構造化が大事なのか②

- 自閉症の学習スタイルに配慮して、上手に構造化の手がかりを使うことで適切な情報を与える
- 構造化の使用により学習や訓練を促進する
- 構造化のアイデアを使用して適切な行動がとれるようになると、他のいろいろな場面で使えるようになる（汎用性）

構造化を取り入れる前の注意

- 構造化を使って“何をやりたいのか”“どうしたいのか”を明確に説明できますか？
 - 「施設での作業をもっとやってもらいたい」
 - 「職員が考えるスケジュール通りに動いて欲しい」
 - 「勝手に外に出て行かないように」
 - 「不適切な行動を抑えて欲しい」など職員の都合で導入すること
- ビジュアルドライブ（視覚刺激の条件反応）

構造化の種類

1. 物理的構造化
2. スケジュール
3. ワークシステム
4. 視覚的構造化
5. ★ルーチン（効果的な戦略）

1. 物理的構造化

①教室の組織化，家具の配置

- 明確な物理的、視覚的な境界を設定する
- 活動と場所の1対1の対応
- ここでは何をするかをわかりやすくする
- 場面や領域を変えることで活動を切り替える
 - ☆遊び(休憩)の場所
 - ☆作業，勉強の場所(1対1、自習)
 - ☆おやつ場所、グループ活動の場所
 - ☆トランジションエリア(スケジュールの提示)

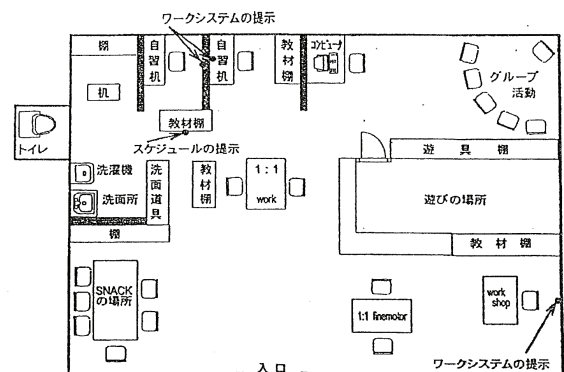
②妨害刺激の軽減や除去

- 注意や注目の問題があるため
- 重要な情報に注目でき，集中しやすいようにする
 - ☆余計なものは片づける
 - ☆空間の調整・遮断(視界の範囲を限定する)
 - ☆音・光・照明・周囲の動き・時計やタイマーの位置etc

②空間の広がりに関する理解や範囲

- ③何がどこにあるのか，活動領域
- ④家具サイズ，材料のアクセス，動きやすさ，動線

ノースカロライナ小学校低学年クラス



2. スケジュール

- ①時間や予定を構造化する
- ②どんな活動があるのか，その流れがどうなっているかを視覚的に示す
- ③時間的な「見通し」をもってもらおう
 - ☆見通しのない不安やイライラを軽減する
 - ☆見通しがあると、「待つこと」や「変更」ができる
 - ☆スケジュールを自己管理することで自発的に行動

A. スケジュールのタイプ

- ☆カード，シート，手帳，固定，携帯，PC，持歩き
- ☆デイ／週間／月間スケジュール

B. スケジュールの個別化

評価に基づくこと

①何で伝えるか	実物、絵や写真、文字（+時計）
②どれくらい先まで	次の活動のみ、部分的、1日全体
③活動の流れの示し方	上から下、左から右、日めくり式
④どこで確認するか	トランジションエリアの有無

ノースカロライナ小学校低学年・高学年クラス

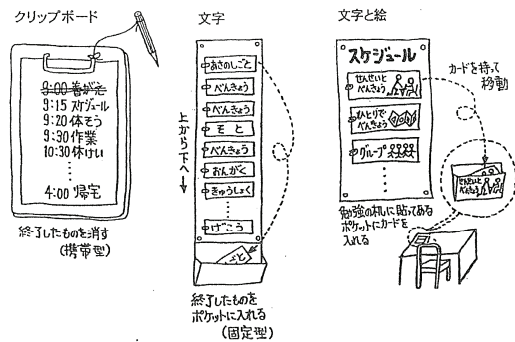
スケジュール(例:Scottie)

Scottie WEDNESDAY				
group				
1:1 work				
music				
independent				
snack				
computer				
workshop				
1:1 finemotor				
ABC				
lunch				
grooming				
rest				
playground				
home				

時間	時間割	例:月曜のKen
8:30~9:00	個別学習	自習(作業)
9:00~9:30	個別学習	1:1(教科)
9:30~10:00	個別学習	自習(教科)
10:00~10:15	スナック	おやつ
10:15~10:30	外遊び	外遊び
10:30~11:00	個別学習	自習(構造的遊び)
11:00~11:30	個別学習	1:1(作業)
11:30~12:00	個別学習	自習(教科)
12:00~12:30	昼食	昼食
12:30~1:15	歯磨き・家事	歯磨き・皿洗い
1:15~1:45	運動	運動
1:45~2:10	集団行動	音楽
2:30~2:45	帰りの支度	帰りの支度
2:45~3:00	グループ	帰りの会

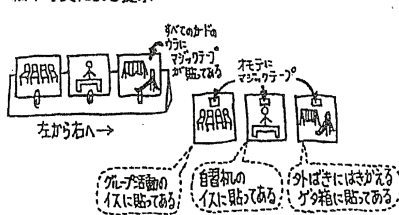
項目は実例に準拠。運動・調理・社会見学・音楽・歴史・絵画

スケジュールの形態(例)



スケジュールの形態(例)

絵や写真による提示

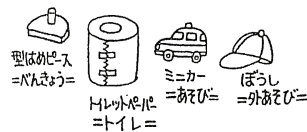


実物を貼ったカード

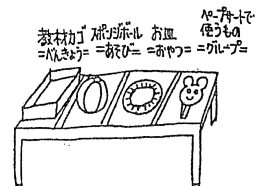


スケジュールの形態(例)

実物を手渡し



実物を並べて提示



3. ワークシステム

その場所で実施する一連の活動を自立しておこなうために情報をわかりやすく系統的に伝える内容

- 「何をするのか」という情報
- 「どのくらいするか」という情報
- 「どうなったら終わるのか」という情報
- 「終わった次は何をするのか」という情報

- ①進め方がわかることで意欲や動機が高まる
- ②“終わり”を明確にすることで、見通しと活動の切り替えることができる
- ③他の場所でも使用できる汎用性の高さ

A. ワークシステムのタイプ

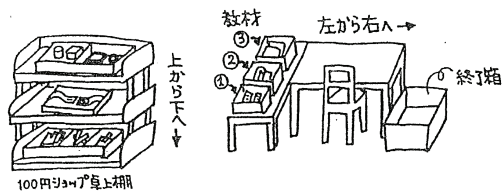
- ☆左から右
- ☆マッピング(色・形・文字・数字・絵など)
- ☆単語や文章
- ☆終了箱

B. ワークシステムの個別化

- ☆評価に基づくこと

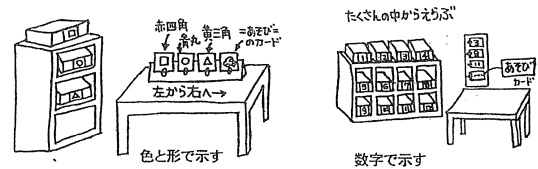
ワークシステムの形態（例）

実物提示のワークシステム

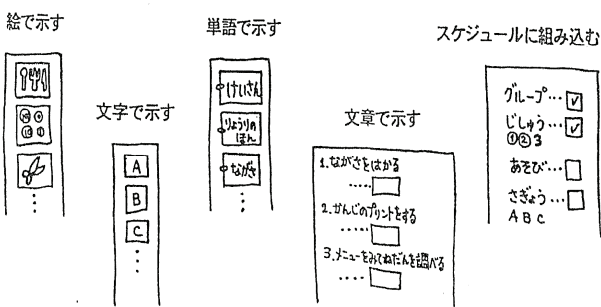


ワークシステムの形態（例）

マッチングによるワークシステム



ワークシステムの形態（例）



4. 視覚的構造化

さまざまな説明や指示などの情報を視覚的に伝える手がかり

- 赤＝止まれ、黄＝注意
- こ本人専用のマークや色、名札
- 上→下、左→右の配列、手順のマニュアル
- 標識やピクトグラム
- 道具の配列や目印
- ① 情報の簡略化により認知的負荷を減らす
- ② 確認がしやすい。記憶の残りやすい
- ③ 言語指示による理解の曖昧さを補助する

A. 視覚的指示

- ☆ 課題を達成するための流れややり方を視覚的に示す
- ☆ ルールや約束や目標などを図・表・絵・写真で提示
- ☆ ジグ（立体・絵）の使用、作業指示書、完成見本など

B. 視覚的明瞭化

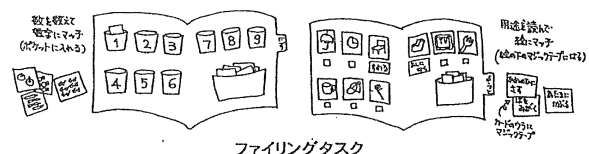
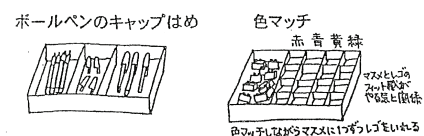
- ☆ 重要な情報を視覚的に強調すること
- ☆ 容器の使用、色・印をつける、場所を区切るなど

C. 視覚的組織化

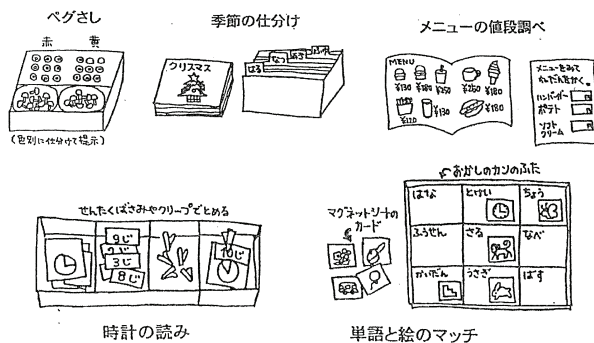
- ☆ 複数の情報をコンパクトにまとめる
- ☆ 作業材料の配置、容器の工夫
- ☆ いつも同じ手順（上から下／左から右の手順など）

視覚的組織化（visual task organization）

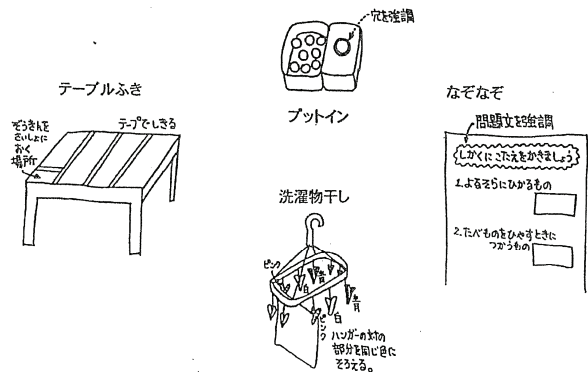
作業手順の通り（左→右の流れ）にあらかじめ材料をセット



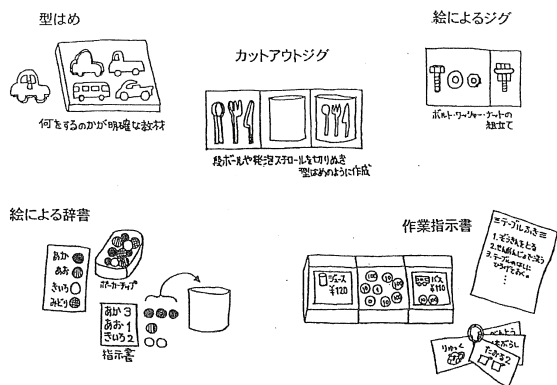
視覚的組織化 (visual task organization)



視覚的明瞭化 (visual clarity)



視覚的指示 (visual instruction)



5. ルーティン (習慣化・同じ手順)

いつも同じ手順で身につく習慣化行動。うまく活用すると効果的な学習ができる。

- ① ワークシステムやスケジュールもルーティン
 - 左から右, 上から下の系列。カードを外してポケットに
 - 活動が終わると, 自分のスケジュールを確認する
- ② 生活の中で適切なルーティン活動を取り入れる
 - 朝来たら、荷物を置いてから遊ぶ
 - 遊具を使用したら片づける
 - 食べ終わったら食器を下げる

構造化はひとりひとりの評価は基づく

評価に基づかない構造化は、視力検査をせずに眼鏡を作るようなもの

- 直接観察やサンプル活動の評価で
 - 強み, 長所
 - 興味関心
 - 芽ばえのスキル(やろうすること)
 - 学習スタイル
- 「理解できるか」「使いやすいか」「機能的か」
 - 構造化の形でなく, 理解の度合いを見ること

構造化された支援が目指すこと

- 構造化が先にあるのではなく, 自閉症の人たちがどのように世の中を見て, 何が不安なのかを私たちが理解することが前提
- 世界をわかりやすくすることが「構造化」。わかることで自閉症の人の不安や圧倒されてしまうことやストレスを軽減させ, 自立へ導くことができる
- 世の中の人と自閉症の人をつなげるツール。

「自閉症支援の基礎となるもの」 ～自閉症療育のコペルニクスの転回～

日本財団助成事業
発達障害支援スーパーバイザー養成研修
平成26年7月20日(日)
全国自閉症者施設協議会
会 長 五十嵐康郎

自閉症児との出会い(1964)

自閉症児との出会いは、高校3年生の時にボランティアとして訪問した知的障害児の施設でした。東京オリンピックの年で席に大人しく座っていないこと、指示に従わないこと、勝手に黒板一杯に何匹も、何匹も魚の絵を書き連ねて、一匹一匹に細かく鱗が書かれていたことが印象に残っています。

ひゅうまん運動創設(1968)

在学中に知的障害児施設が不足していることを知って、知的障害児施設を創ることを思い立ち、大学を休学して「ひゅうまん運動」を創設し、多くの学生や社会人を巻き込みました。挫折も体験しましたが、当時の仲間が知的障害福祉の世界で現在も活躍しています。

田村一二先生(滋賀県・一麦寮)

近江学園や一麦寮、信楽青年寮のある滋賀県は戦後の知的障害福祉のメッカとして知られていました。糸賀先生は『**この子らを世の光に**』という言葉を残して既に亡くなれていましたが、一麦寮の田村先生、信楽青年寮の池田先生にお会いし、しばらくの間一麦寮で居候をしました。田村先生から『**障害のある子のおかげで私たちの存在がある**』と教えられました。
『日本のノーマライゼーション思想の夜明け』

福井達雨先生(滋賀県・止揚学園)

クリスチャンでもある福井先生は『**支援者である自らが最大の差別者であり、差別者として謝り続ける**』との思想から義務教育を受ける権利の保障を求めて県庁前に座り込み、ハンガーストライキをするなど、果敢に差別と闘い続けました。福井先生から障害福祉に関わる立ち位置を学びました。一麦寮も止揚学園も利用者の大半が自閉症でした。

『**何もしないことが差別＝合理的配慮**』

石井亮一先生(東京都・滝乃川学園)

田村先生の紹介で、1971年に滝乃川学園に就職し、創立者の石井先生の著作との出会いから『**どのように素晴らしい理論であっても、愛がなければ価値がない**』『**私の理論を金科玉条のごとく守るのは最真の引き倒しである**』等の言葉に感化を受け、セガンの「生理学的教育」やモンテッソーリの「オートエディケーション」に学びました。

滝乃川学園児童部重度棟の状況(1971)

入り口に鍵がかけられ、天井裏がむき出しで、窓にベニヤ板が張られ、昼間から薄暗く、大小便や汗の織り交ざった異臭が漂う20坪ほどの老朽木造家屋の中で9名の自閉症児が生活していました。奥の部屋には一人の子どもが下半身裸で顔や体に大便をなすりつけながら奇声を上げていました。24時間拘束、13時間半勤務で着任の前年の1年間に15名の職員が退職したと聞きました。

『劣悪な環境と過酷な労働条件』

行動障害のつぼ

一人の子どもが他の子どもの傷口を引き裂いたかと思えば、もう一人の子どもは別の子どもの耳を引きちぎって出血。治りきらない自分の傷口を引きむしっている子ども。天井裏を走り回る子ども。一寸した鍵のかけ忘れや破れも見逃さずに飛び出していなくなる子どもたち。

環境整備の取り組み

まず初めに取り組んだことは、子どもたちにとって清潔な暮らしやすい場にあること。五寸釘とタワシ、バケツ、雑巾で掃除をし、窓のベニヤ板をはがしてガラスを入れ、金網をはって通気を良くする。天井板や壁板を貼り、布団を干す。天井にガスストーブを設置して暖房する。押入れに赤外線ヒーターを設置して衣類や布団を乾燥しました。

『まずは環境整備』

重度棟解体、混合処遇へ

散歩に連れ出したり、自作の教材を作って教室で指導したり、宿泊訓練などの行事に参加しました。職員や子どもたちの間に重度棟に対する強い差別意識があったことから、中軽度棟との交流を経て重度棟を解体し、混合処遇を実現しました。こうした取り組みの中で、排泄や着脱衣が自立し、行動障害が改善され、表情も穏やかになり、鍵付の生活から開放されました。

『より豊かな生活保障をめざして』

生活見直しの取り組み

お風呂に毎日入れるようにする。小集団で瀬戸物の食器を使って食事をする。施設の中だけで生活を完結させるのではなく、個別に外出する。ノーマライゼーションは日本ではまだ一般に紹介されていませんでしたから、私もノーマライゼーションに対しての知識はありませんでしたが、『**当たり前の生活**』を保障することで子どもたちが成長・発達すると確信しました。

職員の意識改革

福祉思想や制度という視点から取り組んできた中で、労働条件が良くなれば、職員の利用者への対応も変わるだろう。いわゆるノーマライゼーションを実践すれば利用者が幸せになるという発想でとらえていましたが、残念ながら職員の意識は変わりませんでした。その後自閉症の子どもたちが増えていったのですが、結局そういう意識では自閉症の子どもと関われない。『**自閉症に合った専門的な施設**』があるのではないかという話が職員の間でありました。

石井哲夫先生(東京都・嬉泉)

私自身が「子どもたちとどのように向き合えばいいのだろうか」という、実践上の壁に突き当たっていた時に、千葉県の袖ヶ浦のびろ学園で行われていた自閉症実践療育セミナーに参加しました。あの時初めて「今まで出会ってきた人たちは自閉症だった」ということと、石井先生の『**受容的交流療法**』を知りました。それまで私は関係性という視点を全く認識していなかったのです。

受容的交流療法

受容とはクライアントへの深い共感と理解をめざし、かつ人生の価値をクライアントの成長発達の道筋からとらえていくという態度であり、全面的に許容するのではなく、社会人としての立場を持ちつつも、過剰な要求をしても不適応を助長するだけであることに気づいているから状況を変えたり、心境の変化を待ちながら、優しく可愛がり、楽しく遊ぶという情緒的交流や生活の流れに沿った簡単な要求の交換などの課題から、すこしずつ課題を積み上げ、方向づけをしていくのである。自閉症療育のみならず、親子関係、夫婦関係、同僚や友人関係においても貴重な捉え方だと思います。

関係性の視点

生活見直しや就学運動に取り組んでいましたが、実際のところ一人ひとりの子どもとどう関わればいいのかという事は正直よく分からなかったのです。「受容的交流療法」にふれて初めて関係性の視点に気づいたことで毎日の支援や業務が180度変わりました。それまでは「忙しい」「忙しい」と流れ作業のように日常業務に追われて「だめ」とか「早くしなさい」と子どもが何か訴えてきても取り合う余裕がなかったのですが、『**きちんと受けとめて時間が経たなくても誠実に対応**』していけばいいのだという単純な当たり前のことに気づきました。

理想的な自閉症施設を目指して

- ・自閉症施設設立を決意(1987)
- ・自閉症者施設設立発起人会設立(1988)
- ・大分県に施設整備計画協議書提出(1989)
- ・社会福祉法人萌葱の郷設立(1989)
- ・自閉症施設めぶき園新築工事着工(1990)
- ・自閉症施設めぶき園開園(1991)

『**多くの人の協力で困難を乗り越え実現**』

ミラーニューロンの発見(1996)

イタリアのパルマ大学のジャコモ・リゾラッティを中心とする神経生理学者のチームがマカクザルの脳の神経細胞の活動を計測中に研究者たちがジェラートを食べ始めたところ、サルの神経細胞が活動する音が聞こえた。もともとサル自身がエサを口に持つときに活動する運動性のニューロンだったが、サルは大人しく座っているだけでも関わらず他人の動作を見ることがニューロンが活動した。**他人の行動を真似るかのように神経細胞が活動することからミラーニューロンと名づけられた。**

模倣による学習

アメリカの心理学者アンドルー・メルツォフは、生まれたばかりの赤ん坊がごく簡単な手ぶりや顔の表情を本能的に模倣することを実証した。

大人が赤ん坊の真似をすれば、赤ん坊は喜ぶ。赤ん坊は模倣ごっこが大好きなのだ。親と赤ん坊がお互いに真似をしあうことで発達中の脳のミラーニューロンが活性化されると考えられる。

言葉のない幼児どうしが遊ぶときはたいてい模倣ごっこをする。**模倣ごっこは言語コミュニケーションを促す役目を果たしている**と思われる。

共感のミラーニューロン仮説

なんらかの打撃が襲ってきて、いままさに誰か別の人の脚や腕に振り下ろされんとするのを見ているとき、私たちは自動的に自分の脚や腕を縮めて引っ込める。そしてついに打撃が与えられたとき、私たち自身もどことなくその打撃を感じ、被害者と同じように苦痛を覚える。(アダム・スミス1759)

他人が感情を表しているところを見ると、私たちのミラーニューロンはまるで私たち自身がその表情をしているかのように発火する。この発火によって、同時にニューロンは**大脳辺縁系の感情をつかさどる脳中枢に信号を送り、それが私たちに他人の感じていることを感じさせる。**

共感のミラーニューロン仮説

人間は互いに好意を持っているほど、互いに模倣する傾向が強い。

母親が赤ん坊の表情に表れている感情を見てミラーリングし、赤ん坊との模倣による相互作用によって、赤ん坊の脳内のミラーニューロンが形成される。

他者との相互作用は自己認識の発達能力を促進し、社会規範への理解をもたらし、孤立はその能力を阻害する。

自閉症のミラーニューロン仮説

のちに自閉症を発症する子どもは、母親や父親といった、自分の面倒を見てくれる人物を見ない傾向があり、したがって自分の動きとそうした人々が自分を模倣している動きとを結びつけることができない。**自閉症児の決定的な神経障害は、ミラーニューロンの機能不全であり、ミラーニューロン領域の活動と自閉症度には明らかな相関関係がある。**

自閉症治療の可能性

ある子どもがほかの子どもたちと交わっていないと見るや、サリー(治療者)がその子どもの模倣を始め、**感情豊かに楽しく相互作用をする。すると即座に、その子はサリーに対してはるかに反応が大きくなり、感情的に意味のある相互作用に入っていく。**

私の患者のほとんどは、反復的な、定型化した動きを真似するのです。すると殆ど即座に私を見るので、そこでようやく私たちのあいだに相互作用が生まれ、患者の治療が始められるわけです。

自閉症治療の可能性

一見すると自然発生的な楽しい相互作用の中で、セラピストが子どもの身ぶりや発声や玩具を扱う行動などを模倣し始める。その後、今度は自分の行動を模倣するように子どもに誘いかける。このような**自然な相互作用の中で行われる療法は明らかに有益な効果を示しており、その効果は模倣だけにとどまらず、言語やごっこ遊びなど、その他の社会的コミュニケーション行動も確実に向上するのである。**

(ミラーニューロンの発見 マルコ・イアコポーニ)

事例①臨海学校でのふれ合いを通して信頼関係が生まれたA君

朝日保田臨海学校で、たまたま重い知的障がいと自閉的なダウン症の青年を担当。**手を取り合ってプールに潜るという遊びを共有してから、『友情のような関係』が生まれました。**A君は対人関係が苦手で、こだわりが強く、気に入らないことがあると暴れることもありましたが、どんな時でも私だけは受け入れてくれるようになり、言葉はありませんが、何事かを訴えて落ち着くことができるようになりました。後年A君を担当する機会がありましたが、私の指示や求めに精一杯応えようとする気持ちがひしひしと伝わってきました。

事例②夏季キャンプでのふれあいを通して心が通い合ったB君

B君が音楽が好きなことから、楽しく何度も繰り返して歌いながらキャンプ場の周辺を散歩しました。B君は他者と打ち解けることがなく、反応を楽しむように執拗に他害行為をしたり、相手の感情に反応して、大怪我をさせかねないような激しい暴力行為がありましたが、このことがあってから、私が出動したり、退勤するときにはニコニコしながら玄関まで出迎えたり、見送ってくれるようになりました。そんなことがあってから少しずつ落ち着いて他害行為が見られなくなりました。

『ミラーニューロンの活性化』

事例③多動、疾走、破衣、自傷、異食、唾吐き等の行動障害のあるC君

僅かな隙をついて職員の手をすりぬけ、呼びかけても止まらず、崖をよじ登り、藪や林を駆け抜けて川に飛び込む。衣服を身にまとうことを嫌がり、食いちぎって引き裂き脱ぎ捨てる。体に触れられることやしたくないこと、不快な刺激に対しては奇声を上げて興奮し、顔叩きや壁への頭突きが見られ、左目は自傷により既に失明していました。

『入所までの鍵部屋での無為な生活が原因』

多動、疾走への対応

本人の様子をよく観察し、飛び出そうとする直前に「止まって」「靴をはいて」等の声かけを行い、可能な限り事前に阻止するとともに、夜間や活動中は連れ戻し、「今は出られない時間」であることを言い聞かせ、自由時間には散歩などの外出の機会を積極的に取り入れ、裸足で飛び出したときは玄関から靴を履いて出直しました。

『行動療法+補助自我としての支援』

破衣、脱衣への対応

裏返しでも、後ろ前でも、まず身に着けることから始めて、衣服を脱ぐようしぐさを見せたときは事前に阻止し、脱ぎ捨てたときはすぐに着るように促し、破ったときは着替えさせる。厳しく叱ることは効果が無いばかりでなく、職員との信頼関係を損なうと考えて、できる限り『穏やかな態度で粘り強く』取り組みました。

信頼関係を深める

活動場面では、職員との信頼関係を深めること、落ち着いて活動に参加することをねらいとして、ごく短時間でも応じられれば良しとして『過剰な圧力や無理強いをさけ』て、信頼関係を築きながら働きかけた結果、多動、疾走、破衣、脱衣等の行動障害が改善され、活動場面でも『分業化や課題の伝え方を工夫』した結果、活動時間中は椅子に座っていることが出来るようになりました。

事例④職員の声かけや誘いに応じられず、パニックや他害行為の激しいD君

職員の声かけや誘いに応じられず、居室に閉じこもっていることが多く、『他利用者の声、職員の声かけ、気配さえも拒絶』活動にも参加せず、顔を伏せてこめかみを掴み、全身を小刻みに震わせて、うなり声をあげ、他利用者や職員を引き倒して、掴みあげたり、噛みついたりしました。大柄で力が強く、職員が痣だらけになったり、骨折して入院したこともあり、自然に落ち着くの待つより仕方が無い状態でした。

原因(仮説)を考えて対応する

D君のこうした行動はこれまでの脅しや体罰等の力による支配やD君の暴力を恐れて腫れ物に触るように接してきたことに原因があると考えて、脅しや体罰等の暴力で接しない。本人の気持ちや意思に配慮しながら働きかけや誘い方を工夫して、暴れた場合はD君も周りの人も怪我をしないように寝かせてなだめて落ち着かせるように取り組んだ結果、行動障害が改善し、活動にも参加できるようになりました。

『受容的交流+寝かせ(動作法)』

事例⑤仕事に打ち込み認められることで成長したE君

入所当初は何ごとにつけてもこわばった表情で職員に向かって「Oですか、×ですか」と脅迫的に連呼する姿が頻繁に見られました。園内のシールやお客様のバイクの自賠責のシールまでも剥ぎ取ってしまい、電話帳を破ってトイレに詰め込む行動も見られましたが、できるだけ否定的な評価をしないようにして、得意な箱折の仕事で認められるようになってそのような行動が徐々に減少していきました。

『仕事にうち込み評価されて行動障害が改善』

事例⑥家庭内暴力、家庭崩壊から立ち直ったF君

福祉事務所のケースワーカーから、母親が大怪我をして、両親は近くの親戚宅に避難し、警察や精神病院にも協力を依頼したが断られたということから協力依頼の電話がありました。支援員とF君の自宅にかけつけると、家の中はガラスの破片や壊された物が散乱し、F君が不安そうな表情でこちらを伺っていました。

『最も傷つき不安を抱えているのは本人自身』

気持ちを受け止め、伝える

穏やかにねぎらいの声をかけながら、手を差し出して握手をして、F君の訴えに耳を傾けるような感じで、肩を抱きながら家の外に連れ出して車に乗せて、「君が暴力を奮ったから、お父さんもお母さんも怖くて一緒に暮らせないから、君が暴力を奮わなくなるまで、めぶき園で暮らしてもらいます」と伝えて、その日からショートステイで受け入れました。

『本人の置かれた状況をきちんと伝える』

生活の立て直しを図る

養護学校卒業後、特にすることのない無為な生活から徐々に生活が崩れて、こだわりが強まり、昼夜が逆転し、このような結果になったものと推測されました。めぶき園で生産活動や余暇活動に参加し、規則正しい生活を送ることで、数日で安心して穏やかに暮らせるようになりました。

『生活リズムを整える』

事例⑦不登校、パニック、他害行為が一週間で改善されたG君

養護学校の中等部に進学し、思春期の不安定さと、担任教師の厳しい対応がきっかけで、昼夜逆転や他害行為、パニック等の行動障害が出現しました。高等部に進学しましたが、給食も食べられなくなり、不登校になり、家庭でも頻繁にパニックを起こして母親に暴力を奮うようになったことからめぶき園に相談がありました。

『行動障害は関係者の課題』

病院入院からショートスティへ

夏休みに精神病院に入院し、夏休みが終わることから退院したところ、病院から帰る車中で暴れだし手に負えないとの連絡があり、ショートスティとして受け入れました。わざと下腹部を露出したり、噛みついたり、壁に頭をぶついたり、激しい行動障害が見られました。

気持ちを受け止め課題を求める

信頼関係が崩れて、他者からの声かけや感情に過敏になっているとの仮説に基づいて、様々な行為に対してネガティブに反応しないで肯定的に接すること、しかしながら本人の言いなりになるのではなく、本人の思いや気持ちを受け止めながら、こちらからの課題を求めて、応じられたときは認めること、下腹部を露出する行為に対しては、出してはいけないことを伝えて、部屋に戻すことを全職員で確認して取り組んだ結果、一週間で劇的に落ち着いて暮らせるようになりました。

『受容的交流＋行動療法』

事例⑧不登校、こだわり行動、器物破損が一ヶ月で落ち着いたH君

H君は、中学校2年の1学期まで障害児学級に通っていましたが、2学期から養護学校に転校し、3年になって不登校になりました。噛みつきなどの他害行為が見られるようになり、他施設のショートスティを利用しましたが、暴れるようになったため精神病院に入院しました。県精神保健センターに相談したところ、県内で受け入れられるところはないだろうということから相談を受けました。

『環境(担任)の変化から行動障害が出現』

あらゆるものへの強いこだわり

当初は窓の開閉から、時計、非常ベル、消火器と、あらゆるものに強くこだわり、例えば食堂の時計は机や椅子を積み上げて外して投げる。電球を外して割る。窓から飛び出してボイラーのバルブを閉める。部屋で放尿する。2メートルほどもあるフェンスを乗り越えてフェンスの外に排便をするなど『執拗にこだわり止められると暴力』を奮いました。

折り合いをつけて信頼関係を深める

このような行動はこだわりというよりも、周囲とのネガティブな関係が原因になっているのではないかと仮説に基づいて、こだわり行動を全て止めるのではなく、『破壊行為や他害行為等は毅然として止め』窓の開閉や食堂椅子の入れ替えなどの『さほど支障がないものはエスカレートしない限りは見守る』ようにして本人と折り合いをつけることで、職員との信頼関係が深まり、徐々にこだわりもとれてきて、一ヶ月で活動にも参加し穏やかに落ち着いて暮らせるようになりました。

事例⑨行動援護とショートステイで在宅生活を立て直したI君

養護学校中等部1年の2学期の『文化祭で頑張らせすぎたことがきっかけ』で、担任教師との関係がこじれて修復困難になり、担任を変更したものの、登校できなくなり、在宅で無為な時間を過ごすうちに、昼夜逆転の生活をおくるようになり、こだわりが強まり、僅かな言葉の行き違いで激しく暴れて母親に暴力をふるうようになりました。

行動援護で職員を派遣

行動援護として、スタッフを自宅に派遣し、登校支援、生活支援、外出支援等に取り組みましたが、スタッフのいる時間はそれなりに落ち着いて過ごすことができるものの、行動援護を提供できる時間は限られていることから、登校後に担任教師に暴力を奮ったり、スタッフ不在の時間に母親に暴力を奮う等の行為が見られました。

『行動援護(在宅支援)の限界』

ショートステイで生活の立て直しを図る

生活の立て直しを図るために1ヶ月半ほどのショートステイを試みました。当初は不眠や不安を訴えたり、自傷行為や他害行為が見られましたが、徐々に生活リズムが整い、活動にも積極的に参加し、食事の後、自主的にテーブル拭きなどを行う姿も見られるようになりました。発達障がい者支援センターも交えて関係者による支援会議を重ねた結果、養護学校でも自閉症に対して理解のある教師を担当につけたことから暴力行為が見られなくなり、自宅から通学できるようになりました。

『入所施設(24時間の療育)の有用性』

自閉症は三重の困難性がある

○知的障害という支援の困難性

○自閉症という支援の困難性

社会性の障害

コミュニケーションの障害

こだわり行動

○行動障害という支援の困難性

理解不足や不適切な対応による二次障害

『発達障害者支援センターに寄せられる相談の8割が自閉症スペクトラム障害』

自閉症や行動障害が治るという誤解

自閉症者施設では、本人にとって分かりやすい構造化された生活と生産活動や余暇活動等の生きがい(手ごたえ)を保証することと、職員が障害特性に配慮し、個別的に対応することで落ち着いて穏やかに暮らしていますが、行動障害が出現する原因となった環境や対人関係をそのままにして、元に戻したり、自閉症に対しての理解や専門性の不十分な環境や施設に移すと容易に行動障害が出現します。『自閉症には生涯にわたる理解と手厚い支援が必要』

第三者から見ためぶき園の自閉症療育

B大学文学部の心理学の教授であり、自閉症児の親でもあるK氏が長男とともにめぶき園でショートステイを体験し、その後、16日間にわたってめぶき園の生活を観察し、「自閉症者の社会生活」として論文をまとめましたので、専門家であり、自閉症児の親でもあるK氏にめぶき園の療育がどのように捉えられたかを紹介します。

自主的で統制の取れた行動

確かに常同行動的な音声や行動を示す利用者はいたがそれにもかかわらず静かであるという印象を受けた。静かさの原因としては自閉症者特有の社会的交わりの乏しさもあるが、それ以上に『各々の行動が全体として統制がとれており、秩序だっている』ことが大きかったように思えた。自由な状況下で自閉症の人たちが自主的に粛々と行動できることが驚きだった。

活動の開始

活動の開始時には、時間がくるとほとんどの利用者が自発的に玄関ホール周辺に集まってくる。小林(2001)によれば、自閉症者では行動の開始がスムーズにいかない人が少なくないようだが、めぶき園では利用者と職員の間での葛藤は見られなかった。車で出発する場合には、かなり待たされることもあるが、どの職員も無理強いするのではなく、本人がその気になるまで待つという姿勢が感じられた。待たされる利用者も不穏になったり混乱するようなことはなかった。

活動の終了

活動の終了時は、職員の「終わります」の合図によって殆ど遅滞なく終了することができる。当初の目標に達していなくてもまたその活動が特に好きな場合でもすんなりと中断して終わることができる。例えば療育活動の一つとしてプールでの水泳があったが、担当職員の話によれば殆どの利用者は水泳が大好きであり、しかもその日は大変暑い日だったので、終了させるのはかなり難しいのではないかと予想していたが、何の混乱もなく45分ほどの水泳の後『合図1回で全員がプールから出てシャワー室に向かった』

めぶき園の構造化

めぶき園では『**対人的な関わりを積極的に取り入れた構造化**』が目指されている。たとえば日課の前のミーティングで担当職員が口頭で課題を提示するとか、生産活動は大きなテーブルを囲んでお互いにやりとりしながら作業をするなどにその特徴が現れている。それはTEACCH的な観点からいえばあまり構造化されていない環境ということになるが、それにもかかわらず利用者が適応的な行動を示すということが重要な点ではないだろうか。

親密で心のかよいあった関係

自閉症者は社会的関わりが苦手だといわれているが、実際には着席行動や課題遂行にあたって、利用者どうしの社会的促進がかなりあるのではないかと感じられた。オリヴァー・サックス(1992)は、自閉症の療育に関して、形式的なトレーニングも必要だが、それよりも『**親密で心のかよいあった関係が重要**』だとしている。めぶき園の基本理念はそれに近いものといえよう。

自らの実践に学ぶ

その時々には自らの実践の中で確かめてきて、私なりの自閉症療育論、現在の到達点があります。外国の文献の紹介ではなく、これまでの様々な知見をベースに、自閉症児・者から学んだ自閉症療育論があり、『**今だ途上であり、未完成だが実践的に有効である**』ことを多くの方に伝えたいと思っています。

行動障害は自我の防衛

多くの自閉症児・者是否定的な評価や感情に触れる体験を通して傷つき、他者からの評価や感情に過敏になり、自信をなくしている

故に人に対して『**拒否的、さらには攻撃的な感情や行為をつのらせることで自己防衛**』(強いこだわりや自傷、他がい行為)している

出口のない悪循環

関わるものが、行動の現象面だけを捉えて行動修正を試みたり、関わろうとすればするほど、拒否や時には暴力に出会い、どのように関われば良いのかわからなくなり、関わることを止めてしまい放任や腫れ物に触るような対応になってしまう。



『出口のない悪循環』

援助者の余裕＝知識と経験

援助者が余裕を持って接することで自閉症児・者や重い知的障がいの人でも安心感を持って、落ち着くことができる。

余裕＝知識と経験に基づいて、自閉症児・者や重い知的障がいの人への気持ちや行動を予測することから生まれる。

『プロとしての修練を重ねる』

関係性の視点

自閉症児・者は周囲との関係性を通して、様々な問題行動を呈したり、回避的になったり、時には攻撃的な態度をとることもある。こうした関係性からの視点を通して彼らの気持ちや行動を見ていくことが療育上重要である。

『関係性の視点が行動障害を解く鍵』

安心感と信頼関係

安心感と信頼関係に基づいた外界との交流（やりとり）が人の成長や発達に重要

行動療法、動作法、構造化等様々な療育手段は自閉症療育に有効だがオールマイティではない



『安心感と信頼関係が自閉症療育の基盤』
『特定の理論や方法論に囚われないことが重要』

最良の役割を演じる過程が療育

利用者の個性、性格、能力、年齢、場面、さらに援助者の力量、利用者との関係、立場、その他もろもろの条件により異なる



関係性の視点を持ち、援助者としての知識と経験を活かして様々な場面で**即興的に最良の役割を演じる過程が療育**

「療育とは心理劇の展開そのもの」

スーパービジョンとチームワークの重要性

これまでの取り組みを通して、スーパービジョンと職員間のチームワークの重要性を痛感

大学教授や私がスーパーバイザーとなり、事例を通して「その時（職員は）どういう気持ちであったか」等『**職員の気持ちやかかわり方を検証**』

職員間の情報交換、意識統一を図る

関係性の成立している人（うまくいっている人）の話を聞くことで、職員の態度や関わり方が変化し改善される

自閉症療育のコペルニクス的転回

クライアントのみを問題とする視点からは自閉症や障がいの重さが限界になってしまう



『援助者の問題として捉えることから、問題解決の糸口が見え、その視点に立つことで無限の可能性が開ける』

自閉症療育の二つの立ち位置

私たちは自閉症療育には大きく分けて二通りの立ち位置があると思っています。一つは**社会適応や行動修正を重視する立場**であり、もう一つは**本人の人生や生きがいを大切にする立場**です。前者は社会規範やあるべき行動モデルに合わせたり、近づけようしますが、後者は本人の意志や気持ちを尊重しながら、自己実現を目指します。どちらの方法でも、周囲と摩擦や問題を起こさずに暮らせるようになることは可能ですが、『**本人にとっては天と地ほどの違い**』があるのではないかと考えています。

自閉症支援の原則①

○環境整備

安全・清潔・快適な環境、個室整備に取り組む

○あたり前の生活

毎日入浴、美味しい食事、外出、余暇を提供

○安心感と信頼関係

人への信頼感や折り合いをつける力を育てる

○手ごたえのある活動

生産活動、療育活動、クラブ活動、余暇活動を提供

自閉症支援の原則②

○スーパービジョンとチームワーク

事例研究、支援方法の統一と共有

○様々な療育理論や技法に学ぶ

受容的交流療法、TEACCHプログラム、応用行動分析、動作法、心理劇、カウンセリングetc

○医療や脳科学の新たな発見との連携

薬物療法、ミラーニューロンの発見

『**特定の理論や技法に囚われないことが重要**』

私の理論を金科玉条のごとく守るのは鼠虱の引き倒し(石井亮一)

支援者へのメッセージ

○行動障害は本人だけでなく、関係者の問題

○今は大変でも道は必ず開けると信じる

○愛情を持って逃げないで課題に向き合う

○他人に引き継がざるを得ないことを意識する

○個々の子どもの現状からスタートする

○人との信頼関係や折り合いをつける力を育てる

目的は自閉症や発達障害をもって生を受けた子どもたちが地域で安心して暮らせる社会の実現

結び

自閉症の子どもたちへの支援で必ず育てて欲しいものがあります。それは人との信頼関係であり、人と折り合いをつける力です。どんなに障害が重くても、親や援助者の関わり次第で、人との信頼関係や折り合いをつける力は必ず育ちます。このことこそが人として生きていくうえで最も大切なことだと信じています。

自閉症療育は・・・

『**人として敬意をもって接すること**』

後 期 集 合 研 修

自閉症児への動作法

— 身体を通した発達支援 —

愛知教育大学 森崎博志



I. 自閉症の本態を巡る議論について 心因論 ⇒ 発達障害へ

カナー(1943) 自閉症の事例とその特徴

- ①孤立 ②同一性の保持、固執
 - ③言語発達のゆがみ④特定対象への関心
- 心因論 ・小児分裂病

ラター(1973) 脳の機能障害が明らかに
発達障害としての理解

II. 自閉性障害の本態について

- 「前頭前野障害説」: 行動の自己調整
- 「扁桃体障害説」: 対人認知
人を認識する弱さが根底に
(「黒い物体」、顔への選好の希薄さ など)

* 脳障害については発達の可塑性有り



III. 発達支援のねらい・方向性 ⇒ 身体的相互交渉を介し、

- ①行動の自己調整(落ち着き、相手に合わせて)
- ②対人認知(自己ー他者) 対物から対人世界へ

①②を育む

- ・対人認知: 視線が重要(扁桃体の活性化)
- ・行動調整のみでは、「ロボット」的(パターン化)に

・対人認知を育むアプローチ

- ⇒ 「対面する」
- 「目を合わせ(続け)る」
- 「模倣(動作)」
- 「指差し(動作)」

例えば)・言葉の使用が変わるか
・対人的志向性が高まるか
・人物画が変わるか



IV. 援助者の関わりの在り方について

- ・触れられることが嫌なのでなく、
「触れ方」、「関わり方」の問題
- ・援助者の「心」の持ち方が影響を与える

⇒ ゆったり落ち着いた態度・雰囲気
明るく楽しく(硬い表情はダメ)

意図伝達の明確さ
応答に応じた柔軟な対応の調整

V. 具体的な手続き

・からだ遊び

「抱っこ」、「ばんざい」、「キック」など、
対面し、眼差しを合わせようと意識しながら、
楽しく触れ合う。

形よりも心ある人としての触れ合い(交流)

・動作課題

「腕上げ」(対面課題)

: 仰臥位でまっすぐ→動作の共有
→視線の共有→指差し(3項)

「軀幹ひねり」

「前屈ー背反らせ」(弛め系課題)

: リラクゼーション、自己調整

「膝立ち・片膝・立位・片足立ち」 (バランス課題)

: 微細な自己調整、自己感

「模倣動作(同時、遅延、役割交代)」 (模倣課題)

: 「自己ー他者」の他者認知の深化

- ・マンツーマンがよいが、教師を模倣しての
集団動作、子ども同士のペアなどでも

2015.3.13

発達障害支援スーパーバイザー養成研修
「当事者からのメッセージ」

場所: 日本財団大会議室

イトコサガシ 代表 冠地情

イラスト: かなしろにゃんこ。

相談って意外と難しい...

- ・自分を客観視しながら話す必要があります。
- ・相手に合わせた比喻、表現方法が必要となります。
- ・相談された経験の有無が結構重要となります。
- ・程よく自分をさらけ出せないといけません。
- ・相手が自分とは違う見解、提案をしても受け入れる必要があります。
- ・相談をして「よかった」という成功体験が重要となります。



1

発達障害の生き辛さは人それぞれ、です。

生まれも育ちも、強みも弱みも、魅力も可能性も未来も...
全く違います。

冠地の話は基本、あまり参考にはなりません（重要）

色々な成人（大人）発達障害当事者と交流してみてわかった
ことですが、冠地はかなり幸運でし、環境や巡り合わせに
恵まれていますし、能力も特化している部分があります。

今回の話はあくまで冠地個人の話というのが大前提です。

2

共感ってどういうこと？

成人（大人）発達障害当事者の多くは、共感してもらったこと
よりも...

独特の感覚を奇異の目で見られたり、違和感を吐露されたり、
排除されたりすることが多いです。

結果、共感を多数派から強いられることが多くなる。

なので、「共感する・される」という予定調和が苦手（心の傷）に
なってしまう場合も...



3

発達凸凹の固定は思考停止の顕在化が原因？

うまくできない...

他の人はできている...

できない理由をうまく言葉にできない...

周りに理解者がいない...

できないのは自分の責任...

よし、人から責められる前に自分で自分を責めよう...

そういう状況に追い込まれると脳は勝手に思考を、試行錯誤
を停止してしまいます。 発達思考「無自覚停止」障
害



4

発達（成長）する機会が失われてしまう...

- ・成功体験が少ない（失敗体験は多い）
- ・一人の方が気楽、自分の世界に閉じこもりがちに。
- ・試行錯誤するのではなく、思考停止してしまう。
- ・主観と客観のバランスがとんでもないことに。

『発達機会喪失障害』の要素も？

損失→消失になってしまう...

『発達機会創出生涯』にしませんか？



5

色々な人と色々な話題で試行錯誤してみよう。

- コミュニケーションは理論ではなく場数、経験。
- そして練習や訓練、トレーニングよりもまずは楽しく自分を試すことが大切。
- 発達障害の人たちの「気付きスイッチ」は通常と違うところにあることが多いです。
- なのでヴァリエティに富んだ交流を気軽にできる環境が必要



相手を受け入れようとする…
相手も受け入れようとしてくれる。

「イトコサガシ」を基本としたコミュニケーションと
「だめ・苦手・できない」から始まるコミュニケーション
どちらがよいでしょうか？

6

私が引きこもりから回復した要因

- サード・プレイスの存在
- 人と繋がってよかったと思える経験
- やれるだけやった感(試行錯誤)

7

自己肯定感を醸成する循環とは？

- 自分で自分のイトコサガシができる
- イトコサガシから始まるコミュニケーションが生活習慣になっている
- やれるだけやった感を風通しの良い形で体感できている

8

心の引き出しが新しく開かれている状態→自己肯定感

- 新しい体験を言語化していく、表現していく
- 相手の領域で思考する、理解する
- 自分と相手の思考をすり合わせるための選択肢をたくさん創り出す

自己肯定感

「

」

9

発達言語「学習機会喪失」障害

- 自分や他者に対する言葉の引き出しが少ない
- 言葉よりも感情が先に出てしまう
- ユニーク過ぎる故、言葉にしにくい
- 自問自答が多くなり、それが対人言語になってしまう(色々な人との交流が少なすぎるために起きる)

10

コミュニケーションが苦手と口では言っているけど…

そのことを受容しているかどうかは別。

本心は「コミュニケーションが苦手な自分をそのままの形で受け入れてほしい」と言う場合が多い。

本人より、周囲・環境が変わっていく方が建設的かも…

11

コミュニケーションと人間関係

●サードプレイスとは？

生活(学校、家族)のしがらみ、影響を受けない第三の場所という意味です。

人間関係がコミュニケーションより上位概念のサードプレイス。
コミュニケーションが人間関係より上位概念のサードプレイス。

どちらが発達障害の人たちには必要でしょうか？
その理由は？

12

大人の役割とは？

すぐにわかりやすい成果は出ないかも…

それでも様々なアプローチを試みるのが、大人としての役割(強制したり、命令したりは×)

大人は年が上だから大人なのではありません。

経験が豊富で、色々な方法を自ら試せるから、
大人なのです。

13

心にイトコサガシの種まきを！

気持ちのこもった言葉

一緒に何かを作ろうとする姿勢

相手の立場を目指して提案した工夫

大切な世界を尊重しようとする努力

『子どもたちはわかっています。』

大人になった時、それらの種から芽が出て、大輪の花を咲かせるのです。
(種を撒かれていない大人は…悲劇です)

14

発達障害に必要なのは保護？ ハイブリッド(交配)？

発達障害の人達のもっている価値観、世界観といかにハイブリッドしていくか…

その試行錯誤あってこそその「保護」ではないでしょうか？

試行錯誤なしの「保護」は隔離ではないでしょうか？

15

ハウ・レン・ソウが大切…の本質とは？

ハウ・レン・ソウが難しいというのは、誤解です。

臨機応変なハウ・レン・ソウが難しいのです。

楽しく実体験として、ハウ・レン・ソウを経験できる環境が必要となります。

16

恋愛と表裏一体な共依存…適切な距離感が大切。

発達障害を始めとする生き辛さを抱えている人の悲劇の本質は…

人間関係を創る＝共依存となる、と勘違いしている人たちがとても多いこと。

双方向コミュニケーションという土台構築の先に、人間関係があるということを社会全体で認識していく必要があります。

17

就労・就続の核になるのは、自分の生き方(覚悟)

上司と喧嘩しても、転職しても、資格を多数取っても構いません。

それがその人の生き方ならば。

その生き方のリスクを覚悟できているならば。

上記が曖昧な人の相談には応えようがありません(どんな生き方にもリスクはあるからです)

18

自分で自分を育成していく…他人は自分の鏡。

鏡の法則とは？

自分の考え、自分の気持ち、自分の行動、自分のビジョン(未来像)が他人を通して、結局は自分に還ってくるという法則です。

この真理を大人たちがいかに若者たちに実践できるか？

大人たちが「自分たちをまず守る」と考えていたら…

19

混乱は決して恥ずかしいことではない…必然の事象。

試すという行為は混乱を伴う行為であり、もっといえば試したなら混乱して当たり前、です。

初めて試すことであればなおさらです。

混乱することは決して悪いことではありません。

新しい自分の引き出しを開ける際、自分が成長する瞬間、必ず起きる事象です。

20

混乱というモヤモヤの中にこそ、自分らしさという宝物がある。

混乱の中にこそ、皆さんの目指したい未来があります。

なりたい理想の自分があります。

混乱を敵にせず、味方にしてしまいましょう。

混乱に免疫をつけましょう。

混乱している自分に自覚的になりましょう。

混乱する自分が嫌いだから、試すことに躊躇してしまう…

という悪循環を緩和していきましょう。

21

思春期で目指したいマインド、経験値、方向性。

生き辛さを抱えている人たちの多数は「自分を受け入れてほしい、自分に合わせて助けてほしい、過度な成長を要求しないでほしい」

こうなってしまう人に支援するのは本当に大変です。

「試した時点で大成功！でよければいつ・だれ・どんな場面でも試せるよ？」

という土台を思春期で目指しましょう。

22

変わりたくない人は変わらなくてよいです、ただ…

自分が変わらないと生き辛さは変わらない、と「冠地」は思います。

自分が変わろうとしないと、生き辛さに対してフォローの少ない、理解の弱い社会は変わらない、と「冠地」は思います。

生き辛さ緩和の方法は？新しい自分を開拓、耕す。

魔法の声かけ、魔法の支援、魔法のマニュアルは存在しません。

新しい自分を開拓する、耕すという価値観こそが生き辛さ緩和の唯一にして最大の普遍性と「冠地」は思います。

大人がその価値観を実践して成長していく姿を子供、若者に見せられるか？

誰かを変えるのではなく、皆で変わろうという意識を持てるか？

主役は皆さん、大人たちです。

冠地の目標とするファシリテーター像は…

私はあなたの代わりに、あなたらしさを模索することはできません。

私はあなたの代わりに、経験をつむこと、試行錯誤することはできません。

だけど、一緒にイトコサガシ・ワークショップで試していくことはできます。

1回でも10回でも100回でも一緒に試して生きませんか？

という言葉に説得力のあるファシリテーターに、私はなりたいです。

イトコサガシから始まる新しい社会

いろいろな立場の人たちが対等な形で楽しいコミュニケーションを、ワークショップを創り上げていくというモデルが必要。

発達障害と社会の関係は…

共存・共生からハイブリッド(交配)へ！



26

8つの心がけ

1. 楽しい会話をしましょう。
2. 会話の時間・質問・共感を半分にしましょう。
3. 会話のキャッチボールを15秒くらいで試みましょう。
4. 質問と共感を「分かりやすく」2回は試みましょう。
5. テーマを主役に話しましょう。
6. 相手が質問を忘れてしまっている場合は、「私ばかり質問してすみません。今度は私に質問して頂けますか？」と質問を相手に促しましょう。
7. 切り口を3回は変えましょう。
8. 「興味がない」「よく知らない」「やったことがない」は使わずに、楽しい会話を目指しましょう。

27

テーマ 「 」 5分間

1. 気付き、視野が広がった、新発見を発表
2. イトコサガシ
3. 切り口の作戦会議

28

御静聴、ありがとうございました。

●イトコサガシの実績

開催回数…800回以上(都外300回以上)

開催地域…42都道府県(都内44区市)

参加人数…8000人以上(延べ人数)

メディア掲載…新聞・雑誌に50回以上

連携実績…発達障害支援センター、生活・就労支援センター、発達障害:家族の会、医療機関、教育機関、企業等、多数

イトコサガシのHP

<http://iitokosagashi.jimdo.com/>

お問い合わせ: staff@iitokosagashi.com



29

東京都成人発達障害当事者会

「Communication Community・イトコサガシ」概要

イトコサガシとは？

- ・成人発達障害当事者がさまざまな立場の人たちと交流するための、相互扶助会
- ・自らが意識的に社会的役割を担う社会参加・交流型当事者会
- ・基本どなた（家族・支援者・その他興味のある人）でも大歓迎の会

目的

- ・イトコサガシから始まるコミュニケーションと対人関係を社会に浸透させる。
- ・成人発達障害当事者とその周囲の人々がカミングアウトしやすい世の中をつくる。
- ・コミュニケーションが苦手・嫌いな人をゼロにする。

具体的な目標

- ・発達障害者のユニークな個性を活かすため、会話のキャッチボールを楽しく試せる、自分なりに気付ける、参加者全員で楽しいコミュニケーションを創る（試した時点で大成功！）

目標達成のための事業

- ・各種ワークショップの開催（他団体との共同開催大歓迎）
- ・啓発活動（講演会、ファシリテーター研修、支援者・家族研修）
- ・全国各地の当事者会の立上げ支援

活動実績（2015/2/16現在）

2009年10月にイトコサガシを設立。42都道府県都内44区市で800回以上のワークショップ（講演、研修等含む）を開催。発達障害支援センター・大学・企業・医療機関等と100回以上の連携。

参加人数は延べ8000名以上。新聞・雑誌に50回以上、活動が掲載される。

代表 冠地 情（かんち じょう ・ 本名） メールアドレス：staff@iitokosagasi.com
1972年生。対人関係で悩んでいる当事者（自身も含む）が多いことを実感し、過去に行っていた演劇表現ワークショップをヒントに、コミュニケーションを楽しく意識的に混乱を試す当事者会を立ち上げる。

マンガと海外ドラマ、プロレスをこよなく愛する。

詳細はこちら！

<http://iitoko-sagashi.blogspot.jp/>

発達障害における 応用行動分析学 ペアレントトレーニングからその原理を学ぶ

井上 雅彦
鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座
masahiko-inoue@med.tottori-u.ac.jp

行動分析学とは？



- ・ Burrhus Frederick Skinner(1904-1990)によって開始
- ・ 行動主義心理学を基礎とした考え方
- ・ 人や動物の行動を環境との関わり合いからとらえる心理学
- ・ 見る、話す、感じる、考えるなど、生物にできることすべてを分析の対象とする
- ・ 応用行動分析とは、行動分析学の理念・方法によって、様々な社会的課題の分析や具体的対策を実行、評価、伝達するための学問領域。
- ・ どのような環境条件で特定の行動が学習され、維持され、変容するのかを研究する。
- ・ 現在では教育、福祉、医療、産業、地域サービス、障害者へのサービスなどに活用されている。

科学的心理学であること

質問紙や行動観察によるアセスメントを用い行動を客観的に測定しようとする
標的行動を明確化する
治療効果の再現と手続きの一般化のため治療手続きを具体的に記述する
行動の測定は治療中も繰り返し行われ、治療方法にフィードバックされる

心理学の中での行動分析学の位置づけ

科学的心理学の始まり 1879年
ヴント Wundt, W.(1832~1920)

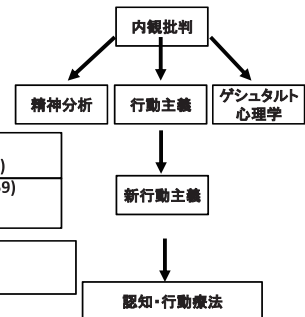
内観的手法への批判

行動主義心理学の発展

パブロフ Pavlov, I.P.(1849~1936)
ワトソン Watson, J.B.(1878~1958)
トルーマン Tolman, E.C.(1886-1959)
ハル Hull, C.L.(1884-1952)

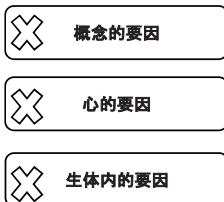
行動分析学の発展

スキナー Skinner, B.F.(1904-1990)



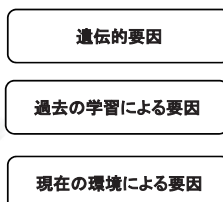
行動分析学における「行動」の要因

行動分析学以前の
行動の要因



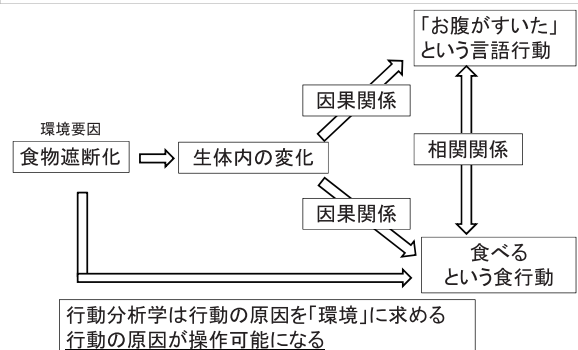
説明可能だが特定しにくく操作困難な要因

行動分析学における
行動の要因



操作可能な要因

「環境」は操作可能な行動の要因

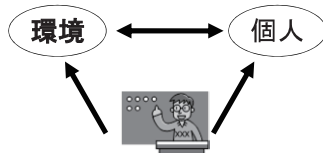


応用行動分析学(ABA)の特徴

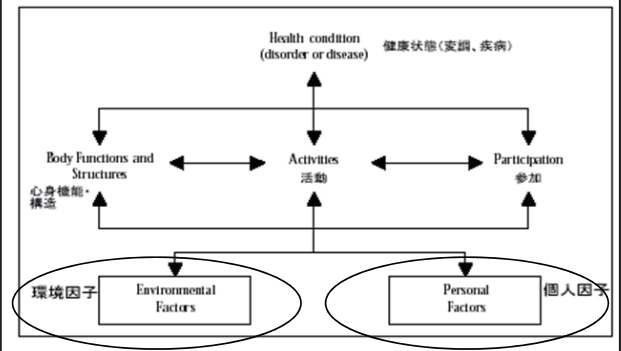
環境との相互作用から行動を考える

ひとりひとりの特性や様々な状況に応じて必要な要因を考えることができる

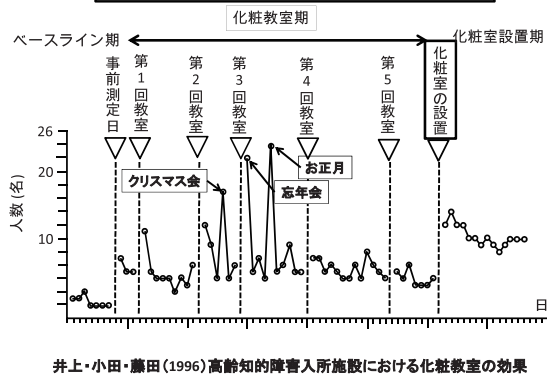
問題を個人的要因、環境的要因のどちらかに還元するのではなく、双方向的なアプローチを持つ



WHO「国際生活機能分類ICF」による障害の定義 (International Classification of Functioning, Disability and Health)



先行条件の操作: 単に「化粧教室」によるスキル訓練だけではなく、化粧室という環境設定が有効!



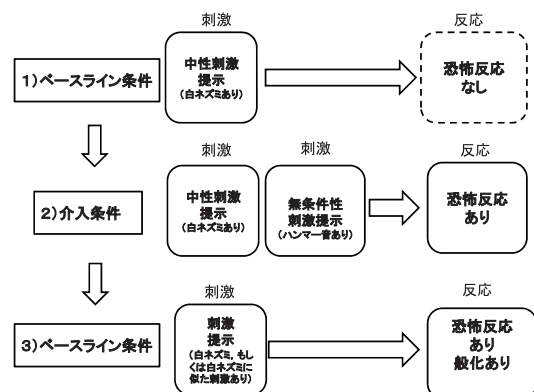
条件付けの種類

- ・レスポナント条件づけ
- ・無条件刺激の提示に引き続いて中性刺激を示すことにより、中性刺激は条件刺激として機能を獲得する
パブロフ、ワトソンらの研究
- ・オペラント条件づけ
- ・後続する環境変化によって強化や弱化されその行動を変容する
ソーランドイクやスキナーらの研究

ワトソンの恐怖条件付けの実験

John B. Watson "Little Albert" experiment (1920)

* 生後11ヶ月の幼児アルバートを対象に恐怖条件づけを行った。ネズミを見せ触らうとする行動を行うと、その背後で銅鉄の棒をハンマーで叩いて大きなおとをたてた。実験前アルバートはネズミを怖がっていなかった。実験後アルバートはネズミだけではなくウサギや毛皮のコートなど似た特徴をもつものにまで恐怖を抱くようになった。この実験から、おとなの抱く不安や恐怖も、多くはこれに類似した幼年期の経験に由来している、と主張した。



中性刺激が恐怖反応を引き起こすようになる

行動療法への臨床的応用

- ・行動療法とは、クライアントの具体的な行動の変容に治療的目標をおく様々な学習理論を基にした諸技法の方法論の体系
- ・特定の臨床家の経験と思索を通じた人間観やモデルが基となって誕生した治療法ではない
- ・基礎的な心理学実験による科学的な研究データに基づく、対象と技法を発展させてきている
- ・複数の研究者による行動の出現や維持・消失にかかわる実験研究やそこから導き出された理論や法則を心理的治療に応用したもの

広汎性発達障害を伴う強迫性障害の特徴

山下(2010)

- ・ 48名の OCD 症例のうち、PDD と診断できたものは 13 名 (27%)
- ・ (Y-BOCS) の症状評価リストでは「何でも知り、または覚えておかなければならないという考え」、「適切な言葉を使っていないのではないかと心配」、「物をなくすのではないかと心配」、および「ある種の音や雑音を異常に気にする」が PDD+ に有意に多い
- ・ 強迫行為に関しては、『確認に関する強迫行為』や、『繰り返される儀式的行為』、『整理整に関する強迫行為』、および『物を溜めたり集めたりする強迫行為 (hoarding)』が PDD+ に有意に多かった

強迫性障害に対する暴露－反応妨害法 (Exposure & Response Prevention)

- ・ Meyer(1966)
- ・ 暴露(エクスポージャー)法は、不適応的な行動や情動反応を引き起こす刺激に人をさらす方法であり、ほとんどあらゆる不快な反応、不都合な行動や感情の治療に適用可能
- ・ 十分なエクスポージャーのためには不安回避行動をとらないようにすることが必要となる
- ・ 反応妨害法は不安回避のための脅迫的な回避儀式をしないようにさせることであり、この組み合わせを暴露－反応妨害法という
- ・ 強迫性障害の治療率60-90%
- ・ 脳画像研究でも治療後の変化を認める

恐怖症の行動療法による治療例

宮野, 貝谷, 坂野(2000) 簡易型VRエクスポージャーの試みー雷恐怖症の1症例ー行動療法研究26(2) 97-105

- ・ 脱感作
 - ・ フラッディング
 - ・ モデリング
- 不安を低減させる技法 → 不安神経症治療
* 恐怖症
* 強迫性障害

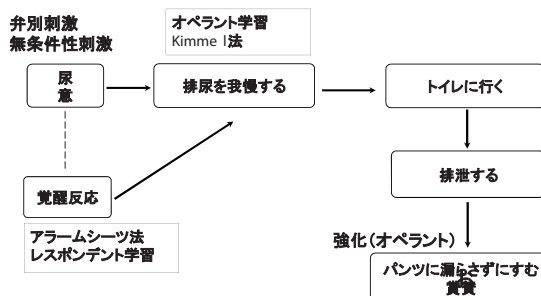
エクスポージャー

望ましくない恐怖反応を引き起こしている刺激に患者を曝す手続き (バーロー&サーニー, 1992)

夜尿症の治療

アラームシーツ法とKimmel法

夜尿は排尿統制がされてゆく過程の学習不足、または誤学習の結果と考える



オペラント行動とは

- ・ その行動が生じた直後の環境の変化(刺激の出現もしくは消失)に応じて、その後その行動が生じる頻度が変化する行動
- ・ レスポンデント行動とは異なり、オペラント行動には通常それを“誘発する”生得的な刺激は存在しない
- ・ オペラント行動は個体が“自発する”行動である

レスポンド行動とオペラント行動

レスポンド

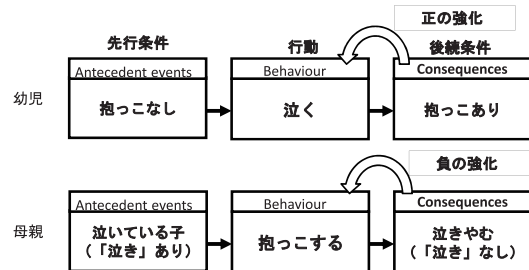
目に光が入ると瞳孔が縮む。
膝を叩くと伸びる(膝蓋腱反射)
新生児の原始反射
温度や緊迫状況などでの発汗、心拍上昇、

オペラント

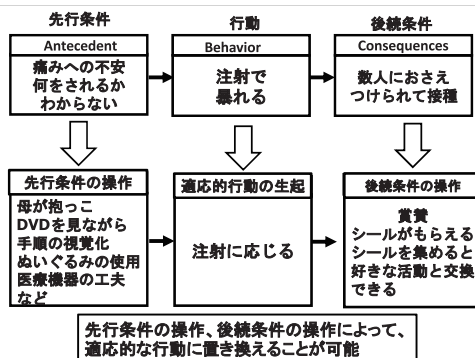
背伸びをする
歩く
本を読む
考える
投票行動をする
相づちをうつ
げんをかつぐ

行動随伴性

「先行条件」「行動」「後続条件」という枠組みで行動を理解する



行動随伴性による問題解決 注射の時に暴れる児



先行条件の操作の具体例



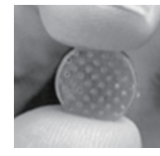
ぬいぐるみを使用した説明



DVDを見ながら抱っこされながら



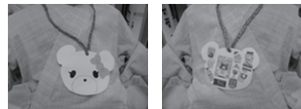
視覚化された手順カードを使用



医療機器の工夫
細針、シール型のワクチン 麻酔シールの使用

後続条件の操作の具体例

①頑張るとシールがもらえる



②シールがたまると好きなものと交換できる



行動随伴性(behavior contingency)

オペラント行動の自発頻度の変化とそれが自発された直後の環境の変化との関係

- ① 強化子提示による強化(正の強化)
- ② 強化子消失による弱体化(負の弱体化)
- ③ 弱体化子出現による弱体化(正の弱体化)
- ④ 弱体化子消失による強化(負の強化)

強化と弱化による行動変容

	(行動に随伴して) 刺激を提示	(行動に随伴して) 刺激を除去
強化 行動が増加	正の強化	負の強化
弱化 行動が減少	正の弱化	負の弱化

強化子と弱化子

- ・ 行動の結果、あるいは効果には、行動出現前の環境に新たに別の部分が付加される場合と以前の環境の一部が消失する場合がある。
- ・ ある刺激や出来事が反応の結果として出現することがその後の当該反応の出現確率を高める場合
- ・ その刺激や出来事を強化子 (positive reinforcer)
- ・ ある刺激や出来事が反応の結果として消失することがその後の当該反応の出現確率を高める場合その刺激や出来事を弱化子 (negative reinforcer)

弱化による行動変容の問題

タロウ君は宿題をしないと、強く叱責され、おやつはなしになります。タロウ君はいよいよ宿題をしていますが、字が汚いとさらに怒られています。タロウ君はお母さんが食事の準備をしているときは、こっそりゲームを楽しみながらのびのびしています

罰や負の強化によって維持される行動は、最低限の行動しかない

罰や負の強化で統制されている行動は、罰を与える「agent」が無くなれば維持されなくなる

無視していてもなかなか行動が減らない

- ・ 消去 (extinction) の定義
 - これまで強化されていた行動に対して強化の随伴性を中止すると強化の随伴性を導入する以前の状態までその行動が減少する
- ・ 消去＝無視ではない
 - 注目が好子になっている場合は無視は消去となる
 - 要求機能を持つ行動の場合は「要求充足しないこと」が消去となる
 - 勝手におもちゃで遊び続ける行動は、、、

消去バースト

- ・ 消去手続き導入後に頻度、持続時間、強度が一時的に増大すること
 - 一般的に消去前に受けた強化量・回数が多いほど消去抵抗も大きくなる
 - 新しい行動が生起する
 - 情動反応が生起する
 - 攻撃行動が生起する

発達障害と子ども虐待

杉山 (2013)

表2 子ども虐待症例に認められた問題 (n=1110)

併存症	男性	女性	合計	%	
自閉症スペクトラム障害	233	90	323	29.1	発達障害
注意欠陥多動性障害	146	28	174	15.7	
その他の発達障害	49	46	95	8.6	
反応性愛着障害	256	197	453	40.8	虐待の後遺症群
解離性障害	272	251	523	47.1	
心的外傷後ストレス障害	153	205	358	32.3	
反抗挑戦性障害	139	79	218	19.6	非行群
行為障害(非行)	168	113	281	25.3	

ペアレント・トレーニングとは

・「親は自分の子どもの最良の支援者になることが出来る」という考えにもとづいて、親が療育の方法を学ぶプログラム

・行動理論をベースとして、60年代から米国を中心にはじまる。知的障害児や自閉症児の親を対象に身辺自立や言葉の指導、問題行動への対応がおこなわれてきた。

・当初は療育プログラムと併用し訓練効果の般化や維持の促進を目的として、共同治療者としての親教育としての位置づけ

・現在、我が国では発達障害むけにつくられているプログラムの多くはペアレントのみの独立したプログラムが多い

・「かわり方」から「家庭での指導プログラム作成」まで様々であり、発達障害支援から、虐待防止まで対象も多様化している

発達障害における ペアレント・トレーニングの目的

井上(2008)

1. 子どもの障害特性や発達の状態を知ること
2. 親と子どもがコミュニケーションを楽しめるようになること
3. 子どもの支援のやり方を他の人に伝える方法を知ること
4. 子育て仲間ができること
5. 子どもを成功に導く視覚支援や環境調整の方法を知ること
6. 発達を促す適切な支援の方法を知ること

家庭療育課題設定方式 PT

- ・ サポートブックの作成
- ・ ほめ方・しかり方
- ・ 視覚支援・環境調整
- ・ 行動の具体化
- ・ ABC分析
- ・ 上手な指示
- ・ 上手な援助
- ・ 課題分析と記録
- ・ 手続き作成と実施



標準的な内容

回	講義	演習	ホームワーク
1	自己紹介・オリエンテーション	自己紹介	
2	ほめ上手になろう!	うちの子紹介	ほめて、ほめてほめまわろう!
3	整え上手になろう!	ほめようシート	ほめマスターになろう!
4	教え上手になろう!	目標設定	療育目標を考えよう
5	伝え上手になろう!	手続き作成表	療育実施・記録
6	リクエストにお答えします		
7			
8	振り返り・茶話会		

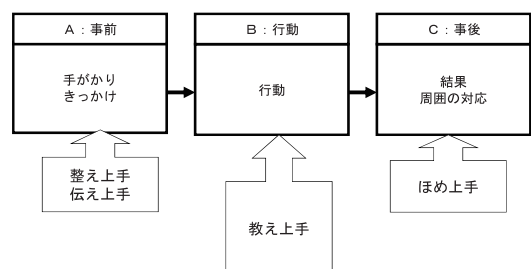
- ・ 行動論に基づいて、5つの内容が含まれている
- ・ 講義とワーク、ホームワークで構成されている。
- ・ 隔週で1回90分から120分で行う。
- ・ 1クール6回～8回程度



状況に合わせて内容をチョイス

	設定回数 3回～4回 (初めて実施する方)	設定回数 6回～7回 (子どもの行動を捉えられる方、1年以上の経験のある方)	設定回数 8回～10回 (慣れた方)
ほめ上手	☆	☆	☆
観察上手		△	☆
整え上手	☆	☆	☆
伝え上手		☆	☆
教え上手			☆
サポートブック		☆	☆
困った行動を減らそう			☆

ペアレント・トレーニングの中では



子どもに新しい行動やよい行動を教えるためのコツをご紹介します。

上手なほめかたのポイント

- ・ 子どもにとってプラスの関わりとなるような上手なほめ方には次のようなポイントがあります。
 - よい行動をしたすぐ後にほめる
 - 子どもがわかる言葉や表現をつかう
 - 子どもにあったほめ方をする
 - 具体的に何がよかったのかを伝える

怒るだけの対応では・・・

- ・ 発達障害の子に対しては悪いことに対して罰を与えることだけでは対応できないのが現状。
 - ・ 親にたたかれたら友達をたたくようになる
 - ・ 努力してもできないことも多い、普通にしているとも怒られることが多い
 - ・ 怒られてもなぜ怒られているのか理解しにくい
 - ・ 怒る対応を続けていると自尊心が低下する→将来的に2次障害が出やすい
- ・ よい行動が出たときにほめてあげる対応のほうが次につながりやすい

ワーク: 子どものほめリスト(ことば編)

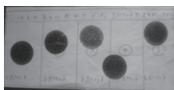
子どもが喜ぶほめことばにはどんなものがある

子どもが喜ぶほめことばの一例

ことば以外の色々なほめ方

子どもがしてもらったり、もらったりして「うれしい」と思えるものや、楽しいと思える活動を一緒にすることも「ほめる」と同じ効果があります。

好きな関わり方は？
好きな活動や遊びは？
好きな食べものは？
好きなキャラクター、対象
(電車、恐竜など)



ワーク: 子どものほめリスト(ことば以外編)

ほめることが見つからないとき

- いいところを探してほめる。
- ほめるハードルを下げる。
- 困った行動をしていないことをほめる。



いいところを探してほめる

私たちは、ついつい「困った行動」に注目してしまい、「よい行動」があっても気づきにくくなっています。

実際の様子

よい行動 困った行動

大人の目線

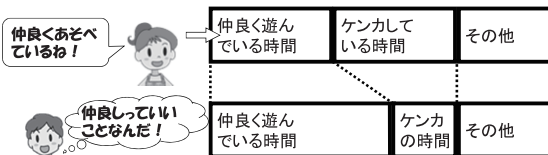
よい行動 困った行動

意識的によい行動に目を向けてみましょう。

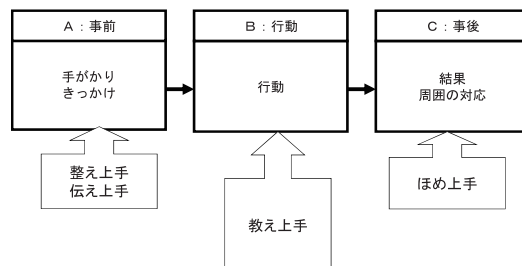
困った行動をしていないことをほめる 逆転の発想で！

困った行動をしたときに対応するのではなく、
困った行動をしていないときにほめる。

友だちとケンカをしていないことをほめることで、ケンカをしている時間が相対的に少なくなる。



先行条件の操作を学ぶ



子どもに新しい行動やよい行動を教えるためのコツをご紹介します。

ワーク：環境を整えてみよう



・ だい君は朝着替えに時間がかかってしまいます。登校時間も迫り、お母さんもイライラして色々と言っています。

整え上手の①～⑥を参考にしてください



わかりやすい声かけ

声かけや指示がうまく伝わらないときのチェックポイント



□ 声かけを聞いていないのでは？



□ 声かけが理解できていないのでは？



□ 声かけは理解できるけれど、興味がなかったり、やりたくないのでは？

※伝わらない理由によって、違った対応が考えられます。

✓ 声かけを聞いていない

- ① タイミングをはかる。
何かに夢中になっているときや、パニックの最中は声が届きにくい。

- ② 注意を引いてから話す。
「今からお話します」「○○ちゃん」と言ったり、子どもの肩を叩いてから話す。



- ③ 目を引くようなものを用意する。
絵カードや文字など視覚的な手がかりを使う。



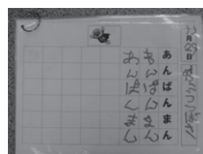
✓ 声かけが理解できない

- ① 前もって伝えておく。
- ② 具体的な言葉を使って伝える。
- ③ 短い指示を一つずつ伝える。
- ④ 子どもの理解に合わせて、指さし・視覚シンボル・写真・絵などを使う。



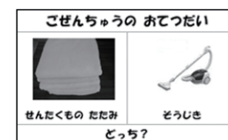
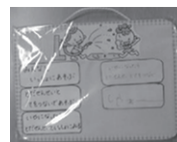
✓ 興味がない、やりたくない

- ① 指示に従った後の結果(ほめ方やごほうび)を工夫する。
- ② 子どもが「できる」と思えるレベル(量や難易度)の課題にする。
- ③ 必ず成功できるように手助けする。
失敗が嫌で活動に取組めない場合がある。
- ④ 課題を工夫して興味ひきつける。
声かけの仕方だけでなく課題そのものにも工夫を加える。

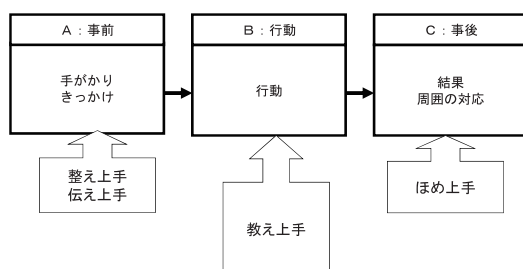


興味ややる気を高める工夫

いくつかの選択肢を用意し、子ども自身に好きな活動やものを選んでもらいます。自分で選ぶと、同じ活動やものでも、よりやる気が出たり、もらったときにより嬉しかったりします。



行動の課題分析・プロンプトを学ぶ



子どもに新しい行動やよい行動を教えるためのコツをご紹介します。

行動を分解するメリット

- ① どのポイントで援助すればよいか分かりやすくなる。
- ② 子どもにとって、どの部分が難しいのかがわかりやすくなる。
- ③ 難しい部分に合わせて、援助の種類や程度を変えることができる。

たとえば「手を洗う」

①	蛇口をひねって水をだす
②	石けんをつける
③	泡立てる
④	両手をこすって手をあらう
⑤	石けんを洗い流す
⑥	水をとめる
⑦	タオルでふく

援助のポイントがわかる

○	蛇口をひねって水を出す	
×	石けんをつける	→ 固形石けんを液体石けんに
○	泡立てる	
○	両手をこすって手を洗う	
○	石けんを洗い流す	
×	水をとめる	→ 「とめようね」と言って蛇口を指さす
○	タオルでふく	

練習：行動を分解しよう①

「カップラーメンを作る」という行動を分解してみましょう。

いくつかの要素に分解するかは自由です。普段の自分の行動をふりかえって考えてみてください。

①	外袋をはがす。
②	
③	
④	
⑤	
⑥	
⑦	
⑧	
⑨	
⑩	

オーダーメイドが基本

一人ひとりに合わせた行動の分解を

行動の要素の分け方に正解はありません。同じ行動でも、その子どもの発達や習熟によって要素のわけ方は異なってきます。また、どのような使う道具か、どの場面で行うかなど周囲の状況によっても要素の分け方は異なります。

実際にその行動をしている場面を観察しながら、どのような要素に分けるか検討できるとよいです。

援助の種類

援助の種類は大きく分けて2つあります

- ① **行動の前の工夫・環境の整備**
取り組みやすいように前もって準備する。整え上手の工夫がこれにあたります。
- ② **行動に対する援助**
子どもがその行動を確実に成功できるように子どもに寄り添って、直接援助します。指さし、手をそえる、やってみせるなどの方法があります。

行動に対する援助のコツ

ちょうどよい量の援助

- ① 必要以上の援助をしない。
- ② 少し待って、様子を見てから援助を出す。
- ③ 援助の量は、徐々に減らしていく。

多すぎると、指示待ちになってしまったり、援助にたよりすぎたりしてしまいます。少なすぎると、失敗を繰り返してしまい、自信を失ってしまうかもしれません。子どもの行動を観察しながら、タイミングを見計らって援助を出しましょう。

練習：困難な場合の援助は？

		必要な援助
①	外袋をはがす。	
②	やかんに水を入れる。	
③	やかんをコンロの上に置く。	
④	コンロの火をつける。	
⑤	ピーとなったら火を止める。	
⑥	カップめんのふたを開ける。	
⑦	やかんの湯を注ぐ。	
⑧	3分待つ。	
⑨	ふたを取る。	
⑩	箸でかき混ぜる。	

なくしていける援助と残す援助

援助はできるようになっていくごとに、徐々になくしていくという視点をもつことが重要です。援助をなくすことと援助によって得られるメリットのバランスを大事にしましょう。

- ① なくしていける援助
指さし、手をそえるなど行動に人がついて行う援助。
- ② 残す援助
スケジュールボード、料理カードなど一人でできることを補助するための視覚的な援助ツール。

教え方の順番

出来具合を見ながら教える順番を選びましょう。

①から確実にできるように 子ども、大人が行動の流れ を理解しやすい。	①	Tシャツを手取る。	仕上げを自分でするので 達成感を味わいやすい。
	②	すそを持つ。	
	③	すそをひろげて頭を入れる。	
	④	頭を通す。	
	⑤	すそを引っ張る。	
	⑥	右手を通す。	
	⑦	左手を通す。	
	⑧	すそを引っ張る。	

行動の後の工夫

9 できたときのほめ方やかわり方

- ・直後にほめる。
- ・子どもの喜ぶ方法でほめる。
- ・声かけ以外のほめ方も工夫する(タッチ、握手、好きなものや活動、トークンなど)。

記録の取り方

一人でできた○ 援助つきでできた△ できなかった☆ 取り組めなかったー

お子さんの行動	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
① ハジャマを手取る	○	-	○	○	○	○	○
② すそを持つ	○	-	△	△	△	△	△
③ すそを広げて頭をのっく	△	-	△	○	△	○	○

うまくできた○ まあまあうまくできた△ うまくできなかった☆

あなたの行動	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
上手に指示できましたか?	△		○	△	○	○	○
困難時に上手に援助できましたか?	☆		○	☆	△	△	○
上手にほめることができましたか?	△		△	○	△	○	○

たとえば・・・

一人でできた○ 援助つきでできた△ できなかった☆ 取り組めなかったー

お子さんの行動	1/15	1/16	1/17	1/18	1/19	1/20	1/21
① ハジャマを手取る	○	-	○	○	○	○	○
② すそを持つ	○	-	○	○	○	○	○
③ すそを広げて頭をのっく	△	-	△	△	○	○	○
④ 頭を通す	△	-	△	△	△	○	△
⑤ すそを少しおろす	○	-	○	○	○	○	○
⑥ クマがそばについているのを確認	△	-	△	△	△	△	△
⑦ 左手を通す	△	-	○	△	○	△	○
⑧ 右手を通す	△	-	△	○	○	○	○
⑨ すそを引っ張る	○	-	○	○	○	○	○
⑩							

④と⑥がなかなか上達しないな。てつぎを変えてみようかな・・・



達成基準



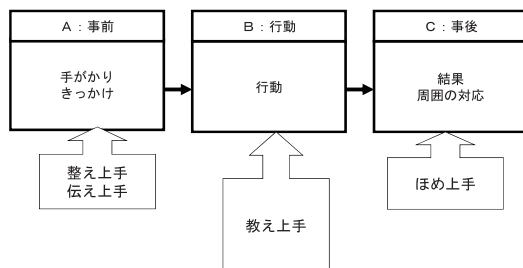
- ・ どうかれば目標を達成できたと言えるかを決めておきます。例)⑨を一人でできる日が週に4日 など
- ・ 一度できても、次から必ずできるとは限りません。繰り返して定着することが大切です。
- ・ 達成基準はつづきを見直したり、次のステップに進むときの基準になります。

家庭療育を楽しくするために

- ・ 罰や負の強化で教えないこと
- ・ 無理をしないこと・楽しく進めること
- ・ 仲間を作ること
- ・ 地域の情報を知ること
- ・ 専門家への相談とスーパービジョン
- ・ 自閉症のあるこどもの子育てからその子の子育てへ



行動分析学をわかりやすく 実行しやすいプログラムで提供すること



子どもに新しい行動やよい行動を教えるためのコツをご紹介します。

まとめ

- 行動分析学とは
 - 行動を説明したり、解釈するのではなく、制御要因を探求する新しい心理学
- 行動分析学の特徴
 - 行動の原因を「環境要因」に求める
 - 行動を先行条件と後続条件という環境要因から捉える
 - 環境要因を操作することで行動に影響する要因を分析する
- 行動分析学の発達障害支援への応用
 - 認知・行動療法
 - 療育プログラムへの展開

発達障害者の就労支援

宇都宮大学教育学部特別支援教育専攻

梅永雄二

発達障害の人の話

- ・今の世の中では生きにくい
- ・常識がないと言われる
→わからないから生きづらい

子どものときの課題

虐待
いじめ
孤立
不登校
引きこもり
非行

米国の学校教育

発達障害等発達障害児童生徒への教育内容

米国での障害児教育におけるIEP(個別教育計画)
に含まれるITP(個別移行計画)の内容

- ・移動能力
- ・身辺自立
- ・医療・保健
- ・居住
- ・余暇
- ・対人関係
- ・地域参加
- ・教育、就労
- ・お金の管理
- ・法的な問題
- ・毎日の生活

それぞれの項目における様々な課

題

- ・移動
 - 方向音痴のため待合せ場所に行くことができない
 - 時間概念が不十分のため遅刻する
 - 音や匂い、人の多さに敏感なため電車やバスに乗れない
- ・身辺自立
 - 髪の毛やひげが伸びっぱなし、化粧ができない、入浴をしない(髪の毛にふけがついている)、歯を磨かない
 - 衣服の選択が不適切(季節に合った服装ではない、デザインが常識外れ)
- ・医療・保健
 - 健康管理ができていない
 - 病気の症状をうまく説明できない

- ・地域参加
 - 不登校、引きこもり
- ・教育
 - 学校の勉強についていけない、集団行動が取れない
- ・居住
 - 掃除、ごみ出し、部屋代の入金
- ・余暇
 - 人と一緒に行動できない
 - 奇妙な余暇の過ごし方をする

- ・お金の管理
 - 無駄遣いが多い、貯金をしない、計画性なく高額な物を購入する、サラ金で借金をする
- ・法的な問題
 - 犯罪に巻き込まれる
 - 犯罪に手を染める(万引き、無銭飲食、ストーカー)
- ・毎日の生活
 - 偏った食生活
 - 新聞や宗教団体の勧誘
 - 訪問販売

発達障害者の課題 大人になると

ニート
フリーター
職場でのいじめ
うつ
休職
離職・退職
ひきこもり
子どもへの虐待
犯罪
ホームレス

我が国の企業から

発達障害者を雇用してから生じた課題

我が国における発達障害の人の就労上の課題 —対人関係(コミュニケーション)スキル

- ・上司や同僚が言ったことが理解できない
- ・相手にうまく伝えることができない
- ・好ましくない言語表現を表し、相手を不快な思いにさせてしまう
- ・曖昧な言動は理解できない
- ・相手の気持ちを無視して自分の好きなことだけをしゃべり続ける
- ・自分勝手な行動をしてしまって、周りから嫌がられる
- ・感情的になりやすく、癇癪を起こす
- ・数に興味があるためエレベーターの階数が示されたナンバーをすべて押してしまう
- ・ナンバースタンドの前に立っていた女性の真後ろにくっついて立ってしまう
- ・音や光が気になるため、勝手にパソコンのモニターや電気を切ってしまう
- ・場の空気が読めない人が多いため、人間関係を支障を来してしまう

発達障害の人の退職理由

ハードスキルとソフトスキル

- ・仕事がつまらなかった
- ・人間関係で問題を抱えた
- ・雇用主に自分の障害を理解してもらえなかった
- ・普通の人の感覚を身につけさせようとされ精神的なダメージを受けた
- ・「障害など関係ない、努力してなおせ」と言われ重圧になった
- ・会社でいじめを受けた
- ・会社の業務、人間関係が出来なかった
- ・仕事をするのが遅いので向かなかった
- ・自分に合わない仕事だった
- ・仕事の技術面で追いつかなかった
- ・人より時間がかかった
- ・簡単な作業が出来なかった
- ・期待に応えようと頑張ったが疲れた
- ・人間関係のややこしさ、指示の多さにパニックを引き起こした
- ・自分の能力では手に負えなかった
- ・自分のペースで働けなかった
- ・リストラにあった
- ・ストレスと体力的に続かなかった
- ・仕事のレベルアップができなかった
- ・いじめにあたり、無視されたりした

- ・簡単な作業が出来なかった
- ・自分の能力では手に負えなかった
- ・仕事の技術面で追いつかなかった
- ・仕事をするのが遅いので向かなかった
- ・人より時間がかかった
- ・仕事のレベルアップができなかった
- ・自分に合わない仕事だった

- ・自分のペースで働けなかった
- ・仕事がつまらなかった
- ・ストレスと体力的に続かなかった
- ・期待に応えようと頑張ったが疲れた

- ・人間関係で問題を抱えた
- ・雇用主に自分の障害を理解してもらえなかった
- ・普通の人の感覚を身につけさせようとされ精神的なダメージを受けた
- ・「障害など関係ない、努力してなおせ」と言われ重圧になった
- ・会社でいじめを受けた
- ・人間関係のややこしさにパニックを引き起こした
- ・いじめにあたり、無視されたりした

ハードスキルとソフトスキル

- | | |
|------------|--------------|
| ・ハードスキルとは | ・ソフトスキルとは |
| ・仕事そのものの能力 | ・仕事以外の能力 |
| ・作業能力 | ・日常生活能力 |
| ・スーパーでは | ・対人関係能力 |
| →パッキング | →挨拶、協調性、表情 |
| →値札付け | (明るさ) など |
| →清掃 | ・コミュニケーション能力 |
| →品出し | ・余暇活動 |
| →カートの片づけ | ・職場での行動 |
| →レジうち | →休憩時間の過ごし方 |

成人期に必要なスキル

SSTからLSTへ

社会性の指導？

思春期・青年期から成人期へつなげていくために

- ・ソーシャルスキルの再検討
- ・ライフスキルを中心に
 - 発達障害の人に対人関係スキルを強要しない
 - 友だち100人でなくてもいい
 - 人に頼るスキルも場合によっては必要

ソーシャル・スキルとは（ウィキペディア）

- ・その場の雰囲気がわかること
- ・自分の発した言動を相手がどのように受け取るかを想像すること
- ・自分の考えを上手に相手に伝えることができること
- ・自閉スペクトラム症の人が学習することに限界がある

対人関係スキルを教えた結果

- ・様々なトラブル
 - 高価な化粧品を買わされた
 - 宗教団体に入らされた
 - 万引きの仲間になされた
 - サラ金に連れて行かれて判子を押させられた
- ・原因は
 - 何をどのようにしたらいいかわからなかった
 - 先の**見通しを持つ**ことができなかった
- ・自立とは何でも一人でできることか？
 - 本人のニーズと適切なサポートで自立
 - 何かあったら相談できる場所(人)を

ライフスキルとは

国連が定義

WHOが定義している10のライフスキル

- 1.自己認識スキル
- 2.共感性のスキル
- 3.効果的コミュニケーションスキル
- 4.対人関係スキル
- 5.意志決定スキル
- 6.問題解決スキル
- 7.創造的思考ができるスキル
- 8.批判的思考スキル
- 9.感情対処スキル
- 10.ストレス対処スキル

発達障害の人における ライフスキルとは

大人が日常的に行う活動

個別のライフスキルチェックリストを作成
ILSP (Individualized Life Skills Plan)

ライフスキルのチェック

チェックリストなので、
必ずしもできるようにするのではない

ライフスキル

大人が日常的に行う活動

ライフスキルのチェック ～ソフトスキルを中心に～

日々のライフスキルチェック①

- 1.朝決まった時間に自分で起きることができる
- 2.顔を洗うことができる
- 3.朝食を(作り)取ることができる
- 4.歯を磨くことができる
- 5.(男性の場合)髭を剃ることができる
- 6.(女性の場合)化粧をすることができる
- 7.髪をセットすることができる
- 8.適切な服に着替えることができる(靴、靴下も含む)
- 9.家に鍵をかけることができる
- 10.乗り物を利用することができる(車の場合は運転ができる)

日々のライフスキルチェック②

- 11.遅刻をせずに適切に職場等の目的地に着くことができる
- 12.タイムカードを押すことができる
- 13.(場合によっては)適切な職場の衣服に着替えることができる
- 14.上司、同僚に「おはようございます」の挨拶ができる
- 15.昼食を取ることができる
- 16.お昼休みに適切な余暇を取ることができる
- 17.仕事が終わった後にタイムカードを押すことができる
- 18.時に応じて残業をすることができる
- 19.仕事が終わった後に「失礼します」の挨拶をすることができる
- 20.スーパーやコンビニで買い物をするすることができる

日々のライフスキルチェック③

- 21.ATMの利用ができる
- 22.帰宅すると手を洗うことができる
- 23.夕食をとることができる(自炊の場合は料理や食器洗いができる)
- 24.入浴が出きる(洗髪も含む)
- 25.パジャマなどの部屋着に着替えることができる
- 26.テレビを見たりCDを聞いたり(ゲームや読書)余暇を楽しむことができる
- 27.寝る前に歯を磨くことができる
- 28.適切な時間に就寝することができる

一週間のライフスキル

- 1.土、日に適切な余暇を楽しむことができる
- 2.爪を切ることができる
- 3.必要なものをまとめて買うことができる
- 4.洗濯ができる(コインランドリーを使うことができる)
- 5.ゴミを出すことができる
- 6.掃除ができる

一ヶ月のライフスキル

- 1.散髪や美容院に行くことができる
- 2.部屋代、携帯・電気・ガス・水道代を支払う
- 3.（旅行など）の余暇を楽しむことができる

一年のライフスキル

- 1.歯医者に行くことができる
- 2.健康診断を受けることができる
- 3.車を利用している場合は点検を受けることができる
- 4.大学生の場合は履修申告ができる

その他のライフスキル

- 1.必要に応じて病院にかかることができる
- 2.給与を適切に分けて使用できる
- 3.貯金ができる
- 4.高額なもの（テレビ、冷蔵庫、エアコンなど）を計画的に購入することができる
- 5.新聞の勧誘や宗教団体、他の商品の勧誘などを適切に断ることができる
- 6.近所の人に挨拶ができる
- 7.必要に応じた買い物（メガネやコンタクト、医薬品など）ができる
- 8.何か問題が生じたときに保護者等の支援者に連絡することができる
- 9.ストレスや嫌なことが生じたときに自分で気分を落ち着かせることができる
- 10.その他必要に応じたライフスキル（緊急時の対応など）ができる

LIFE SKILLSとは 言い換えると

Independent Living Skills in Community

地域で自立して生活できる力

DVD:発達障害者のライフスキル支援

（協力：良品計画、富士ソフト）

星屑倶楽部（中島映像教材出版）
監修 梅永雄二

まとめ

研修資料① アセスメントの力量を高めるために～ケースレポートについて考える～

1. この研修の前提

ケースを的確に把握している人のケースレポートは簡潔でわかりやすい

ケースレポートの仕方を意識すると、アセスメントの力量が上がる

2. どのような状況で、どのようにレポートするかを意識する

(1) 集まっている情報をすべてレポートする

(2) 情報を取捨選択し、理解や仮説、支援方針までを簡潔にレポートする (研修資料②③)

(3) 事例検討会やケース会議におけるレポート (研修資料⑫)

これから、(2)の方法でケースをレポートしてみます。他の人のレポートを聴くのも研修課題です。個人が特定できるような情報はレポートに入れない、ケースに関する資料はコピーせず、研修終了後に回収するなど、守秘性に配慮しましょう。

研修資料② 5分でケースをレポートする (1)

現在、担当している事例や担当者を指導している事例などを、下記の点に留意してレポートしてみてください。持ち時間は5分 (だいたいA4版で1枚相当) です。

1. 3つの作業過程 (インテイク、アセスメント、プランニング) を意識する

収集・整理した情報を評価し、何らかの仮説や理解 (アセスメント) にまとめ、そのアセスメントから対応・方針を検討します。レポートの際には、これまでの支援経過や細かな情報、来談者が語った内容などに時間をかけ過ぎず、あなた自身のアセスメント (理解・解釈・仮説) を中心に述べるようにしてください。

2. アセスメント (理解・解釈・仮説) を述べる

アセスメントとは、『一つ一つの情報を自分なりに解釈し、それらを組み立て、生じている問題の成り立ちmechanismを構成し(まとめ上げ)、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること』と考えてみてください。

アセスメントにあたっては、①生来的な気質や発達特性、疾患などの生物的要因、②不安、葛藤、希望、自己感、認知、内省性、感情統制、防衛機制などの心理的要因、③身近な人たちとの関係、家族や学校・職場への適応などの社会的要因に注目してください。また、3つの要因の関連性にも留意し、生じている問題や「その人」に関する『生物-心理-社会的な包括的アセスメント』と、今後の支援にあたって核心になると思うことをレポートの冒頭で簡潔に述べてください。たとえば、「頭痛や腹痛のために不登校になっている中学生です。軽い知的な遅れがありそうですが、周囲の認識が乏しいことが中心的な問題だと思います。家族に理解を求めて発達について査定したうえで、環境を調えることが中心的な課題になりそうな事例です。」といった感じです。

こうしたレポートによって、①軽度知的障害ないしは境界知能という生物的要因、②周囲の認識不足によって能力以上のことを期待されている、適切な支援が提供されていないといった社会的要因、

③その狭間で本人の不適応感が高まり、抑うつや身体症状が生じているといった心理的要因が絡んでいること、また、それら3つの要因が関連し合っている生じている不登校ケースであることが聴き手に伝わります。

こうしたアセスメントに基づいて支援課題をリストアップします。支援課題がいくつあるかと思っ

3. 対応・方針

アセスメントに基づいて支援方針を述べてください。上記の事例であれば、①生物的要因（知的能力）に注目した学習指導や生活指導など、②個別面接や生活場面において自己評価の回復や不安の軽減を図るような心理的アプローチ、③家族にはたらかけて本人が困っている状況を理解してもらう、学校にクラス運営や個別的支援について検討してもらうなどの環境調整（社会的アプローチ）、そして、④それらのいくつかを並行させた複合的なアプローチ、が考えられます。

どのアプローチを選択するか、どのアプローチを優先させるかは、実現可能性と本人・家族のニーズに沿って決めます。また、緊急性の高い課題があれば、それを優先します。障害者や高齢者の事例では、その人の生活観や人生観（どんな人生・生活を送りたいか）、趣味や好みを踏まえた支援方針を工夫してみてください。

アセスメントの後半でリストアップした個々の支援課題に対応する支援計画をできるだけ具体的に（誰が、どんな方法で、いつまでに、どのくらいの期間）述べてください。情報理解・解釈・仮説一方針の整合性を確認してください。現時点でアセスメントに至るまでの情報が不足している場合には、今後、どのような情報を、どのような方法で集めるかを述べてください。ここまでで5分です。

「生じている問題」に対する方針を考えたいときには、以上のポイントを踏まえてレポートしてください。「その人」をアセスメントするときには、研修資料③を活用してください。

研修資料③ 5分でケースをレポートする（2）～「その人」についてのアセスメント

1. まずは言葉にしてみる

「あの人にどのように関わったらよいのか」に迷っているときは、「その人」のアセスメントが必要です。まずは、漠然と「こんな人」と感じていることや、「あれじゃあ、誰ともうまくいかないだろうな」などと思っていることを、しっかり言葉にしてみましょう。

2. 三つの軸を意識する

修資料④を使って、①生物（気質、発達、障害、疾患）、②心理（不安、葛藤、希望、自己感、認知、内省性、感情統制、防衛機制など）、③社会（対人関係の特徴や適応）という3つの軸を意識しながら、「こんな人／子どもである」という理解や仮説を簡潔に述べてください。たとえば、「穏やかで親切なときと、イライラして怒りっぽいときが極端で、気分の波が大きい子です（感情、気分）。身体症状や一人で眠る寂しさを訴えてくるなど、常に関係を求めているようにみえます。ただし、本児が望んでいるのは、甘えや依存が満たされるような二者関係レベルの対人関係のようです（対人関係）。集団に適応することはできず、些細なことで怒り出したり、落ち込んだりするので、手厚い関わりが必要な子です（適応）」、あるいは、「中学3年生の女の子です。自己イメージは否定的で（自己感）、他者から好かれていないと感じやすいようです（自己、対象の認知）。居場所がなく、非行

仲間からの誘いを断れないため、引きずられるような形で問題がエスカレートしている面があるようです（対人関係）。知的には平均下位で、表現力や内省性はやや低いのですが（生物的な知的能力と内省性）、1対1の場面ではとても素直で、面接を一つの支えと感じてくれそうな子です」といった感じでした。

3. 言っていることと示した反応に注目する

普段から「その人が」話していることや、ある出来事の際に示した反応は、「その人」の理解にとっても役立ちます。言動や反応にどのような意味があるか、どのように解釈できるかを考えてみましょう。たとえば、「あの子がドアを蹴破った」のは、みんなの前で自尊心を傷つけられたことへの憤怒かもしれないし、平等に扱われていないことや差別されたことが悲しかったのかもしれません。

4. 無意識（身体化、失錯行為、抵抗、防衛など）に目を向ける

その人の言動だけに囚われず、「ああは言っているけれども、本当の本当はどんな気持ちなんだろう」とか、「表向きは身体的な不調で登校できないようだけど、本当の本当は学校での友だち関係に苦労しているのではなかろうか（心身相関、身体化）」「ご本人も気づいていないみたいだけど、遅刻が増えたのは、この面接がつらくなっているためではないか（抵抗、失錯行為）」「妙に明るいけれど、本当の本当はとても悲しいのではないだろうか（防衛機制、この場合は反動形成）」などと考えてみてください。

5. ストーリーを描く

その人は、どんな人たちと、どんなふうに暮らしてきて、どんな影響を受けてきたか、問題が発現する時期にはどのような出来事があって、それをご本人はどのように体験していたのか、その結果、どのような葛藤が生じ、それがどのような問題として顕在化し、維持されているのか、といったストーリーを読み解くことを意識してください。また、過去の重要な人間関係が援助者との関係に影響しているかもしれません（転移）。こうした視点は、「現在のその人」に目を向けるだけでは「理解できた」と感じられないときに役に立ちます。

ある地域で、夕方になると大声で叫び始める単身高齢者のことが問題になっていました。自宅を訪問した保健師は、この人に軽い片麻痺があることに気づきました。脳血管障害や認知症に伴う夜間せん妄の可能性を伝え、繰り返し受診を勧めましたが、頑なに拒絶されるだけでした。何度目かの訪問で、いつもは取り付く島のないような不機嫌な人が、家族の話題になると急につらそうな表情、しみりとした口調になることに気づきました。その後、この人が親や兄弟からは見放されたと感じていること、さらに、やや一方的な思い込みのようなものではあるものの、かつて頼りにしていた援助者から裏切られたと感じていることがわかってきました。「この人は夕方になると、ひどく心細くなるみたい」「誰かに頼りたいと思いつつ、また見放され、裏切られることを恐れているのではないか」という仮説に至り、初めてこの人への関わり方がみえてきたように感じました。

6. 強みにも目を向ける

厳しいケースであればあるほど重要な視点です。

研修資料④ アセスメントのためのフォーマット

インテイク (情報の収集・整理)	アセスメント (評価)	プランニング (支援計画策定)
情報 (見たこと、聞いたこと、データなど)	理解・解釈・仮説 (わかったこと、推測したこと)	支援課題 (支援の必要なこと)
	生物的事象 (疾患や障害、気質など)	
	①	
	②	
	③ 心理的事象 (不安、葛藤、希望、自己感、認知、 内省性、感情統制、防衛機制など)	
	④	
	⑤	
	⑥ 社会的な事象 (対人関係、職場・学校への適応)	
	⑦	
	⑧	

研修資料⑤ アセスメントのためのフォーマット (改訂版)

インタビュー(情報の収集・整理)	アセスメント(評価)		プランニング(支援計画策定)
情報 (見たこと、聞いたこと、データなど)	理解・解釈・仮説 (わかったこと、解釈・推測したこと)		対応・方針 (やろうと思うこと)
	本人について	① 生物的なこと (疾患や障害、発達の遅れ・偏りなど)	
		②	
		③ 心理的なこと (不安、葛藤、希望、自己感、認知、 内省性、感情統制、防衛機制など)	
		④	
	環境について	⑤ 社会性・対人関係の特徴	
		⑥	
		⑦	
		⑧ 家族 学校・職場 友人・近隣など	

研修資料⑥ 『アセスメントのためのフォーマット』を使うときの留意事項

1. 「その人」をアセスメントするときには研修資料④、環境要因を含めてケース全体をアセスメントするときには研修資料⑤を使ってください。
2. 「本人」は誰でも結構です。
3. アセスメントの欄から書き始めてください。情報の欄には、アセスメントの根拠になったことだけを書いてください。生物ー心理ー社会的なアセスメント→その根拠になった情報→支援課題の順番がよいかもしれません。
4. 情報とアセスメント（評価）の違いを明確に意識してください。たとえば、「誰々が何をした」「IQは73」などは情報、その言動やデータを（私が）どのように理解・解釈したのかがアセスメント（評価）です。情報は3人称、アセスメント（評価）は1人称です。
5. アセスメント・評価には、確信度や自信に応じて段階があります。理解、解釈、仮説などです。「〇〇の情報から、とりあえず2つの仮説を立てた」というのも有りです。
6. 生物的なアセスメントに病名・診断名だけを書かないようにしてください。何ができて、何ができないのかが重要です。金銭や財産の管理ができない、内服しなくなると再発しやすい、といったアセスメントがなければ、支援方針に結び付きません。
7. 複数の支援対象者がいるケースについては、研修資料⑨を併せて使うとよいかもしれません。

研修資料⑦ アセスメントのためのフォーマット（記入例）

インテイク(情報の収集・整理)	アセスメント(評価)		プランニング(支援計画策定)
情報 (見たこと、聞いたこと、データなど)	理解・解釈・仮説 (わかったこと、解釈・推測したこと)		支援課題 (支援の必要なこと)
宿題や持ち物を忘れることが多い 小学校2年生から学力の遅れが生じている アンパンマンが好き 不器用で足が遅い 球技も苦手	本人について	生物的事実 (疾患や障害、発達の遅れ・偏りなど)	①担任の理解を促し、学習環境を整える ②つらさを汲みながら、長所にも気づかせる ③味方になってくれる友だちを増やし、からかう友だちを減らす ④学校での指導過程と本人の変化を家族に報告しながら、理解を促す ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
よく、「どうせばっくんか」と言う 体育と数学がある日は腹痛を訴えることが多い 支援学級の活用を勧めると渋る		生来的なこと (発達や障害、発達の遅れ・偏りなど)	
友だちに強がって見せることが多く、からかわれやすい		心理的・情緒的なこと、認知の特徴 (不安、希望、気分、感情統制など)	
知的能力の問題を指摘した小学校の担任に対して父親が激怒した 担任は「急がなくていい、できることもやろうとしない」と強調するが、指導について相談したいと言っている 味方になってくれる友だちと、ひどくからかう友だちがいるらしい		社会性・対人関係の特徴 平均的な同年代集団に適応することが難しいと思われる 家族 父親は知的な遅れを否認する傾向が強い 学校 知的な遅れという視点をもっていないが、専門的な助言を求めている 友人 心配してくれる友だちが1/3、からかう友だちが1/3、中間派が1/3くらい	

研修資料⑧ ADHD症状や心理・行動上の問題を示す子どもへの治療・支援と同時に養育者・学校への支援を必要とするケース

インテイク(情報の収集・整理)	アセスメント(評価)		プランニング(支援計画策定)
情報 (見たこと、聴いたこと、データなど)	理解・解釈・仮説 (わかったこと、解釈・推測したこと)	支援課題 (支援の必要なこと)	対応・方針 (やろうと思うこと)
<p>授業に集中できず、気が散りやすい 立ち歩きや飛び出しは算数の時間に多い 友だちとの喧嘩が絶えない 算数の習得度は小2レベル</p> <p>すぐに「どうせぼくなんか」と言う 思い通りにならないと友だちに手を出してしまう 「怒りん坊はみんなに嫌われる」と泣いたことがある 落ち着くと、「さっきは怒りすぎた」と後悔する 深夜に近所を徘徊していることがある(詳細は不明) 対教師暴力(週に1回くらい、算数の授業をめぐって、</p> <p>負けそうになると勝手なルールをつくるらしい チーム競技では強い子ばかり集めようとする 休み時間を独りで過ごすことが増えた</p> <p>自宅はかなり乱雑 保健師に「子どもの躰け方がわからない」と漏らす 本児は指示された教材を持ってこないことが多い 保育料や給食費の滞納が多い 学校と母親はお互いに批判し合っている 母親は学年主任と担任に会うことを拒否</p>	<p>生物的なこと (疾患や障害、発達の遅れ・偏りなど)</p> <p>・注意力や集中力の問題、衝動性からADHDが疑われ、薬物療法が有効かもしれない ・算数の苦手さは学習障害と捉えられるかもしれない(開発不足の可能性もあり)</p> <p>心理的・情緒的なこと、認知の特徴 (不安、希望、気分、感情統制など)</p> <p>・かなり投げやりな気持ちになっていて、頑張りが見えない ・居場所と味方がほしいと感じていると思われる ・勝ち負けにこだわり過ぎて他児と協調できていない ・我慢ができないこと、キレイなことについては自分でも困っているらしい ・夜、家にいられない?(要確認)</p> <p>社会性・対人関係の特徴</p> <p>・自分本位の主張が目立ち、譲ったり、折り合いをつけることができないために孤立している</p> <p>・厳しい指導には激しく反発するが、話を聴いてくれる人には心を開く傾向</p> <p>＜家族＞ ・母親の養育力と関係機関を的確に利用する力は低い ・対応困難によるネグレクトと過剰な叱責 ・学校と母親との相互不信(例外は養護教諭) ＜学校＞ ・混乱しており役割・対応について整理が必要 ＜友人・仲間集団＞ ・クラスメイトは本児との関わりを避け始めている(要介入)</p>	<p>①虐待と生活実態の把握(収入は？ 交際男性は？)</p> <p>②虐待と家出、深夜徘徊のため一時保護が必要になるかもしれない</p> <p>③学校内の体制整備(学習面、本児との関係づくり、家族への対応)</p> <p>④学校の体制整備をサポートする</p> <p>⑤ADHDに対する薬物療法</p> <p>⑥自立支援医療の申請手続き</p> <p>⑦母親への養育指導</p>	<p>①市の家庭児童相談員が周辺調査と毎週ないし隔週の訪問を実施(当面の間、継続する)</p> <p>②必要時には児童相談所が速やかに対応</p> <p>③算数については特別支援教室を利用することを本人と母親に提案。スクールカウンセラーが本人と面接(毎週、本人の立場を最優先し、心情を汲みながら、より適応的な行動について助言。深夜徘徊について事情を確認)。母親との連絡は養護教諭に一任。</p> <p>④スクールソーシャルワーカーが上記プラン③のモニタリング会議に加わる(初回は2週間後)</p> <p>⑤市の保健師が近隣の医療機関でADHD治療薬を処方できる医師を探しておく(できるだけ早く)</p> <p>⑥家庭児童相談員が母親の申請手続きに同行</p> <p>⑦市の保健師が担当(市役所への来談時ないし訪問で随時)</p>
	本人について		
	環境について		

研修資料⑨ 複数の支援対象者がそれぞれいくつかの支援ニーズをもつケースのプランニング票

アセスメント要約

支援を必要 としている人	支援課題	支援体制と役割分担		
		誰が	どんな方法で	いつまでに／いつ頃まで
① ② ③				
① ② ③				
① ② ③				

アセスメント要約

発達上の問題を踏まえた支援を必要とする長男と心理的ケアを必要とする長女、就労・生活支援の必要な母親から成る3人家族

支援を必要としている人	支援課題	支援体制と役割分担		
		誰が	どんな方法で	いつまでに／いつ頃まで
長男	①クラスへの適応を助ける	担任	本児に親切な子と批判的な子とそれぞれ話し合う	来週中に
	②教室でのかんしゃを防ぐ	担任	保健室へ回避させ、養護教諭が対応（クールダウンと事情聴取）	随時
	③			
長女	①心理療法的ケア	スクールカウンセラーと毎週〇〇センター心理担当が毎月	基本は支持的な面接、展開によっては身体化のメカニズムを話し合	当面の間、継続
	②学習の遅れを防ぐ	担任	定期的な家庭訪問により自習の達成度を確認	当面の間、継続
	③			
母親	①2人の子どもへの対応について話し合い、必要な助言を提供	〇〇センターの心理担当	長女の来談時に並行面接	当面の間、継続
	②就労支援	障害者生活・就業支援センターの担当	面接（これまでの失職の経緯と今後の就労について）	来週から随時
	③			

研修資料⑪ 5分レポートの評価

レポートが5分、そのレポートに関する評価が5分です。

レポートが5分以内に終わったら、そのまま評価を始めてください。

評価するのは「いまのレポートがどうだったか」です。

評価項目

- ☐ 5分以内で終わったか、終わらなかったのは何故か
- ☐ ケースを包括的（生物－心理－社会的）に捉えていたか
- ☐ 『アセスメント』を述べていたか（1人称で！）
- ☐ 支援経過や状況説明だけで終わっていないか
- ☐ おもな支援課題がいくつかあるかを明確に示したか
- ☐ それぞれの支援課題について具体的な対応・方針が示されていたか
- ☐ 本人・家族のニーズを汲んだ実現可能な支援プランか
- ☐ わかりやすかったか

ケースの内容に関する質疑や意見交換はしないでください。

ケースの内容について質問したいときは、「こういう情報が入ると、
もっとわかりやすくなる」とフィードバックしてください。

研修資料⑫ ケース検討会議の演習

I ケース会議の目的と課題

「ケースへの対応を検討したい」：実際はアセスメントが課題であることが多い

「支援課題と各機関の役割を明確にしたい」：フォーマットを完成させればよい

II 支援課題と各機関の役割を明確にするためのケース会議の成功パターン

1. カリスマ的なメンバーや助言者が大活躍する（1人で「右に流してしまう」）

2. カリスマに頼らずに成功させるには…？

（1）よいケースレポート

ゴール（結論）を意識し、できるだけ完成に近いレポートをする

アセスメントと支援課題、個々の支援プランまでレポートする（研修資料⑬）

（2）上手な司会

「右に流れる」ように誘導する

常に『アセスメントのためのフォーマット』のどこが話題になっているかを把握する
自分の手に負える範囲を考えながら進行する

（3）明確で作業意識の高い質疑・討論

オープン・クエスチョンを避け、質問・発言の意図、自分の考え・意見を述べる

「質問→回答」だけでなく、質問者に「その回答からわかったこと」を述べてもらう

質問されていないことまで喋らない

多くのメンバーが残り時間を意識し、「右に流す」という作業意識を共有する

(4) アセスメントと後半の検討課題を固める

ケースに関する確認や質疑が一段落したら、そこまでのアセスメントと後半のおもな検討課題を共有する。

研修資料⑬ ケース検討会議におけるケースレポートの準備について

1. 報告する事例にタイトルをつけてみる
2. 検討したいポイントや助言を必要としている点を先に述べる
3. 発達歴、生活歴、家族状況などを述べるときは、それぞれのアセスメント（評価）と、その根拠となる情報に絞る
4. アセスメントには生物－心理－社会モデルを使う
ただし、この方法ではまとめ切れないときには、他の方法を用いる（たとえば研修資料⑭）
5. その人への関わり方を検討したいときは、「その人がどんな人なのか」を深めるために、その人が話した内容や普段から話していること、ある出来事の際に示した反応などの情報を多めに入れ、それらについて自分（レポーター）の解釈や理解を述べる
6. レポートの時間を想定し、時間内に報告できるように準備する（10分ならA4版で2枚）
7. 残したい情報、削れないと思うエピソードの意味を考え、自分の考えをまとめる
8. 上記の作業後、もう一度タイトルについて考えてみる
9. 実際のケース検討会議では、支援課題までに留める手もあるかもしれません。

研修資料⑭ アセスメント票（エリア別）

本人のニーズ (エリア)	本人の能力 と限界	家族の支援 と限界	プライベートな 支援と限界	専門家の支援 (現在利用)	専門家の支援 (提供可能)
療 健 医 保					
収 入					
職 業					
住 居					
A D L					
対 関 人 係					
家 族 関 係					
趣 味 いきがい					
その他					
アセスメント の要約					

発達障害を巡る諸問題 ～児童青年精神科臨床の実践から～

一般社団法人日本自閉症協会・会長
医療法人弘徳会愛光病院・顧問

山崎 晃資

1

I. “いわゆる”発達障害とは

2

発達障害者支援法による定義 (平成17年4月)

第2条第1項:

この法律において発達障害とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに準ずる脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの。

「発達障害」の用語の使用について 文科省初等中等教育局特別支援教育課 (平成19年3月15日)

- ① 発達障害の範囲は、発達障害者支援法の定義によるが、高機能以外の自閉症者については、以前から、また今後とも特別支援教育の対象であることに変化はない。
- ② 「軽度発達障害」の表記は、その意味する範囲が必ずしも明確ではないこと等の理由から、今後当課においては原則として使用しない。
- ③ 学術的な発達障害と行政政策上の発達障害とは一致しない。また、調査の対象など正確さが求められる場合には、必要に応じて障害種を列記することなどを妨げるものではない。

世界自閉症啓発デー・2015

発達障害は、脳機能の障害であってその症状が通常低年齢で発現するものをいいます。例えば、自閉症やアスペルガー症候群を含む広汎性発達障害、読字障害や書字障害を含む学習障害、注意欠陥多動性障害、吃音症、トゥレット症候群などが発達障害に含まれます。知的障害を伴っている場合もあります。

5

II. 臨床児童青年精神 医学における診断

6

Diagnosis（診断）の意味

- ギリシャ語の語源：
「知識のすべて」

dia → between, through
gnosis → knowledge

7

■ 診断の系列

1) 診断フォーミュレーション：
個人的接近＝自己歴的診断

2) 診断分類：
グループ的接近＝名称的診断

8

診断フォーミュレーション

9

診断フォーミュレーション

- ① 発症に関連する要因はなにか：遺伝的要因、周産期障害、親子関係、家族状況などなぜこの時点で来院したのか
- ② どのような症状形成過程が働いているのか：Bio-socio-psychological factors、疾病利得、危険信号、下位文化など
- ③ なぜ症状が持続しているのか
- ④ 治療した(しない)場合、結果はどうなるか
- ⑤ 子どもの長所はなにか：治療の有効性に作用するもの

10

診断のための12の一般的なコツ

(Allen Frances: 精神疾患診断のエッセンス、
大野 裕ら 訳、金剛出版、2014年)

- ① ヒポクラテスは、患者を知ることは病気を知ることと同程度、重要であると言った
- ② 時間を取って、努力する
- ③ ブロードウェイで蹄が聞こえたら、「シマウマ」ではなく、「馬」と思え！ 診断が疑わしい場合は、可能性の高いものから考えるべきである
- ④ あらゆる情報を入手せよ
- ⑤ これまでの診断名は考慮するが、それに盲従してはならない

11

- ⑥ 定期的に診断を見直す
- ⑦ 小児や思春期の患者は特に診断が難しい
- ⑧ 高齢者の患者も診断が困難である
- ⑨ 症状が軽症なほど、診断は困難となる
- ⑩ 疑わしい場合は、過小診断の方が、より安全でより正確である
- ⑪ 正確な診断は大きな利益をもたらすが、不正確な診断は大きな不幸をもたらす
- ⑫ ヒポクラテスの不朽の言葉を常に思い出す
「何よりも害を成すなかれ」
(first, do not harm)

12

III. 自閉症スペクトラム 障害とは

(Autism Spectrum Disorder, ASD)
DSM-5 (米国精神医学会、2013年)

13

米国精神医学会 精神疾患の診断・統計マニュアル 第5版(2013年) DSM-5

14

DSM-IV(1994年) 発達障害関連の分類

- 精神遅滞
- 学習障害
- 運動能力障害
- コミュニケーション障害
- 広汎性発達障害
- 注意欠陥および破壊的行動障害

15

DSM-5のパラダイム・シフト

① 生物学的指標の導入

- * 医師の主観的判断は不十分
- * 研究途上にある精神機能測定法の導入(例)光トポグラフィー

② 予防概念の導入

- * 将来の状態を識別することは困難
- * 初期診断・初期介入の効果的治療法が証明されていない

③ ディメンジョン・モデル(計量的尺度・次元)の導入

- * 特徴的な症状を軸として評価 vs カテゴリー・モデル
- * 症状に関するすべての情報を生かし、治療に活用する

16

DSM-5 の神経発達障害群

1. 知的発達障害
2. コミュニケーション障害
 - ①言語障害
 - ②語音障害、 ③小児期発症流暢障害(吃音)
 - ④社会的(語用論的)コミュニケーション障害
4. 自閉症スペクトラム障害
5. 注意欠如/多動性障害
6. 限局性学習障害
7. 運動障害

17

自閉症スペクトラム障害(ASD)

- ① 社会的コミュニケーションと社会的相互交渉(対人交流)の持続的な欠如
- ② 行動・興味・活動の限定的で反復的なパターン

- * 自閉症、PDD-NOS、アスペルガー症候群の特有な臨床症状は乏しく、症状重症度は連続(正常・サブクリニカルを含む)している。

18

自閉症スペクトラム障害①

A. 社会的コミュニケーションと社会的相互交渉(対人交流)の持続的な欠如

- (1) 対人的-情緒的な相互交渉の欠如
- (2) 対人交流に用いられる非言語的コミュニケーション行動の欠如
- (3) 対人関係を築き、維持し、理解することの欠如

19

自閉症スペクトラム障害②

B. 行動・興味・活動の限定的で反復的なパターン

(以下の少なくとも2つ)

- (1) 常同的または反復的な運動・物の使用、または話し方
- (2) 同一性への固執、ルーチンへの執着、言語的/非言語的行動の儀式的パターン
- (3) 程度や対象が異常な非常に限局され固着した興味
- (4) 感覚刺激への過敏または鈍感、または環境の感覚的な側面への異常な興味

20

自閉症スペクトラム障害③

C. 症状は発達早期に存在(対人的要求が本人の能力の限界を超えるまでは明らかにならないか、後に学んだ处世術で隠されているかも)

D. 症状は、社会性・職業、その他の重要な領域で臨床的に有意な障害を引き起こす

E. 知的障害(知的発達障害)や全般的発達遅滞では説明できない。知的障害としばしば併存し、併存症診断をするのは、全般的な発達レベルよりも社会的コミュニケーションが低いとき

21

自閉症スペクトラム障害④

「注釈」

- 1) DSM-IVで、自閉性障害、アスペルガー障害、PDD-NOSと診断されている人は、ASDと診断されるべきである。
- 2) 社会的コミュニケーションの欠如はあるが、他のASDの診断基準を満たさない人は、社会的コミュニケーション障害と診断すべきである。

22

自閉症スペクトラム障害⑤

「特記事項」

- ① 知的障害を伴うか否か
- ② 言語障害を伴うか否か
- ③ 既知の医学的・遺伝的状态、または環境的要因と関連している場合
- ④ 他の神経発達の・精神的・行動障害と関連している場合
- ⑤ カタトニア(Catatonia)を伴う場合

23

ASDの重症度(DSM-5)(本田秀夫、2013)

重症度	対人コミュニケーション	限局した興味と反復的行動
レベル3 「きわめて多くの支援を必要とする」	言語および非言語的対人コミュニケーション・スキルの重度の欠陥	すべての場面における機能を顕著に妨げる
レベル2 「多くの支援を必要とする」	言語および非言語的コミュニケーション・スキルの顕著な欠陥;適切な支援があっても対人的な障害は明らか	誰がみても明らかで、さまざまな場面で機能を妨げる
レベル1 「支援を必要とする」	適切な支援がなければ対人コミュニケーションの欠陥によって何らかの障害に気づかれる	1つ以上の文脈で有意に機能を妨げる

24

DSM-5は、診断分類システムの完成形ではなく、的確な使用には前提条件として臨床的トレーニングと経験が必要である。

25

DSM-5は、診断分類システムの完成形ではなく、的確な使用には前提条件として臨床的トレーニングと経験が必要である。

25

DSM-5の諸問題

(大野 裕:「DSM-IIIはなぜ作られ、DSM-5はなぜ批判されたか」、金剛出版、2014)

- ① 米国の医療保険からの圧力
- ② ガイドライン(保険会社 vs 医師)の作成
- ③ 治療方針における個別性(社会的要因)が切り落とされる可能性
- ④ 明確な科学的根拠や疫学調査がないままに作成された:米国精神医学会の経済的状况(NIMH米国精神保健研究所との確執)
- ⑤ 過剰診断に繋がる恐れがある(症状を満たしているだけで診断)

26

ちょっと気になる乳幼児

- ①あやしても笑わない、②音に過敏である
- ③人見知りをしない、④親の後追いをしない
- ⑤イナイイナイバーをしても喜ばない
- ⑥抱きにくい、⑦視線が合わない
- ⑧指さしをしない、⑨言葉が遅い
- ⑩人やテレビの動作のまねをしない
- ⑪手をヒラヒラさせたり、耳を両手で押さえたりする
- ⑫独り遊びが多く、他の子どもと遊ばない
- ⑬ごっこ遊びをしない、⑭こだわり行動が目につく

28

愛着(attachment)

◆ 子どもと他の特定の人間(母親)との間に形成される愛情の絆が、両者を空間的にも時間的にも結びつける。(John Bowlby)

- ① シグナル行動:泣く、笑う、喃語、呼ぶ、特定の身振り
- ② 接近行動:接近、後追い、しがみつき、吸う

29

ちょっと気になる学齢児

- ① 集中力が乏しく、話を聞けない
- ② 集団行動がとれない
- ③ 多動で落ち着きがない
- ④ キレやすく、すぐ手を出す
- ⑤ 情緒不安定である
- ⑥ 基本的な生活習慣が身に付いていない

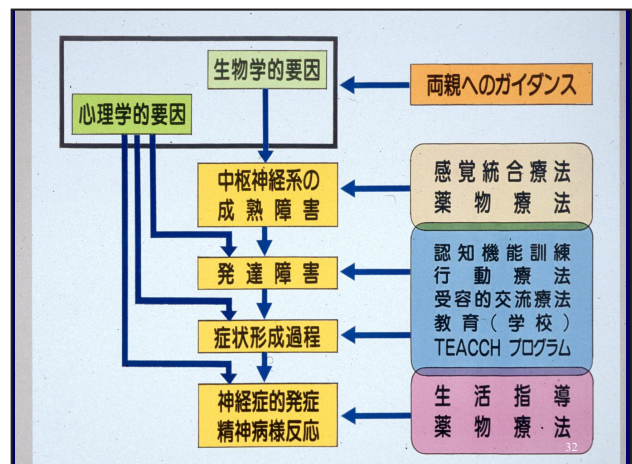
➤ 保護者が子どもの問題を認めない

30

考えておかなければならない事柄

- ① 定型発達の子ども(気質、親子関係)
- ② 哺育障害
- ③ 反応性愛着障害、脱抑制性愛着障害
- ④ 児童虐待(世代間伝達)
- ⑤ ボーダーライン・チャイルド
- ⑥ 広汎性発達障害、自閉症スペクトラム
- ⑦ 注意欠如/多動性障害
- ⑧ 精神遅滞、知的発達障害

31



自閉性障害の原因

- ① 周生期障害
- ② 遺伝的要因
- ③ 脳機能の障害
(脳イメージングの研究)
- ④ 神経伝達物質の代謝障害
- ⑤ 食物の問題
- ⑥ グルコース代謝障害
- ⑦ 種々のホルモン分泌障害

33

出生から1歳くらいまでの時期

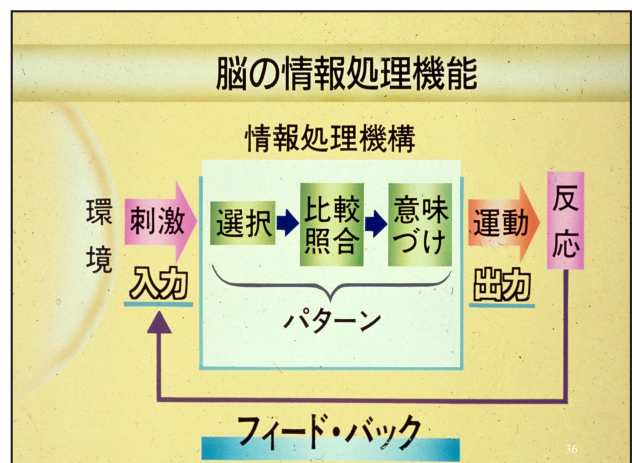
- ① 反応が乏しくても、スキンコンタクトをしながら言葉かけをすることが大切
- ② 感覚統合の機能を促すには、子どもの皮膚に触れ、語りかけ、手足を同時に動かすというような協調運動が有効
- ③ 日本の子ども達の遊び
- ④ 療育指導の基本は、子どもが成功しやすいように教えること(例: ボール遊び)

34

発達障害が現れる1~3歳頃までの時期

- ① 子どもの自発行動から出発する
- ② 物と動作を関係づけて根気よく言葉かけ(やや大きめの声で)をする
- ③ 外界からの刺激を選択的に入力することが苦手なので、構造化された環境を用意し、一対一で、一つひとつ教えていく
- ④ 他の子ども達と一緒に遊ばせ、子ども同士の行動を体験させる

35



V. 臨床診断の進め方

37

臨床診断の進め方①

- ① 主訴: 受診した目的、主たる訴え
- ② 現病歴: 発症以来の経過
- ③ これまで受診・相談した専門機関の所見(診断分類名、見立て、評価)と、治療・指導方針
- ④ 診断分類名および見立て: どのくらいの経過観察の後に説明されたのか
- ⑤ 発達歴・生活歴
- ⑥ 行動観察・精神科的現在症

38

臨床診断の進め方②

- ⑦ 臨床検査および心理検査
- ⑧ 保育園・幼稚園・学校、職場からの情報
- ⑨ 鑑別診断
- ⑩ 伝統的診断: 診断概念の歴史的変遷
- ⑪ 国際的操作的診断基準(DSM-5、ICD-10)との照合
- ⑫ 本人および家族への説明(診断、治療方針、薬物療法など)
- ⑬ 経過観察と臨床診断の再検討

39

VI. 横行する安易な診断と偏見・誤解

40

横行する安易な診断

- ① 臨床に対する畏れを持たなくなった
- ② 乳幼児期の発達歴を軽視する
- ③ 場面を変えた行動観察を繰り返さない
- ④ 保育園・幼稚園・学校から情報を得ようとする
- ⑤ 短時間の1~2回の診察で診断する
- ⑥ 操作的診断基準に依存しすぎる診断
- ⑦ 保護者の気持ちを斟酌しない

41

VII. 最近、考えていること

42

- ① 高機能自閉症やアスペルガー症候群の人々が語る**内的世界から見えるもの**は、知的障害を伴う自閉症の人々の内的世界と同じものか。
- ② 知的障害の有無にかかわらず、**自閉症の人々は「成長」し続けている**。
- ③ **反応性愛着障害やパーソナリティ障害**との関連をどう考えるか。

43

- ④ **成人期以後**に受診してくるケースの診断はどうあるべきか。
- ⑤ **「親亡き後」**の問題にどう対応できるのか。**亡き親への思い**。
- ⑥ **高齢期**になる人々の問題。**入所施設か精神科病院か**。

44

- ⑦ **成年後見制度**は、**認知症**は。
- ⑧ **強度行動障害**への対応は
- ⑨ **なぜ自閉症の人々に魅了され続けるのか**。

45

VIII. 発達障害者支援法の見直しに関する要望書

46

発達障害者支援法の見直し

- ① 平成17年：発達障害者支援法施行
- ② 平成26年3月：野田聖子衆議院議員（発達障害の支援を考える議員連盟・会長代理）へ「発達障害者支援法の見直しに関する要望書」を提出

47

要望書のポイント

- ① 障害のある人々に関する**制度改革の整合性を図る**と共に、発達障害の人々が受け入れられ、かつ適切な配慮が行われるように、都道府県・区市町村・事業者に義務づける。
- ② **インクルーシブ教育システムを構築**する。
- ③ 保育・教育・権利擁護・就労支援における制度改革と整合性を図ると共に、それらの制度により**発達障害の人々に適切な配慮**が行われるように、各関係機関に義務づける。

48

- ④ 支援者の人材育成、および支援支援システムを確立する。
- ⑤ 発達障害の人々のための手帳制度を確立する。
- ⑥ 司法における権利擁護・合理的配慮を確保する。
- ⑦ 高齢期の発達障害の人々への支援体制を開発・整備する。

49

発達障害児者支援に関する 調査の実施(厚労省)

- ① 発達障害者支援センターの体制及び事業実施状況(相談受付、コーディネート、人材育成)
- ② 早期対応の状況(乳幼児健診、巡回相談)
- ③ M-CHATなどのアセスメントツールの活用状況
- ④ 家族支援の実施状況(ペアレントメンター)
- ⑤ 発達障害児者が利用できる医療機関の確保状況
- ⑥ 発達障害者の就労支援との連携状況

50

実務研修報告

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修

社会福祉法人 侑愛会
星が丘寮 中野 伊知郎

1、実務研修の概要

社会福祉法人 侑愛会（おしまコロニー）では、第1回目を平成26年9月1日から5日まで、第2回目を平成26年12月8日から12日までの、各5日間、2回にわたり実務研修を実施している。参加者の職種は多岐にわたっており、障害者支援施設の支援員やサービス管理責任者や管理者、発達障害者支援センターのコーディネーター、自閉症療育の専門家などであった。また、経験年数も幅広く5年から20年の職員である。

1回目の参加者は5名、2回目の参加者は6名の計11名が参加している。

2、実務者研修検討会の開催

実務研修を引き受けるにあたり、研修日程の調整やプログラム内容の検討を行うために、主要な事業所が集まり検討会議を開催している。

検討会議で話し合われた内容をもとにして、研修内容の決定がされた。その内容は、おしまコロニーの特色を生かしたものにすることとし、発達障害の方々に対する、幼児期から青年期・成人期そして老年期までの支援体制を見ていただきながら、各ライフステージに応じた取り組みを通して、一貫した包括的な支援が継続的に行われていくことの重要性を伝えること。また、その中で、TEACHプログラムの構造化のアイディアを応用した取り組みが、どのように実践の中で生かされているのかということを伝える内容としている。

平成26年度 発達障害支援者スーパーバイザー養成研修 実務者研修（侑愛会 おしまコロニー）

日時			9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
1日目	9月1日	月					あおいそら(発達障害支援センター) 「オリエンテーション」 講義1「発達支援センターの役割」 講義2「自閉症の障害特性」 講義3「アセスメントとは」					
	12月8日											
2日目	9月2日	火	つくしんぼ学級の概要説明	つくしんぼ学級実習	休憩	つくしんぼ学級実習	つくしんぼ学級(児童発達支援センター) 講義1「児童発達支援センターの取り組み」 意見交換					
	12月9日											
3日目	9月3日	水	WSほくと の概要説明	WSほくと 実習	休憩	WSほくと 実習	WSほくと(通所事業所・生活介護) 講義1「就労支援について」 まとめ					
	12月10日											
4日目	9月4日	木	星が丘寮 の概要説明	星が丘寮(入所支援) 講義1「強度行動障害への取り組み」	休憩	講義2「星が丘寮の取り組み」	星が丘寮 実習			まとめ	実務研修の総括・意見交換会	
	12月11日											
5日目	9月5日	金	障害児入所施設(おしま学園) 特別支援学校(休憩						
	12月12日											

- * あおいそら:オリエンテーションの中で、法人概要を説明するとともに、自閉症の障害特性及びアセスメントの基本を取得してもらう。
- * つくしんぼ学級:インフォーマルな評価を中心に、療育の中で実際にアセスメントを行ってもらう。
- * ワークセンターほくと:TTAPをもとにしたフォーマルな評価を中心に、作業場面でのアセスメントを行ってもらう。
- * 星が丘寮、ねお・はろう:「強度行動障害支援」の講義を中心に、生活支援、日中活動場面におけるアセスメントを行ってもらう。
- * おしま学園、分校:児童入所施設と特別支援学校の実践を見学してもらう

3、研修プログラムについて

- 1日目：発達障害者支援センターにて、侑愛会の概要と北海道における発達障害者支援センターの役割について説明している。また、実践研修を進めていく時の基礎となる、自閉症を中核とする発達障害の特性について説明を行い、今回の研修の大きな目的である「アセスメント」の重要性とその考え方をについてレクチャーしている。
- 2日目：児童発達支援センターにて、自閉症児に対する療育を中心に実習を行っている。「つくしんぼ学級」の概要の中では、自閉症を中核とした発達障害児が多く利用していることを説明している。実践研修では、実際に子供たちと関わってもらいながら、「コミュニケーションサンプル」をとり、それぞれの評価を持ち寄って、分析・検証を行っている。それらの分析をもとに、今後、想定される目標設定について、職員と意見交換を行っている。
- 3日目：通所事業所にて、自閉症者の成人期における日中活動の様子を見てもらいながら、働くことに対する評価「TTAP」を用いて、アセスメントの方法について意見交換を行っている。実際に直接観察を行っている様子をビデオで見ながら評価をしてもらい、自閉症の特性について意見交換を行っている。
- 4日目：入所施設にて、「強度行動障害」に対するアプローチの考え方や、実際のケースをもとにした事例検討を行っている。その中で、それぞれの意見交換を行い、チームアプローチの重要性について説明している。また、構造化のアイデアをどのように生活や日中活動、社会活動に生かされているのかをビデオなどを見ながら、意見交換を行っている。その後、実際の生活寮で利用者のアセスメントを行っている。
- 5日目：児童入所施設と特別支援学校の見学を通して、学童期における自閉症教育・療育の実際を見てもらい、意見交換を行っている。

4、まとめ

今回、5日間の実務研修を受けるにあたり、どのようなプログラムが提供できるのか？正直不安な点があった。それは、確立された支援ではなく、個別支援の視点に立ったアプローチが必要であり、そのためには、一人ひとりの特性を知ることからスタートしなければならないからである。そこで、今回の研修は、アセスメントを中心に内容を組み立て、利用されている方々の特性を知ってもらいながら、「根拠のある支援」を組み立てていくためのヒントとなるような内容として実行した。

今回の研修の効果については、それぞれが持ち帰り、実際に活用していく中で、実践に結びつけることを実感してもらい、そのことがきっかけとなり、多くの人が正しい理解のもと、療育・支援が行われることによって自閉症の方の生活の質が向上するのだと考える。

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修の受け入れ報告

社会福祉法人はるにれの里

札幌市自閉症者自立支援センター ゆい 中村 修一

札幌市自閉症者自立支援センターゆい（以下ゆい）のスーパーバイザー実務研修の受け入れは、9月・10月・11月の各月4日間で計9名の方がお越しになりました。

地元北海道の新しいつ幸生園、岩手県発達障がい者支援センター、静岡県発達障がい者支援センター、東京都昭島生活実習所、神奈川県生活工房、大分県樹の実園、千葉県袖ヶ浦のびろ学園・菜の花会しもふさ工房・アーアンドディーだいえいと、北から南まで全国各地から参加していただき、この養成研修への関心の高さが伺えました。

実務研修の受け入れプログラムとして、はるにれの里として考えたこと

- 発達障害支援スーパーバイザー研修なので、成人重度の自閉症の支援にとどまらず、幅広く見たり考えたりするプログラムであること
- 法人全体をイメージしていただけるプログラムであること
- 全国からお越しいただいた方々との意見交換を重視すること

研修の受け入れは、実際なかなか大変ではありましたが、現場の職員も参加者の方々と意見交換ができる貴重な時間となりました。さまざまな視点での意見交換や、外部の方が各ユニットや作業などの実習に入ることで、職員にとってもいい刺激になったと思います。



具体的なプログラムはこちら→→→

法人の理念である「いかなる重度の障がい者であっても最終ゴールは、地域での自律生活を目指し、地域に溶け込み、地域を支え、地域に支えられるということ」を伝えられるような内容になればと思い、プログラムを作成させていただきました。

前半はゆいでの研修が中心です。

後半は、地域での生活について、地域支援担当からの現状報告を聞いたり、GHの現場を直接担当している職員の法人内研修会に参加してもらったりして、現場の生の声を聞いていただく機会を設けました。

また、重度自閉症をはじめとした発達障がいの方々の日中活動の様子についても、法人内のいくつかの事業所を訪問し、実際に見学させていただきました。

研修を終えて 参加者からの声

研修事務局へ提出された実習報告の写しを送っていただきました。

以下、その中からの抜粋です。

○事業所をいくつか見学させていただきました。その中で感じたことはどの事業所も貴法人の支援の基本にあるTEACCHプログラムや構造化に沿った支援がされており、支援の方向性が法人内で浸透していると感じました。

○自閉症支援方法で目指している方向性は共通する点が多いのではないかなという点に気づきました。

「本人を理解することからすべてが始まる」等、深く共感できました。



月日	時刻	内 容
1 日 目	9 : 00	オリエンテーション
	10 : 00 11 : 00	法人の理念と課題
	10 : 00 12 : 00	おがる説明 ゆいの事業と役割
	12 : 00 13 : 00	休憩(ゆい)
	13 : 00 15 : 00	はるにれの里 自閉症支援の考え方について
	15 : 00 16 : 00	施設内見学
		質疑応答及び意見交換 課題の整理
2 日 目	9 : 00	オリエンテーション
	9 : 45 12 : 00	生活介護 Cブロック実
	12 : 00 13 : 00	休憩・昼食
	13 : 00 14 : 00	ケース報告
	14 : 00 16 : 00	グループホーム見学
	16 : 00 17 : 00	地域で支える仕組み作りと課題
		質疑応答及び意見交換 課題の整理
3 日 目	9 : 30	オリエンテーション
	9 : 45 10 : 15	個別支援計画と地域移行
	10 : 20	移動
	11 : 00 16 : 00	地域職員研修会
		質疑応答及び意見交換 課題の整理
4 日 目	9 : 50	ゆい発
	10 : 10	生活介護事業所 さりゅう着
	11 : 00	生活介護事業所 あらいぶ着
	11 : 40	多機能型事業所（児童発達支援、放課後等デイサービス） よかつち
	14 : 00	多機能型事業所（就労継続B事業・生活介護事業） ポロレ・リーフ
	14 : 45	就労移行支援事業所 あるば
	16 : 00	閉講式

平成26年度 発達障害者スーパーバイザー養成研修 報告

障害者支援施設 あいの家

●実務研修の受け入れから

あいの家では、9月と10月に各5日間、計4人の方を受け入れました。

1、実務研修プログラム

	9:00	12:00	13:15	13:30	14:00	15:00	16:30	17:00
9/29				受付	開講式、オリエンテーション 講義、 「社会福祉法人梅の里の歩み」		意見交換会 全体見学	
9/30	日中活動（作業支援） 通所：ロウソク	休憩	生活支援、日中活動 通所：ロウソク		生活支援 通所：短期入所		まとめ 意見交換	
10/1	講義「療育と余暇支援」 障害者支援施設あいの家	休憩	生活支援、日中活動 通所：手工芸		生活支援 通所：短期入所		まとめ 意見交換	
10/2	日中活動（作業支援） 入所：農耕	休憩	日中活動（作業支援） 入所：農耕				まとめ 意見交換	
10/3	講義「発達障害者支援センターの機能及び現状」 閉講式・まとめ 意見交換							

2、研修プログラムの軸

行動障害のある自閉症の方たちを支援する際に、全職員が共通した目的と認識を持つ事。

- ・利用者さんの生活の豊かさに繋がる余暇支援。 ～事例紹介～
- ・強度行動障害の方の短期入所支援の取り組み。

3、臨床実習

- ・屋外作業の農耕班と室内作業のロウソク班、手工芸班に分かれて、実習をして頂きました。農耕班では、利用者の特性に合わせた設定内容を見て頂き、室内作業では、細かい作業工程を分かりやすく設定している状況を中心に見て頂きました。
- ・生活支援では、短期入所の利用者支援を見て頂き、日によって利用者が変わる環境の中で、落ちて着けて寛げる環境とプログラム等を見て頂きました。

4、研修を終えて ～参加者の声～

意見交換時のご意見内容から抜粋

- ・入所利用者さんと通所利用者さんの皆さんが、日中活動等を通して様々な環境設定の中で、持てる力を自ら出されている様に感じられました。また、生活されている空間がとても、ゆっくりとした時間で流れている様な支援に感じました。
- ・利用者さんが、生活を送る上で行動に迷ったり、躊躇する場面を常に想定しながら、利用者の立場で、支援を作り上げていく事がとても大切な事だと感じました。

5、まとめ

今回の4名の方々の受け入れは、あいの家にとっても、改めて自分たちの実践を客観的に捉え直す機会となりました。また、全体を通して、いくつかの指摘も頂きました。この様な施設間の垣根を越えたやりとりは、実務研修のすばらしい所だと思っています。

これからも、様々なネットワークを活用しながら、スーパーバイザーの方々が中心となり、各事業所内で利用者さんの支援が充実される事を願っています。

けやきの郷スーパーバイザー養成研修報告書

社会福祉法人 けやきの郷

平成26年度発達障害支援S V実務研修要綱

実施機関名		社会福祉法人 けやきの郷		担当者職氏名		施設長 佐々木 敏宏	
連絡先住所		〒350-0813 埼玉県川越市平塚新田高田町 162					
電 話		049-232-6363		F A X		049-232-6367	
E-m a i l		sasaki@keyakinosato.or.jp					
特 色		嘱託医である太田昌孝先生の指導のもと、太田ステージを基軸にした総合的な自閉症支援を展開し、重度の知的障がいに伴う自閉症者にとって、認知発達アプローチの有効性を実証しています。「やまびこ製作所」は、国内でも唯一の自閉症者を中心とする就労継続支援 A 型であり、「どんなに障がいが重くとも自立を目指す」というけやきの郷の理念の具現化です。また、障がい者支援施設「初雁の家」からは、33名が地域生活に移行しており働くことと同様にけやきの郷の理念を実現してきています。					
事業の概要		障害者支援施設 初雁の家 生活介護50名 施設入所支援40名 就労継続支援 A 型 やまびこ製作所 27名 多機能型事業所 ワークセンターけやき 生活介護14名 就労移行支援10名就労継続支援B型10名 グループホーム 潮寮 35名 埼玉県発達障がい者支援センター まほろば 特定相談支援事業所 相談支援室けやき 計画相談 一般相談					
実 務 研 修 日 程							
1 回目		平成26年9月1日（月曜日）～平成26年9月5日（金曜日）					
2 回目		平成26年10月6日（月曜日）～平成26年10月10日（金曜日）					
3 回目		平成26年11月3日（月曜日）～平成26年11月7日（金曜日）					
	9:00	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00 16:00 17:00 18:00
月曜日				受付	開講式 講義「けやきの郷の理念」		意見交換会
火曜日	オリエン テーション	臨床実習 初雁の家	休憩	講義「太田ステージを基軸にした自閉症支援」 初雁の家			臨床実習 初雁の家
水曜日	オリエン テーション	臨床実習 やまびこ製作所	休憩	講義「自閉症者の就労支援」 やまびこ製作所			臨床実習 潮寮
木曜日	オリエン テーション	臨床実習 ワークセンターけやき	休憩	講義「発達障がい者への総合的支援」 潮寮・まほろば			意見交換会
金曜日	臨床実習 まほろば・けやき 相談業務		休憩	閉講式・まとめ 意見交換			

けやきの郷では、1回目5人、2回目5人、3回目6人合計16人の方を受け入れました。多くの方が埼玉県内の方々でしたが、県外の方の参加もありました。参加者のみなさんは、とても熱心で意見交換もとても有意義なものであり、研修を受け入れた当法人にとっても勉強になることの多い研修でした。以下に、要綱に沿ってご報告致します。

1) けやきの郷の特色と事業の概要について

けやきの郷は開所して30年が経過し、入所施設からは33人がグループホームへと移行、就労継続支援A型（旧福祉工場）では自閉症者を中心として27名が働いております。自閉症者を中心とした就労継続支援A型は国内でも唯一であり、これらの経過を含めて自閉症者への30年の取り組みは当法人の理念の具現化でもあります。

2) 研修日程について

最初に「けやきの郷の理念」についての講義が、阿部常務理事より行われました。どんなに障がいが高くとも自立を目指すという理念の具現化を実現するために、けやきの郷独自の方法として「集団自立」を中心に話が進められました。障害支援区分が6の人も含めて入所施設からグループホームへの移行は、やまびこ製作所において最低賃金を保障し、みんなで助けあって働くことを基本に実現できたものです。参加者の方々からの質問も多く、とても興味を持たれたようでした。

これらの実践を体験していただくために、各事業所にての臨床実習が行われました。初雁の家から始まり、地域とのつながりを必要としてワークセンターけやきがその役割を果たし、埼玉県委託の発達障害者支援センターまほろばはけやきの郷としての専門性を生かし、相談支援室けやきは多くのニーズに応えるために活動しております。これらの活動全てにけやきの郷としての自閉症についての専門性が生かされており、参加されたみなさんから多くの質問が寄せられておりました。

3) 研修プログラム（講義）について

午後はそれぞれの事業所より講義が行われました。ここでは、「太田ステージを機軸にした自閉症支援」について報告します。

自閉症は認知障害による障害特性を理解して対応する必要があります。このことは、どこでも語られることであり、ほぼ共通理解ができていることと思います。しかし、スーパーバイザー研修に参加される方々の多くは福祉施設に所属する方々であり、福祉施設のほとんどの対象者が重度の知的障害を伴っております。当法人けやきの郷の嘱託医である太田昌孝先生（心の発達研究所理事長）は、太田ステージを開発し広く学校教育の現場で使われるようになっております。しかし、成人期においてはあまり知られておらず、今回の講義でも初めて太田ステージを知ったがぜひとも活用したいという声が多く聞かれました。

太田ステージは、重度の知的障害を伴う方々をステージⅠ—1・Ⅰ—2・Ⅰ—3・Ⅱ・Ⅲ—1・Ⅲ—2の6段階に分けてその認知構造に応じた支援を組み立てることができます。このように認知障害による障害特性を理解することと、知的障害のステージ分けにより認知構造を理解することは、共に重要なことであり成人期のスーパーバイザー研修では欠かすことのできないことと考えております。太田ステージは、LDT（言語読解力テスト）を使用して簡単な検査によりステージ分けするものであり、客観性があります。このような客観性に基づいた支援が法人内の各事業所で共通に理解され、実践に活かされていることに、参加者のみなさんは太田ステージの有効性を一様に感じられたようです。

平成26年度 発達障害スーパーバイザー養成研修 実務研修 受入報告書

社会福祉法人菜の花会 しもふさ学園 館山 聡

1 受入期間および日程表…別紙1 参照

2 研修者一覧…別添2 参照

3 実施報告

(1) 研修について

カリキュラムは、本部より4日間～5日間に決まっていたので、その期間の受け入れとした。

3回の受け入れを通す中で、初回を終えた時に一つの反省点が上がった。

『この研修の目的は、発達障害のある方を支援するにあたりスーパーバイズすることを目的とした研修であり、研修を受ける者の立場においては、様々な、自施設のためのケースだけではなく、研修者の困難事例を以って検討することにより、さらにその実力を上げることも目的の一つと考え、この研修ではやはりグループワークは欠かせない』という結論に至った。よって、研修者へは事前に困難事例をA4レポートにまとめて頂き、研修内でグループディスカッションをする時間を設けた。これについては参加した職員の方々には好評であった。

また、千葉県では『強度行動障害のある方への支援者の為の研修』という、強度行動障害のある方を支援する職員の為の研修が行われており、この研修へ傍聴という形で参加をした。研修の内容は、各参加施設の職員へ毎回課題が設けられており、応用行動分析の考え方、実際に行われている強度行動障害のある方の支援の考え方、事例の進捗状況、今後の見通しや支援について等、各職員が発表する事例について、千葉県発達障害者支援センターの副センター長よりスーパーバイズを受ける形を取っている。

事例発表を聞き、進め方を学ぶにことにあたっては、研修者にとっては非常に有効な時間であったと考える。研修者からもこの時間が設けられていて良かったという声もあった。

また、現場への実習については、期間中、法人の理念や支援の内容、法人内各施設の取組み等の説明を含める形となるため、実際に支援をするというよりも取組みを見学する、或いは説明を聞くという形で終わってしまう為、利用者さんの支援をも含む研修とするのであれば、時間の取り方に工夫が必要であると感じる。

さらには、参加研修者のキャリアも注目すべきであり、研修の目的は『スーパーバイズ』研修である。今回の研修者のキャリアについては様々で、3～4年のキャリアの職員と、20年以上のキャリアの職員が一緒に研修となつては、目的は一色にはならなくなってしまう、特にキャリアの浅い職員にとっては理解できないような内容、経験からも理解できないこともあることから、参加資格についても、例えば『SVの資質を持ち合わせ、その立場にある者』等の参加資格を限定し、かつ、10年以上のキャリアを合わせ持つ者等の条件を設けた方が良いのではないかと感じた。

最後に、先に参加者について触れたが、もう一つ、発達支援に携わる職員のスーパーバイズということもあり、参加希望の法人が、どれだけ発達障害者に関わるかという点も考慮し、これについてのレポート等の提出を求め、基準の一つとしても良いのではないかと考える。

（２）情報交換会

全ての研修において、情報交換会（懇親会）を実施した。情報交換会では日中話足りなかった部分やできなかった話を持てるため、各施設の職員との情報交換は、非常に有効であった。会では一人一言以上の言葉を頂くようにしている。ここで大事なのが、研修を受けた職員へ話を伺うと、大抵褒めることしか上がらないことが多いので、改善点・批判できること等の話を頂く事にした。結果、当施設への改善すべきまた疑問の話が聞けた。これにより、改善された部分もあるため、情報交換会は必要であると感じる。

ただ、参加費については、支払いについてはバラバラであり（例えば個人でご厚志という形での支払いであったり、割り勘という支払いであったり）、統一した方が良いのではないかと感じる。

平成26年度 発達障害者S V養成研修 実務研修受入報告

嬉泉福祉交流センター袖ヶ浦 統括施設長 石井 啓

社会福祉法人嬉泉では、嬉泉福祉交流センター11月と1月に各5日間、計13名の方を受一袖ヶ浦（袖ヶ浦のびろ学園及び袖ヶ浦ひかりの学園の所在する袖ヶ浦地域における事業拠点の名称）にて、10月と11月と1月に各5日間、計13名の研修生を受け入れた。



1、企画段階での受け入れに関する確認事項

- ①当法人の療育支援において根本的な考え方となる「受容的交流」の理念に基づいた講義や臨床実習のプログラムを企画・検討する。
- ②研修生と積極的に情報・意見交換をし、自らの支援を客観的に見直す機会とする。
- ③講義だけでなく、可能な限り現場での臨床実習の時間を増やし、実際に行われている支援を体験してもらう。
- ④毎日必ず振り返りの時間を作り、その中で意見交換を行うと共にスーパービジョンを実施する。

2、企画段階での課題と対応

- ①講義内容と臨床実習とが上手く結び付くようなプログラム作成を検討。
→5日間という短いスケジュールの中で、講義と臨床実習をバランスよく振り分ける事が難しく、実際には臨床実習に入る時間の確保が困難であった。次年度以降は、講義時間の見直し等が必要であると思われる。
- ②宿泊場所の提供について
→アパートタイプの宿舎は学生の実習生が利用していた為、戸建てタイプの宿舎を使用してもらった。それにより、複数の研修生が共同生活となった事で、研修生同士の時間を共有する機会が増え、情報や意見の交換をする時間が多くなった。この事は多くの参加者から好評であった。
- ③研修生と職員との親睦を深めるべく、交流会を実施した。
→交流会という和やかな雰囲気の中で有意義な話が出来、参加者だけでなく受け入れ側の職員にとっても貴重な時間であった。

3、参加者の方のご意見、感想等

以下は事務局提出の実習報告の写しや、研修終了後に記入してもらったアンケートの中からの抜粋である。

- ・「受容的交流理念のもとに、職員一人一人が同じ方向性を持っている事が強く印象に残った。また、ひかりの学園のお話会（サイコドラマ）に参加し、自閉症の方も人との交流を求めており、支援者に対して基本的信頼を持ちたいのだと体感した。」
- ・「利用者の気持ちを大切に、人との関わりを重要視するという姿勢が職員全体に根付いている

様に感じた。また、日常的なSV体制が整っていて、その事も若手職員の成長に繋がっているのだと感じた。」

- ・「成人施設のひかりの学園、児童施設ののびろ学園、未就学児のたのしみと、幼少期から成人に至るまで隙間なく事業展開されており、保護者対応等も含めてそれぞれの時期にどういった支援が必要なのか分かった。」
- ・「法人内外問わず様々な研修の機会が準備されていたり、私たちの法人にはない事業や部署が設置されていたりと、大変参考になった。」
- ・「時間が限られているので難しい部分もあると思うが、実際の支援現場に入る時間がもう少し多くして欲しかった。」

4、受け入れを通して

研修の受け入れを行っての一番の収穫は、全国にある仲間の施設と繋がりを持つ事が出来たという事である。こちらからも職員が受講生として他の2法人にお世話になったが、そちらでも大変貴重な経験をすることが出来、職員の成長に繋がった。法人としての理念や基本となる支援の手法等に差異はあれど、“発達障害を持つ方に幸せになって欲しい”という志は皆同じなのだという事を改めて感じられ、そういった同志が全国にいるのだと思うと非常に頼もしく、心強く感じている。今後も本研修がより有意義なものとなるよう、法人として、施設として力を尽くしていきたい。

平成26 年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人正夢の会」実務研修報告書

社会福祉法人 正夢の会

1. 実施期間、人数：

- ①平成26年10月 6 日（月）～10日（金） 1 名
- ②平成26年11月17日（月）～21日（金） 1 名
- ③平成26年12月 1 日（月）～ 5 日（金） 3 名

2. 実施場所：

- 初日：パサージュいなぎ（施設入所支援、生活介護）
- 2・3日目：昭島生活実習所（生活介護）
- 4・5日目：多摩市ひまわり教室（児童発達支援事業）

3. 実務研修プログラム

(1) 日程表

曜 日	9:30 10:00			12:00 13:00 13:30 14:00 15:00 16:00			17:00		1745
月曜日				受付	開講式・オリエンテーション・見学 講義 1 「正夢の会の取り組みと発達障害支援」：山本 事業統括			意見交換	
火曜日	オリ エン テー	臨床実習 昭島生活実習所	休 憩	臨床実習		講義 2 「正夢の会の発達障害のある方への 取り組み」：小島施設長		まとめ 意見交換	
水曜日	ショ ン	臨床実習 昭島生活実習所	休 憩	臨床実習		講義 3 「発達障害のある方の理解とアセ スメント」：森心理士		まとめ 意見交換	
木曜日		臨床実習 多摩市ひまわり教室			休 憩	振 返 り	講義 4 「発達障害児の特性理解」：清水 局長		まとめ 意見交換
金曜日	講義 5 発達障害児支援の実際」：清水局長		床実習 多摩市ひまわり教室			休憩	閉講式・全体のまとめ 意見交換		

(2) 講義

- ①正夢の会の各ライフステージに応じたサービスの取り組み
- ②重度知的障害を伴う発達障害のある方の支援：
 - i 統一された支援への取り組み：昭島生活実習所ではどのスタッフが支援を行っても一定のサ

ービスが提供できるよう、各種マニュアルとフォーメーション表と呼ばれるものを整備している。マニュアルは時間軸に沿って箇条書きにしており、利用者の状況に応じてすぐ書き換えられるようにしている。フォーメーション表は誰がどの時間にどの利用者にサービスを提供するか書かれた表であり、このフォーメーション表によりもれなく一定のサービスを提供できるようにしている。実践研修では担当スタッフについて頂き、そのスタッフがどのようにサービスを提供しているか見て頂いた。

- ii リスクマネジメント、ニヤリハットの取り組み：リスクマネジメントとしてインシデント・アクシデントレポートの取り組みを紹介した。年間1500件挙げられた年もあり、「ヒヤリハット」（職員がヒヤリとしたりハットした、インシデントに結びつく前に感じたこと）の段階でいかに対応策を講じていくか、ハインリッヒの法則と共に説明した。「ニヤリハット」とは思わずスタッフがニヤッとしたりハットした、より良い支援への気づきであり、年間2000件挙げられた年もありスタッフ間で共有する仕組みを説明した。
- ③ 発達障害の特性理解、アセスメント、実践：アセスメントについては独自の書式があり、13領域320項目についてアセスメントを行っている。アセスメントを中心に講義した。
- ④ 幼児期の発達に配慮が必要なお子さんの特性と実践：幼児期の困り感をアセスメントするポイント、特性理解、具体的な支援（合理的配慮）について、ひまわり教室の実践を交えて講義した。

(3) 実践研修

① 昭島生活実習所

A 5 グループ：昭島生活実習所はA（自閉症の方）、B（身体障害のある方）、C（比較的コミュニケーションの取り易い方）の3つのグループに分かれており、その中でも特性に応じA1～A5、B1～2、C1～2の全部で9つのグループに分かれている。A5は比較的情緒が安定している方のグループでスケジュール支援や自立課題の取り組みについて説明した。

A 4 グループ：情緒面で特別な配慮が必要な方のグループである。多飲症の方もおり、衝動を緩和する環境設定やPECSの取り組みについて説明した。

C 2 グループ：静かな環境で落ち着いて活動することが望ましい方のグループである。癲癇発作がある方の支援、アンジェルマン症候群の方の支援について説明した。

② 多摩市ひまわり教室

- ・ 2～4歳児クラスと4～5歳児クラスの2クラスに入り、自由遊び・設定活動・昼食に参加する。こども達は、それぞれ場の共有、傍観遊び、並行遊び、連合遊び、協働遊びと発達の段階が違うが、各活動の中でそれぞれに応じたねらいや特性に応じた支援をする。重ねて即時アセスメント&支援も要求される場面が多く、幼児の育ちへの支援を体験した。
- ・ 心理小グループは、3～4人構成で、はじまり・自立課題・1対1課題・自由遊び・ゲームの各エリアがあり、その中でねらいに応じた1時間の活動を実施している。室内で見学した。

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修の受け入れから

障害福祉サービス事業 川崎市くさぶえの家
園長 永井 岳治
担当 近藤 順也

くさぶえの家では、9月3名、10月2名、12月3名、各5日間、計8名の研修生を受け入れました。
当施設の取り組みを報告致します。

1. 実務研修受け入れに際しての確認

- ① 法人の基本理念・施設の基本方針に沿った対応をする。
- ② 全職員に実施の意義を説明し、研修成功への協力を依頼する。
- ③ 職員のスケジュール。
- ④ 当施設の歴史を含むあらまし。
- ⑤ チューター役の職員にとっての研修であることの自覚。

2. 実習に向けての計画

- ① 期間中のプログラムの策定。
- ② 当施設嘱託のスーパーバイザーによるケアカンファランスの実施。
- ③ 利用者への説明
- ④ 職員のスケジュール

3. 実務研修プログラム

	8：30　9：00		10：00	12：00	13：00	15：30	16：00	17：00
火	出勤 オリエンテーション		現場実習 (体操・作業)	昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降 園	休憩 反省会	退社
水	出勤	現場実習 (体操・作業)		昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降 園	休憩 反省会	退社
木	出勤	講義 「自閉症者への地域支援」		昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降 園	休憩 反省会	退社
金	出勤	現場実習 (体操・作業)		昼食 (余暇支援)	現場実習 (作業・体操)	降 園	休憩 ケースカンフ ァランス	

4. 活動内容

<体 操>

1日2回実施。朝は身体を起動すること、午後はクールダウンを目的に『常道行動・多動』に配慮した種目を、音響器具を使用せずマンパワーで行っている。また、カウントを行うことで始めと終わりを明確にしている。身体の使い方にぎこちなさのある自閉症者への体操提供は頭足腕などの部位の理解

と、歩行などの身体の使い方などの向上に繋がる。また、健康の把握にも役立てている。リーダーは全体把握、利用者の反応、声掛けのタイミングに留意しながら進行する。

<作 業>

『作業解体・部品組み立て』など障害特性に配慮し、「始めと終わりがわかりやすい」作業種を企業開拓し提供している。授産に力点を置くのではなく、『集中力・持続力・達成感・コミュニケーション能力』の獲得を目的としている。企業に赴いての園外作業の取り組みなどやりがいを感じられるプログラムも提供している。支援者は担当する利用者の課題を理解し、集中を促す声掛けと課題提供のタイミングに留意する。また、出来高などがやりがいや達成感、それに至るまでのプロセスをコミュニケーションの源にする。

<給 食>

「食」が生きるための重要課題であることを意識し、意義・マナー・楽しみを伝えている。各種行事での特別メニュー、リクエストメニュー等も提供している。摂取の様子から健康状況を確認する。

5. 講義内容

テーマ：『自閉症者への地域支援』

講 師：くさぶえ地域相談支援センター相談支援員

○くさぶえ地域相談支援センターの役割

○活動内容

○「行動障害のメカニズム」

○支援方法について

○実践報告

○質疑応答

6. 参加者の感想

<日課について>

- ・作業の切り替わり、始めと終わりが明確で利用者が理解しやすいと思う。
- ・個々に応じたプログラムが設定されている。
- ・体操の時間を多く、身体の確認とケアが来ている。

<支援について>

- ・支援方針を各自が理解し、支援にあたることの大切さを知った。
- ・将来像を想定した支援がなされている。
- ・面談・課題設定などアセスメント法を学べた。
- ・自閉症専門施設として持つ、専門知識のある支援方法を学んだ。

7. 受け入れを終えて

準備段階からの研修成功、研修生の満足を意識し当日を迎えましたが、研修生の取り組み姿勢が刺激になり、受け入れの研鑽・振り返りにもなりました。ディスカッションが白熱し、就業時間を超えてしまう事がしばしばありましたが、同じ事柄で、悩み感動していることを知るに至り、地域・法人は違えど障害福祉の盟友であると強く感じました。参加された方々が当施設での学びを、戻られた地域で彼らに還元していただけたら幸いです。

平成26年度 発達障害支援スーパーバイズ養成研修 実務研修報告

社会福祉法人 横浜やまびこの里
東やまたレジデンス 中村公昭

横浜やまびこの里での実務研修について

横浜やまびこの里では、自閉症・発達障害の人たちへの専門支援機関として事業を展開している。支援に携わる職員が自閉症の障害を理解して、ひとりひとりにあわせた個別化された支援による自立支援や地域生活支援を目指している。当法人での実務研修では、施設サービス内での取り組みだけでなく、発達障害支援のスーパーバイズに必要とされる障害の捉えかたや支援のプロセスからチームによる支援のしかたを含む支援のマネジメントや工夫なども研修カリキュラムに設定した。

1. 実施日程

- 第1回 平成26年10月20日（月）～10月24日（金）
第2回 平成26年11月17日（月）～11月21日（金）
第3回 平成26年12月15日（月）～12月19日（金）

2. 研修カリキュラム

	時 間	内 容	形 式	場 所	備 考
月	13:30	研修オリエンテーション		会議室	
	14:00	法人の成り立ちと理念	講義	会議室	
	15:00	施設見学1(東やまたレジデンス)	見学	作業班	支援時間帯
	16:00	基本的な支援の考え方	講義	会議室	
	17:00	質疑応答一終了	意見交換		
火	10:00	観察と評価	講義	会議室	
	12:00	休憩			
	13:00	観察と評価演習	演習	会議室	
	16:00	施設見学2(東やまたレジデンス)	見学	作業班	支援時間外
	17:00	質疑応答一終了	意見交換	会議室	
水	10:00	施設実習1(東やまた工房)	現場実習	作業班	現場で観察記録
	12:00	休憩			
	13:00	施設実習2(レジデンス・工房)	現場実習	作業班	支援補助体験
	17:00	作業エリア会議参加	聴講	会議室	※任意での参加
木	10:00	個別支援をチームで進めるために	講義演習	会議室	
	12:00	休憩			
	13:00	事例検討1(行動障害者支援)	講義	会議室	伝え方の工夫例
	14:50	事例検討2(強度行動障害支援)	講義	会議室	過ごし方の支援例
	17:30	施設見学3(入所施設ユニット)	見学	ユニット	
金	10:00	行動障害への支援	講義	会議室	
	11:30	質疑応答・意見交換	意見交換	会議室	
	12:00	終了式一解散			

3. 研修構成

① 講義・演習

対象となる受講者は年間の全体講義において自閉症の障害特性や支援技術の受講が終了しているため、最初に構造化された支援を提供する理由や意味を理解してもらう「基本的な支援の考え方」「観察・評価」を講義として設定した。ここでは方法論や技術論が支援の目的とならないように、ひとりひとりに応じた生活の向上や自立の目標設定とアセスメントの考えかた、そして客観的に見るべき観察のポイント、活動環境の工夫や支援のありかたを説明した。その後利用者の動画を見て観察と評価を演習形式で実施してもらった。

「個別支援をチームで進めるためには」の講義では、スーパーバイズとして必要とされるチームによる計画的な支援の進めかたの手順や管理の仕方を学び、グループによる演習を実施した。

「行動障害への支援」の講義では、利用者が“行動障害を起こす人”でなく、環境との相互関係の中で生じている行動の仮説を障害特性と関連付けて説明した。そして“わかりやすく環境を変える”ことで行動が改善できる可能性を説明した。受講者が今まで学んだ講義を振り返り、利用者が示す行動を客観的に観察して、得られた情報と自閉症の障害特性を関連付けてチームで対応策をイメージできるようにした。

② 現場見学実習

作業エリアでの個別化された支援の工夫や、チームが同じ考えや関わりによる支援を実施する仕組みを現場見学や支援補助として参加してもらい学んでもらった。また利用者ひとりひとりに設定している活動の工夫や構造化された支援が、評価に基づいて設定している理由を、ワークシートを使用して観察や聞き取りで整理してもらった。オプション（任意参加）として作業班のエリア会議に聴講参加してもらい、平常どのように職員間で利用者情報を共有して検討しているかを体験してもらった。

③ 事例検討

行動障害の人たちが施設での暮らしの中で適切な習慣を獲得するために、チームによる合理的な支援ができるように、評価－計画－実施のサイクルを繰り返して支援調整をおこなったケースを中心に検討をおこなった。受講者が学んできた自閉症の障害特性をあらためて理解してもらい、個人でなく支援計画をチームで進めていく大切さを強調した。さらに問題となる行動の減少や消失が最終目標でなく、本人の暮らしを充実させるための支援というスタンスを再確認してもらった。

法人から実務研修実施の感想として

研修全体を通しておおむね高い評価を得られていた。グループ演習や現場実習では講義で学んだ内容が具体的にフィードバックできるため好印象をいただいた。受講者の横浜やまびこの里を実務研修として希望理由の多くが、「TEACCHや構造化された支援の実際を学びたい」ということであつたが、あえて方法論や技能の習得でなく、支援者がひとりひとりの自閉症の人たちを理解するポイントと、チームによる支援のすすめかたに研修の力点をかけた。その理由として、スーパーバイザーは高度な専門的な知識より、様々な見かたやキャリアの違う職員集団でも素直に自閉症の人たちの障害特性に着目できるように働きかけとサポートが重要な役割と考えたからである。また受講者には行動障害者への支援にも関心が高く、事例検討や支援場所の見学実習では、障害特性で学んだ内容と「わかりやすく情報を伝える

工夫が構造化」という考えかたを結びつけることができたため好評であった。

その他の意見としては、受講者が現場に戻り今後スーパーバイザーとして期待されるかもしれない。しかし発達障害・自閉症への支援と考えかたを組織が後押しすることがなければ、その役割を果たすことが難しくなるという意見もあり、組織内コンセンサスや体制作りなどの運営側の課題も大きい。また発達障害支援スーパーバイザーのさらなる技能向上としては、各自が現場で実践して積み上げたことや新たな現場課題をもとに、継続的なフォローアップ研修などの仕組みも必要と思われた。

最後に私たち法人においても監督職や現場職員自身が、背景も立場も異なる受講者に対して自分たちの考えかたを説明する訓練にもなり、とても有意義な研修機会となった。

【添付資料】

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修実務研修評価シート集計表

平成26年度 発達障害支援スーパードバイザー養成研修実務研修評価シート集計表 社会福祉法人横浜やまびこの里 (全3回/15名)

評価ポイント:「参考にならない⇒1」「少し参考になった⇒2」「可もなく不可もなく⇒3」「参考になった⇒4」「とても参考になった⇒5」

1. 講義・演習について

テーマ/評価点	1	2	3	4	5	平均	このテーマに対する意見・提案(抜粋)
①法人の成り立ちと理念(講義)				6名	9名	4.6	保護者と運営側の分離,自閉症の地域生活支援を理念にしている経過が良くわかった。
②基本的な支援の考え方(講義)				3名	12名	4.8	構造化の支援が目的でなく、なぜ必要なのかまたは生活に役立てる大切さを理解した。
③観察と評価(講義)				1名	14名	4.93	周囲の職員や他施設への助言にも役立つと思った。日常的な観察の大切さを知った。
④観察と評価(演習)				3名	12名	4.8	チームで客観的に観察して話し合う必要性を理解した。着目するポイントを学べた。
⑤個別支援をチームで進めるには(演習)				2名	13名	4.86	構造化による支援がチーム支援にも有効だと理解した。情報伝達のプロセスが理解できた。
⑥行動障害への支援(講義)			1名	1名	13名	4.8	問題行動のみの着目ではなく、多様な原因や環境側の問題も整理する大切さを理解した。
①～⑥講義・演習 全平均						4.79	

2. 施設見学・実習について

テーマ/評価点	1	2	3	4	5	平均	このテーマに対するご意見・提案(抜粋)
①作業班見学(2作業班/支援時間内)				7名	8名	4.53	最重度・行動障害の人たちの構造化による活動がイメージできた。時間が短い。
②作業班見学(2作業班/支援時間外)				4名	11名	4.73	利用者がいない場面での説明で理解が深まった。設定の経過を知ることができた。
③利用者観察・聞き取り・ワークシート				4名	11名	4.73	観察評価の演習で見た利用者の作業班だったため整理と理解ができた。
④作業班体験参加(支援補助体験)				3名	12名	4.8	現場支援職員と話ができて課題もわかり参考になった。支援のポイントが理解できた。
⑤入所施設見学				3名	12名	4.8	各人の日課や生活様式が組み立ての工夫が参考になった。現場実習に入りたかった。
①～⑤施設見学・実習 全平均						4.71	

3. 事例検討について

テーマ/評価点	1	2	3	4	5	平均	このテーマに対するご意見・提案(抜粋)
①事例Ⅰ(行動障害対応・家族と協力)				3名	12名	4.8	丁寧な観察や仮説だてと実証のプロセスがよくわかった。継続した支援の大切さを理解。
②事例Ⅱ(強行利用者の居室支援)				4名	11名	4.73	名人技でなくチーム支援の重要性,失敗から再検証する支援員の考えが理解できた。
①～②事例検討 全平均						4.76	

4. その他研修内容への意見(抜粋)

①横浜やまびこの里での実務研修を希望した理由やテーマについて

- ・チーム支援や行動障害への対応に関心があったため。
- ・構造化された支援を深く理解したいと考えていたため、実際の支援場面を見てみたいと思った。
- ・利用者の個別支援のためにどのように観察評価して支援をすすめているかを理解したいと思い希望した。
- ・他職員が横浜やまびこの里に研修参加しすすめられたため。上司からすすめられたため。
- ・自分の施設内でTEACCHを参考に取り組んでいるが、内容が形式化されて行き詰っていたため。
- ・自分が所属する施設現場と違う考え方の施設での取り組みを客観的に比較してみたかったため。

②実務研修を経験し、特に参考になったことや改善したいことなど

- ・職員勤務体制や職員管理(マネジメント)や考え方が特に参考になった。
- ・職員全体が同じ方向性や自閉症の見方にそって支援している様子が参考になった。
- ・構造化の前に利用者各人のアセスメントを重要視している考え方。
- ・個別支援をいかにチームで支援できるように仕組みを整理するかという考えと取り組み
- ・構造化による工夫で日中や生活を具体的に過ごしている現場を見学できたこと
- ・職員への障害理解の教育研修, 法人理念の具体的に形にする取り組み。

③その他感想や意見など

- ・講義演習のバランスがよかった。
- ・構造化された支援がなぜ必要なのかよく理解できた。
- ・自分の施設にスーパーバイザー不在という課題が大きいこと。
- ・構造化という言葉の扱い方や認識が間違っていたと感じられたこと。
- ・成功事例だけでなく失敗事例も加えて説明があったことで勇気付けられた。
- ・現場に戻っても具体的に試したいと思えたこと。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修報告

自閉症総合援助センターあさけ学園
施設長 近 藤 裕 彦

1. 研修機関の事業の概要

自閉症や知的障害のある人たちを単に保護するのではなく、豊かな人生を生き抜くよう援助することを基本目標としている。そのためには、地域社会との連携を深め、労働や地域の人たちとの交流の中で現実的な思考や行動を身につけていく取り組みや、自閉症と関連した行動上の問題への個別援助プログラム等の工夫が重要と考えられる。あさけ学園では、(1) 施設入所支援40名と下記 (2)～(6) の支援機能を一体的に運用し、自閉症総合援助センターとして彼らへの総合的なアプローチを進めている。

- (2) ワークセンターひのき（通所）…就労継続支援B型・生活介護40名。利用者は自宅やあさけホームから通勤し、労働・作業を中心とした日中活動へ参加している。
- (3) あさけホーム（グループホーム）…21名（4棟で構成）。日中活動の場（ワークセンターひのき）と協力して地域生活支援プログラムを展開する。
- (4) 短期入所…4名（あさけ学園に併設）
- (5) 三重県自閉症・発達障害支援センターあさけ…専門的な相談機関として、地域の発達障害のある人たち、家族、関係諸機関への相談・発達・就労支援を行なう。
- (6) あさけ診療所（児童精神科、心療内科）…自閉症や発達障害をはじめとした児童精神科外来診療、施設利用者他の医療的ケアを担当している。

2. 参加者の受け入れ状況

平成26年8月25日～29日、10月27日～31日、11月25日～29日の3回に分け、合計9名の実務研修を受け入れた。参加者の所属する事業所の種別は入所施設5名、通所施設3名、発達障害者支援センター1名となっている。

3. 実務研修プログラム

	8:30	9:30	12:00	13:00	14:00	16:00	16:30	17:00
第1日目			集合	オリエンテーション 見学・質疑応答	あさけ学園（受注→居住棟） 現場実習			意見交換 まとめ
第2日目	引継	カンファレンス 支援の具体的方法等	休憩	あさけ学園（受注作業→居住棟） 現場実習				意見交換 まとめ
第3日目	引継	あさけ学園（オリジナル） 現場実習	休憩	あさけ学園（オリジナル作業→居住棟） 現場実習				意見交換 まとめ
第4日目	引継	ワークセンターひのき 現場実習	休憩	ワークセンターひのき 現場実習		休 憩	グループホーム 現場実習	
最 終 日	引継	意見交換 最終まとめ	終了					

○オリジナル作業

- ・ 木工、農園芸… 焼き杉、農作物や果樹の栽培
- ・ 食品加工 … 梅干し、ジャム、味噌の製造
- ・ パン工房 … パンの製造、販売

○受注作業

住宅部品の組み立て、自動車部品の組み立て、箱折り、他

4. 研修を終えた参加者の声（障害者支援施設あかりの家 亀山 隆幸）

この度は、発達障害支援スーパーバイザー養成研修実務研修において、5日間の実習を受け入れていただき、ありがとうございました。

私は、約17年前にも実習させていただきました。当時を振り返りますと「誰しも本人が望んで施設入所してきたのではない。（当時）入所更生施設の役割と責務は、その思いを真摯に受け止め、地域で暮らせるよう支援してあげること」と言うあさけ学園の中核的な思想を軸に、現代福祉における非常に重たい課題から目を逸らさず、実践の数々を積み重ねておられました。常にパイオニア的存在であり、毎年度発行される「あさけの取り組み」は必読で、理念や実践、組織や研修体制など自分を奮い立たせていただくことの連続でした。今回、「『そのあさけ学園が、現在どう展開されているのか』を自分の目で見させていただきたい」という思いが強くありました。特に印象に残ったことを二点あげてみます。

(1) 「自閉症総合援助センターあさけ学園」から学ぶこと

当初入所されていた80名の内、40名の方がグループホームや地域で生活され、あさけ学園やワークセンターひのきに通われています。信念と責任を持って展開され、それについてこられた利用者を支えていく為に必要なのが、この自閉症総合援助センター「あさけ学園」でした。決して「センター出来たから、さあどう展開しようか？」ではなく、個（利用者）の実践が先にあり、ライフステージや時々々の状態における必要な支援・サービスを出し入れする“総合的な機能の集合体”であると捉えました。センターと言うと規模や対象者が拡大しその結果、支援が拡散しやすいイメージを持っていましたが、「責任」を持って「丁寧に」、「全てはそこに始まり、そこに尽きる」ということを改めて肝に銘じさせていただきました。

(2) 「高齢化」を考える中での視点

あかりの家も開設から29年目を迎え、いずれ直視するこのテーマにあさけ学園はどう考えておられるのか、ぜひ聞きたかったことのひとつでした。①高齢化＝単純に作業と余暇に限ってしまうのではなく、『生きがい』との結びつきが大事（人に認められる、「それ、いいね」と言われる活動等、人とつながること）、②高齢化だけを先取りするのではなく、“今の積み重ね”で考える（葬儀等への同席等、ライフイベントへの参加）など、高齢化を考えていく中での柱となるものを聞かせただけでした。

さいごに、あさけ学園はあれから17年が経過しても「確固たる信念を持ちつつ、不断の問い直しができる」集団であることを強く感じました。「明日に受け身にならず、自分たちから明日を迎えに行こう！」それが今の私の思いです。近藤施設長を始め、西野センター長、廣田主任、森嶋主任、D棟の皆様、温かく受け入れていただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。

平成26年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修の受け入れ報告

社会福祉法人 めひの野園
障害者支援施設 うさか寮
施設長 東 真盛

めひの野園では、8月に1名、9月に6名、10月に3名の方を各5日間受け入れた。

1. めひの野園が、この研修で目指したもの

めひの野園が開設され33年。私たちは、この間、自閉症の人たちへの関わりのある方と、関わりを通じた理解のある方について、彼らと共に学びながら、生活支援の場、就労支援の場、相談支援の場及び地域支援の場を整備し提供してきた。多岐にわたるこれまでの取り組みをどこまでお伝えできるか疑問ではあったが、すべてをオープンにし、私たちのささやかな取り組みが、参加された方たちの明日への力添えになればと法人全体で企画・運営をした。

また、各事業所、各委員会が研修を受け持つことで、日々の活動の振り返りや受講者との意見交換を通じて、互いに研鑽を積む機会となることを期待した。

2. 企画段階での課題と対応

このような長期間に渡る研修を受け入れた前例がなく、変化への対応が困難な利用者にとどのような影響が出てくるかが一番大きな課題だった。事業所ごとの受け入れを少人数に止め、日課の変更をしないなど利用者の特性に配慮し、時にはプログラムを変更しながら実施した。

また、たくさんお伝えしたいことがある中で、どこにポイントを絞ればよいか悩んだ。主に実習をメインとしながら、その日のテーマに添ったまとめの時間をつくって補足するとともに、参加者同士で互いに理解を深め合ったり、今後のネットワーク作りの一助になればと昼食、休憩、講義等でコミュニケーションが十分に図れるよう配慮した。

3. 研修プログラムの軸

(1) 環境設定

自閉症の人たちが安心して心穏やかに過ごすためには、環境がとても大きく影響する。そこで、入所における個々の特性に合わせた配慮、働く場におけるわかりやすく見通しのつきやすい配慮等を考察する。

(2) 働くこと（日中活動）

当園では、出来ること・得意なことを活かし、「働きがいのある、人間らしい仕事」を提供することを目標としており、20種目を越える作業が用意されている。実際の作業体験を通じて、働くことの大切さと一人ひとりの可能性を高める支援について考察する。

(3) 委員会活動

当園では、法人内の横断的な連携の取り組みとして11の委員会活動がある。その中から、支援が難しいとされる自閉症児（者）にとって特に重要であろうと思われる「個別支援委員会」、「人権擁護委員会」、「地域交流委員会」の活動を紹介する。

(4) 地域支援

地域の中で自閉症の方たちが多くの人たちの助けを借りながらも、自立した生活ができるよう援助している。また、地域社会そのものに働きかけて、より多くの人たちが自閉症について理解を深め、支援の輪に参加できるよう取り組んでいる。その活動を紹介し、実際に地域のサークルに参加し考察する。

4. 実務研修プログラム

曜日	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
月曜					受付	開講式・オリエンテーション 講義「めひの野園の自閉症支援」			意見交換	
火曜	オリエンテーション	生活介護実習 生産活動（みしま）		休憩		創作活動実習 絵画教室		講義「個別支援について」	実習 生活支援	まとめ (生活支援)
水曜		就労支援実習 生産活動（ふじなみ）		休憩		就労支援実習 (移行支援含む)		講義「人権擁護について」	実習 生活支援	まとめ (就労支援)
木曜		地域支援活動実習 保護者活動支援（ありそ）			休憩		講義「支援センターの活動より」	講義「地域交流について」	余暇活動 和太鼓	まとめ (地域支援)
金曜		実習（選択） 生活支援・生産活動		休憩		閉校式・まとめ 意見交換				

5. 研修を終えて

参加された方たちに来てよかったと思ってもらえるようにと法人全体で企画・運営した研修だったが、同じ立場に立つ指導的支援者に見られているという適度な緊張感もあり、今は無事に終わった安堵感のほうが大きい。当園のスタッフからは、講義や交流を通じて自分たちの活動を客観的に見直す良い機会だったという声も聞かれた。

参加された皆さんからも、「利用者が自信を持って活動していたのが印象的だった」、「やってみるの大切さがわかった」などの声も聞かれ、思いを少しは伝えることが出来たのではないかと感じている。中でも「スタッフが楽しそうにやっている」という言葉が特にうれしかった。難しさばかりが強調される自閉症支援だが、当園の基本方針に「夢を持つ」、「活機力を磨く」という言葉があるように、現場の夢を育み、活機力を高めるのがスーパーバイザーの役割でもあるのではないだろうか。

今回の反省を踏まえ、さらに充実した研修となるように努めていきたいと思う。これからもすてきな出会いがありますように・・・。

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー実務研修受け入れ

社会福祉法人 北摂杉の子会
総務部 河辺 太一

北摂杉の子会では9月と11月に各4日間、11人の方を受け入れた。
受け入れに際して、以下の事を念頭に置いた。

1. 企画の段階での北摂杉の子会での確認事項

- ① 初めての受け入れであるので、様々な点で行き届かないこともあると思うが、成功に向けて最大限の努力をするようにする。
- ② 成功に向けて法人全体で取り組むため、情報共有をしっかりと行う。
- ③ 参加者が研修に集中できるようにするため、事前に様々な事項の確認を行う。
- ④ できるだけオープンな状況で、ありのままの施設運営を見てもらう。
- ⑤ 参加者に忌憚のない意見を出してもらいやすくするため、雰囲気作りも大切にしたい。
- ⑥ いただいた意見を真摯に受け止め、自分たちの支援を客観的にみる機会とし、支援の質をさらに向上させる。

2. 実務研修プログラム

	9:30	10:00	12:00	13:00	13:30	14:00	15:00	16:00	18:00
初日				受付	開講式・オリエンテーション 「北摂杉の子会の概要と支援のあり方」			意見交換会	
2日目	オリエンテーション	臨床実習 グループホーム/ レジデンスなさはら	休憩	オリエンテーション	臨床実習 萩の杜・ふれっと	講義 「行動障がいへの対応」	演習 「具体的なケースについてのSV」	食事場 面見学 意見交換会	
3日目	オリエンテーション	臨床実習 ジョブジョイント おおさか	休憩	オリエンテーション	臨床実習 ジョブサイトよど		講義 「自閉症者の就労支援」	意見交換会	
4日目	オリエンテーション	臨床実習 自閉症療育センターwill 保護者研修見学	昼食 意見交換会		閉講式・まとめ 意見交換会				

3. 実施してみて分かった課題と今後の対応

① 送迎の問題

- i 公共交通機関では不便な施設への移動

※施設担当者が車で送迎を行う

- ii 最寄り駅からの案内

※ご利用者の視覚支援の1つとしているホームページにある写真案内を利用することにより、分かりやすかったとの意見をもらえた

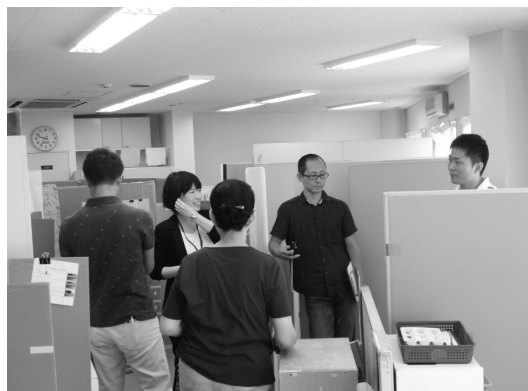
② 施設が高槻市・大阪市と分かれている問題

※参加者に対して、事前に宿泊先を高槻市しても移動に不便さが無いことを伝え、安心感を与える

③ 意見交換の方法について

- i 懇親会を設定していなかったもので、和やかな雰囲気ではいかなかったが、各事業所で可能な限り質疑応答の時間を設けるようにした。

- ii 閉講式に各施設から職員を招き、最後にもう一度質疑応答の機会を持った。



4. 研修を終えて

閉講式での質疑応答が想定していた以上に多く、予定時間を大幅にオーバーした。このことから、参加者の熱意が強く感じられた。感想で多かったのは、実際現場で見た支援方法を、自分の事業所に持ち帰って、早速実践していきたいというモノだった。今回の研修を通じて、少しでも全国の発達障がいのある方々が過ごしやすい環境作りに役立てればと思う。

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 実務研修受け入れ

障害者支援施設 あかりの家
支援部 部長 亀山 隆幸

1. 受け入れ期間及び人数

	期間		日数	人数
①	9月	8日(月)～12日(金)	5	5
②	10月	27日(月)～31日(金)	5	5
③	12月	15日(月)～19日(金)	5	5
計			15日	15人(※)

(※) 15人の内訳として、県内3人、県外3人であった。

2. 受け入れに際し、色々考えたこと

(1) 企画の段階でのあかりの家での確認

- ① (自閉症総合援助センター(構想)を掲げる法人として) 法人全体で取り組む。
- ② (この受け入れを機会に) より客観的で体系的な、施設と支援の説明言語を作り上げる。
- ③ (この受け入れを機会に) 地域等での支援者養成に乗り出す第一歩とする。
- ④ (支援のプロたちに見られることによって) 自分(達)の支援を客観的に見る機会とする。
- ⑤ 閉じたり飾ったりする説明は避け、オープンで率直な説明に努める。

(2) 企画の段階での課題等と対応

- ① 駅から徒歩30分を要する移動手段 → 最寄駅とあかりの家との送迎を毎日行う。
- ② 5日間の宿泊場所 → 宿泊可能人数は少ないが、地域交流ホームを提供する。
- ③ 研修プログラムづくり → 下記の通り
- ④ 和やかで率直な意見交換ができる雰囲気作り → 初日夜に懇親会を設定。お互いが言いにくいことの中に“支援の大事な要素”があるとの考えで、夕方の反省会を共に有意義な場とする。

3. 実務研修プログラム(第1回目受け入れより)

	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	15:00	15:30	17:00	17:30
9/8 (月)			受付	開講式・オリエンテーション(施設見学含む) 講義1「あかりの家の自閉症支援」				意見 交換会	18:30～懇 親会
9/9 (火)	臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→①ブラグ 班、②トモニ活動)		休 憩	事例検討ーリハビリ的シ ートステイ		講義2「行動障害のある人たち への支援ー自閉症療育のキー ワード集を通してー」		まとめ 意見交換	
9/10 (水)	①臨床実習 ワークホーム高砂 ②臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→ブラグ班、軽 作業班をり班)		休 憩	臨床実習 あかりの家(体操活動)		講義3「発達障害者支援 センターにおける取り組 み」発達障害者支援セ ンタークローバー		まとめ 意見交換	
9/11 (木)	①臨床実習 あかりの家 (引継ぎ→ランニング→軽作業班、 割箸班) ②臨床実習 ワークホーム高砂		休 憩	臨床実習 A 市自立支援協議会 「自閉症の方の防災支援」 地域生活支援センターあいあむ		臨床実習 障害児通所支援事業所 あかりの家		まとめ 意見交換	
9/12 (金)	臨床実習 あかりの家 ①トモニ活動、②ブラグ班、割箸班		休 憩	閉講式・まとめ 意見交換					

4. 研修プログラムの軸

(1) 強度行動障害のある方たちへの支援

(1) 行動障害のある自閉症の方たちを支援するチームづくり 強度行動障害の見られる方への支援の一つの鍵はチーム力。4月1日の全体会で、20年確認し続けている「あかりの家共通確認」（“土俵の外からの批判は迷惑”、“前向きなNoを大切に”、“派閥は許さない”等）や「チームは支援力を高める過程で作っていく」研修体制などを紹介。
(2) 「あかりの家自閉症療育のキーワード集」を通した支援の実際 10数年前より、「実践の中から得たエッセンスを言葉にし、つなぎ育てていく」ことを目的に、支援員は毎年原稿を提出し、編集者の施設長とやりとりを重ねミニ実践事例＝キーワードを完成させている。この自前の＜実践言語＞＜説明言語＞を介して、行動障害のある方たちの支援のキーワードを紹介。
(3) 「リハビリ的ショートステイとその取り組み（事例検討）」 「水中毒状態にあったAさんの家庭復帰に向けたショートステイの取り組み」を取り上げる。あかりの家で“水に向かわなくて済む”“ゆったりとした状態”をつくることを目標に、①日常の行動のスピードを緩める、②力抜き、③指示に応じれる関係を作っていた事例を紹介。

(2) 臨床実習

(1) プラグ作業班 電子部品の組み立て作業。毎日、業者が集荷に来られるノルマや、精度の高い検品が求められる緊張感の中、10名の重度の自閉症の利用者が懸命に集中して取り組んでいる。そこから、自閉症の方たちの可能性を感じ取っていただく。
(3) トモニ活動 愛媛県のとモニ療育センターのSVを受けて、①課題学習（数字や時計やお金）と②料理づくり、を行なっている。「分かる」「できた！」という課題習得に加え、そのやりとりの中で利用者の見方が変わっていき、支援観の幅を広げていく事を目的に実施。そのエッセンスを感じ取っていただく。
(4) 体操活動（ダイナミックリズム。膝立ち・寝かせ等の静止運動、前の利用者に続いての模倣運動他） 集団の力動的な面を活用して、“自分の身体が、自分でうまく動かしている”という実感を持ってもらう。そこで多動性の軽減を図ったり、支援者とうまくかみ合えた経験を積み重ねていく場面を見学。

5. 研修を終えて ―参加者の声―

以下、事務局提出の実習報告の写しを送っていただいた方からの抜粋をあげてみたい。

「実践の臨床実習でも感じたが、あかりの家では非常に多くのスーパーバイズを受けている。自分たちの取り組みを様々な角度から多面的に検証している様子が伝わった。この『おごり』のない姿勢こそが、自閉症療育の基礎であろうと学び、反省する。特に重度の知的障害を伴う自閉症の人たちは、自分の生きにくさを自分で表現しにくい。その心に気持ちを寄せ、様々な視点から取り組みを検証し、謙虚さと信念を持って実践を積み重ねている実践に感銘を受けた。」

この実習報告は回覧され、その表紙に「外交辞令があるにしても、我々以上に我々のことを知り、理解し、それを文章化している！ありがとう」と三原施設長のエンピツメモが書き添えてあった。

その他、幾つかの感想をあげてみたい。

- ・「朝の引き継ぎそのものが、利用者の支援検討のOJTになっている。園長が問題提起をされ、ひとりの職員が発言すれば、次々と発言される。一人ひとりがしっかり取り組んでおられることを実感した。」
- ・「この仕事に携わり10年になるが、行動障害の軽減に向けた取り組みは、その行動だけに焦点を当てるのではなく、“日常の支援の連続体である”という意味もよく分かりました。」

- ・「色々な事業所や活動を見せていただきましたが、入浴場面等も見せて欲しかった。」

今回の15名の方々の受け入れは、私たちにとっても、改めて自分たちの実践を客観的に捉えなおす機会となった。いくつか指摘もいただきました。

こういったやりとりは、やはり実務研修ならではの醍醐味だと思っている。

また、私も受講生の一人だが、実習を終えられた皆さんが各事業所で「どう動かれるか」という行動力が、真の発達障害支援スーパーバイザーに向け、問われるのだと思っています。

よい機会を与えて頂いてありがとうございました。

平成26年度 発達障がい支援スーパーバイザー養成研修報告書

障がい者支援施設 三気の里：木下 昭二

1. はじめに

三気の里では、発達障がい支援スーパーバイザー養成としての施設認定を受けるに当たり、施設長からの事前の投げかけに対して、スタッフ間で十分話し合った中で受け入れを決め、9月から12か月の4か月間で各5日間、合計12名の研修者の方を受け入れました。

2. 企画の段階での三気の里での確認事項

- ① この養成研修を法人の関連施設全体で受け入れをする。
- ② 各人が、利用者支援の意図・手続き・結果・今後の展開等を言語化出来るようにしておく。
- ③ 「自分達も一緒に学ぶ」意識を持って研修者を受け入れる。
- ④ 法人や三気の里の歴史や療育方針等について整理し、誰もが説明出来るようにしておく。
- ⑤ 在りのままの三気の会の現状を見て頂き、今後に向けての率直な意見を聞かせて頂く。

3. 企画段階での課題等と対応

- ① 第1回目の研修は、何ヶ所ものホテルを送迎に回り大変だった為、2回目以降は駅に一番近いホテルを指定させてもらい、スムーズに送迎が出来ている。（最安のホテルではなかった為、研修者のに多少の費用的な負担をかけている）
- ② 上記指定ホテルから三気の里までの送迎（片道10分弱）を毎日行っている。
同一法人の研修先にも基本的には三気の里のスタッフが送迎をしている。
- ③ 研修についての率直な意見を汲み取る意図を持って、独自の研修日誌を作成し、記入して頂いている。（研修者の方には書き物が多い中、負担をかけている）
- ④ 歓迎の意味と意見交換の場を設ける為、初日の夜（回によって異なる）に懇親会を設定

4. 実務研修プログラム

曜 日	9:30	10:00	12:00	12:30	13:00	13:30	14:30	16:00	17:00	17:30
月曜日 12/15 日					受け付け			開講式：施設長挨拶：オリエンテーション 講義「三気の里の自閉症療育」 意見交換会		
火曜日 12/16 日	わっふる 事業説明等	支援センターわっふる。 ABC 分析研修等	昼食休憩			移動 14:00～	たちばな園研修		意見交換会 各自解散	
水曜日 12/17 日	オリエン テーション	三気の家：リズム・集 会・グループ活動など	給食支援(昼 食・休憩)			三気の家 グループ活動		意見 交換会	臨床実習 三気の家 地域療育等支援事業	
木曜日 12/18 日	オリエン テーション	臨床実習 地域活動支援センター アンバ実習	休憩			障がい者支援施設 三気の里 施設及び活動見学		講義「強度行動障害の療育」 三気の里松田施設長 GH はじめ見学 意見交換会		
金曜日 12/19 日	オリエン テーション	相談支援事業所 たんぼぼ	昼食・休憩 (食費清算)			閉講式・まとめ・アンケート記入 意見交換				

5. 研修プログラムの軸

(1) 各事業所の事業及び療育についての説明等

<p>(1) 三気の里の自閉症療育について</p> <p>・これまでの30年余における三気の里の療育方針の基礎を、創設者の故 田中 稔先生や初代施設長の土井先生にまで遡り、それに現在のオリジナリティーを加えて説明。</p> <p>前半、施設概要について、後半、利用者支援について 2部構成で講義</p>
<p>(2) 発達障がい者支援センター わっふる</p> <p>・ABC分析（機能分析）について A：きっかけ B：行動 C：結果 という視点から行動を捉え、対象児・者の示す行動の意味を読み解き、整理して考える…等について、解り易く説明 後半は、わっふるの主催の支援者養成講座等と一緒に参加</p>
<p>(3) 強度行動障がいの療育について</p> <p>・研修者参加型の形式で、施設長より強度行動障がいの療育についての説明を行って頂いている。</p>
<p>(4) 三気の家での療育について</p> <p>・児童発達支援の取り組みについて、熊本市の現状と合わせて、三気の家での取り組みを紹介している。後半はダイナミックリズム等の身体を動かす活動にも参加</p>

(2) 臨床実習

<p>(1) 三気の里作業見学</p> <p>・ニフコ作業（パッキンはめ）・トマトパックのシール貼り・果物ネット折り、パラシュート作業（海苔の養殖に使用）、アルミ缶潰し等の5つの班の作業活動を見学・一部体験。</p>
<p>(2) パン工房 アンパでのパン作り体験</p> <p>・地域活動支援センターの活動内容の説明や、実際にアンパでのパン作りを利用者さんと一緒に体験して頂いている。</p>
<p>(3) 相談支援事業所 たんぽぽ</p> <p>・県委託の熊本県私学特別支援相談員のスタッフより、その設立意義や活動内容について説明を行っている。</p>

6. 研修を終えて

- ・受け入れる側としては、法人で行っている全体を見て頂きたい…といった設定の研修プログラムを組んでいたが、逆に煩雑過ぎた感があり、「もう少しじっくりと時間をかけて見たかった」と感想を述べられた方もあった。 発達障がい者支援センター わっふるでの・ABC分析（機能分析）についての説明や、三気の家での幼少期からの、将来を見据えた療育支援の場面での体験に於いては、各回共に高評価を得ていたと実感している。

平成26年度 発達障害支援スーパーバイザー養成研修 「社会福祉法人 萌葱の郷」実務研修報告書

社会福祉法人 萌葱の郷
大分なごみ園施設長 福田 和彦

1、実務研修の概要

社会福祉法人 萌葱の郷では、月曜から金曜の5日間を事業所ごとに、講義と臨床実習という形式で実務研修を取り組みました。参加者は、障害者支援施設等の管理者やサービス管理責任者で、経験年数も豊富な方でした。意見交換会では、発達障害の理解、支援方法、支援員の心構え、人材育成、運営など様々な内容について話し合うことができ、大変有意義な機会を持つことができました。

＜実施期間・参加人数＞

- ① 平成26年 9月22日（月）～ 9月26日（金） 5名
- ② 平成26年10月 6日（月）～10月10日（金） 4名
- ③ 平成26年11月10日（月）～11月14日（金） 4名
- ④ 平成26年12月 8日（月）～12月12日（金） 3名

合計 16名

2、実施場所

社会福祉法人／萌葱の郷 各事業所

障害者支援施設／めぶき園 生活介護40名 施設入所支援30名

障害福祉サービス事業所／どんこの里いぬかい 生活介護6名 就労移行支援6名 就労継続支援B型10名
ケアホームかわしま／共同生活援助10名

こども発達支援センター／なごみ園 児童発達支援 放課後等デイサービス 保育所等訪問

大分県発達障がい者支援センター ECOAL（イコール）／相談支援 就労支援 発達支援 普及啓発
支援者養成

ホームヘルプサービスセンター らすかる／居宅介護 行動援護 移動支援

こども発達支援センター 大分なごみ園／児童発達支援 放課後等デイサービス

特定相談事業所 プラス／計画相談 一般相談

いぬかい保育園／通常保育 乳児保育 障害児保育 延長保育 一時保育 子育て支援センター

3、実習研修プログラム

曜日	9:30 10:00	12:00 13:00	13:30 14:00	15:00 16:00	17:00 17:30
月曜			受付	開講式・オリエンテーション 講義「萌葱の郷の自閉症療育」	意見交換会
火曜	オリエンテーション	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園	休憩	臨床実習 自閉症者施設 めぶき園	講義「強度行動障害の療育」 自閉症者施設 めぶき園
水曜	オリエンテーション	臨床実習 どんこの里いぬかい	休憩	臨床実習 生活支援・生産活動	臨床実習 かわしま
木曜	オリエンテーション	臨床実習 大分なごみ園	休憩	講義「発達障害児の早期療育」 大分なごみ園	臨床実習 大分なごみ園
金曜	講義「発達障害支援ネットワーク」 大分県発達障がい支援センターイコール		休憩	閉講式・まとめ 意見交換	

4、研修受け入れを終えて

今回、合計16名の研修者を受け入れ、現場を共有し、お互いにいろいろな意見を交換することで、大変勉強になりました。

ただ、研修を受け入れる側としての課題としては、施設の近くに宿泊先がなかったり、公共交通機関での移動が不便だったりすることでしたが、宿泊先を紹介したり、公用車で送迎することで何とか対応することができました。

また、毎日の実務研修終了時のまとめと意見交換以外に、和やかな雰囲気での意見交換ができるように懇親会を持ちました。時間の許す限り質疑応答をして、お互いの情報交換ができたと思います。閉講式でも5日間通して、全体の質疑応答ができる時間を設けたことも研修者からご評価をいただきました。

研修者から一番ご評価いただいたのは、「法人の理念や支援方針が事業所ごとに浸透している」ということでした。当法人では、自閉症総合援助センターとして、生活支援、療育支援、早期療育、就労支援、余暇支援、相談支援、普及啓発、専門家養成等の機能をライフステージを通して総合的に提供し、もって自閉症を中心とする発達障がいのある人たちの豊かな育ちと暮らしを実現することを基本理念としています。そして、ただ単に行動の改善や適応を目的とするのではなく、発達障がいに対する理解と学習を深め、肯定的な態度で接することで、安心感に基づく信頼関係を築き、支援者の姿勢や態度の振り返りや援助技術の不断の研鑽を重ねて支援することを法人職員全体の共通理解として取り組んでいます。

今後もこの発達障害支援スーパーバイザー実務研修を通して、支援の質を高め、利用者の豊かな育ちと暮らしや自己実現のために邁進していきたいと思っています。



<意見交換会>



<講義風景>

5. 参加者のアンケートから

人材育成、会議の進め方、記録の取り方、折り合いをつけるための支援、職員一人ひとりの知識力、説明力、支援力、連携の取り方、研修制度、五十嵐先生の講義の話を実際見ることでできたことが大きな収穫、学びでした。緊張での実習入りでしたが、毎日たくさんの刺激を受け学ぶことが多かった研修で大変充実していました。質問攻めにして申し訳なかったですがとてもいい経験をさせてもらったと感じています。

まだ経験の少ない職員の方々にもいろいろな説明をしていただきました。法人の理念・支援方針が十分に浸透していることを実感しました。職員研修、後継者育成の充実が、法人全体の強みになっていると思いました。

アンケート集計結果

発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（前期）

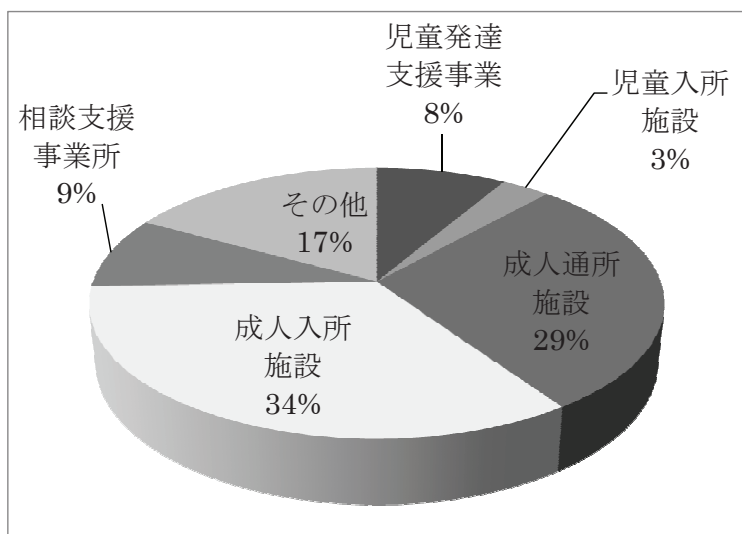
【ご参加された方の情報について】

I. 所属

1	児童発達支援事業	8
2	児童入所施設	3
3	成人通所施設	27
4	成人入所施設	32
5	相談支援事業所	8
6	その他	16
合計		94

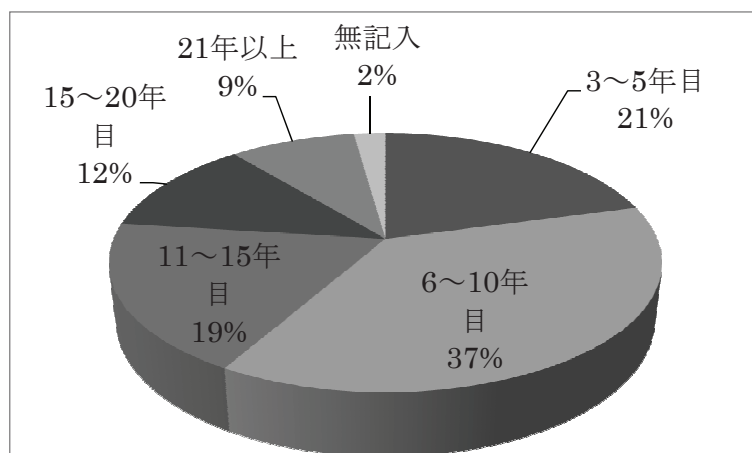
（所属が2ヶ所が3件あり）

その他所属	
発達障害者支援センター	6
放課後等デイサービス	2
法人	1
スーパーバイズなど （個人独自事業）	1
支援センター	1
共同生活援助	1
グループホーム生活支援	1
幼稚園	1
自閉症支援事業所(民間)	1
無記入	1



II. 経験年数

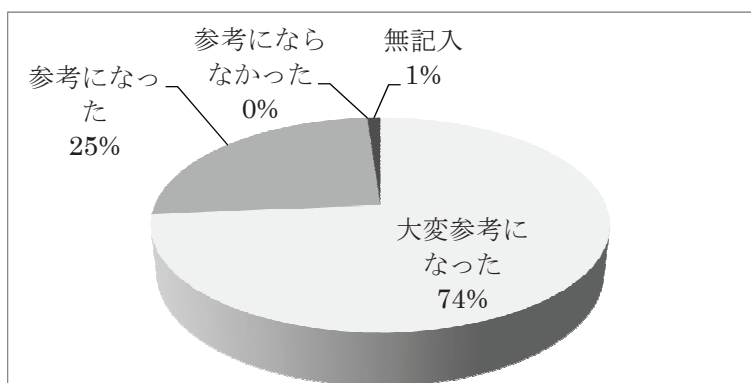
1	3～5年目	19
2	6～10年目	34
3	11～15年目	17
4	15～20年目	11
5	21年以上	8
無記入		2
合計		91



【講義のテーマ・内容について】

1. 親として専門家に期待すること（中尾 佑次 氏・今井 忠 氏）

1	大変参考になった	67
2	参考になった	23
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	91



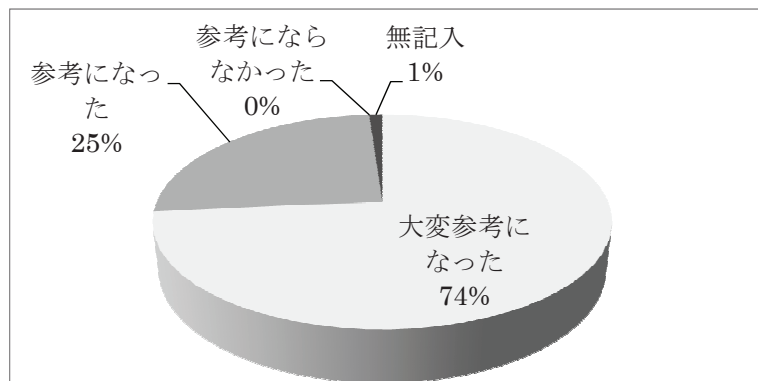
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「施設という空間は職員の職場なのか、利用者の生活空間なのか？」頭では生活空間と分かっているが、日々の生活の中で職場になってしまっていなかったかと考えさせられた。
- ・支援者として一方的な面があったと気づかされた。
- ・親御さんの子どもさんに向かい合う姿勢と共感しながら支援していくことの重要性を改めて感じた。
- ・親だからわかること、親だから思うことなど、直接聞けて良かった。
- ・「過去成功した方法にこだわっていないか」は、どの療育方法をとる支援者であっても耳を傾けないといけない。
- ・親の苦労や希望を少しでも理解できるようになりたい。
- ・親と支援者の関係の築きかたの大切さが分かった。
- ・家族の立場から本音を聞け、支援者としての役割を考えさせられた。
- ・支援者として、保護者の方に何を伝えればよいのか、手がかりになった。
- ・支援者として大切なことを思い出せていただきました。
- ・本音や思いをつつみかくさず聞けたという部分がとても大きく、自分の支援を省みる良い機会となりました。
- ・保護者の立場からの支援は、どの現場でも参考になり、今回も教えて頂いたことが多かった。
- ・見通しを立てることの大切さと保護者と支援者の考え方の違い等についても考えることができた。
- ・「施設と協力していく」ことが大切だと分かった。普段は職員としての目線の割合が高かったことも分かった。
- ・親の視点と支援者のそのずれをどう埋めていくか、など考えさせられた。
- ・専門に興味を持つことではなく目の前にいる人に興味を持つことを再確認できた。

※他に46件の記述がありました。

2. 発達障害特性理解（市川 宏伸 氏）

1	大変参考になった	67
2	参考になった	23
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	91



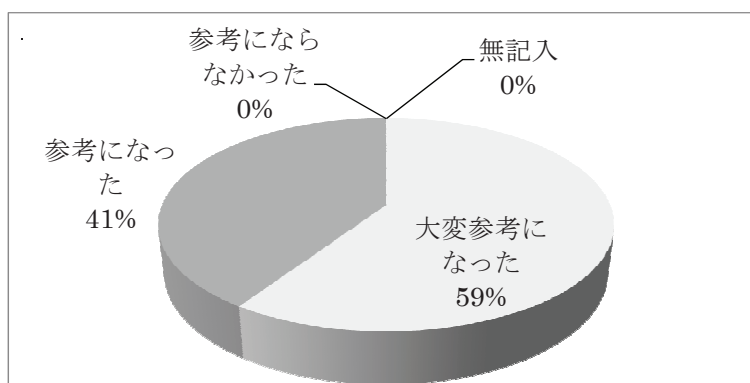
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「悪い所を治すのではなく、良い所を伸ばす」改めて考え直し、振り返ることができた。
- ・DSU等最新の情報を提供してもらった。また医者からのASD理解を勉強できた。
- ・医師の視点で混乱の極みにいる患者とのファーストコンタクトから始まる支え、とても参考になり、勉強になりました。
- ・医療現場からの具体的な事例や発達障害の方の関わり方など参考になりました。
- ・医療の視点からのお話でとても参考になりました。互換性のあるソフト作りに取り組みたいと思いました。
- ・様々な失敗経験や人との関わりで嫌な思いをした利用者との信頼関係の築き方や姿勢を学んだ。
- ・支援者が多くのソフトを持ち合わせることで、利用者の方のソフトを知ることの重要性を知った。
- ・実際の事例を基に特性をどうとらえ関わればいいのかわかった。
- ・事例を含めてお話しいただき、自分自身もケースをイメージしながら支援の姿勢を考えることができました。
- ・たくさんの支援をしてきていらっしゃる先生だからこその言葉は重みがあります。彼らなりの「考え方がある」その思いを持って「How to」ではなく「why」の視点を常に持ちたいと思います。
- ・発達障害への対応は原則的なものは存在するが対応はその個人個人で千差万別であることに気づく。
- ・非常に困難な事例を通じた支援のエッセンスは、重みがありました。もう少しDSM-Vのことを聞きたかったです。

※他に33件の記述がありました。

3. 虐待防止と権利擁護（曾根 直樹 氏）

1	大変参考になった	54
2	参考になった	37
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	91



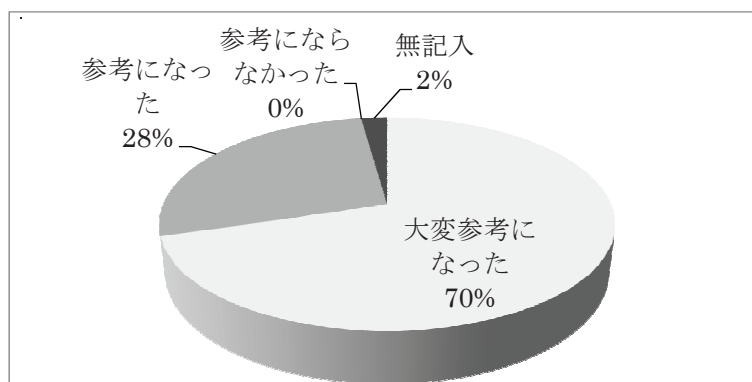
「大参考になった・参考になった」の理由

- ・虐待をしている人を取り締まるのではなく、虐待を防ぐための法律であること、擁護者を支援するものだと知った。調査報告の結果の管理職の立場の人による虐待が多い事に驚いた。
- ・平成24年から何度も虐待防止法の研修を受けてきましたが、ここまで具体的な説明は初めてです。
- ・虐待防止には取り組んでいるが、話を聞いたことでさらに良い取り組みがあると思うことができました。
- ・強度行動障がいのある方への支援体制を整えなければという考えがあったが、現在の取り組み等を知り参考になった。
- ・現場経験がありで実態に基づいたお話が聞けたと思います。最後の質問にあった車いすのベルトは参考になりました。
- ・現場しかあまり知らない私にとっては、法律についてのお話は大変参考になりました。どの年齢の時、どの場に属しているのか、また、どのサービスを使いたいのか、適しているのか、私が法律を知らないとサービスの引き出しを出せないと痛感しました。
- ・支援する者の一寸した言動が知らず知らずに障害者やその保護者を傷つけるケースがあることに気づかされた。
- ・障害者の虐待は福祉の現場で起こる。この現実を受け止めたい。支援の行き詰まりの末にある虐待についてスーパーバイザーとしての責任の大きさを自覚し、スキームを再確認できてよかった。事業所に再度持ち帰り伝達、再検討をすべき事柄があった。
- ・通報義務や、その防止のための自己チェック、PDCAサイクルの大切さを深く感じることができました。
- ・特に虐待のチェックリストを持ち帰って皆に渡して毎日チェックしようと思った。
- ・虐待の疑いを大きくしたくない（面倒な手間を増やしたくない）という気持ちは当たり前だが、長い目で見れば、通報の義務を怠らない方が良いという意識の持ち方は心に残った。

※他に34件の記述がありました。

4. 発達障害福祉行政の展望（日詰 正文 氏）

1	大変参考になった	64
2	参考になった	25
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	91



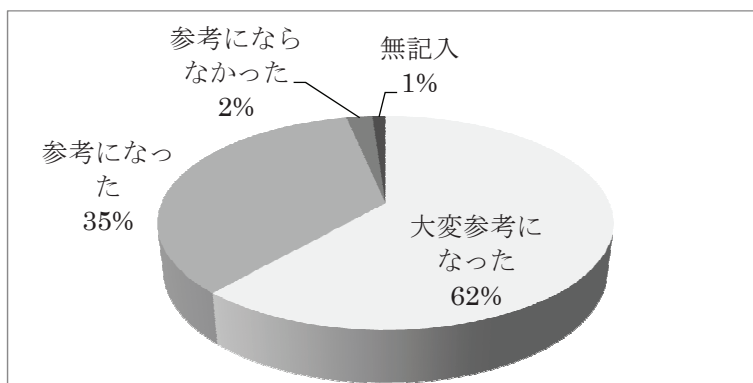
「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・「良い所をさがす」その視点からのお話があったことがまず印象的でした。
- ・行政としての狙い、望んでいることが分かり、また現場の視点も組み込んでいただいており、理解しやすかったです。
- ・現行の法律とこれまでの障害福祉の経過を交えた話が分かりやすかった。
- ・現場で仕事をしていると広い意味での発達障害支援の全体像をなかなか把握できないので、参考になった。
- ・講義内容としても良かったが、実践できていることをレクチャーとして見せていただいたことが良かったです。
- ・ちょっとした自閉症の方との簡単なふれあいを楽しく教えてもらった。
- ・デモンストレーションは、現場でも他の職員に理解してもらう際の有効なツールであると感じ、感心した。
- ・ご本人さんの中では我々と切り取り方が違う、その中で具体的に、視野の話、枠組みを示すことなど、ご本人さんの困り感が分かりやすく説明され、大變良かったです。
- ・発達障がいがあるかないかではなく、発達障がい度がどれくらいあるか？・・・心に残りました。
- ・話が大變上手で説明がスムーズに入った。レクチャーが楽しく理解につながった。
- ・日々の業務ではあまり考えることのない行政について、日常の支援との関わりと、今後の展望を知ることができた。
- ・ペアレントトレーニング、ソーシャルスキルトレーニングのあり方が参考になりました。
- ・ほめられる瞬間、見え方、聞こえ方など体験型のワークの中に改めて気づかされることが多かった。
- ・行政説明もさることながら、参加者が逃げる→止める→止まる→ほめるの演習が心に残っています。

※他に31件の記述がありました。

5. 特別支援教育の課題と展望（田中 裕一 氏）

1	大変参考になった	56
2	参考になった	32
3	参考にならなかった	2
	無記入	1
	合計	91



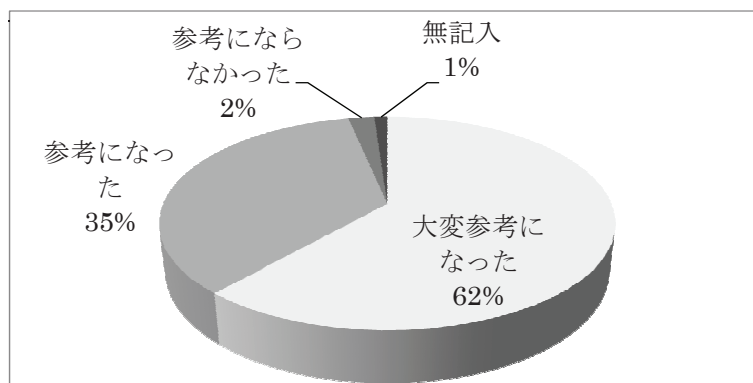
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「こんなふうにするといい」「こういうことを知っておいた方が良い」ということを、わかりやすく話してくれたのでとてもよかった。
- ・学校、教育の現場の実際の実情、またそれに加え福祉職、福祉分野としてどう関わっていけるのか、具体的な話もありこまれ分かりやすかったです。
- ・学校側の実情や現在の（これからの）取り組み方や方向性を知ることができた。
- ・学校終了後、生徒を預かっているが、学校と連携すること等考えたことはなかった。先生と話をすることでもっと互いのことがわかる。
- ・学校との協力場面が仕事上多く、学校の知らない部分を教わった。
- ・学校との連携について悩んでいたのもとても勉強になりました。
- ・学校との連携は本当に課題としており、入り込めない場所だったのでヒントをいただけて良かったです。
- ・教育との連携という、新しい自分の役割が見つかった。
- ・支援学校を含め、一般学校にいる障害かもしれない児童をもつ担任との関わりをもっていくことがこれからは重要になってくる。
- ・児童施設職員として知っておかなければならないこと、連携の大切さを知ることができた。
- ・就学相談を担当しているので、細かいことが知れてよかった。
- ・成人施設に移り、関係が薄く感じていたが、教育あるいは関連職との連携の大切さを改めて感じた。
- ・地域の学校との連携はこれまで行ってきたが教諭の専門性の低さにがっかりすることも多い。さらなる連携と協力体制の維持に努めたい。またPTA（保護者）への講習会も行っている。継続したい。
- ・福祉と教育と分野が異なると「文化」が全く違います。教育の文化とうまく付き合っていくためのコツを学ばせていただきました。

※他に32件の記述がありました。

6. 対談（田中 裕一 氏・寺山 千代子 氏）

1	大変参考になった	56
2	参考になった	32
3	参考にならなかった	2
	無記入	1
	合計	91



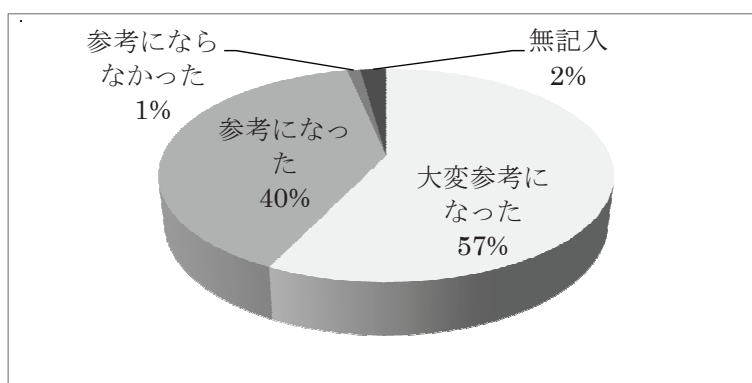
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・学校教育のことについては今まであまり考えたことがなかったので、知ることができて良かった。
- ・学校現場での苦勞、悩みが伝わってきました。
- ・学校と放課後等デイ、学校職員の研修など興味深かった。
- ・学校との協力場面が仕事上多く、学校の知らない部分を教わった。
- ・気になっていたことが寺山氏からの質問で聞けたので良かった。
- ・教育現場との連携は必要だと思いつつ、なかなか一歩踏み出せずにいました。相手の状況をまず知り、動いてみようと思えました。
- ・教師の1／3が「学ぼうとしない層」という話は、現実であってもゆるされる体質に大変疑問を持った。
- ・具体的な質問に的確な答えだったので分かりやすかったです。
- ・現場の実際の声をきき、自分がどう考え、自分ならどの様に関わっていくかを考えることができた。
- ・現場の先生方の思い、サポートの仕方についてヒントをいただいた。
- ・講義の内容をかみ砕いてより理解しやすく解説していただき良かったです。
- ・学校（教師）の現状や実態、教えていることetc. 普段知りえない内容で参考になった。
- ・教育と福祉はなかなか日ごろ交わることがないが、関係の重要性を理解した。
- ・形式的でない質問で、いろいろお聞きすることができて良かった。田中氏とはもっと突っ込んだ現状を踏まえてのお話もお聞きしたい。
- ・積極的に学校と関わりたいと思うが、入所施設としてどのように関われるか、どのような方法をとれる可能性があるかを知ることができた。
- ・学んでいる人、必要は感じるが学べていない人、どうでもいいと考えている人の分類は参考になった。

※他に18件の記述がありました。

7. 発達障害支援の現状と課題（和田 康宏 氏）

1	大変参考になった	52
2	参考になった	36
3	参考にならなかった	1
	無記入	2
	合計	91



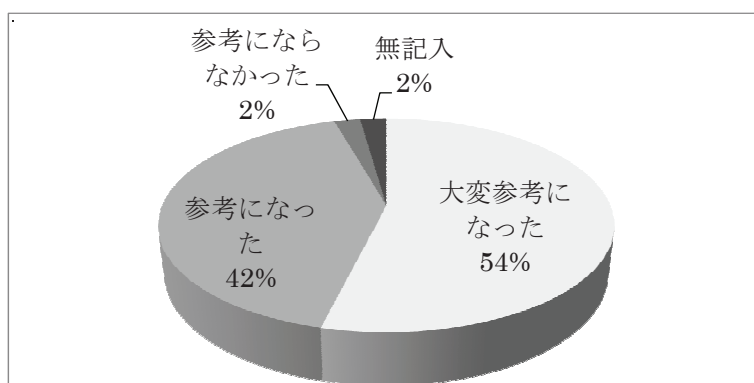
「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・いま未就学児と関わっているがその人の人生を大きくとらえ、今の時期にできることをしていかなければならないと感じた。
- ・現場で仕事をしていると広い意味での発達障害支援の全体像をなかなか把握できないので参考になった。
- ・支援センターの現状について知ることができたので良かった。
- ・自分の県でも感じていることと一致しており、改めて振り返りができた。
- ・全国の発達障害者支援センターが同じ課題に直面していることを知った事、および取り組みのヒントを頂けたため。
- ・地域、当事者が何を悩み、求めているのかを知り、どう取り組むかを考えることができた。
- ・知的障害を伴わない発達障害者が地域で感じている“生きにくさ”を感じた。現場でも同じような悩みを抱えており、共感できる話もあった。
- ・発達障害者支援法に基づき、センターの役割とご利用者の特徴やニーズが分かり、今後の事業所としての関わり方も考えさせられました。
- ・未診断の方の多さに驚きました。普通にこういう方がたくさんいらっしゃると思います。
- ・ライフステージに従った支援内容、何が必要か少しわかったと思います。
- ・現場の事実から導き出した傾向を示してくれて、説得力があり、関西の人のノリの良い話口調も飽きずに聞いた。
- ・後半のひきこもり支援、もっと聞きたかったです。概況が良くつかめました。
- ・支援センターについて詳しく知ることができ、より県内の機関が近いものとなった。
- ・支援センターの傾向が分かるとともに、センターだけでは解決できない課題の大きさを感じた。
- ・相談の現況を確認しました。現場との連携も含めもっと話を聞きたかった。
- ・どのような人がどのようなことで困っているのか分かった。

※他に20件の記述がありました。

8. 受容的交流療法（沼倉 実 氏）

1	大変参考になった	49
2	参考になった	38
3	参考にならなかった	2
	無記入	2
	合計	91



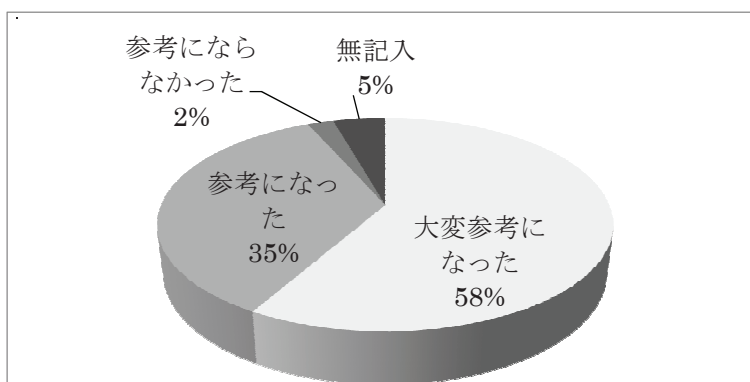
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・相手（ご本人さん）の成長とともに自分も成長するという視点。石井先生が最後までご本人さんによくぞ教えてくれたとおっしゃっていたという視点。私もそういったスタンスでありたいと思いました。
- ・石井氏の著書はこれまでたくさん読み、のびろ学園での実習も経験した。改めて根底にある情緒的交流の大切さを確認した。
- ・石井氏の理念がよくわかりました。自閉症の方にはもちろん、やはり「人」として大切なことと思います。
- ・以前沼倉さんの話を聞いた時に「受容的交流療法」ありきという印象があったが、今回はベースに「関係性」があり、その上に療法という内容だったので頭の中にスーツと入ってきました。
- ・支援、人との関わりの基盤となる事、また、人と関わる心がまえ、支援に対する情熱を実感できた。
- ・自分の中で言語化できていなかったかわりについて整理ができた。
- ・自閉症のあり方や、家族支援まで、実践の中で活かしていきたいと思います。
- ・受容については、自分でも大切にしているので再確認できました。
- ・知的障害、発達障害の知識なく入職しましたが、私の支援していたことが、何となくですが、これでよかったのかなと思えました。
- ・利用者の思い、気持ちを第一に、支援者も一緒に成長する考えがとても共感でした。
今まで、受容的交流療法という言葉は聞いたことがあったものの、具体的な話を聞くのは初めてだったので、参考になった。
- ・障害を本人ではなく社会の問題として捉えること、支援を総合的に行うこと、受容的交流療法の流れを学ぶことができた。
- ・どの療育方法を使おうとも、この受容的～の視点は、必ずベースにもたないといけないと捉えています。

※他に27件の記述がありました。

9. 構造化された指導や支援のアイデア（西尾 保暢 氏）

1	大変参考になった	53
2	参考になった	32
3	参考にならなかった	2
	無記入	4
	合計	91



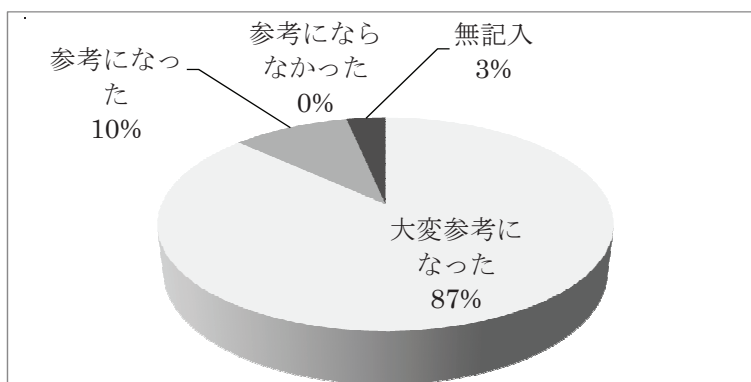
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・“構造化”は、個人的にも、力を入れて取り組んでいる事なので、参考になりました。
- 1つの支援技法としてのTEACCHの理念と構造化の意図をきちんとスーパーバイザーが知り選択肢として支援者に伝えていくこと、誤解を与えない丁寧な説明を心掛けることが大切なのだと実感した。
- ・TEACCHプログラムはあまり勉強したことがなかったので良かった。
- ・カードやついたてといったテクニック面だけではなく、その目的が自閉症者の生活をわかりやすく、豊かにする方向性に向いているか…というポイントが重要であると改めて確認できた。（ともすると職員が楽するために導入されてしまうこともあるため…）
- ・具体的な支援方法や、構造化を行う目的を再確認できてよかった。
- ・構造化に現在取り組んでいるので実践的な内容を知れた。
- ・構造化の細かい内容まで知ることができ、もっと深く知りたいと思った。
- ・構造化も大切だが1つのツールに過ぎず、とらわれ過ぎてはいけない所が共感でき良かった。
- ・支援の1つの方法として構造化した支援を行うことが大切なことが分かった。
- ・初級という感じの基本的な内容だったが、例もたくさんあって非常に分かりやすくてよかった。
- 「視覚的構造」となんでもするのではなく、相手の特性をきちんとアセスメントしたうえで、効果的な構造化が大事だと学んだ。
- ・職員の都合で構造化されていないかという部分に思わず考え直さなくてはいけないと気付かされました。内容はベーシックで分かりやすかったです。
- ・事例を基に、実践的な内容・理論だったため、自施設でも取り入れが可能だと思ったから。
- ・自分たちが施設で行っている支援を振り返ることができた。構造化の意味と危険性についても学ぶことができた。
- ・目新しいものを提示しているわけではありませんでしたが、基礎として改めて考えられました。

※他に34件の記述がありました。

10. 自閉症支援の基礎となるもの（五十嵐 康郎 氏）

1	大変参考になった	79
2	参考になった	9
3	参考にならなかった	0
	無記入	3
	合計	91



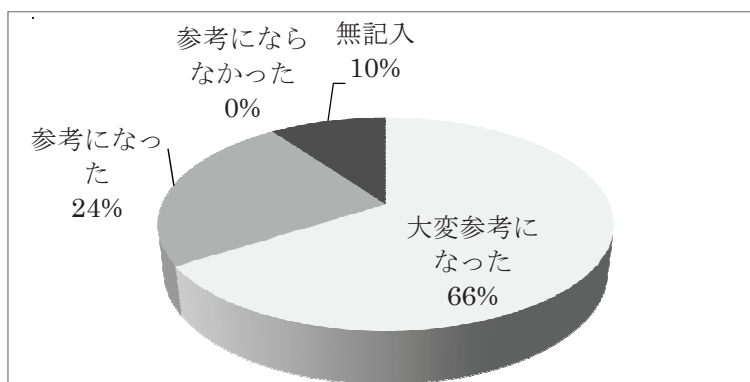
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・「全く同感!!」と思いながら話を聞かせていただきました。良いお話をありがとうございました。
- ・「利用者のためにあらゆる療育方法を駆使する。一つに捉われない」の言葉は、初日の今井講師の「いつのまにか職員が主人公になってないか?」という問題提起と重なります。とにかく熱い“志”をもつこと。その魂をいただきました。
- ・五十嵐氏の理念や思いがすごく伝わり、お話お聞きできて本当に良かったです。そして、その理念を職員が理解しているというところがすばらしいと思いました。
- ・五十嵐先生の熱意は十分に伝わったと思います。やはり、トップは信念が必要だと思います。真似はできませんが、習いたいと思います。
- ・具体的な事例を基にご説明を頂き、大変参考になりました。支援員として、基本的な姿勢や、考え方も改めて考えさせられました。
- ・様々な理論、技法を学ぶこと、支援者間の意志疎通の重要性を、再確認することができた。
- ・自閉症支援の歴史、原点ともいえる貴重な講演を聞く事ができ、感動しました。今研修の中で最も印象に残るまた伝えたい内容でした。
- ・事例が多くとてもイメージしやすかったです。ちょうど我々の施設でも職員の知識をつけなくてはいけないなどの問題などにマッチした部分があり、とても感銘を受けました。
- ・タイトル通り基礎となるものを広く、確実に網羅された内容で、すべての職員に聞いてもらいたいと思った。
- ・たくさんの事例をあげてのお話だったので、大変分かりやすかったです。めぶき園に行ってみたいと思いました。
- ・哲学、理念を持って実践されてきた五十嵐氏のご講義により、自身の中での今後の自閉症児者支援の方向性が定まりました。ありがとうございます。
- ・めぶき園での取り組みに感動しました。実習でお世話になるのが楽しみです。
- ・歴史、先人の想い、歩み、療育、思想、理想、全て勉強になった。

※他に46件の記述がありました。

1 1. 自閉症の動作法（森崎 博志 氏）

1	大変参考になった	60
2	参考になった	22
3	参考にならなかった	0
	無記入	9
	合計	91



「大変参考になった・参考になった」の理由

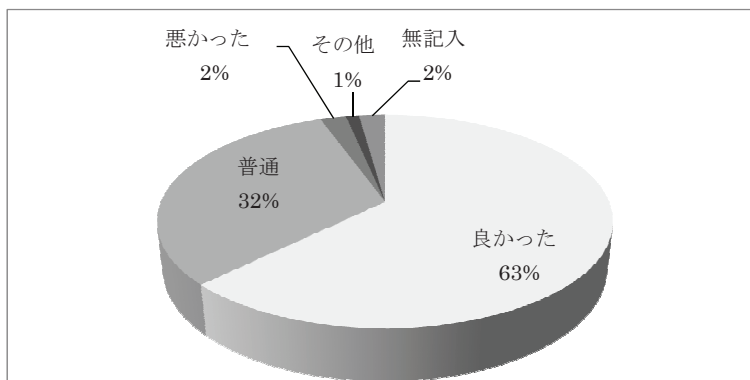
- ・「感覚」「身体性」といった面での研修は受けたことがあり、少し実践もしているが、「動作法」「身体」にフォーカスした研修は初めての経験でした。
- ・「心の交流」が「動作法」のベースにあることがよくわかりました。
さっそく持ち帰り、実践してみたいと思える動画資料つきのわかりやすい講義でした。
- ・実際、今関わっている子どもとの様子や対応と重なるところが多々あり、ダメなところにも気づけました。
- ・身体的な発達の次に認知的な発達が進むことを知り、支援の現場を振り返ったとき、その通りだと感じた。
- ・動画でとてもわかりやすかった。自閉症児の鋭い感性が療育に反映している様子がよくわかった。支援者の関わり方の姿勢が、本人に大きく影響している。我々が自分の振る舞いを意識して、わかりやすく、丁寧にコントロールしていく大切さを感じた。
- ・動画を使用することで視覚的にわかりやすかった。また脳科学との関連がうまく説明してあったので、勉強になった。
- ・動作(ボディワーク)と自閉症の弱点を伸ばす項目がきちんとつながっていて、勉強になった。触れられるのが嫌なのではなく、触り方や関わり方に問題があると知った。ただ、声かけが苦手な自閉症はどうか、表情や関わり方のビデオを見て保育士のような特性が必要だと考えた。
- ・動作法については初めて講義を聞かせていただきましたが、脳の理論から、事例までつながった内容でわかりやすかった。
- ・動作法を取り入れることによって発達が促されていく大きな効果が知れた。とても興味が持てた。
- ・人の発達プロセスにそった動作法であり、その基盤となるものは、その人への愛情だと思えた。支援は、人と人とのつながり思いが不可欠だと再認識できた。
- ・全く知らなかったため、新鮮でした。今までの常識が変わりました。
- ・目を合わせる、触れ合う等、今まで思っていた事と逆な話に驚き、当たり前な大切に感動しました。

※他に44件の記述がありました。

[研修全体について]

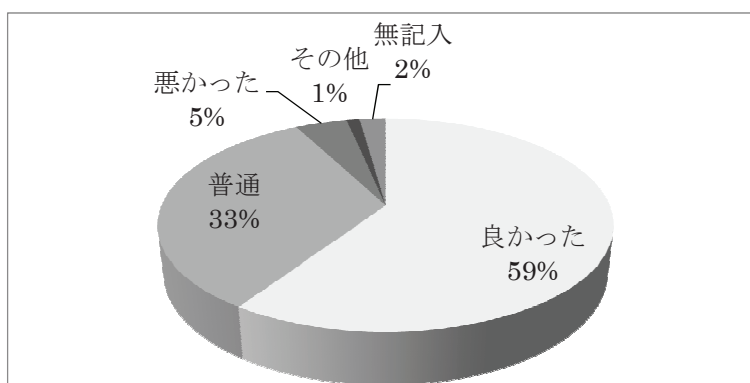
I. 会場・設備

1	良かった	57
2	普通	29
3	悪かった	2
4	その他	1
	無記入	2
	合計	91



II. 実施時期・日程

1	良かった	54
2	普通	30
3	悪かった	4
4	その他	1
	無記入	2
	合計	91



「その他」の記述

- ・(私の確認不足かもしれませんが)レポートがある旨を事前に教えていただきたかったです。2泊3日の研修期間中に少しでも書きすすめられるよう、準備してきたのに…と思いました。
- ・4、5については、事例が必要だったと思います。(また、講師の方々だけの満足に終わっているように思いました。)SVとなる為には、やはりグループディスカッションを用いて、様々な意見交換も必要だと思います。・各自、テーマ(事例)を用意し、それを年間通して取り組む事も必要だと思います。部下のメンタルフォローについて、上司としてのあり方なども取り入れた方が良いでしょう。五十嵐先生のお話が、期待通りで嬉しかったです。最後に、この研修を成功させるには、大変かと思いますが、頑張ってください。事務局の方々も含めて、ありがとうございました。
- ・グループワークがあればもう少し参加者同士の情報交換もしやすかったのでは。PECSなどコミュニケーションについての話も聞けるといい。
- ・スーパーバイズするうえでの基礎としての、座学だったと思います。現場が、悩んだ時にどのような視点で助言していくか、なども話が聞けたらと思いました。・もっと、他の施設の方と情報交換が行えるような、講義などがあると良いと思いました。
- ・高機能の方への支援 ・事例(成功しているもの・経過途中のもの・うまくいかなかったもの)土、日、祭日ははさんだ研修だと助かる。・人見知りタイプなので、グループワークがあると、話

がしやすいし、ネットワークづくりもできやすい・一講義中に5分でも休憩があると、もっと集中できると思う。

- ・ 萌葱の郷さんが、日常的な業務で忙しい中これだけの研修の準備をされたことに驚き、敬服いたしました。引き続き、今後もよろしくお願いいたします。個人的には、基本的な部分の確認が多く、それをしっかりおさえつつもう少し発展的な内容も多くあると良かったか、と思いました。「スーパーバイザー養成」の研修なので、後期の集合研修等で、スーパーバイズの方法論や考え方にも触れる形にしていただけると幸いです。
- ・ 3日間ありがとうございました。最後の講義が一番楽しかったです。
- ・ 3日間茨城から通いました。しぶっていた園長の反対を押し切って参加しましたが、本当に本当に申し込んで良かったです。レポートと実習が心配ですが、このような場はありませんので、最後まで頑張ります!!どの講義もとってもためになりました。ありがとうございました!
- ・ ABA 認知行動療法 成人期高機能発達障害者への支援 感覚統合 帰りの便の時刻の関係で、アンケートに十分にお答えできず申し訳ありません。できたら、研修初日にアンケートをお渡しいただけますと助かります。研修準備、とても大変だと思います。事務局の方、お疲れ様です。
- ・ SVの団体等を設立し、研修終了後も情報交換、研究等ができるようにいただければと思います。大変、有益な3日間でした。ありがとうございました。
- ・ TEACCHプログラム、ABA、研修準備等大変だったと思いますが、良質な研修を設定くださりまして感謝しております。レポート頑張ります。
- ・ あくまで、一つの技法に偏らない、とふまえつつも、それぞれのテクニカルなものも知りたい。現時点での、科学的到達点を知る機会になると嬉しいです。
- ・ お疲れさまです。今後もよろしくお願いいたします。
思っていた以上に充実した内容であり、またレポート提出もあり、ハードな面もありますが、やりとげることで、今の仕事により深みが出るのではないかと期待しています。実務研修に参加できること、心より楽しみにしております。今後ともよろしくお願い致します。
- ・ 感覚統合について学びたい。
- ・ 感情認知 就労支援 PECS コミック?会話 ADHDに特化したもの(薬物以外)
- ・ 研修報告がハードなものと会場に来て知る事実も戸惑いがあるので、募集要綱などに記入があれば…心構えとしても違ったのかなと思われる。
- ・ 行動強度障害や二次障害についての事例も含め、研修があればよかった。現場に活かしたいため。
- ・ 交流会が大変良かったです。他の方との交流、また、1つずつのコメント等、ネットワーク作りで良かったです。日本財団の方々にありがとうございました。
- ・ ごくろう様でした。次回楽しみにしています。
- ・ この研修に来てまでケイタイでゲームをしている人もいました。時代なのでしょうか…?とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・ これから進む方向にも目を向けていきたい。
- ・ 今回の研修では普段なかなか聞くことのできない行政の方からの講義は大変貴重で参考になった。どの講義も大変実りあるものでした。ありがとうございました。
- ・ 最新の医療、研究情報もお聞きできるとありがたいです。五十嵐会長がおっしゃっていたように「勉強する」ことが大切だと思います。その上で実際に支援にあたり、そしてさらに利用者さんから教えていただくこと、大切にしたいと思います。素晴らしい研修会、ありがとうございました。

- ・昨日、ご講義された西尾保暢氏の、高機能自閉症の方の「構造化された指導や支援のアイディア」の拝聴を希望いたします。
- ・支援の際の具体的な指示の出し方や誘導の仕方など(利用者によって違いはもちろんあると思うのですが)
- ・自分のスキルアップにはとても役立つ研修となりました。ただ、これをどう周囲、とくに職場内で、伝えていけばよいのか、いつも悩むところです。新人に対してならまだしも、上司も含めた組織へのアプローチがどうしてよいかわかりません。具体的な方法を教えていただく機会があればと思います。
- ・自閉症の方の性的自慰行為等について対処等
- ・集合(前期)の予定だけでなく、実務・当事者の研修の日程(2機関必須等)の情報を最初に知っておきたかったです。
- ・宿泊場所の確保や情報提供があればよかった。
- ・知らなかった内容もあり、とても勉強になりました。レポートはデータのメール添付にすることは可能でしょうか?
- ・事例を交えた講義は特に参考になる。
- ・スタッフの皆様、大変お疲れさまでした。
- ・全て参考になりました。理由・今までやってきた事の裏付け・新しい事を学べたこと・これから進むべき道筋を示された事・先人たちの経験を聞けた事・「やるぞ」という意識の高い人に会えた事。
- ・全てとても勉強になりました。今後の仕事がとても楽しみになりました。
- ・それぞれの内容を、さらに深く知りたいものであった為、情報をいつでも入手できるネットワークを望みます。また、さらに多くの立場・支援方法を用いた内容を学ぶ機会があればと思います。個人の力、努力では限界がある為、今回のような広い範囲での研修の場をありがたく思います。
- ・大変お世話になりました。
- ・他府県の支援者と関わることができたことがとてもよかった。
- ・とても幅広く学ばせていただきました。日ごろ出会わない知識を得ました。レポート提出も大変ですが、自らの復習、負荷をかけるためにも良いことだと思います。
- ・とても勉強になりました。
- ・普段見聞きできにくい方たちの話が聞けて良かったと思います。ハードでしたが、やるならここまでやらないといけないとも感じています。ありがとうございました。企画された方達は大変なご苦労だったと思います。
- ・若い人がどんどん参加できればと思いました。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（後期）

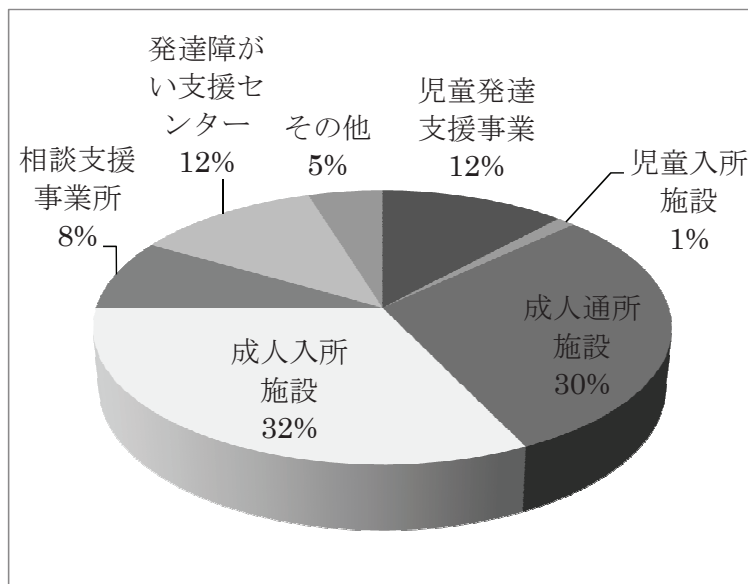
【ご参加された方の情報について】

I. 所属

1	児童発達支援事業	10
2	児童入所施設	1
3	成人通所施設	25
4	成人入所施設	27
5	相談支援事業所	7
6	発達障がい支援センター	10
7	その他	4
	合計	84

（所属が2ヶ所以上が7件あり）

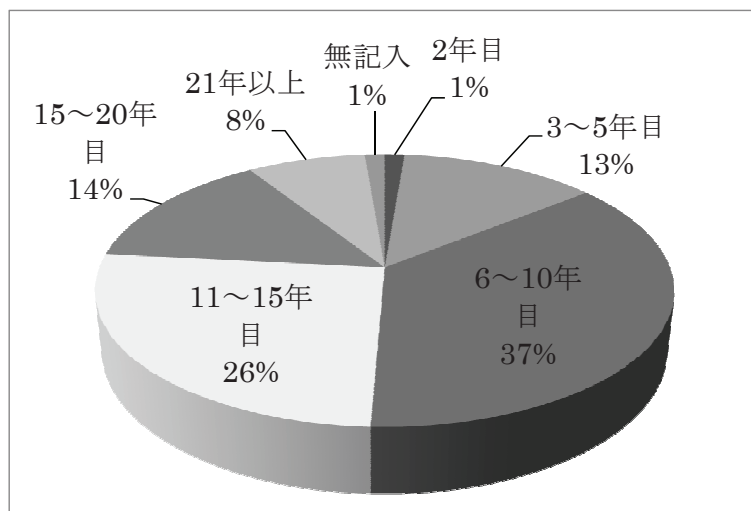
その他所属	
スーパーバイズ・ネットワーク等に関する法人独自事業	1
幼稚園	1
グループホーム	1
無記入	2



II. 経験年数

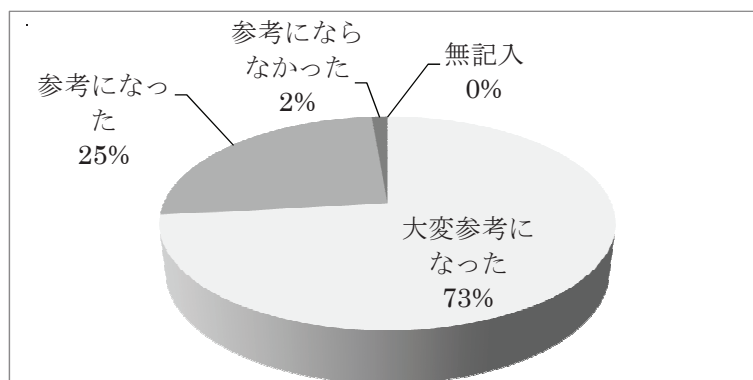
	2年目	1
1	3～5年目	10
2	6～10年目	28
3	11～15年目	20
4	15～20年目	11
5	21年以上	6
	無記入	1
	合計	77

（複数の経験年数のものが1件あり）



1. 当事者からのメッセージ（冠地 情 氏）

1	大変参考になった	55
2	参考になった	19
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	75



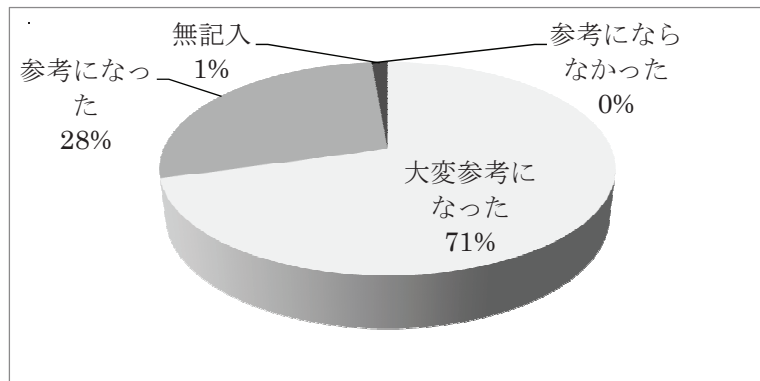
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・”当事者”というよりは、一人の人間としての生き方や考え方など新しい見方・考え方を発見できた。
- ・生き辛さやフラッシュバックなど自分の経験から話していただけたので、とても参考になりました。混乱しないと成長できない、3～5年後に宝物になるという言葉が印象に残りました。
- ・今関わっている発達障害を特性として持っている子どもたちに対する支援の重要さを、痛感しました。子どもたちのイイトコサガシを実践していきたいと思います。お話をさせていただいて、ありがとうございます。
- ・エネルギーッシュで、本気が伝わってくる講義でした。「発達障害のカンチ」ではない「カンチの中にある特性のひとつが発達障害」。発達障害を持っている方達に自分を好きになってもらいたいと思いました。そのための支援をしたいと思いました。
- ・感覚の特性など、本人の言葉でしか説明できない部分を聞くことができ参考になった。
- ・冠地さんの本気が伝わってきました。私自身も自分のフィールドでしかコミュニケーションを取れていないと感じておりますので、まず伝えていくということを強く意識していきたいと思いました。
- ・冠地氏自身の言葉で話していただけたことで、ひとりの人として関わる事の重要性を感じた。経験からの話は、とても参考になった。「自分が好き」と言えるように、自分も含めそうありたいと思えた。
- ・コミュニケーションは成長という言葉に感銘を受けた。コミュニケーションを苦手とする自分が積極的にならなければ、と思った。
- ・自分の気持ちを言葉にして表現する、行動に移す、相手とのやり取りなど当事者である冠地さんに生の声を聞かせていただけたことが刺激を受けました。
- ・当事者の苦悩だけではなく、そこからどう社会に関わっていくか、そのためには何をすべきか、日常的に接している方は重度の自閉症の方なので、イメージがつきにくい部分もあったが、「経験を積むこと」は共通して重要であり、そのために必要な要素の話が多くあり、参考になった。「人間関係」の基本となる話だと感じました。

※他に55件の記述がありました。

2. 発達障害における応用行動分析（井上 雅彦 氏）

1	大変参考になった	53
2	参考になった	21
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	75



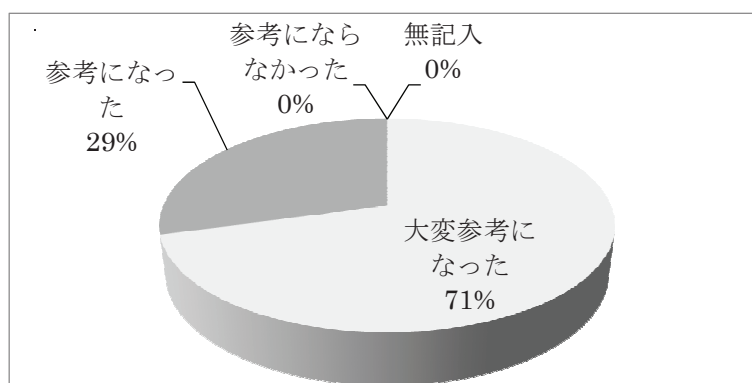
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・問題のある行動に対して支援者側が勝手に感じていることと、当事者が本当に感じていることが違うということを意識し支援をしていきたいと思います。
- ・問題行動を抱えた自閉症の人に、どのように行動変容を図ればよいかのヒントが数多くあり、参考になった。
- ・保護者と面談する中で「ほめてくださいね」と話すことが多いが、もっと具体的にほめ方を示す必要があると気付きました。実際にロールプレイを試してみるのもいいと思いました。
- ・ペアレントトレーニングという実例を通して、支援をしていくヒントを頂いたと思う。
- ・日々の支援の中に応用行動分析の考え方を取り入れて行っているの、振り返る機会となり良かった。現場の職員や家族へ伝える際、参考にさせていただきたいと思う。
- ・母親支援の大切さや応用行動分析を保護者に分かりやすい形で示す方法の参考になりました。
- ・前半は難しく感じたが、「適応行動」となるような支援の仕方、支援するスタッフの理解不足による対応のまずさが今の現状なので、声かけのポイントなど相手に合わせた支援を目指していけるようにしたい。
- ・心理の基礎から、臨床の基礎まで、しっかりと学ぶことができました。先生のお話の仕方そのものもすごく勉強になります。
- ・児童に関わる仕事の中で、ペアレントトレーニングの大切さを改めて知りました。親があつての子どもたちの生活なので、共に協力していく事を伝えていきたいと感じました。
- ・実際の支援の場面でよくあることについての、分析の考え方を教えていただいた。他の場面についてもその分析の方法を知りたいので、本を読みます。
- ・行動分析の説明を聞くことで、自身の支援の視野を広げることができたように思う。
- ・井上先生は準備に苦労した旨を仰っていたが、学術的な部分と実践的で平易な部分が両方入っていて、とても聞きやすく学びになった。

※他に49件の記述がありました。

3. 高機能広汎性発達障害（辻井 正次 氏）

1	大変参考になった	53
2	参考になった	22
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	75



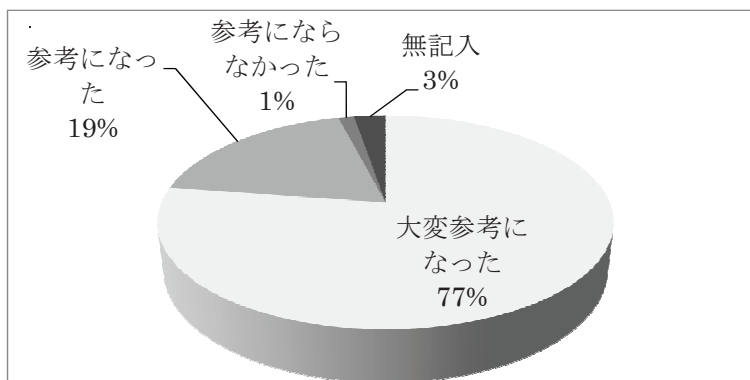
「大變参考になった・参考になった」の理由

- ・不適応行動の尺度により、早期発見と保護者へのペアレントトレーニングの重要性、本人への具体的に分かりやすい声かけが必要なのがよくわかりました。
- ・特定の療法やメソッドに傾くことなく、オーダーメイドの支援の大切さを感じました。
- ・適応行動を評価することで、利用者の実情を知ること、知らせることが可能になることを改めて確認することができた。「適応(今できているところ)」に注目した支援を意識していきたいと思う。
- ・辻井先生の話を変えて聞き、その話の鋭さに驚きました。もっともっと勉強が必要だと感じた。
- ・地域生活における課題・支援のスタンスなど根本のところでのポイントを押さえて語られて良かった。
- ・時代に合わせ、その人に合わせ、支援を作っていく視点が必要だと認識できました。
- ・最新の流れがおさえられたので、バインランドにも興味があり、お聞きできてよかった。
- ・客観的問題の抽出や今後の福祉の方向性など多くを含む内容だった。
- ・研究報告、最新の情報を知ることができた。
- ・厳しくも温かいお話ありがとうございました。話をされた見方・考え方を日々の現場でどうつなげていくか…と考えていましたが、自然にほめる視点を持ってをとりあえずしていこうと思います。あと「現場だから」を楯に、世情など勉強不足なところも改善していこうと思います。
- ・「一つだけの方法に捉われずに」というところに共感した。一人ひとり対象者は違うので、その人それぞれに合った、援助方法を学ぶためにも、いろいろな方向から学び続けなければならないと思った。
- ・前日の「イイトコサガシ」と「ペアレント・トレーニング」とリンクする部分がたくさんあり、勉強になった。困っているけれど、“ギリギリセーフ”にするコツを私たちは知らず知らずのうちにやっていて、そのコツを見つけてほめることがポイントなのだと感じた。
- ・新しい考え方を教えていただき目からうろこが落ちた思いがした。

※他に43件の記述がありました。

4. 発達障害の就労支援（梅永 雄二 氏）

1	大変参考になった	58
2	参考になった	14
3	参考にならなかった	1
	無記入	2
	合計	75



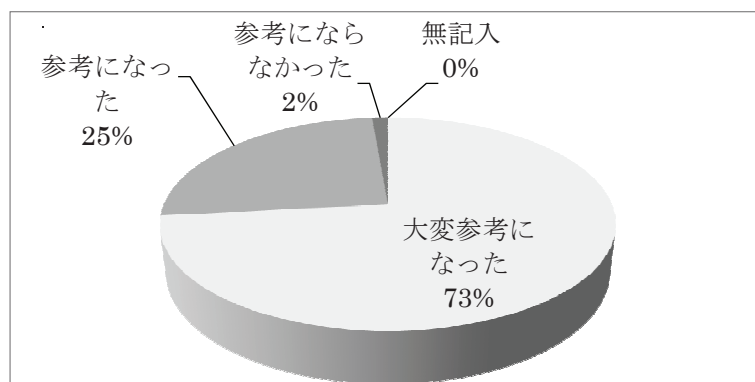
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・ライフスキルの大切さを具体的に説明して下さったことと、幼少期からのスキル支援の大切さが良く分かったので。
- ・発達障害者の社会での困り、生きづらさをどうやったら軽減でき、どう工夫することにより就労へつながるか参考になった。
- ・日本の障害者の就職率の低さに驚きました。離職の理由の80%がソフトスキルにある事もわかりました。ジョブコーディネーターの必要性も理解できました。
- ・ともすると、就労系の事業所では、「就職」をゴールにとらえてしまいがちな状況がある中で、「働き続けること」の大切さ、本人にとっては「就職」はゴールではなくスタート地点であるということを改めて感じさせられました。
- ・地域で生活することの難しさや働くことの難しさ知りました。児童の分野で就労を知ることはなかったもので、勉強になったと同時に子ども～大人へと成長していく上での繋がりを感じました。
- ・ジョブコーチ研修を受けたが、ライフスキルのことまで考えての研修ではなかったので、今回の内容は分かりやすく参考になった。
- ・児童に携わっていると就労はまだ先の話だが、子どものときに身につけていくものが見えた気がします。
- ・実践に多く関わっておられるので、事例もまじえながらとても分かりやすく勉強になりました。最後に見せていただいたDVDの中で、企業側の方のお話があったが、普段、なかなか話を聞く機会がないので、興味深かった。また、「ライフスキル」という視点での考え方は地域で生活する上で重要だということが理解できた。
- ・アスペルガーのみではなく、いろいろな人、場面に適した支援につながる手段を学ぶことができた。
- ・「ライフスキルトレーニング」必要なスキルだと感じ、書籍を参考に施設でいかせるようにしたいと思いました。

※他に43件の記述がありました。

5. スーパーバイザーの役割と事例検討の進め方（近藤 直司 氏）

1	大変参考になった	55
2	参考になった	19
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	75



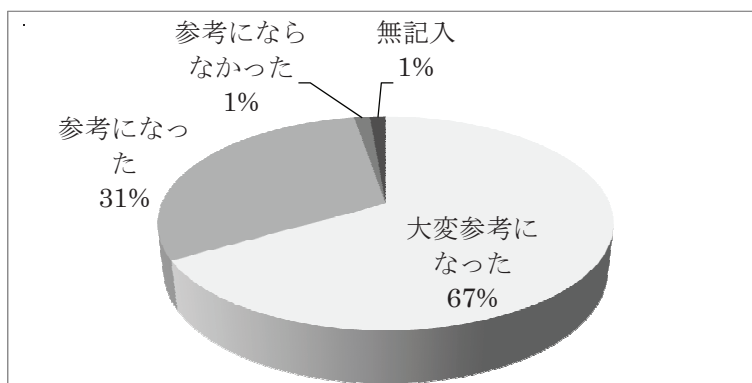
「大変参考になった・参考になった」の理由

- ・ 普段の事例検討では方向性が逸れてしまい、有効な結論まで行きつかない事もあり、意識的に場を進める手順を踏むこと、また、参加している全員がその意識を共有することが重要であると学んだ。また、ケースのまとめ方についても参考になった。
- ・ フォーマットが今後の業務に大変参考になりました。限られた時間の中で、効率よく展開される流れも印象的でした。
- ・ 非常に勉強になるアセスメントの発表の仕方や検討会の仕方が学べ、体験できた。限られた短い時間の中で、以下に情報を適切にピックアップし、課題と方針を立てるのかの方法や、会議での司会・オブザーバーの働きが分かった。
- ・ 話す力、聞きとる力、まとめる力等、鍛えられたと感じた。今後のスキルアップを目指し、力をつけたいと実感した。
- ・ とても有意義な演習でした。必要な準備をせずに結論も出ない時間ばかりかかるカンファレンスが多いため、うんざりすることもあります。地域で、今回学んだ(確認した)スキルをしっかりと実践したいと決意しました。
- ・ 他施設の支援者の考えを聴くことができた事、アセスメントの進め方、司会の役割を整理する良い機会となり、すぐに支援会議で使える内容が良かった。
- ・ 実際に演習を行い、とても参考になりました。数回にわたり研修を受けたいと思った。
- ・ これぞSV!研修だと感じるコマでした。
- ・ ケースレポートを使い、ケースの視点を考える事ができた。また、グループワークという形で、難しさを感じたが、自分で考える機会となった。
- ・ グループワークを行うことで他者からの評価、客観的視点と、充実したケース会議の方法を知ることができて良かった。
- ・ 演習を通して自分に必要な所が見えた気がします。自分はケース会議を勧めることもあるので聴き手や進行の注意点など勉強になりました。

※他に37件の記述がありました。

6. 発達障害を巡る諸問題（山崎 晃資 氏）

1	大変参考になった	50
2	参考になった	23
3	参考にならなかった	1
	無記入	1
	合計	75



「大變参考になった・参考になった」の理由

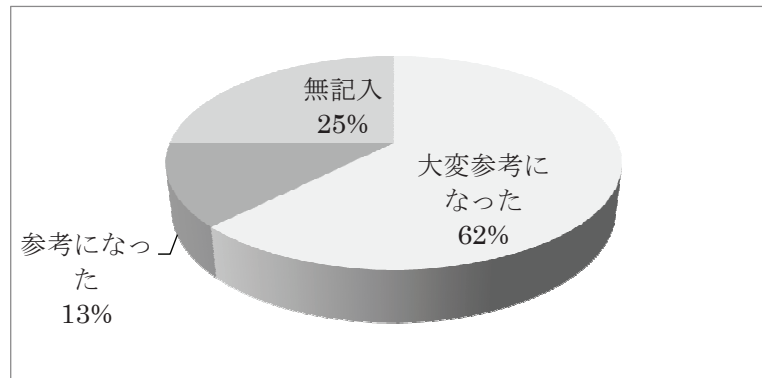
- ・臨床実践の立場からとても分かりやすく説明をしていただき、理解しやすかった。
- ・発達障害への診断、精神医学の変化など新しい情報を聞くことができ有意義な時間となった。
- ・特に最後のまとめで自分の能力を過信することなく、皆に接することが大切だと思いました。
- ・通院同行で精神科にかかることも多いので、医師の立場からの考えを知れたことは大きい。
- ・大變分かりやすく説明していただき勉強になりました。自閉スペクトラムを有する方々と日々接していますので学ぶべきことが大變多いお話でした。
- ・精神科の医師である山崎先生の講義を聞くことで、今まで分からなかったことや、疑問に思っていたところが見えてきました。
- ・診断名だけでなく、その人を理解していくことの大切さ、DSMの背景など知れ、今後の支援に活かしていきたい。
- ・診断の困難さ、本人および家族への対応に対して安易に取り組んではならない事を実感しました。
- ・感動しました!診断する際に何度も会うことや、状況を変えて会う、その人の成育歴をチェックするなど、本人の全体を知った上で情報を整理していくというお話を聞きながら、山崎先生のような人の下で仕事ができればと思いました。
- ・親亡き後の問題や高齢期になる人々の問題など、現在、我々の施設が抱えている問題だったので興味深かったです。また、専門家になった気になっている職員などもあるという話を聞き、本当にそうだなと思いました。山崎先生のように周りに言えるように、自分も驕らずやっていきたいと思いました。
- ・医師としての視点からDSM5についても細かくお知らせいただいた。私たちの気付かない方向からのお話しがきけてよかった。
- ・「診断フォーミュレーション」は、現在、対応に苦慮しているケースに関し、問題・課題を整理するヒントになった。

※他に47件の記述がありました。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（前期）

1. 侑愛会

1	大変参考になった	5
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	8



「大變参考になった」の理由

- ・ 幼児期から成人期まで一貫した理念のもとに支援を行っている日常を、詳しく説明いただきながら見学させていただくことができた。コミュニケーションサンプルを学ぶことができた。
- ・ 障害特性の理解からアセスメントに基づいてどのような支援を組み立てるかを実際に体験しながら学べてよかった。
- ・ 同じくとても丁寧に対応してくださった。・いわゆる「コロニー」を、5日間という長期間にわたって見たことが初めてで、まずそのことで多くの学びがあった。
- ・ コミュニケーションサンプルやTTAPなどの体系化されたアプローチについて、それらを日常的に使っておられる支援者の方とその実践現場を使って確認できた。それが個人的にはとても有意義だったし、普段研修や実習の受入担当などをする事が多い自身にとって参考になる面が多かった。
- ・ 歴史・規模ともにただただ圧倒されました。TTAPや強度行動障害の講義など受けることができ、とても良かったです。1回目のはるにれの里さんとあわせて初級編、上級編、幼児から成年、また学校まで、通して知ることができた。演習もなるほどと考える事ができた。ホテルまでの送迎など、たくさんの負担の中、快く受け入れてくださり、ありがとうございました。

「参考になった」の理由

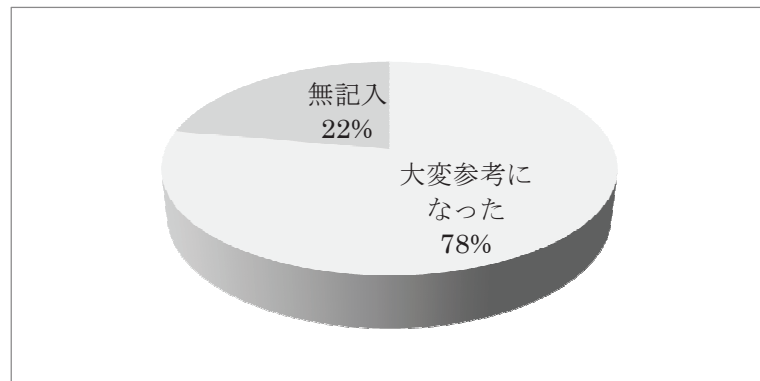
- ・ アセスメント方法について良く学べた。

「無記入」の理由

- ・ アセスメントの基礎、活用を学べて良かった。子どもから大人までトータルで支えていくことの大切さも理解できた。
- ・ おしまコロニーという先駆的な存在だったので、行くことができて良かった（こういう機会が無いとおそらく行けなかった。）。TEACCH中心の組み立てで、幼少から高齢まで、同じ関わりの設定で行われていた。規模は大きいけど、自分のところとはやり方は違うけど、「利用者さんが過ごしやすいように」という視点は同じなんだと分かり、刺激になった。ただ一歩外に出ると同じ設定でできない環境の中では、不適応を起こしてしまうとも言われていて、やり方や環境設定だけではなく、本人さんの力をつけていかないといけないとも感じた。できたら高齢施設も見学したかった。あと、TEACCHがマニュアル化と勘違いしていないか？ということも常に頭の中に入れておかないといけないと感じた。

2. はるにれの里

1	大変参考になった	7
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	9



「大変参考になった」の理由

- ・ 支援者としての姿勢、あたたかさ、本気さ、支援技術、学びました。自由ならば就職したいのですが、行けないのが残念です。ありがとうございました。
- ・ TEACCHプログラムや、構造化について実際の現場での支援を見ることができたため。
- ・ TEACCHの考えに基づいて利用者さんの支援にあたられており、様々な工夫がとても参考になった。また、重度の方々が地域で暮らす。
- ・ 支援方法、新人教育のあり方、グループホームについて本当に勉強になった。
- ・ とても丁寧に初歩から勉強させていただきありがたかったです。同じ地域にあり、身近な施設ではありましたが、詳しく知らない事が多く、実際に実習させていただき、現場の職員の方と話したりすることができて本当によかったです。
- ・ 「ゆい」での3年間を経て、どんな方でも地域で生活することを徹底されている点は、なかなかまねできないと思いました。ホーム支援員の方の集合研修もあり、それぞれのホームの課題を皆で考えていく、チーム(支援)のあり方が見られたと思います。参考にしたいです。
- ・ 短期間で、ほとんど全ての施設を回り、外観を見せていただいただけなので、運営実態を深く理解するには至っていない。可能ならば、1～3ヶ月(実習生としてでも)働かせていただければ、と思う。

「参考になった」の理由

なし

「あまり参考にならなかった」の理由

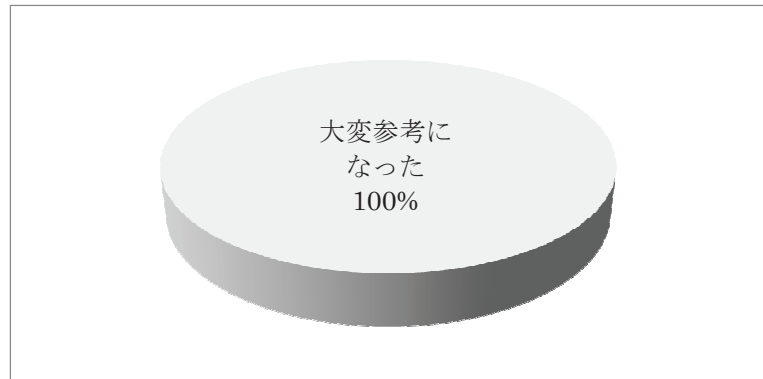
なし

「無記入」の理由

- ・ GHを地域に34(35)ヶ所展開、利用者さんを支援しているという、更には行動障害を持っている方々でも地域生活をして(支えて)いるという、職員の方々の努力が素晴らしかった。
- ・ 成人期の方々が、それぞれのスキルに応じて就労に携わっていくための細やかな特性アセスメントおよび、支援計画を立てて支援の根拠としていくことを学ばせていただいたため。TTAPをビデオで学ぶことができたため。

3. 梅の里

1	大変参考になった	4
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	4



「大変参考になった」の理由

- ・障害程度区分の高い利用者をしっかりと支援されていました。大変参考になりました。特に余暇支援の様々な工夫が素晴らしいと感じました。
- ・職員全員が、利用者様ひとりひとりの特性やルールを理解していて、職員間の共通意識・理解を感じました。
- ・運動や掃除などの進め方がとても分かりやすく自分の施設でもすぐに取り入れることができよかった。また余暇支援にも力を入れていて、手作りのものもたくさんあり、勉強になった。
- ・成人の方の通所・入所施設に入る事が初めてだったため、驚きから実習が始まりました。職員の方の大変さが伝わってきました。余暇支援のための手作りグッズを見せていただいたことが印象に残っています。

「参考になった」の理由

なし

「あまり参考にならなかった」の理由

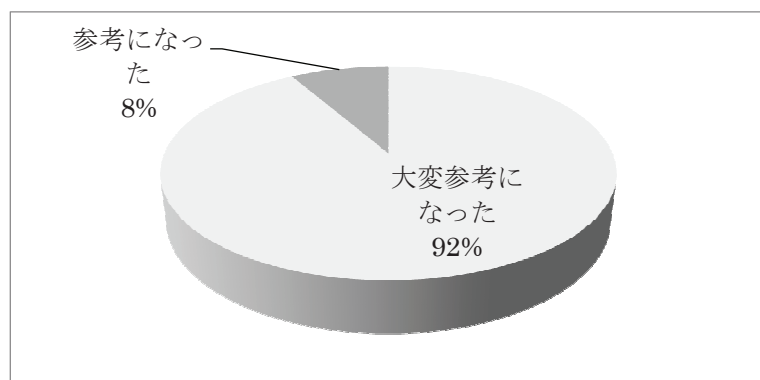
なし

「無記入」の理由

なし

4. けやきの郷

1	大変参考になった	11
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	12



「大変参考になった」の理由

- ・施設の理念の重要性、それを職員全員が共有し支援の拠り所にする事の強みがどれだけ大切かに気付かせてもらえる良い機会となった。自分が考えていた「支援は人と人とのつながり、関わる事が大切」という信念が間違っていない事を確認できた。
- ・スタッフの方々の熱い思い、実践。歴史の中で学ばれた事を教えていただきました。
利用者支援に当たるにおいて、法人理念の大切さを学びました。情報をインプットする際、またアウトプットする際の大事なフィルターにして法人運営と利用者支援に役立てていきたいです。
- ・手厚くとても良くして頂きました。理念も素晴らしく考えさせていただくことが多かったです。
- ・自閉症支援を行う、複合型の法人として、ハード・ソフト両面でどういう取り組みを行って、どう実践するのか、細かい技術というより、運営するという面で参考になりました。就継A型の事業所も普段見ることはないので、実際体験して雰囲気、様子が分かり、よかったです。職員の育成の難しさ、大切さも分かりました。希望としては、もっと「太田ステージ」にスポットを当てた講義実習が充実すると嬉しいです。
- ・法人内に多くの支援機関がある中で、職員の方々が支援の理念などをしっかり理解し取り組んでいることがとても印象的でした。また、太田ステージをもとにした理解、重度の方でもやりがいをもって働く姿もこれからの支援に活かしたいと思いました。
- ・自分の所属する法人、施設にはない物を見る事ができた。改めて、外との接点を持つことの意義を個人的には感じる事ができた。視野、知識を広げるためにも。
- ・自閉症者支援の歴史を知ることができ、また今も試行錯誤している姿に感銘を受けた。
- ・就労継続支援A型事業所での実習が特に参考になりました。パレット製作でのエアーガンの打ち込みの利用が、正確に行っているところを見て、支援のご苦労が感じられました。
- ・各事業所のトップに立たれている方々の熱意と変化を恐れない姿勢・法人の理念を理解し、理念のもとの行動・利用者一人ひとりの充実した人生支援・先を見据えての行動力、課題を探す視点、保護者の設立した施設という点では、うちの施設と一緒に。大きく事業展開しているのはどこが不足しているんだろう?と考えるきっかけをもらった。施設内完結ではなく、地域へ出ていくためのスタッフのアイデアや支援のポイントを聞き、幅広い視点で支援について考えていく必要があると感じた。
- ・とくに就労A型のやまびこ製作所でのパレット作りの仕事を通して、Auの方達の可能性を目の当たりにさせていただきました。

「参考になった」の理由

- ・就労することが“生きること”につながっている、利用者さんが”生きる”ために、施設側のコンセプトがはっきりしていた。一貫していたので、良かったと思う。

「あまり参考にならなかった」の理由

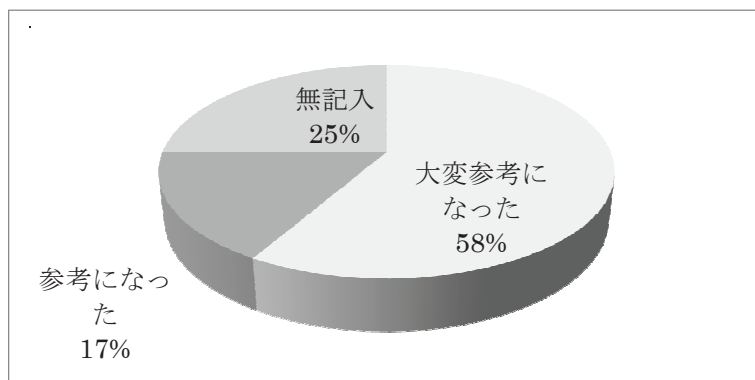
なし

「無記入」の理由

なし

5. 菜の花会

1	大変参考になった	7
2	参考になった	2
3	参考にならなかった	0
	無記入	3
	合計	12



「大参考になった」の理由

- ・自閉症の方が多くいる施設ということで、建物や、伝達方法等、しっかり構造化されていました。自分の施設には自閉症の方が少なかったり、建物が狭いことを理由に、なかなか取り組みずにいましたが、工夫の仕方等を学ぶことができたので、今後の支援に取り入れていけるよう努めていきたいと思います。
- ・構造化を徹底し利用者の混乱を減らし支援されていました。写真に撮らせていただき施設での実践に役立てさせていただきました。
- ・幼児期のことや学校生活の様子までは、どうにか知る機会があるが、その先の生活がどの様に進んでいくのか…どんな選択肢があるのか…知りたかった。実務研修先で児童デイから通所、入所、グループホーム、作業所など、色々な生活の場面を見ることができた。一人ひとりが、人として、特性に合った生活をしている所が見られた。実際の支援の様子を見ることができた。工夫された環境・事例検討会の様子を見れた。色々なタイプのグループホームとその仕事を初めて見せてもらうことが多かったので、すべてが参考になりました。
- ・現場のスタッフがあたたかく迎え入れてくれ、包み隠さず何でも教えてくれたのと、こちら側の意見も真摯に取り組んでくれた度量が大きな施設で良かった。
- ・利用者1人1人の環境改善、利用者との関わりの方法を実習という中で教えていただきました。また強度行動障がいグループホームも見せていただき参考になるポイントも教えていただきました。発達障害者支援センターの積極的なスーパーバイザーとしての機能も見せていただき、充実な研修となりました。
- ・一人ひとり、個別の対応の必要性、その意味など、様々なところでの工夫に、驚かされました。今まで、漠然と思っていたことへの後押しがあったと感じられました。同じようにできるか分かりませんが、利用者のため、より良い支援になっていくよう参考にしたいと思います。
- ・小林施設長のお話は、大変興味深いものでした。我々と同じような方向性で支援に当たっている部分も多く、共感するところの多い内容でした。

「参考になった」の理由

- ・総施設長が先頭に立って勉強、研修されているのが素晴らしい。支援に関しては、まだ支援に対する考え方が試行錯誤中の感じなので、今後どう進んでいくかという部分で、自分のところと共通の課題があり、参考になりました。スタッフに、「自分のやりたいことをやっていい」というのびのび感、明るさが、少ないように感じました。実習生に対しては、重要な人と、そうでない人とラン

ク付けがあるのが感じられ、そういう考え方は、きっと支援にも表れるだろうと思いました。

「あまり参考にならなかった」の理由

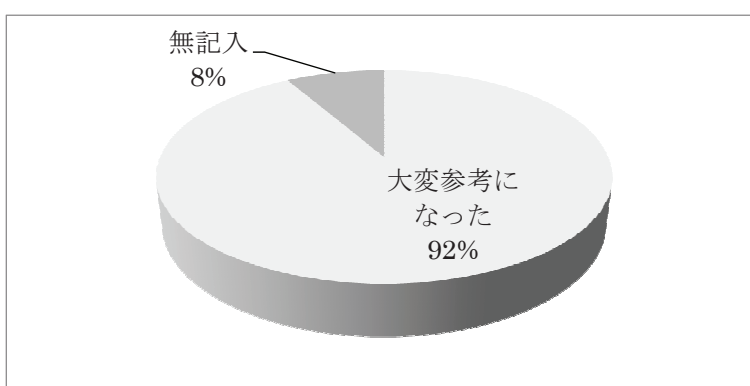
なし

「無記入」の理由

- ・ 1 回目の実務研修と同様の理由です。加えて、石井哲夫先生の考えを強く引き継いでいる職員の方々の意識の強さを感じられ、こういう法人もあるとの参考になりました。
- ・ TEACCHプログラム・PECSを用いて、ひとりひとりに適合するように工夫された、構造化された作業場、あたたかい居住棟がとても印象的であり、大変参考になりました。

6. 嬉泉

1	大変参考になった	11
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	12



「大変参考になった」の理由

- ・ 法人内でも最も軽度で通所の事業所であるため、真逆の現場を見ることができたことが、短い期間であっても経験になりました。施設の規模や利用者像が全く異なる環境だからこそその発見や、重度・軽度関係なく共通している部分を見つけることができたと思っています。
- ・ 利用者個々の捉え方、特性の捉え方、等、職員一人ひとりがとてもしっかりしていられた。また、チームでの取り組まれている様子もとても良かった。
- ・ スタッフの方々のあたたかい心づかい、感謝です。宿舎、食事の提供、ありがたかったです。
- ・ 利用者さんとの関係性を、第一に考え、そこから利用者さんが生きやすいように支援していたから。利用者側の方々の思いが、理念に集約されていて、”だからこそ、この支援がある”と感ずることができた。
- ・ 受容的交流療法の教えが先輩から後輩へとしっかり受け継がれていると感じた。ぶれない療育に対する考え方の大切さを感じた。
- ・ 受容的交流療法をベースとして人と人との交流は自分の属する事業所でも通じる場所が多く、参考にしたい。
- ・ 構造化だけではなく、利用者に安心を与えられる事を考えられ、職員の方の雰囲気もとても良かったです。家庭で本来感じられたかもしれない愛情など、人とのつながりの大切を再認識できたと同時に自分の支援を見直す機会を頂きました。
- ・ 受容的交流を体験させていただきました。人として接することでとてもあたたかみのある雰囲気を感じました。

- ・1つの理念があることで、職員の思いに同じベクトルは向きやすいのであろう…ということを考えた。研修生に対する受け入れ体制や職員の方の対応がとてもあたたかく、自身のこれからを考える機会となりました。

「参考になった」の理由

なし

「あまり参考にならなかった」の理由

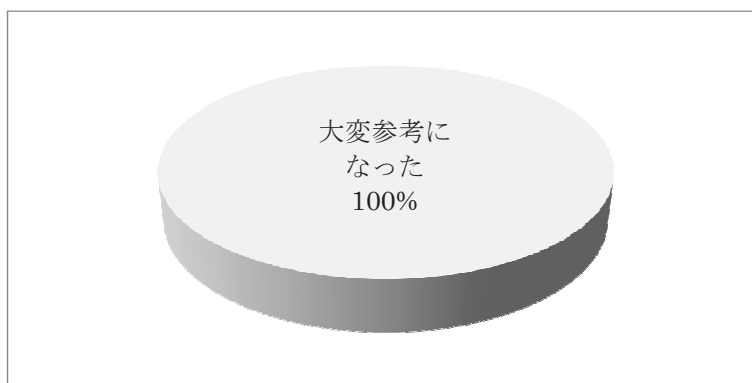
なし

「無記入」の理由

- ・支援スタッフの方の考え方に大変学ばせて頂きました。利用者の方と時間をかけて関係を作り、相手を知り人社会で生きていく、人が関わりながら交流していく姿が大変勉強になりました。理念が全体に広がっており、利用者の方の幸せがそこにあると感じました。大変充実した研修となりました。

7. 正夢の会

1	大変参考になった	4
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	4



「大変参考になった」の理由

- ・短期間で、ほとんど全ての施設を回り、外観を見せていただいただけなので、運営実態を深く理解するには至っていない。可能ならば、1～3ヶ月(実習生としてでも)働かせていただければ、と思う。
- ・児童のサービスでお子さんとかかわることができたり、成人の通所施設も同様に体験が経験になり、職場に戻り活かせるものが多かったです。
- ・個々への配慮はもとより、職員の動きも整っており、とても参考になりました。

「参考になった」の理由

なし

「あまり参考にならなかった」の理由

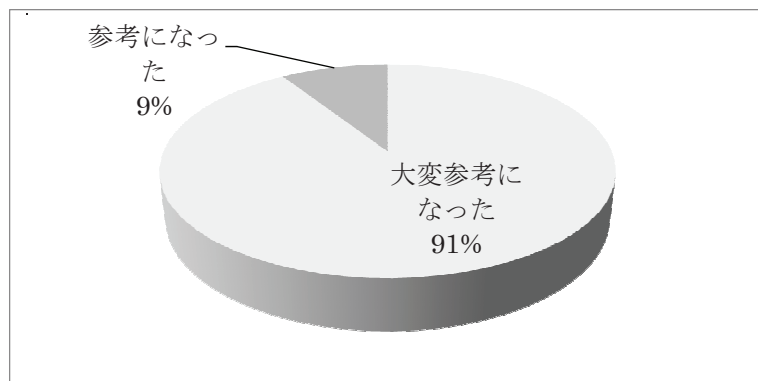
なし

「無記入」の理由

なし

8. 横浜やまびこの里

1	大変参考になった	10
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	11



「大変参考になった」の理由

- ・環境を調整し、人が変わっても同じ支援ができれば利用者の混乱も可能な限り減らせる、といった所は参考にしていきたい。
- ・実際の現場で見ることで、1人1人に合わせて工夫していることもよくわかったし、使い方や実際の利用者の方の様子も分かり、講義や演習の理解が深まった。忙しい業務の中、5日間受け入れてくださり、ありがとうございました。
- ・ワークシステムや教材など、豊富なバリエーションで勉強になった。ティーチプログラムは支援方法のツールとしての1つだと学べた。また、入所の部分も見せていただき、文字通り「おはようからおやすみまで」利用者の支援に取り組まれていた。強度行動障害についても分かりやすく説明を受け、少し安心した。自分の勤務地は通所で就労支援継続B型と生活介護だが、やまびこの里さんは生活介護のみで作業も課題が中心となり、納期のある受注作業はほとんどない。また、行事もできる限り減らして混乱をなくし、落ち着いて生活してもらうための環境と支援方針が徹底していた。中途半端な支援が一番混乱を招くと改めて感じた。
- ・基本的な支援の考え方はもちろんのこと、職員のみなさんの統一された意識、そのためにはどのように日常の業務を行っているのかなど、様々な事を教えていただいた。また、他の施設を見せていただくことで、自施設の改善点なども明らかになり勉強になった。
- ・研修の受け入れ態勢が整っており、細かなプログラムで学ぶことができた。現場職員のケース発表や、ケース会議への参加もさせていただき、現場の質の高さを感じた。
- ・構造化の実践風景を多く見ることができ、また支援者の方々のモチベーションの高さにとても刺激を受けました。
- ・支援の方法の1つとしての構造化を徹底的に実践している施設の支援の現場を生で見る事ができ、自分自身の支援の方法について色々考える事ができる材料を提供してもらえた。
- ・SVという視点での研修の組み立てが、とても工夫されていたので、良かったです。支援ができ上がっていますが、その中で歴史を伝え、誤解なく伝えてくださりありがとうございました。
- ・現場と講義の2つの研修内容が充実した内容であった。理念から実際の現場まで幅広く学ぶことができた。
- ・TEACCHプログラムを主とした実践を学ばせて頂きました。法人理念に基づいて、全職員が同じベクトルを向いて支援されていることが分かり、取り込みたい事もたくさんありました。生活の場へ一般化させられるよう考えながら、プログラムを組んでいきたいと考えさせられました。

「参考になった」の理由

- ・あえてTEACCHの技法を学ぶのではなく、実際の現場を見て学ぶなどの方法にいただいたので、中途半端にならず大切な「利用者のため」という気持ちを改めて持つことができた。利用者に関わる機会がもっとあると良かった。

「あまり参考にならなかった」の理由

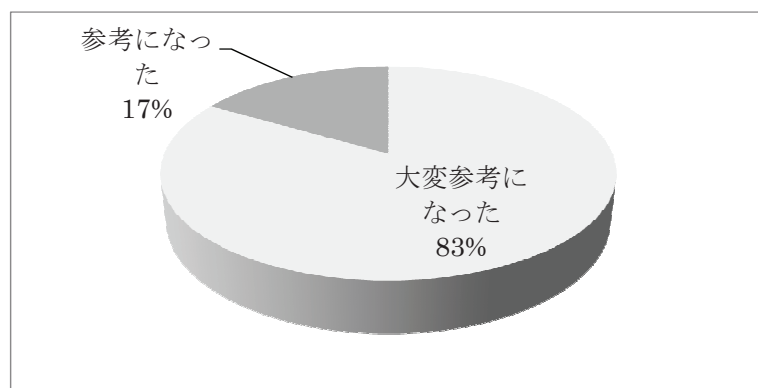
なし

「無記入」の理由

なし

9. 川崎市くさぶえの家

1	大変参考になった	5
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	0
	合計	6



「大変参考になった」の理由

- ・初めて重度自閉症者の通所施設にいき、アセスメントやアプローチの仕方がとても参考になった。
- ・日中の活動も参考になったが、SV会議に実際に参加させていただき、SVの視点や伝え方を学ぶことができた。
- ・自閉症専門施設として、通所施設でありながら、生活の中へどう般化させるかを考え、取り組まれていました。SV会議にも出席させていただき、大変参考になりました。
- ・非常に特徴的な、実践をされており、賛否が分かれそうな部分もあるが、その1つ1つに根拠があり、どれも一理あって、持ち帰って自らの実践に生かせそうなポイントがたくさんあった。
- ・これまでの施設という印象とは大きく異なり、初日には驚きもありましたが、関わりの意味、その支援の目的など、全てが利用者のためにとという徹底した視点は素晴らしいと思いました。

「参考になった」の理由

- ・始業前のウォーミングアップやクールダウン、連絡帳を通した保護者とのやり取り、等参考になった反面、暴力的な利用者に対する言動がとても気になった。

「あまり参考にならなかった」の理由

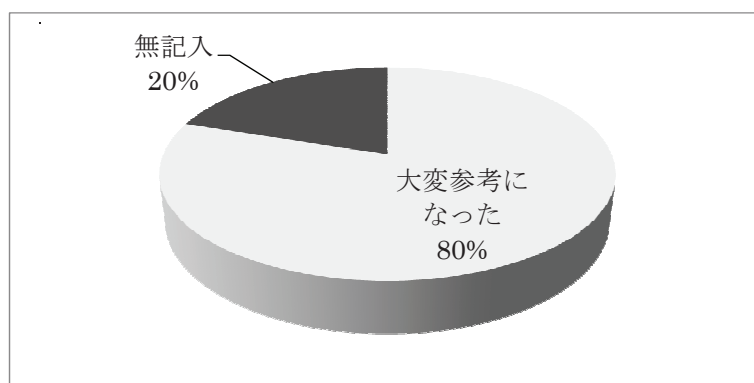
なし

「無記入」の理由

なし

10. めひの野園

1	大変参考になった	4
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	5



「大変参考になった」の理由

- ・建物の整備、物理的に構造化する上で、建物を分ける、小集団にすることの大切さ、プラス一人ひとりの活動を考えた日中活動や個人の役割はとても参考になりました。
- ・ISOを取得することにより、計画→実行→評価というサイクルが法人全体を通して徹底されていた。安定した仕事を提供できるようにするためのたゆまぬ試行錯誤をされてきたことに感銘を受けた。
- ・支援に対する考え方がとてもしっかりしていた。一つの支援の形ができていた。自分よりずっと忙しいのに、きちんと向き合って、丁寧に教えてくださいました。東さん、そして支援スタッフのみなさん、光っていました。ありがとうございました。
- ・自身外部で5日間も実習したことがなかったので、普段とは違う環境で過ごせたことはすごい刺激になりました。(2日目も同様)施設長が言われていた「本物の支援」を実践されている行動力はすごいと思った。規模ではなく、職員が取得したスキルを利用者さんに反映させていきたい。「働く実感」を持たせることで、日中いる場所ではなく、責任や充実感を持たせたいということだと理解しました。改めて対人援助は、形ではなく中身が基本ということが確認できたことは自分にとって大きなことでした。

「参考になった」の理由

なし

「あまり参考にならなかった」の理由

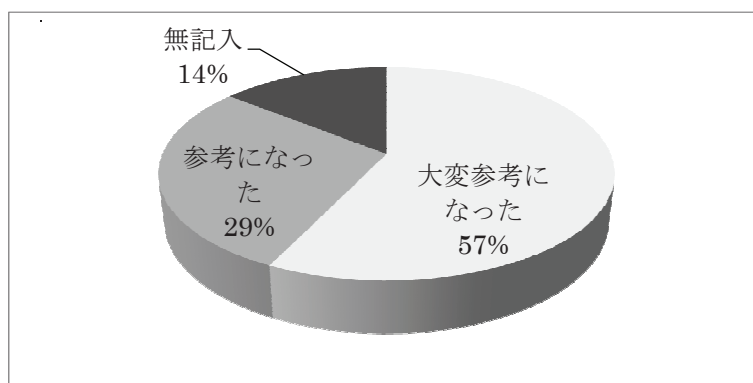
なし

「無記入」の理由

- ・福祉だけではなく企業(経営)的な側面も持ち合わせており、その手法について大変有意義だった。障害のある方の「働く」ことについて新しい視点をいただいた。

1 1. 檜の里

1	大変参考になった	4
2	参考になった	2
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	7



「大変参考になった」の理由

- ・利用者の状態を細かく観察されている。息遣いの乱れの段階で落ち着いてゆっくりとした動作を促すなど、支援方法が大変勉強になった。
- ・常に対人関係を中心とした世界に身を置く支援、今日そういうことが語られることが少なくなった中、原点とその可能性を見せていただきました。
- ・施設全体としての考え方、職員の人材育成の方法、勉強になった。高齢化の問題等、これから考えていくべき施設の課題への取り組み、そして最初の施設ならではの発想、「ないものはつくる」という考えをお聴きできてよかった。職員同士のコミュニケーション、情報共有の仕方も勉強になりました。
- ・作業＝仕事という考えの中で働く事の大切さを知りました。働く中には人とのつながりもあるし、生活の整いの意味もあり、落ち着いて過ごせる環境の大切さを考えるきっかけになりました。また、食事場面での関わり方は、自分の施設でも参考になりすぐに実行できることを学ぶことができました。地域で生活するための職員の努力には頭が下がるような思いでした。どんな行動障害があっても、“地域で暮らす”という事を職員側が意識し、日々関わっていることを知りました。

「参考になった」の理由

- ・自分の施設以外で働いたことがなかったので、とても新鮮な気持ちで参加させていただいた。現場に入り、一緒に作業をしながら学ぶことが多くできたのでよかった。年に1度の防災訓練への参加も、意識を高めることに繋がって良かった。
- ・集団での生活(各棟ごと)であり、作業所では弁当という、私たちと同様に「出勤したら、勤務が終わるまで帰らない」というスタイルであることに、驚いた。しっかりと話が聞ける体勢、作業に向かう様子が、重い自閉の人とは思えない環境であった。本人が「できた」と思える支援の徹底、施設の取り組みを理解していなかったら、厳しく見えてしまう部分があると思うが、全職員が利用者に対して思いをもって取り組んでいるのだと説明できる状態であるから出来ることだと思った。

「あまり参考にならなかった」の理由

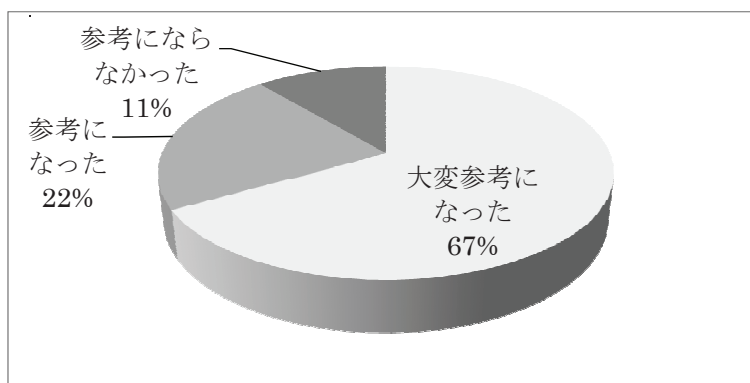
なし

「無記入」の理由

- ・声かけによる支援、集団で過ごすことの意義に強く衝撃を受けた。仕事(作業)をする時の姿勢にも態度にも、なんら健常者と変わらないように「人」として扱っておられた。グループホームや檜の里での集団生活によって自立生活を促し、維持できているのだと感じた。職員が非常に熱心な支援をされていた。

1 2. 北摂杉の子会

1	大変参考になった	6
2	参考になった	2
3	参考にならなかった	1
	無記入	0
	合計	9



「大變参考になった」の理由

- ・視覚支援、児童支援、ウィル等勉強になりました。
- ・法人全体のダイナミックな経営に大變驚かされた。マネジメントといった観点が特に学びにつながった。
- ・「地域に生きる」という法人理念の基に、入所、就労継続支援、療育支援等各部門の支援員の方々が、年齢問わず、自身の専門性を研鑽しながら、明るく、支援されていたことが、振り返っても最も心に残っています。もちろん、構造化された空間、視覚支援等支援ノウハウ(特に、グループホームは、本当に驚きました)も素晴らしかったのですが、利用者(ユーザー)のニーズをくみ取り、支援を地域に還元していく法人のマーケティング力にも学ぶことが多かったです。
- ・様々な事業所を見学し、講義を受けた。「地域に生きる」という法人理念が、どの事業所においても浸透しており、それぞれの場で、様々な利用者に対し、質の高い支援をされていると感じた。共感できることも多く、自分自身の支援に対する振り返りにもなり、有意義な時間を過ごすことができた。
- ・1回目の実務研修とはまた対照的な研修の場でした。法人内の事業所各所で取り組んでいることを丁寧に見せていただけました。ライフステージに合わせて支援を考え事業展開している一方、法人としては経営的視点をもって考え、現場としては丁寧に取り組んでおり、学ぶことは多かったです。本当にありがとうございました。
- ・地域(エリア)で幅広い事業を展開されておられ、幅広く学ばせていただきました。特に高学歴ASDの方達、大学へのアプローチなど積極的に取り組まれており、とても参考になりました。福祉サービスにつながっていない生きにくさを抱えた人たちにアウトリーチしていくことの大変さを学びました。

「参考になった」の理由

- ・各事業所を丁寧にご説明していただき、参考になった。実際に支援している現場を見せてもらえてよかった。
- ・マネジメントの方向性がとても参考になった。理念から始まりそれに沿った人材育成、事業展開をどうしていくのかが具体的に知れてよかった。

「あまり参考にならなかった」の理由

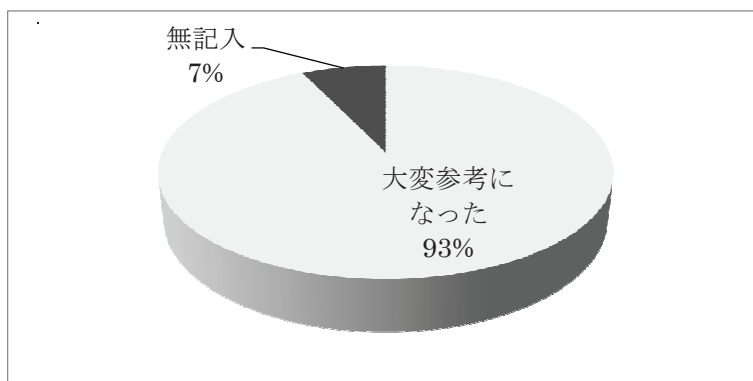
- ・見学が主で生活している場や支援をしている所をあまり見れなかったのが残念だった。実地研修という意味では物足りなかった。

「無記入」の理由

なし

1 3. あかりの家

1	大変参考になった	13
2	参考になった	0
3	参考にならなかった	0
	無記入	1
	合計	14



「大変参考になった」の理由

- ・実習参加をさせていただく中で、重度の行動障がいのある方への支援で大切にしているポイントを講義、実践の中で教えていただくことができました。またチームワーク、チーム力の大切さも感じさせてもらうこともできました。
- ・1回目ということで、とても緊張していたのですが、細やかな説明や、現場に入ったことで、体験からも学ぶことができました。利用者さん視点で見ていこうとする姿勢や関係機関を入れての朝の会には感動しました。ほとんど全ての利用者さんが働いていたことも驚きでした。また、現状に留まることなく、よりよい支援や労働環境を作るために、いつも前向きに取り組まれているところが参考になりました。お世話になりました。ありがとうございます。
- ・ハード面では決して洗練されているわけではありませんが、施設長はじめ、スタッフのみなさんが利用者に「向き合っている」という姿、関わりの中でその相手(当事者)の行動や表情に移ろいが見られる様を目の当たりにすることができ、とても有意義でした。支援をする側としての職員・職場を常に育てているなという支援も含めて「止まっていない」様子を垣間見て、大きな刺激となりました。本当に研修させていただき良かったと思います。
- ・感動的でえぐられるような生の言葉(キーワード)をたくさん聞かせていただき、目の前の利用者とその実践している職員の皆さんとの出会い、とても刺激を受けました。表現をきちんとすることの大切さ、考えを実践につなげる行動力、利用者の発信するメッセージを受け取るアンテナの感度、とても多くの学びにあふれていました。ありがとうございました。
- ・とても丁寧に対応してくださり、特に支援現場のありのままを細かな点まで積極的に説明してくださった。そこからの質疑応答も多くできた。こういった過程は、あかりの家さんの支援観を知るだけでなく、自身の支援観を客観的に見直し再構築する点で、非常に役立った。支援観の広さや深さはスーパーバイザーにとって大切な事だと思うので、ありがたかった。
- ・現場を、そのまま見せていただきとても感謝しています。職員の体験によるエピソード集は自分の仕事を振り返ることができた材料になりました。利用者さんに関わる1つひとつの意味を教えてください、職員が考えている姿が印象的でした。また、”日々考えなければいけない”という職員教育もしっかり行われており、自分の施設に持って帰らなければならない事が多い実習になりました。
- ・朝の引き継ぎから、その人の行動分析を行っており(ケース会議に似た話し合い)職員全体で共通理解をもって業務に入っている所が参考になった。利用者の幸せを考え高い目標を持ち支援にあたっていた。利用者の多くが基本的な生活習慣「くう・ねる・だす/でる」につまづいているので、生活

リズムを整えてあげなければならないが、その個人の状態、レベルに「気づく」ことが重要だと学んだ。基本的習慣は当たり前のことであるから、そこに目を向けることが少なかったが、研修後は目を向けるようにしている。

- ・あかりの家での研修は、今まで自分自身になかった支援の視点に気付くことができた。一つ一つの支援がしっかりとした見立ての上で行われており、入所されている利用者の方と関わる機会が多かったこともよかった。
- ・施設として、また、職員個々の意識の高さに驚かされた。とても熱心に実習指導をしてくださり、自閉症支援への熱意が感じられた。
- ・実際に支援現場の中に入らせてもらえたり、その中での説明・対応をしていただけたので、とてもわかりやすかった。
- ・人と人の支援に心がホッと致しました。
- ・プロ集団「あかり」をしっかりと学ばせて頂いた。今後の職員集団作りに大変参考になった。

「参考になった」の理由

なし

「あまり参考にならなかった」の理由

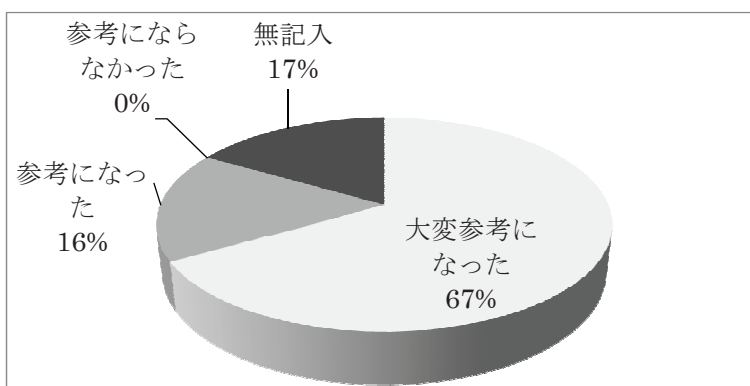
なし

「無記入」の理由

- ・法人全体のつながりを感じ、施設がバックアップしている体制がよくわかり勉強になりました。日中活動の方向性など大変共感できるものがあり、学ぶべき支援が多々あり、充実した実務研修となりました。

14. 三気の会

1	大変参考になった	8
2	参考になった	2
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	12



「大変参考になった」の理由

- ・児童や成人の入所、就労まですべてのライフステージにおける実際が見えた。施設の方もとても丁寧に教えてくださったのでたくさん勉強ができた。
- ・合理的な支援の方法がとても勉強になりました。
支援の方法が支援員で統一されていたことが参考になりました。子どもから大人までの支援を行っていたので、参考になる事が多かったです。
- ・生活介護での生産活動の充実さに、驚かされました。特に、私たちの施設に足りない所が、明確に

され、参考にさせていただきたいと思いました。GHでの地域の方々との交流も素晴らしいと思いました。

- ・生活介護の利用者さん(A1, A2)でもツールを準備することによって、生産活動をこなしていけることに感心しました。また支援員の方々の活動に対してのそのツールの工夫・アイデアがとても素晴らしかった。ディレクター制度はとても良い事だと思いました。
- ・重度の方も働いていると実感した。
- ・地域性を考え、法人内で、幼児期から成人まで支援できる体制を築けていることが、利用者および保護者の安定にも繋がるのではないかと感じました。特に、入所部門での支援には、日中活動含め、参考になる事が多かったです。

「参考になった」の理由

- ・施設の理念、方針等の基本を知ることができてとても参考となった。職員の働く姿勢、利用者との向き合い方等、とても共感した。
- ・作業所(入所の)で入所者全てが活動しており、重度の人でもできるように工夫している所が参考になった。

「参考にならなかった」の理由

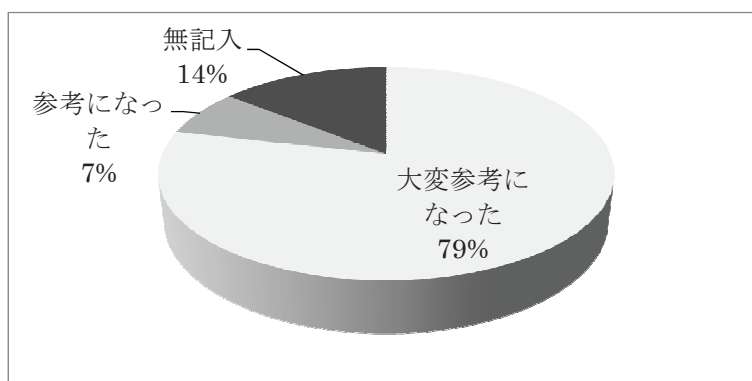
なし

「無記入」の理由

- ・支援者1人1人がとても落ち着いた様子で、チームで動いている感じを受けました。もう一度、実習にうかがい勉強したいと思える実習先でした。
- ・知っている施設でしたが、施設の裏側まで見せていただき、職員の方とも交流できて勉強になりました。いいネットワーク作りができました。

15. 萌葱の郷

1	大変参考になった	11
2	参考になった	1
3	参考にならなかった	0
	無記入	2
	合計	14



「大変参考になった」の理由

- ・支援者の関わりによって生きやすさ・生きづらさも大きく変わるということを実感するとともに、分かりやすい研修プログラムで理解しやすかった。
- ・人材育成、会議の進め方、記録の取り方・折り合いをつけるための支援・職員一人ひとりの知識力、説明力、支援力・連携の取り方・研修制度・五十嵐先生の講義の話を実際見ることができたことが大きな収穫・学びでした。緊張での実習入りでしたが、毎日たくさんの刺激を受け学ぶべきことが

多かった。研修で大変充実していました。ありがとうございます。質問攻めにして申し訳なかったですがとてもいい経験をさせてもらったと感じています。

- ・協会会長の施設是非訪れてみたかった。そこは、支援はもとより、職員の方々の教育がなされており、皆さんが同じ視点で物事を考えることができるという、素晴らしい体制だということを学ぶ事ができた。
- ・法人全体で同じ方向性をもって行っており、職員同士でブレがなかった。研修を行い支援員の意識を高めていくことを行っていたので、とても参考になった。支援の方法も統一され、またその人に合った支援を行っているのがとても参考になりました。
- ・まだ経験の少ない職員の方々にもいろいろな説明をしていただきました。法人の理念・支援方針が十分に浸透しているということを実感しました。職員研修、後継者育成の充実が、法人全体の強みになっていると思いました。
- ・受け入れる側のことを考えると、大変だったと思います。他の施設で長期間実習するのは初めてで、現場の職員の方や、普段かわりのない子どもたちと少しの時間でしたが一緒に活動ができて貴重な経験をさせていただきました。それぞれの事業所の長の方が、1人1人活躍されていて、モチベーション高く刺激になりました。
- ・1回目のところとは、少し違う取り組みもあり、新鮮でした。2つの現場で分かったのは、良い支援をしているところは、常に利用者さんの視点に立つように努めているということでした。また理論的なところは大切にしていって理論と実践の両方を兼ね備える事が大切だということも分かりました。支援する側の大変さも良く伝わってきました。お世話になり、ありがとうございました。
- ・(1日目の理由、感想と同じ)幼児を対象とした仕事をしているので、その先の生活(人生)について知りたかった。めぶきさんでは、こども発達センターから保育園をはじめ、居宅や入所、ケアホーム、事業所、就労支援に至るまで、1つ1つを見学(説明も含む)させていただき、とても勉強になった。継続した支援の大切さを知った。帰りたくないと思うほどステキなところだった。また勉強に行きたい!・考え方・視点・人と人としてのつながりが感動でした。
- ・一つのチームを作るにあたり、長い間築いてきた法人として学ぶべきものがたくさんあった。
- ・利用者に対する向き合い方、真剣さをとても感じました。

「参考になった」の理由

- ・職員の方々が利用者さんに対してとても真摯に、丁寧に支援していました。誰ひとりも暇にしていることもなく常に利用者さんに向かい合っていました。

「参考にならなかった」の理由

なし

「無記入」の理由

- ・皆さんがとても丁寧に、話していただき、わかりやすかった。熱意を感じた。
- ・数年ぶりに伺いました。一段とみなさんが落ち着いて生活されていて、一貫した支援がなされていることを実感しました。職員間の関係性もよく真似ていきたい部分でした。また、伺いたいと思っています。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修アンケート集計結果（研修全体）

- ・県内では絶対学べないような専門的な知識を得ることができた。県外の同じような施設の方や県内の方とつながりをもてたことがとても大きく、施設実習も普段できる機会は滅多にないので、たくさん勉強させていただいた。自分自身経験も浅く、研修を通して初めて知ることが多かったが、支援者の初心のうちに学ぶことができたことを「強み」として日々頑張っていこうと思う。
- ・実務研修は本当に良い経験をさせてもらえたと思っています。働きながら別の事業所へ行くことは見学程度が多いかと思いますが、5日間も通して法人内の各事業所を見せていける（受け入れる）ことができるのは本当にすごいことだなと感じています。施設という狭い世界の中での支援方法にとらわれず、客観的に自分の働いている施設を見つめ、勇気をもって変わることも必要だなと思いました。また、自分の施設も受け入れられるような施設となれるよう人材育成をし、1人ひとりの意識を高めていけるような環境作りのために努力していきたいと思いました。レポートに追われ大変な部分も多かったですが、全国の方と出会えたこと、また同じ県の方々とも仲間になれたことが大きな収穫でした。ありがとうございました。
- ・他の事業所での研修は体験できないため、とても良い機会でした。相手の良さ、自分たちが大切にしてきたものは何かを考えることができた事、すぐに自分の事業所に取り込んで結果が見えてきたこともあり、大変プラスとなりました。他県の取り組み、動きなど、情報交換できたり、人とつながることができたこと、今後の仕事に生かしていきたいと思います。事務局様、初めてのことで、いろいろと大変だったかと思います。ありがとうございました。
- ・ネットワーク作りという意味で大変有り難い機会でした。実際にスーパーバイズやそれに似た業務を行う者にとっては、「自閉症」ではなくもう少し「スーパーバイズ」の内容が多いと有り難かったです。実務研修が特徴の研修プログラムですし、そこでは他では得にくい学びが多くありました。現実的に難しい面も大きいとは思いますが、入所施設の支援を経験しているものとしては実務研修に起床から就寝までの時間が含まれるとより学びが多かったとも思います。
- ・幅広い内容で、いろいろな視点からの考え方を学ぶことができ、自身の支援を見直す機会となった。また、知り得た事を自分の中で整理すると同時に、他の職員に伝えることで、更に福祉や支援についての気付きがあったことが大事な経験となった。他研修に比べて長期で内容の多いものであったため、大変さもあったが、得るものが多くあった。実際の入所施設における課題や問題についての講義内容ももっと学びたかったと思います。また、研修の講義内容を実践している現場を経験してみたいと思うことも多かったです。
- ・レポートの量が多いため、進みも悪かった。一年みっちり詰め込まれた研修をした。G.Wがあったのはとても良かったと感じます。参加資格について、年代(経験年数)制にしても良いと思いました。話す内容や問題点の焦点が合わないので、設けてはどうかと感じます。
- ・レポート枚数も多く、実習1週間×2ヶ所で大変でしたが、テキストには書いていない事を知り、今まで持っていた先入観からの支援ではダメであるということ、改めて知ることができたと思う。提出したレポートや、事前課題はどうであったのかの結果が分かればよいと思う。発達障害支援に対する理解を得るため、今後、私たちがどう動いていくかが問われている。今回学んだことをいかせるように頑張りたい。後期2日目の講義「アセスメントを高めるための～」では、全く事例内容を知らない人に、いかに分かりやすくその人の状態・課題などを伝えるのか、その難しさを実感することが

できた。福祉的専門用語を混ぜて話すと分からない人もいるかもしれない。自分の所属する事業所でも実践してみたいと思った。

- ・今まであたりまえのこととしていたことを改めて考え直したり、「もっと考えなければいけない」という思いにさせられました。本当に良い機会となりました。これから、もっとたくさんの職員に参加してもらいたい。良い経験を積んで欲しい…という思いになっております。このような研修を企画運営してくださった事務局の皆様、実習等受け入れてくださった皆様、同じ研修の仲間の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
- ・今まで受けた研修では、最も有意義。機会があれば再度受講したいが、とりあえず次回は当法人の若い職員に譲りたい。(譲らねばならない。)
- ・色々な職種の方と話ができて、とても勉強になりました。人とのつながりができとても良かったように思います。
- ・いろんな方と出会うことができ、とても有意義でした。フォローアップ研修やOB・OG会があるとうれしいです。ありがとうございました。
- ・受け入れ施設になるのも、ベテランの方から教わり勉強になりました。人との出会いを大切にし、学んだことを実践に生かせられればと思います。
- ・オプションでも構いませんので、ADHD、ディスレクシアの方にもスポットライトを当ててほしいです。あとは実践あるのみ(地域で)と思いつつも、フォローアップがあるとモチベーションになります。
- ・開会式のときに寺山千代子Auスペクトラム学会会長もおっしゃっておられたように、実務研修がとても良かった。講義形式の研修はたくさんありますが、やはり実際の利用者を前に学ぶという機会は明らかに減っています。現場を共有できた仲間がいることで、今後もしスキルアップ研修のようなものが行われた時、深みが出てくると思っています。SVを産んだ後が、今後とも問われてくると思いますが、楽しみでもあります。事務局の方々、本当にお疲れ様でした。
- ・研修後、各々、SVとしてどういう役割を担っていくのか、各々次第の部分もあるが、全国の行政などにどうSVという存在を浸透させるかが問題な気がします。
- ・研修生の受け入れをさせていただきましたが、その立場からすると、研修プログラムが、施設に任される部分が多く、プログラムの作成に困る事がありました。研修自体が初めての試みということもあり、今後、内容も改善されていくことと思いますが、研修のガイドラインのようなものがあると良かったかと思います。一年間、ありがとうございました。
- ・研修の中で実務研修に行かせていただくことができたのがとても良かった。2ヶ所以外にも実務研修に行きたいと思った。また続けてスキルアップ研修等に参加できたらと思う。本当にありがとうございました。
- ・現場経験が短い中でも、経験豊富な全国の方々と共に研修を行え、この機会で繋がれたことを嬉しく思います。また、日頃の業務では関わることのできない利用者の方々ともお会いし、学ばせていただき、現場実習は良い経験となりました。今回、出会えた方々とまた会えるような仕組みを作っていたきたいです。
- ・講義だけでなく、実務研修がとても大きいものでした。支援員としてずっと現場に携わってきましたが、自分の施設の中だけの世界になってしまい、支援方法や考え方が固定されてきてしまっていることに気づくことができました。研修後、現場に戻った時や会議の時に少しずつですが、柔軟に考えることができるようになったと思います。今回のことを、職場内で伝えていけるよう努めたいと思います。

- ・講義では発達障害のある方への支援のいろんな方法や考え方を教えてもらい、新たな情報や、利用者の方への支援での大切な気持ちを学ぶことができました。実習では2施設に行くことができ、日頃なかなか見ることのできない支援の様子を目で見て体験できたことは一番力になったところでした。これまで発達障害のある方の行動障がいに対してどう対応してあげればよいか、どうしたら本人の気持ちが高くなることのできるのかをずっと考えてきても答えは見つかりませんでした。この研修に参加することで講義・実務という形をとってもらったことで、光が見えた気がしましたし、また県外にもネットワーク(仲間)ができたことも自分にとっても嬉しいことだと感じています。
- ・厚労省がやるべき研修だと思いました。本当にお世話になりました。
- ・この発達障害支援スーパーバイザーの資格がもっと全国的な認知ができ、国からの加点がとれれば昨今の発達障害者の増加に見合った支援者の増員も目指していけるものだと思うし、経営がぎりぎりで行っている小さな施設でも潤っていけるのでは。
- ・今回の研修は、5日間も他施設で実習させてもらえるという、したくてもできなかったことの機会を作っていただいたので、あっという間に過ぎ新鮮な空気を吸わせてもらいました。昔の自分なら、考え方が違うことに対してどこか拒否的なところもありましたが、20年以上この仕事をし、立場も上になり、利用者さんへの支援や職員の育成で悩んでいる今は、前向きに色々な意見を受け入れる事ができたと同時に、どこか「現場だから」と業界の情勢や制度などあまり考えてなかった自分の不勉強さを痛感しました。レポートは大変でしたが、これがあったから向き合えた側面もあります。今後の仕事にも活かしていきたいですが、少し時間を空けて研修で学べたことの確認作業ができる機会があれば良いとも思います。ネットワークも大切です。うまく表現できないですが、こういう機会を与えてくださった事務局の方々、受け入れてくださった施設の方々、ありがとうございました。
- ・今回は、自ら希望して参加したこともあり、非常に有意義でおもしろかったです。カリキュラム・レポート等、厳しい面もありますが、こういうときでないとできない、と考えると、このくらいのボリュームでも良いかと思います。内容は、障害の理解、心構えという基本の土台となるものから、知識、技術系の実践に使えるもの、そして現場実習とバランスよく構成されていたと思います。個人的には、ある程度、経験もあり、推薦されて来ている参加者であるだろうから、基本の心構えをもう少し少なく、知識・技術系のボリュームを増やしてもらえると、より満足度が高かったと思います。
- ・今後、各ライフステージへのスーパーバイズを行う可能性が高くなった場合に、各ライフステージでのアセスメントに基づいた支援の実際を見学し、アセスメント方法を様々教えていただいたことは、根拠をもって責任あるスーパーバイズを行うために必要な知識、方策、度胸をつけることができる機会となりました。大変ありがとうございました。ご多忙な中事務局をお引き受けになられたためぶき園さんに感謝申し上げます。
- ・最終日のレポートは、必要とせずに、これまでの全レポート提出者に、修了証を渡す方法ならば、レポートの提出率が上がるのではないのでしょうか。
- ・施設職員の交流ももちろんだが、支援センターの職員としても、このような研修はとても良かった。やまびこの里の研修がなくなってしまったのはとても残念だが、このような研修を続けていただきたいし、センターの他の職員にも受けてもらいたいです。ありがとうございました。
- ・施設入所支援に関する講義を少し増やしていただきたいです。
- ・実際に施設体験させていただく機会を頂き、とても貴重な話もたくさん聞かせていただきました。ありがとうございました。

- ・ 実地研修は小さい法人にとっては、とても有意義な場になると思いました。また、全国から参加しているので、その地方ごとの対応等もあり色々な話もきけてよかったです。ただ、講義に関しましてはもう少し内容をSVに合わせたものの方がよかったのではと思いました。(全てのということではなく一部ですが)ありがとうございました。
- ・ 実務研修で実際の現場に入って行けたことがとても勉強になった。自分の知る世界以外の見方を様々な面から知ることができた。講義も当事者、親、行政、福祉施設と多面的に学ぶことができた。これだけの知識を1つの研修で得られることはなかなかないと思う。全体を通して、人と人とのつながりを強く感じる研修であった。色々な話をしながらも、たどり着くのは「本人のため」というところで、同じ志を持つ仲間が全国にいると思えるのは非常に励みになった。
- ・ 自分がどの程度現場や仕事に生かせていけるのかは分からないが、来年度から来られる仲間が増えるよう、周りの人からこの研修を1人でも勧めていければと思います。
- ・ 自分の浅い知識の中でこの会に参加させていただき、判らない部分ばかりが多かったですが、もっと勉強して支援をしていかねばと思います。
- ・ 自閉症をはじめとする発達障害の理解から支援の方法を幅広く学べてよかったです。実習もとても貴重な機会が多く学びがありました。基本的な知識があった上でのSVですが、そのSVをする上で必要な事に関する内容が学べたら良かったなと思いました。
- ・ 事務局の皆様、実務研修を受け入れていただいた施設の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。充実した講師陣に充実した実務研修先で講義・実習できてとてもよかったです。
- ・ 集合研修に関しては、講義の内容の検討を、もう少ししていただけたら、というところが実感としてあります。基本的な内容(「発達障害の特性理解」)は、既知の参加者が殆どだと思うので、例えば、感覚統合やPECSといったもう一步踏み込んだ内容の講義が伺えると、支援手法の知識がより深まったのではと思います。実務研修は、大変有意義でした。準備ありがとうございました。
- ・ 正直なところ、思っていたよりも大変でした。研修参加はこれまで関わりのなかった分野の方・施設の方とつながりが持てたことは、とても貴重なものとなりました。また、今行っている業務外のことであっても、幅広く情報を得ていくために、高くアンテナを保っていくことが今後大切になると反省を含め感じています。これから、SVと胸をはり、正確な情報・適切な支援に向けていけるよう、頑張ります。事務局の皆様、受け入れしてくださった実習施設の皆様、本当にありがとうございました。
- ・ 前期・後期の集合研修、2回にわたる実務研修を通じて多くのことを学ばせて頂きました。特に実務研修では実際の支援の現場に入らせていただき、理念、方針、関わりを学ぶことができたことは大変良い経験となりました。これを私たち自身の職場に持ち帰り、伝えていきたいと思いますし、今後もこの養成研修を続けていくことは支援の質を高め、利用者の方の幸せに必ずつながると思いました。本当にありがとうございました。
- ・ 相談の仕事をしていますが、研修の中で相談に生かせるヒント・アイテムをいっぱいもらうことができました。使いこなして自分の物にできるよう、努力したいと思いました。研修修了後もぜひ学ぶ機会を作っていただきたいと思います。よろしくお願いします。
- ・ 大変お世話になりました。
- ・ 大変お世話になりました。想像していた通り、私にはまだまだハードルの高い研修でした。福祉の現場では、日常的に使われている言葉でも(専門用語)、私には聞き慣れずノートの隅にメモしては、帰りの電車の中でケイタイで調べたり、研修で知り合った仲間に使ってもらいながらの研修でした。しかし、ハードルが高かったからこそ、どこがわからなくて、どの分野の勉強がこれからの課題なのか

が見えてきました。もっと広く学ぶ必要があると思った。幼稚園でかかわる、支援の必要な子どもたちが、今だけではなく、この先どの様に生活していくのか、「入園前と卒園後」もトータルして知りたい!というのが、この研修に来た目的でした。たくさんの講義と合わせて、実務研修を経験できたことで、今まで本からしか知れなかったことを、実際に見たり体験したり、質問でき、たくさんのことを学ぶことができた研修でした。しもふさ学園もめぶき園もとてもステキな生活の場でした。人が人として、安心して過ごせる場所であり、園全体からあたたかさが伝わってきて、職員さんも利用者さんも笑顔がステキでした。ありがとうございました。これで終わりではなく、この後のサポート研修があってほしい!!!

- ・多分野の講師の方が話してくれたテーマは、今後困った時に何を調べれば良いかというところの確認ができました。実習は、本当に、参加できてよかったです。今後もしもできれば、行かせてもらいたいくらいです。
- ・多忙な中、このような研修を運営してくださったことを感謝します。ありがとうございました。各地域に散らばったSVたちが、発達障害者支援の第一線で活躍することを願います。(もちろん自分自身もですが)。
- ・長時間でしたが、間に日常業務をはさむことで、学ぶポイント等が絞れたように思います。ただ、演習などでは、受講者の経験や理解の違いから、もどかしいと思う点もありました。特に昨日、近藤先生のケア検討では、ケース報告と検討に進める事が難しく残念でした。今後スーパーバイザーとして訪問すれば、色々な方と話さなくてはならないので、自分が力不足であることも再認識できました。受講の条件に、年数ではなく、相談支援初任者研修やサビ管、社会福祉士等を設定したらいかがでしょうか。「自分のできる事」ではなく「すべきこと」を考え、学びながら、今後がんばりたいと思います。ありがとうございました。
- ・通常業務と研修とで大変だったけれど、実際他の施設の支援に入らせていただいたのは貴重な経験となった。また、そこから得たものも多かった。後期の集合研修が3月というのは、時期的に忙しいので考えてもらえると良かったかなと思う。
- ・とても意義のある研修と実感しています。実務研修を受け入れてくださった施設にはご負担をかけ本当に感謝しています。施設内の調整、やりくりが大変だったことと思います。ただ、正直な受講して思う感想としては5日間はサワリ・ツカミの部分で、もう少し日程がとれればもっと学べたなあと思います。あくまでも願わくば、というところです。第1希望の受け入れ先で希望を通していただけたことはとても有り難かったです。また、今後は1年きりの研修ではなく、受講者をフォローアップするためのプログラムを用意していただけると大変有り難いと思います。
- ・とても素晴らしい内容でした。毎年、自分磨きのために参加したいものです。準備等大変だったと思います。お世話になりました。ありがとうございました。
- ・とても良い研修でした。準備進行、大変だったことが容易に想像できます。本当にありがとうございました。実際に行った研修先の様子を聞いて、「めぶき園にぜひ行ってみたい」と思っているので、そういう機会が用意していただけたらと思っています。とりあえず、「研修資料だけでもいただければ」とも思う施設が、いくつもありました。
- ・とても良い研修の機会でした。実務研修は良い研修でした。実際に人が育つということは、現場が、絶対に必要だと思っています。”人から人へつないでいくこと”がこれからも必要だと思っています。
- ・内容も濃く、実習が充実していたと感じました。5日間による2機関での実習を通して、他県へのネットワークができました。施設の中だけではできない貴重な体験ができたことが、これからの自分の

財産としていけるよう、支援にはげんで行きたいと思います。参加できて、良かったです。ありがとうございました。

- ・中身の濃い集合研修と全国規模での実務研修と実りの多い研修でした。5日間もの長い間、施設に入って勉強させてもらうことでその施設の表面的な部分だけでなく実際の部分も見れて参考になりました。何より、研修を通して仲間ができたことが一番うれしかったです。事務局の皆様、本当にご苦勞様でした。
- ・発達障害に対する支援の研修をさせていただいた。実務研修を引き受けてくださった施設の方々に感謝します。ありがとうございます。地域の中心となれるよう研修を続けることが大切だと思います。
私たちの施設の職員に次回も研修に参加させたいと思います。
- ・幅広く多方向から学ぶことのできる密度の濃い1年間でした。学びの中で様々な出逢いや気づきがあり、今後の私自身、仕事にプラスになることばかりでした。ありがとうございました。ぜひ、この発達障害支援スーパーバイザーが、専門職として今後たくさんの人が目指せる物であってほしいと思います。
- ・非常に学びが多く、実践的な研修でした。次年度是非出したい職員があり、申し込ませていただきます。この研修は継続していただきたいです。また、修了者が参加できるステップアップ研修・フォローアップ研修などもやってほしいと願っています。事務局の方は非常に丁寧な案内で、とても円滑に研修が進み、ストレスフリーでした。裏方の大変な業務だったと思います。大変お世話になりました。
- ・非常に盛りだくさんで、大変だったが、充実した研修を受けさせてもらえて感謝している。いろんな検査ツールの研修があればもっとよかった。自分のような立場には場違いな感じもした。主任クラスでいろんな資格をお持ちの方が多く、私ではなく、自分の職場にいる他のスタッフの方がいいんじゃないかと不安になった。研修や実習先では職場に必要な知識や情報、スキルをいっぱい教えていただき、勉強になったが、これを発信していくことが大切だと思った。違う分野から就いてきた今の職業だけど、いろんな人たちに支えられて、もう少し頑張っていこうと思う。
- ・ボリュームがありましたが、もっと学ばなければという気持ちが強くなりました。アセスメントの取り方(ヴァインランド、PARSなど)の実習を入れてほしかったです。
- ・本部の方には、ご苦勞も多かったことと思いますが、この研修を企画・実施していただいたことに大変感謝しております。おかげさまで、自分自身の発達障害者に対する知識を固める事ができたように思っております。今後はこの知識を生かし実践することが大切であると考えております。後輩の育成について、自分の職場では人を育てるシステムがありません。自分が発起人となってなんとか人材の育成を図れたらと思っております。受け売りではなく、自分の理解をまとめて、初任者にも分かりやすく伝えられたらと思っております。今後、必要と思われる人材には是非この研修を受講してもらい、仲間を増やしていきたいと思っております。そのためにも第2回、第3回とこの研修を継続していただければ幸いです。研修を通して全国の仲間が増えた事も大きな収穫でした。※フォローアップ、ブラッシュアップ研修も是非企画していただけたらと思っております。
- ・盛りだくさんの充実した研修でした。スーパーバイザーの名をすぐには名乗れませんが、明日からがスタートだと思って経験を積み重ねていきたいと思っております。これで終わりなのが残念なので、また修了者の集まりや、集合研修があれば、参加させていただきたいと思っております。ありがとうございました。
- ・良い研修であると思っております。バージョンUPを図りつつ今後とも続けていっていただきたいと思っております。他の施設での研修は得るものも大きく今後も続けられると良いです。この研修を通して自分も微力ではありますが、地域に貢献できるよう自己研鑽を重ねていきたいと思っております。また、自己研鑽のため

のフォローUPもよろしくお願いします！

- ・レポート提出は大変であったが、今思えば、自らの考えを文章化し、後々復習できるのが良い。継続的に仕事の合間に確認しながら、学んだことを思い浮かべ、アクションを起こしています。できるだけ、業務に生かしている。

H26年度 スーパーバイザー養成研修 修了者（H27.7.2時点）

受講者No	名 前	ふりがな	所属機関	所属(施設名)	県
26004	高橋 拓矢	たかはし たくや	社会福祉法人 はるにれの里	札幌市自閉症者自立支援センターゆい	北海道
26007	佐藤 友紀	さとう ゆき	.	岩手県発達障がい者支援センター	岩 手
26008	田中 梢	たなか こずえ	茨城県立あすなろの郷	地域生活支援センター	茨 城
26010	小坂砂由里	こさか さゆり	NPO法人 生活支援ネットワーク こもれび		茨 城
26012	森 真紀	もり まき	社会福祉法人 愛信会	第二幸の実園	茨 城
26015	緒方 広海	おがた ひろうみ		さいたま市発達障害者支援センター	埼 玉
26018	及川 毅征	おいかわ たけゆき	社会福祉法人 けやきの郷	埼玉県発達障害者支援センター「まほろば」	埼 玉
26019	土屋 一平	つちや いっぺい	社会福祉法人 緑の風福祉会		埼 玉
26020	大久保美香	おおくぼ みか	社会福祉法人 新	障害者支援施設 中新田自立スクエア	埼 玉
26024	加瀬紗矢佳	かせ さやか	社会福祉法人 泰斗会	生活介護事務所 八街わらの里	千 葉
26025	今村 麻紀	いまむら まき	社会福祉法人 泰斗会	八街わらの里	千 葉
26028	福岡 俊司	ふくおか しゅんじ	社会福祉法人 嬉泉	袖ヶ浦ひかりの学園	千 葉
26029	舘山 聡	たてやま さとし	社会福祉法人 菜の花会	しもふさ工房	千 葉
26030	前田 潤悦	まえだ じゅんえつ	社会福祉法人 菜の花会	アーアンドディだいえい	千 葉
26036	上田恵里子	うえだ えりこ	社会福祉法人 育桜福祉会	川崎市わーくす高津	神奈川
26037	佐野 良	さの りょう	社会福祉法人 育桜福祉会	桜の風	神奈川
26038	藤野 真一	ふじの しんいち	社会福祉法人 育桜福祉会	桜の風	神奈川
26043	金田 圭二	かねだ けいじ	社会福祉法人 はぐるまの会	はぐるま共同作業所	神奈川
26044	岸岡 信也	きしおか しんや	社会福祉法人 新川むつみ園		富 山
26047	黒瀬 陽亮	くろせ ようすけ	社会福祉法人 すいせんの里	支援センター すだち	福 井
26048	高野 哲哉	たかの てつや	社会福祉法人 信濃の郷	障害者支援施設 白樺の家	長 野
26056	奥田 雅一	おくだ まさかず	社会福祉法人 あゆみ		三 重
26057	中村 和博	なかむら かずひろ	社会福祉法人 檜の里	ワークセンターひのき	三 重
26060	平下 直樹	ひらした なおき	社会福祉法人 同朋会	伊自良苑	岐 阜
26063	木坂 佳世	きさか かよ	社会福祉法人 永寿福祉会	障がい者支援施設 永寿の里 彩羽	大 阪
26066	亀山 隆幸	かめやま たかゆき	社会福祉法人 あかりの家	障害者支援施設 あかりの家	兵 庫
26067	春田 紗希	はるた さき	社会福祉法人 まほろば	三木光司園	兵 庫
26068	藤井 幸子	ふじい さちこ	社会福祉法人 五倫会	姫路暁乃里	兵 庫
26069	岡田 昌人	おかだ まさと	社会福祉法人 アルーラ福祉会	障害者支援施設アルーラ	兵 庫
26070	西川 悟	にしかわ さとる	社会福祉法人 姫路潮会	ぬかちゃん福祉作業所	兵 庫
26073	岩武 毅	いわたけ つよし	社会福祉法人 蓬萊会		山 口
26074	曾利 真弓	そり まゆみ	社会福祉法人 香川県社会福祉事業団	香川県ふじみ園	香 川
26076	浅田 慎児	あさだ しんじ	社会福祉法人 徳島県手をつなぐ育成会	障害者支援施設ルキーナ・うだつ	徳 島
26078	森本 恭世	もりもと やすよ		北九州市発達障害者支援センター「つばさ」	福 岡

受講者No	名 前	ふりがな	所属機関	所属(施設名)	県
26080	田中 一旭	たなか かずてる	NPO法人みんなの広場とんとん	こども発達支援センター もも・認定こども園いちご保育園	大 分
26081	渡辺 香織	わたなべ かおり	特定非営利活動法人さんぽ	こども発達支援センター あ〜く	大 分
26082	越智 芳子	おち よしこ	社会福祉法人 別府発達医療センター		大 分
26083	園田 和則	そのだ かずのり	社会福祉法人 大分市福祉会	多機能型事業所「おおいた」	大 分
26086	五十嵐 猛	いがらし たけし	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大 分
26087	野上 悦生	のがみ えつお	社会福祉法人 萌葱の郷	障害者支援施設 めぶき園	大 分
26088	山本 良	やまもと りょう	社会福祉法人 つつじヶ丘学園	第二つつじヶ丘学園	熊 本
26092	吉田 美雪	よしだ みゆき	社会福祉法人 南恵会	しえすた・へとの塾	鹿児島
26093	野平 文香	のびら ふみか	特定非営利活動法人 たけのこキッズ	児童発達支援センター	鹿児島
26094	有木 友紀	ありき ゆき	社会福祉法人 八重山会	第二ときわの家、ときわの家	鹿児島

< ご 挨拶 >

「日本財団助成 平成26年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修」にご参加いただきました皆様、ご支援、ご協力いただきました団体、関係各位の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

尚、事業実施報告書内の画像や文章、情報等を無断で複製・転載・流用・複写等することとはご遠慮下さい。

発達障害支援スーパーバイザー養成研修を通して、至らない点が多々あったかと思いますが、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

今後も、発達障害支援スーパーバイザー養成研修に参加してよかったと思っていただけるように尽力していきたいと考えております。何かお気づきの点がありましたら、気兼ねなくお申し付け下さい。

発達障害者支援スーパーバイザー事務局

近藤 暢秀

日本財団助成 平成26年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修

事業実施報告書

発行者 全国自閉症施設協議会

会長 五十嵐 康郎

発行日 平成27年6月30日

事務局 社会福祉法人 萌葱の郷

〒879-7306 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355番地10

TEL. 097-578-0818 FAX. 097-578-0819

URL: <http://www.moeginosato.net>